顧問　井上通泰先生
　　　山田孝雄先生
　　　新村出先生

正宗敦夫　編纂
　　　　　校訂

慶長日件録

合資會社　日本古典全集刊行會壽梓

長嶋豊太郎精刻

慶長日件錄解題

慶長日件錄は舟橋秀賢の慶長五年正月より同十八年正月十八日に至るまでの日記である、表紙に乃臤と書いてあるのは秀賢の畧字であらう。舟橋秀賢は諸家傳によると天武天皇第三皇子舍人親王を遠祖とし、清原國賢の子である。其傳は

天正三年月日誕生　○同十二年九月七日元服同日藏人禁色右近將監奏慶十歳　○同十六年四月十日式部大丞十四歳極﨟　○慶長七年二月十日明經博士廿八歳　○同九年八月一日從五位下卅歳　○同日式部少輔卅歳改稱号船橋○年月日昇殿　○同十三年正月六日從五位上卅四歳　○同十六年四月廿一日正五位下卅七歳　○同十七年正月五日從四位下卅八歳連年　○同十八年正月五(六イ)日從四位上卅九歳連年御侍讀賞　○同十九年六月廿八日卒四十歳

とあるがイ本は同年六月廿八日卒と書いてあるから慶長十八年六月廿八日卒と云ふ說もあると見える。此の日件錄が十八年正月十八日で終つてゐる處を見ると或は十八年の方が正しいのかも知れぬ。本記錄は慶長勅版の研究には缺くべからざるものである。新村博士の典籍叢談に

慶長四年三月勅版の日本書紀(神代卷)に跋文を誌した清原國賢の子秀賢の慶長日件錄には當代の文事に關する記事が頗る多く、慶長活字についての重要な記載の少からざるは、近世印刷史を攻究する者にとりて非常な幸である。秀賢が慶長七年八月、私版の古文孝經に跋したことは、日件錄にはないが、其翌年の五妃曲活

字版のことより以下十二年十一月二十七日新板の史記拜領を記るした記事に至るまで、それらの五ヶ年間公武並に寺院に於ける印刷事業及び相互の關係を知るに恰好なる史料が同書に散見してゐるのは、何よりの仕合せである。云〻。

と云はれて、日件錄の活字版の記事を抄出考證してゐられる。慶長十年四月二十八日以來の記事によつて家康が銅活字を鑄造して献納した事、秀賢が其の事に關して彼是れと世話役をつとめた事等は印刷史料として實に貴重なものである。本書の價値は其れのみに止まらない。連歌の史料もあり、又普通の國史上の事にも貴重な史料がもられてある。

本書の原本は今何處に有るか不明であるが、前田家に自筆本の透寫本がある。其れが人々に用ゐられてゐるのであるが、東京の大學にあるのを、京都大學にも影寫してゐる。其の京都大學本によつて新に影寫本を私が作つて其れを底本として原稿を作製したのであるが、東京の大學の本の奥書に

明治廿年十二月華族前田利嗣藏舟橋秀賢自筆ノ本ヲ影寫ス

とあるが、前田家本が自筆本でない事は、右東京帝國大學本に、追記がある

明治卅八年七月前田家所藏原本ヲ再ヒ借覽シタルニ秀賢ノ自筆原本ニハアラズシテ影寫本也

とあるから、其によつても知られ、かつ前田家本を見れば其の透寫本なる事はきつぱり書いてあるのである。

前田家本を撿するに

船橋氏正本記者ノ自筆之透寫ス

乙丑七月廿日書寫初校相添

丑七月廿二日再校　　瀧伊左ヱ門
山本小兵衛

と云ふ事が各本に多少の異同はあるが貼せられてある。此記事が影寫であつたら二回以上の影寫を經た事となるし、是が影寫で無くば自筆本の影寫となるのである。何分原本が其日〻〻に認められた物であり、草体達筆で讀みづらひ物である。又私が影寫までは度〻の影寫を經てゐる事であるから不明の文字がすくなくない

本書を本全集に編入する事をすゝめ給うたのは新村博士である。第五期に編入するつもりで仕事には懸つたのであるが、中々難物でとても原稿にならない。其の透寫から、原稿としての筆寫に手間が懸つて遂に六期まはりとなつた。一應筆寫した印刷用原稿を堺市にゐられる大島仲太郎君に依頼して校訂をして頂いた。其が難物の事とて中々たやすく進行せぬ。大島君の大努力で一應の調査が出來、原稿の形も整つたのであるが、猶不明の個所がかなりあつた。其を前田家本によつて一々に調査を長島君がして與れられたのであるが、其前田家本が自筆の原本でない事は前述の如くであり、全く不明の文字はどうにもならない。とにかく調査の結果を大島君の許に送つて又考へて貰ひ、其れからいよ〳〵不明の文字は仕方がないから□印を埋めて置いて片づけた。自筆本が出現すればいくらか判明するであらうが、草体の日記類は筆者も後では讀めぬやうな事もあり勝であるから、やむない次第である。大島君の說によると大日本史料に本書を隨分拔出でゝゐるがかなりの誤讀も見

えるやうだとの事であつた。即ち其れは如何に本書が讀みづらい本であるかと云ふ事を窺ふに難くない證據である。

本書が不完全ながら一通り活字に飜印せられて役立つ本となつたのは大島君が異常なる努力のたまものである。私は深謝せねばならぬ。又新村博士をはじめ、前田侯爵家、永山近彰翁、長島豐太郎君等に一方ならぬ御盡力を得た事を書き添へて謝意を表する

昭和十四年七月二十五日、炎暑やくが如く近來稀なる旱魃で里人は山陰の岩井の飲料水をくむ爲に夜もおちついて寢られぬと云ふ有樣である。其の岩井への通路に近い山莊にゐると夜の一時二時と云ふ折にも、水汲み人の足音、水桶の物に觸るゝ音が聞える

正宗敦夫記

慶長日件錄 第一

舟橋殿ノ正本、記者ノ眞筆ニテ透寫ス、

慶長五年、庚子日件錄、

慶長第五曆、歲次庚子、

正月、小

一日、丙午、晴、　主上、御不例、未快、然故、無四方拜、次家中祝義如嘉例、少內記賢好來、筆一對進之、次吉書、次朝山禮ニ來、五明三本進之、次飛鳥井右衛門督來義、五明五本給之、難波名字、可切進由之間、承諾了、今夜有節會、公卿奉行、園頭中將基繼、ヲトシテリ內弁西園寺右大將實益卿、大炊御門大納言、經賴卿、　日野大納言光宣卿、廣橋大納言兼勝卿、万里小路大納言光房卿、坊城中納言成長卿、葉室中納言賴宣

卿、左大辨宰相資勝朝臣、右大辨宰相光豐朝臣、少納言爲經、無出御、予與中院入道素然、立庭上見物畢、宣命使、就版之後、令歸宅了、

次試筆、　東皇和氣德無窮、自擧堯觴祝万年、四始若今以詩比、羣臣可詠鹿鳴篇、朝鮮文士、竹溪和曰、聖戒三風與十愆、義皇日月葛天年、君臣度會春元吉、樂唱都兪魚水篇、竹溪　又進詩云、春元吉日謹祝、淸原公吏部郎中、　詩親唐代李賦敵、漢時楊象笏朝、金闕銀章上玉堂、修身明禮義窮、理立綱常盛德今、如此聲名万世彰、

次家君ニ參、樽代三十疋、萱堂二種双瓶、小姉嫗御料人筆貳對進之、次賞齋へ行、鵝目二十疋遣之、

二日、晴、丁未、少内記來、如嘉例祝義、次倉開、次休圓來、香箸壹對進之、女房衆へ盞壹進之、同子九次來、なつめ壹つ進之、意安子、彌十郎來、杉原一束進之、予竹田法眼へ禮ニ行、五明五本令持參了、

三日、晴、到于夜、雪、紹節來、帶貳筋進之、盞進之、次竹田宰相被來、牛黄圓一具給之、

四日、晴、微雪、　掃部頭被來、双樽兩種給之、次差次藏人被來、黄鸝兩ヶ給之、次屛風張了、梅遊來、五明十本進之、次建仁十如和尚來訪、孔方兩ヶ給之、

五日、晴、微雪、　今日、正親町院聖忌、於般舟三昧院、有御經供養、導師、上乘院大僧正、道順、着

座、公卿、西園寺右大將實益、中山中納言慶親、左大辨宰相資勝、布(施)招取、殿上人、阿野少將實顯、予等也、同花莒役之、　先於般舟院着座、公卿殿上人等有齋、其後導師來而着座、晡時歸宅、

六日、晴、　諸家へ禮ニ行、攝家何も御對面、於揚明、臨江齋出會、數刻及相談了、　次參伏見殿、若宮、當年御六歲、御對面、可候御讀書之契約也、　今夜一雨齋妙佐逝去、橫大洛百姓以下、禮ニ來、

七日、晴、勸修寺亞相へ禮ニ行、双樽兩種進之、嘉例之、次參聖護院宮、次行盛方院、數刻打談、次行今出川一雨死去之砌之躰、家君御物談、令落淚了、今夜節會、內辨、（練ヌンヒキ）菊亭右大臣晴季公、外卿、公卿、日野大納言輝資、花山院大納言家雅、中山中納言慶親、中御門中納言資胤、藤宰相永孝、三條西宰相中將實條、奉行、左中辨光廣、少納言爲經、今夜、　家君雖有召、依腫物、不參、仍五條參勤之、有北陣、予帶弓箭、平胡籙、

八日、晴、　寶壽院、爲每歲嘉例、雖來、大阪秀賴卿、依御禮、不來、次新安並、周藏主禮ニ來、

九日

十日、大雪、諸臣羣參、於淸涼殿之西向御座敷、有御對面、先於內々、御連枝、并法親王宮門跡、有御對面、次於淸涼殿之西向御座敷、先九條殿、一條殿、鷹司殿等之、近衞殿ニ二條殿ハ於內々、御對

面之、次淸花公、殿上人、六位藏人等之、次諸寺之長老以下參內、泉涌寺、大德寺、二尊院、禪林寺、般舟院、智通院、知恩寺、大雲院、廬山寺等也、次予、參親王御方、有御通、

十一日、微雪、京極宰相參內、秀賴卿爲御名代、年始之御禮之、予從小瘡、不參、

十二日、

十三日、晴、家君御節御出、鷹司殿、おちよ殿、隼人正、少內記、意齋等也、及大酒了、擔下井崩之、有出石、其石ニ瓶礙故之、

十四日、稱藏人來談、高嶋百姓、禮ニ來、

十五日、祝義如例、今夜禁中、御左毬打、從小瘡不參、稱藏人參勤、

十六日、禁中御會始、題、幸逢泰平代云々、不參、

十七日、從羽與一、書狀來、

十八日、行今出川殿へ、年始之印之、次行竹法眼、夜半歸、今朝、行中村式部少輔、年始禮之義也、次東寺寶嚴院來談、孔方三ヶ給之、

十九日、陰、

廿日、少內記來、春雨如絲、出題、令作詩、竹溪茶賢等之、從梶井宮、達磨贊、可点進由、被仰聞、則令點了、圖者、慶雲院殿御筆也、

廿一日、宗惠來、次意齋來談、次樗庵來、數刻打話、從羽與一使札來、

廿二日、寶壽院來、薦晚飡、元賡、喝食來、稱藏人來談、

廿三日、從午刻、行盛方院、及夜半歸、

廿四日、到伏見、羽與一行、三畧一二枚、令講了、

廿五日、羽與一ニ令滯留、平遠江來談、

廿六日、巳刻、從伏見、令歸宅了、女房衆、淸水寺へ參詣、次堀井、次參竹門主、孟子二卷、御讀書、

廿七日、晴、從二條殿、（以中御門下爵腹男子、）淸閑寺可有御相續然ハ名字、令反音、可進由、被仰下、則書付令持參處、無御對面、以調子越前、令進了、次行稱藏人許、次也足軒へ行、次入風呂、次參家君、

廿八日、樗庵來談、次行南禪寺語心院へ、烏子百枚遣之、沖長老持病發故、不及對談、次行聽松軒、鵝眼三ヶ遣之、

廿九日、雨、意齋へ行、意齋針弟子衆、可聞予雜談由也、次參家君、

二月大

一日、乙亥、晴、周藏主來談、次稱藏人へ行、次稱藏人令同道、家君ニ行、掃部頭、家君へ被來、被薦晩飡故也、

二日、晴、休意來談、五明十本惠之、次高尾ニ行、僧正へ昆布一束進之、普賢院、心蓮院、治部卿等、五明三本遣之、蜜藏院へ昆布一束進之、吉澤泉藏等、扇遣之、

三日、晴、普賢院へ晩食ニ行

四日、晴、僧正以下寺僧衆、令同道、北谷、阿彌陀堂之邊、遊覽ニ行、

五日、晴、於蜜藏院、道我梵網古迹講、令聽聞了、午時、令歸宅了、明日、御會延引之由、從勾當之御局、被告下候、次自平遠江守、使札來、

六日、掃部頭被來、職原抄下卷、文字讀之、次從平遠州、使來、

七日、

八日、行齋了、

九日、溝江大炊助方ヨリ名乘反ニ來、高雄ヘ家君御迎ニ與七郎遣之、

十日、壬生稱藏人來、從今日、於禁中、可有御能支度之、雖然、內府家康公末子、御千若公、依死去、停止云々、入夜、雪降、

十一日、晴、鎰屋紹和來、孟子令文字讀了、次須知來、年始之禮之、五明五本進之、

十二日、晴、入時正、持齋、

十三日、

十四日、稱藏人、令同道、遺教經聽聞參詣、次登舟岡山、令遠見、晡時歸宅、

十五日、

十六日、

十七日、

十八日、

十九日、禁中和漢御會、予執筆、

慶長七年、

九月　是より慶長六年分之

一日、參近衞殿、終日、

二日、行冷泉、

七日、於冷泉、有月次會、兼日題、暮天聞厂、紅葉添雨、兩首、當座、十五首、予二首詠之、題、名所月、秋思、

九日、攝家幷門跡參禮、先參家君、

十日、從高尾、治部卿來談、

十一日、從今日、於氷室、治部卿、七座護摩被修之、

十二日、護摩見舞、行氷室、家君依御在住之、

十三日、從羽柴越中守有使之、嫁娶日取、所望之由之、使、松田七左衞門之、蔭凉軒同途也、則撰吉日、遣之、

十二月大

一日、

二日、於禁中、來年叙位、女叙位、淵醉等、有御習禮、揚明左府、御執筆云々、叙位申文、勘文等、內々、中院入道、予等書之者之、辰刻參內、

三日、參內、昨日御習禮之時、記錄次第等、見分取置者也、庭籠、鷹ツミエッサイ龍山御進上、則御持參之、庭籠、美麗驚目者之、及夜、聖護院宮、御盃進上、仍盃杓數扁、夜半退出、

十日、御煤拂、參內、入夜御髮上、勅使予之、亥刻退出、

十一日、歲暮之祝義、家君進晚湌、竹田法眼同樣、宰相、意齋等召之、內義竹田女房衆、隼人母御弁、計大夫等被來、

十二日、和漢御會、予執筆、參內、御連數照高院、時后、左大臣、日野新大納言、中院入道等之、五岳衆、西笑、有節、梅印、集雪、崇傳等之、發句御製、

雪おれの松や深山のをのゝ音、

開戸曙天寒、西笑
亥刻、退出、梅印和尚、崇傳西堂、予宅一宿、明日、梅印薦初飡、次百韵書之、
十三、参女院、御煤拂之、
廿四日、参揚明處、廣橋大納言、勸修寺宰相、御前有之、秀賢、堂上之事、以兩人御披露之處、御免由兩人被申、則稱号、舟橋、可稱之由仰之、稱号代々、高倉雖相搆、高倉他家有之、紛敷被思召之由、如此、被改者之、
廿五日、未刻参內、議定所之奧、於御對面所、御禮申畢、御引直衣之、申次廣橋大納言、御樽三荷三種進上、祝義斗之、女院同三荷三種進上、何も廣橋勸修寺兩人被添、靑侍從御局、進上、

二月小

一日、晴、甲午、中院入道來談、五明三本被惠之、年始祝義之、侑一盞、次参家君、
二日、晴、語心院沖長老來談、双樽兩種給之、年始祝義之、一盞侑之、次從召参內、除目申文等、人

數可書定之由也、然共、語心院冲長老、依參內、則和漢一折俄御興行、御發句御製也、

吹ぬ間も春風なひく柳哉、

暖園朝露淸、左大臣信尹

霞浮埋蝶路、梅印　語心院

人けまれなる野邊の遠近、六條宰相

かけつくす田面の水の月澄て、鷲尾宰相

砧幽夢不驚、御製

秋深鄕思切、予

人數此分之、申刻退出、今日午、廣橋亞相可被振舞、內々所被示之、然共、依參內不可參由、遣使者畢、申刻令退出處、廣橋客人衆、無退散由、傳聞間、卽向彼亭畢、從內相府、鷹之鴈十、被拜領、其振舞之、及深更、令歸宅、沉醉、

三日、入時正、雨、

四日、雨、

五日、雨、及晩晴、行大外記、有一盞、及深更、歸宅、

六日、

七日、晴、於九條殿御方御所、大學講之、今日初度之、序分講之、花山院少將殿、令同道畢、

八日、雨、早旦、御着到、百首可令詠進由、有御觸、則參勾當御局、御理種々雖申入、爲稽古、是非可令詠進由、重而被仰下間、加奉畢、次依召參內、揚明御參之、仍除目之申文等、爲御習禮、內々可調之旨仰之、仍中院入道頭辨、左少辨、予等書之、亥刻退出、

九日、晴、酉刻、參九條殿、大學講之、花山院少將殿令同道、

十日、晴、中院入道亭、初卯短册一讀興行、伯雅朝卿、　中御門中納言資胤卿、烏丸頭辨光廣朝臣、阿野少將實顯朝臣、左少辨綱光、飛鳥井侍從雅賢、四條侍從隆致、難波侍從宗勝、中院侍從道村、毘沙門堂運俗予三級等也、廿五首之題之、各二首宛之、入道殿迄三首之、

三月

五日、伏見へ內相府御見舞ニ行、則御對面、

六日、陰、冷泉より預物取ニ來、則皮籠四ッ渡之、書狀到來之、

十二月大

一日、

四日、大佛燒失、

金神、子、丑、申、酉、

積年、七兆令七万令九百十九、

自天元甲刁以來、至慶長八年癸卯、二兆七億六万二千令卅也、

慶長第八暦、歳次癸卯、　日件錄、

慶長八年、歳次癸卯、　正月大　　　　（朱）清原　花押

一日、晴、戊午、室火。家中祝儀如レ例年、四方拜、寅ノ一點。於二東庭一有レ之。丑刻斗、雪霏々。刁刻晴了、夜半過令二行水一、即束帶、參內、四方拜諸司遲參之間。先參二內侍所一、護身神法。中臣秡等修二讀之一、神樂錢二十疋進レ之。采女出逢有二盃杓一、神前御盃令二頂戴一了。次四方拜。諸司具之間、令レ搆二

御拜御座、大宋屛風二双・金屛三双・寅一點出御・御劔、源少將重定朝臣・御裾、頭左中辨光廣朝臣・草鞋、右中辨總光・脂燭、殿上人七人・四條中將隆昌朝臣、冷泉少將爲親朝臣、阿野少將實顯朝臣、飛鳥井侍從雅賢、西洞院少納言時直・予・稱藏人、少槻孝亮等之、出御以前昇御座・御劔從ニ黑遣戸ニ申出、晝御座ニ置レ之、其間候御座前、御劔、令警固者也、御笏式筥等、同從黑遣戸、被出之、次之藏人請取、渡內豎者也、事了後、於男末ニ有祝儀、盃杉數篇之後、令退出了、御門退出之處、猪熊少將被參候、雖爲御脂燭、遲參候間、卽被歸了、四方拜、御脂燭、遲參候衆、四五人有之云々、愚亭、東之四疊敷攤机、四聖人、朱文公像等懸、像前餠、ひしはなひら、かえ、かちくり等供之、着烏帽子道服、乾坤二卦令讀誦了、先二拜、次讀誦、次二拜而進、次看經、先護身神法、次淸淨祓、次中臣祓、次中津祓、次下津祓、次上科津祓、次三元咒等令讀誦、心中日本三千余座、令勸請、天下泰平、朝庭平定之祈願、被申者也、次佛法護身法九字、次諸眞言、次文殊經荒神經、令誦了、

次吉書、

天下泰平、四海安全、財寶充屋、官位如心、學及大儒、智能中レ道、孝濕顏巷、德排孔門、

吉書之書樣、右之文四行ニ書之、年号月日書之、歲德殿、

昨晩、內々衆者、歲暮之御禮ニ被參、於龍御三間(マ)、奉拜龍顏云々、予不知案內之間、無其心得、從冨小路、被告知之間、倒履參內、與各、同拜龍顏申、

未刻、家君ヘ年始之祝儀申令參了、足袋壹足進之、東向ヘ兩種双瓶、拙妹姫御料人、筆二對進之、羮相伴、有盃杓、次意齋ヘ兩種双瓶遣之、及晩、親王御方ヘ年始之御禮ニ內々衆、各被參之由、從廣橋亞相被示之間、則令參處、各有御盃御通、其儀　禁中如御盃、次參女院、是又有御盃、其儀如親王御方、次參　禁中御盃、亥初刻斗歟、御盃ニ被參候衆、有着到、人數廿六人有之由、御盃之儀、先女中有御通、次男衆、各天杓御座之下段之傍ニ小盃あかゝはらけにて　居三方、有之、中ニ少々有濁酒、御通給退出候刻、件小盃令拜領、頂戴者之、天盃之心歟、次退出、次意齋被來、香筋二被惠之、禁中御盃、次參女御殿、有御對面、御盃拜領、次勾當局參、御前、隙入由之間、右京大夫被出逢、有盃杓、

二日、己未、晴、早起行水、次聖人像前、乾坤二卦令誦、如昨日、次看經、如昨日、次家中祝義、次右中辨來、五日於般舟院、奉爲正親町院聖忌、可有御經供、早々可令參勤之由、內々被示之、仍出納方ヘ

一通遣之、　來五日於般舟三昧院奉爲正親町院聖忌可有御經供早々任例可致申沙汰之狀如件、正月二日、式部亟判、出納殿、如此認之、　予從有故障之義、次之藏人ヘ參勤候事、可被申遣由、廣橋辨ヘ申遣處、被用其意由、返答之、

次、從飛鳥井侍從、帶壹筋被惠之、今日當番之、番頭、万里小路大納言充房卿、光豐卿(不參)、黑丸(菊亭)敎利、予等之、午刻參番、未刻被召御前、數刻伺候、次親王御方參御盃、從當番、女院御盃不參、次禁中御盃之、御盃終後、於申口、扇拜領之、予等同拜領、以從中大外記、兩種一樽被惠之、

三日、庚申、晴、昨日御番衆、於男末、有一獻、次退出、次行水、看經、以下如昨日、家中祝義如例年、次近衞殿ヘ爲祝義、二荷三種進之、次有御神事子細、無御對面、明日可參之由、次二條殿ヘ御禮ニ參、御對面之、數刻御雜談有之、次平野遠江守來、杉原二束鵝目百疋給之、卽酭一獻、其後伏見ヘ被歸了、次參御盃、先親王御方、次女院、次禁中、今夜庚申之、庚申ニ參內申付たる衆は卽可致伺候之由、被仰、仍伯二位、鷲尾宰相、左馬頭、正親町三條四辻少將、左衞門佐猪熊、中院侍從、廣橋右中辨、予等參御前、丑下刻退出、午刻、珠三禮ニ來、(二郞左衞門)五明二本、牛黃圓一貝惠之、

四日、辛酉、鷄冠井村、庄屋百姓共禮ニ來、庄屋鵝眼二十疋進之、昆布二束惣百姓中より進之、庄屋

二郎左衛門ニ扇三本遣之、殘百姓共、扇二本宛遣之、次攝家方へ御禮ニ行、先九條殿御方御所、御對面、次近衛殿政所殿へ參、御留守之、次鷹司殿へ參、御對面、次一條殿伏見殿へ參、御留守之、次竹內門跡へ參、御對面、數刻御雜談、次大聖寺殿へ參、御對面、諸家引付所々付之、及黃昏歸蓬蓽、酉下刻、雨降、曙天、吹晴畢、

五日、壬戌、晴、午時、參聖護院宮、富小路出逢、有盃杓、次富小路令同道、入江殿光照院殿へ參、各御對面、次法篌院殿へ參、次近衛殿政所殿へ參、御對面、次也足軒へ行、筆二對進之、次惟清抄、自舊冬、御懇望之間、予高祖父、環翠軒、直筆本、令許借者也、申刻斗、歸蓬蓽、御原從伏見、歸宅、及晚、雪少霏々、

六日、癸亥、晴、亦陰、微雪、横大路、庄屋長介、惣百姓禮ニ來、長介餅鏡一重進之、源介牛房二把進之、庖使彥衛門、大根壹束、牛房壹把進之、惣百姓中より大根五束進之、九衛門有指合、不來候、鶴壽丸令對面、長介、源介、給盃、從此方、長介ニ帶貳筋、源介扇三本、殘百姓共六人ニ扇二本宛遣之、次女院、千秋万歲、參內之衆、不殘被召、有御振舞、御前へ通三献、諸以下有之、如形大酒之、酉下刻令退出了、郡村百姓、庄屋禮ニ來、庄屋、鵝眼十疋進之、百姓兩人五明壹本宛進之、從此方、庄

屋扇三本、百姓兩人ニ貳本充遣之、次竹田法眼ヘ行、墨一挺遣之、周防房同宰相墨一挺充遣之、數刻令雜談了、

七日、甲子、晴、家中祝義如例年、次御番ニ參、御盃ニ參、今夜甲子待之、被召衆、入道侍從中納言、正親町三條實有、左馬頭之仲、四辻少將季繼、阿野少將實顯、中院侍從通村、予等之、丑下刻各退出、予即宿、亥刻斗雨降、卯刻晴、

八日、乙丑、陰、今日嵯峨、寶壽院、例年雖來、今日大阪ヘ下向之故、無其義、巳刻參內、明日羣參之取置之故之、母堂御出、予禁中有御用之云々、串柹壹把給之、大元護摩、醍醐松橋、被修行、御撫物、於殿上渡之了、新內侍房、從臺盤所、妻戶被出之、

九日、丙刁、晴、惣參賀之、先門跡、次攝家、次淸花外樣衆、次諸寺淨華院、二尊院、淨金剛院、般舟院、廬山寺、禪林寺、常樂寺、淨敎寺、大超寺以上九ケ寺之、寺々雖有勝劣、近年は早參次第之、今日早參之次第如右、予內々書付之、多分壹束壹本進上之、申刻斗親王御方ヘ參、因各參賀之、大佛師大藏卿被來、五明五本給之、次知範被來、兩銀之扇二本給之、羞一獻了、

十日、丁卯、晴、語心院沖長老被來、靑銅兩ケ給之、則出逢、雖令請入、方々禮ニ被行間、則被歸了、

次伏見内府公へ年始之禮ニ參、未刻斗御對面、御太刀令持參了、數刻有御雜談、及黄昏令歸宅了、
十一日、戊辰、晴、午刻以後陰、廣橋殿番代ニ參、早々南禪寺語心院へ行、長老他行之、庭持者、出逢有之、老、咳嗽氣之間全齋へ一藥令所望、服用之、及晩、中院入道也足軒芳問之、五明貳本給之、入夜雨、
十二日、己巳 陰 飯後參番、午刻參御前、周易本共、取出了、卽大藏卿ニ可令一覽之由仰之、晚湌、於御前賜之了、家室、御靈北野へ參詣、
十三日、庚午、陰雨、辰刻、自番退出、今出川殿衆、全齋、意齋、德庵、隼人入道 新大夫、德庵母、竹田法眼、女房衆等御前ニ請入者之、未刻各歸宅、
十四日、辛未 晴 早朝參内、今日大元護摩、結願之故之、巳刻阿野少將令誘引、照高院殿へ參、御對面有御盃、次妙法院殿へ參、御對面、次曇華院殿へ參、　御腫物之故無御對面、於御局許、有盃杓、申刻歸蓬華、
十五日、壬申、晴、家中祝義如嘉例、及黄昏、親王御方へ御盃ニ參、左毬打有之、御吉書、予出之了、其儀如禁中、次女院へ參、御不例之故、無御盃、次參内、御盃之衆、十五六人、次左毬打、於清涼殿、

前東之庭有之、修理職、御下部等沙汰之、予兼而構御座、其義蒉御座疊一帖を取出、階間、御簾ニ傍敷之、太宋屛風一双を疊之遶ニ立之、北二間、御格子之下を不取、南第一間、御格子之本を取、以上五間之內、階間南第一間、御格子本無之、其外三間、格子下置之、御簾を御格子之下之外へ垂之、これをほひみすと云之、出御之後、吉書を出給、南第一間、簾之下より出、挿之予給之、渡修理職、修理職左毬打之內ニ挿之硯箱蓋持來時、御前脂燭拔取遣之、左毬打火を付て後、脂燭持來、則取而燭臺指、入御之後、三毬打竹長半間許なるを三本、申口より進之、勾當內侍、令請取給、子刻、御退出、

十六日、癸酉、晴、伏見內相府家康公へ羣參之、予先日御禮申故、不參、

十七日、晴、諸門跡諸寺院、內相府へ禮之云々、飯後參番、長恨歌一字板、於御前、鷲尾、中院入道、予等撰並畢、

十八日、晴、飯後時分、自番退出、巳刻高尾へ登、山性院へ串柿貳把進之、法身院へ昆布貳束、地藏院へ昆布壹束、密藏院へ昆布貳束、普賢院へ墨壹挺、永純ニ扇貳本、仙藏ニ扇貳本、圓光ニ扇壹本、中將ニ墨壹挺、槇尾乘印律老ニ墨壹挺、栂尾門前市瀨村有神事能云々、

平野大炊入道上洛、樽代三十疋給之、予高尾有之間、不能對顏之、

十九日、丙子、晴、自寳藏院棚(?)子三、記錄箱一、法身院ヘ御取下畢、午刻梅尾春日ヘ參詣、今日明惠上人正忌之、明惠影、開帳拜敬、及晚、歸京、予留守、松井宗溫來、唐墨貳挺惠之、

廿日、丁丑、晴、早朝、從廣橋大納言有使者、從內府、鷹ノ鳫拜領、朝湌可給云々、卽令領掌、向彼亭、入夜歸蓬華、今朝、飛鳥井金吾來、明求上紙壹束、扇五本給之、曉天雪降、

廿一日、戊刁、朝、微雪、晴、巳刻參內、白氏文集之中、上陽人、凌園妾、李夫人、王昭君詩四五首、長恨哥傳等、五紀由ト名て被撰拔、以一字板、百部被新摺、細工之衆ニ予申渡者之、今日女院年始爲御禮御成、仍有御一獻、爲其口男衆、万里小路大納言、中院入道中納言、伯二位、鷲尾宰相、五辻左馬頭、正親町三條少將、四辻少將、左衞門佐、熊(マヽ)隈少將、万里小路侍從、中御門右衞門佐、中院侍從、予等之、於男末、有御振舞、及黃昏、退出、今日、廣橋大納言、爲勅使、伏陽、內相府許ヘ被向、家康公征夷將軍ニ可被任之由、內々仰之、今日內府領掌ト云々、來月可有宣下由之、從內府、廣橋大納言、小袖一重、黃金三枚拜領ト云々、入夜、向冷泉爲滿朝臣許、三光院聽聞書、源氏之抄、被修補之次、令一覽畢、內府公御本之、次今出川殿ヘ參、數刻御雜談、御易學追々御覺悟、尤之由申入處、

万事御忘却之由之、爲家、笑止千萬歟、

廿二日、己卯、晴、掃部頭被來、次出納將監來、午刻參番、先日老父ニ被見下、周易本注之冊、正義幷抄、朱熹注本纂注 卜筮元龜等返上申者之、予本筮儀幷圖曆等令借進了、槇尾平等眞王院律僧乘印被來、茶筅一ッ給之、

廿三日、晴、內府公爲御見舞、伏陽ニ行、申刻懸御目、碁打共被召、有碁、次城職事許ヘ行、銀扇二本遣之、次長岡越中守忠興之許ヘ行、菓子之折進之、他行之、牧左馬允ニ事置令歸京、

廿四日、晴、家中男共、愛宕參詣、法身院入來、薦一盞、家君御出、揲筮給、次賀茂、藤木五左衛門、同源七來、五明貳本進之、次從召參內、御屏風之置所被仰付、藤宰相予兩人屏風奉行之、御屏風共、取聚、入置者之、及黃昏退出、

廿五日、雨降、北野天神參詣、全齋晚飡、於今出川殿ヘ被進、予亦向之畢、次從廣橋大納言、明日七觀音、御代官參之、可得其意、七郎闕者之、治部卿一宿、

廿六日、晴、於廣橋大納言亭、有朝飡、七觀音參詣之衆、中御門中納言資胤卿、四辻少將季繼朝臣、猪熊少將教利、松木少將宗信、中院侍從通村、高倉侍從嗣良、予等七人之、先河崎之觀音ヘ參

詣、今可仰本院之中ニ有之、次草堂、次中山、次長樂寺、次清水寺、次六波羅密寺、次六角堂、未下刻、各下向、散錢二十疋充之、但清水寺三十疋之、晩飡、於廣橋大納言亭有之、各精進、藥師之代官參詣衆、同於廣橋亭ニ有朝飡、亭主、万里小路大納言、伯二位、藤宰相、平宰相、三條宰相、實條卿、鷲尾宰相等之、

廿七日、甲申、晴、參番、入夜大風、家室、清水寺、祇園等參詣、

廿八日、日出比、微雪、藤宰相令同途、勾當局ヘ參、御屛風修補之事、伺申處、修理職ニ可申付由、被仰出、仍修理職ヘ預、万里小路、庭田兩殿ヘ申遣處、他行之云々、　稱藏人、大外記等來談、將軍宣下、宣旨案等被見、愚存之通、少々令異見者之、次曼殊院宮ニ參、有晩飡、御相伴、及黃昏、入風呂、

廿九日、丙戌、晴、

春風草又生、水石歷幾年、右御題、來月三日、可令詠參給、同可有御當座旨、被仰下候也、

正月廿八日光豐　廣橋大納言殿、入道藤侍從中納言殿、伯二位殿、神事子細候可得御意候平宰相殿、六條宰相殿、所勞之子細候可得御意候三條宰相中將殿、右衛門督殿、鷲尾宰相殿、頭辨殿、水無瀨中將殿、左馬頭殿、阿野少將殿、四辻少將殿、左衛門佐殿、飛鳥井侍從殿、猪熊少將殿、　藏人式部丞殿、如右廻文

被觸、勸修寺宰相御會奉行之、加奉了、次御屛風、破損之分、修理職ニ相渡、櫻舞二双ハ骨以下新調、事外破損之故之、次勸修寺宰相五句、昨日迄之、仍見舞ニ向彼亭、諸白桶壹つ、鰹二連、令持進、對面有杯扚、次友竹子息、太郎左衞門方ヨリ年始之爲祝義、縮卷物一段、鰹五連給之、女房衆方ヘ皮足袋一足、串柿一把惠之、

卅日、丁亥、及晚、也足軒ヘ行、

二月大

一日、戊子、晴、內相府、爲御見舞、伏見ニ行、未刻、御對面、及黃昏、令歸宅、平遠洲方ヨリ書狀到來、年筵、書付遣之、

二日、雨降、番ニ參、右大辨宰相、猪熊、水無瀨中將、予等、連哥一折令吟、

三日、和歌御會之、巳刻參內、懷紙之題二首、春風草又生、

霜雪のふるき草根も春風に又もえいつる野への色かな、　秀賢、

水石歷幾年、　龜のおの山の岩根をうつし來ていく世かすめる庭の池水、　同、

御當座、五十首、予、探得、山家松、　問人の跡絶ぬれは山松の嵐のみこそ敲く柴戸、
御會終後、有御連哥、予非其人數、小川坊城俊昌番代ニ參宿、番衆四五人、終夜、和漢五十韻令吟、
後聞御製　かれし野の朝けの風もいつしかに春めきわたる野への若草、
　さゝれ石岩となりていく代へむ、をちそふ露のたえぬなかれは、
四日、辛卯、晴、家君參、次冷泉へ行、次中院入道也足軒許へ行、今日、初卯法樂之、有當座二十首、
予探得、遠梅題、及黄昏、歸蓬華、留守ニ屛風張、梅友來、茶筅二ツ進之、被下、
五日、壬辰、陰、二條殿御簾中、遠行云々、
曉天、雪寸許、豐前長岡越中、息女、年筮認、遣之、
六日、晴、家君亭、有朝湌、家中、悉相向之、
七日、甲午、飯後參番、易傳授式、家君、新令書寫給御進上、以新典侍殿、申入了、其次、藻塩草全部借進、次卜筮元龜兩策返上了、終日、候御前、
八日、乙未、於御靈御旅所、自一昨日有舞、大夫かさや、家君、全齋令同道、聽聞行、晡時歸宅、則薦晩湌畢、次中大外記許行、將軍宣下近々間、爲見舞之、次花山院殿參、數刻令相談、次從竹內門

主、文選表注、被借下、東坊城和長自筆之、天神御註之、所々被加愚解、此愚解和長作歟、古人之作歟、不知之、次飛鳥井新宰相來談、明夜參議之奏薦可有之云〻、然ニ予申次可令參之由、御命、則令領掌畢、嫡男、少病惱、熱氣之、全齋ヘ藥被調合給之、

九日、丙申、晴、家君御出、令揲筮給、今夜飛鳥井新宰相奏薦之、戌刻向彼亭、予申次之、仍出門已前、急參內、相待者之、舞踏後、淸涼殿、西面、上段、於御座敷、有御對面、登長押、被拜龍顏畢、亥下刻歸蓬華、次自全齋、尊圓手本一卷來、正筆不審、

十日、丁酉、晴、稱藏人來臨、巳刻參番、伯二位代之、

十一日、戊戌、晴、嫡男煩、疱瘡之、中院入道殿來談、定家卿筆跡懸字、拾遺之きれ之、被見之、及晚入風呂、

十二日、己亥、今日內府家康公將軍幷轉任右大臣、有陣儀、上卿、廣橋大納言兼勝卿、奉行辨、烏丸左中辨光廣朝臣、參仕辨、坊城左少辨俊昌、淳和奬學別當、源氏長者、牛車兵仗等、宣下之云〻、辰刻、山科內藏頭、冷泉中將爲滿朝臣、令同道、向伏見城內府亭、各着用紗狩衣、午未下刻、上卿以下諸役衆被向伏見、各佇立之間、內府御裝束、折烏帽子左折、香直垂、露萠黃、前後腰帶、白生絹

之、御對面所ヘ御出、上段中央、南面、土御門左馬助久脩、御身固ニ參、久脩退後、上卿奉行、職事參仕、辨等參進、上卿着座已前、爲勅使、右大辨宰相先參進之、次官務右大史孝亮、將軍宣旨持參、入葛蓋、　大澤侍從藤原　取之、置御前、被覽、御座之脇ニ被置之、西ノ緣ノ方ニ砂金袋相搆之、長井右近砂金ヲ取テ入葛蓋、大澤侍從取葛蓋返給之、次大外記師生、右大臣宣旨持參、入葛蓋、　其躰如將軍宣旨、次官務、氏長者宣持參、次大外記、源氏長者宣持參、　次官務淳和奬學兩院別當之宣旨持參、次大外記、牛車宣持參、次官務、牛車宣持參、次大外記、兵仗宣旨持參、度々、給砂金、　次上卿黃金十枚、居臺、給之、鞍置馬給之、次右大辨宰相ニ黃金五枚并鞍置馬被下之、次奉行職事、　光廣朝臣ニ黃金五枚被下之、　次參仕辨、　金五枚被下之、各御禮申、起座須臾後、上卿勅使太刀折帋ニテ御禮被申、次奉行職事、參仕辨等、太刀斗御禮被申、次大外記、次官務、次少史安陪盛勝、次少外記三善英芳、次出納職、清同、職忠、次外記、使部重昌、次官使部、次告使、各太刀ニテ御禮申之、次陣官人、御禮申之、太刀不進上之、各御禮畢、後上卿以下、入御被申候、平伏之間、入御、予冷泉山科等御供、當之座敷ニ行、地下錄物　將軍宣旨、砂金二十兩、右大臣宣旨、錄金十兩、氏長者、宣錄、　外記、官務、兩宣旨十兩充、牛車兩宣旨、十兩充、淳和奬學別當、宣錄十兩、兵仗、　宣錄十兩、　以上金九枚

之、少史、少外記、出納、使部、告使、陣官人等、銀子三枚充、被下之、各無甲乙、

十三日、晴、家君ニ參、昨日御招躰、令雜談畢、午刻實壽院來、薦晩飡、嫡男煩、疱瘡之、鼻血、酉刻斗ヨリ無間斷、垂、

十四日、晴、嫡男疱瘡、衂血不留、以外之、色々雖盡療治、申下刻、令死去畢、哀慟、非及筆舌處、母、乳母、哭泣、難如何者之、

十五日、拂曉、遣實壽院許、令葬畢、改名、春岳宗英童眞、

十六日、

十七日、

十八日、

十九日、明日秀頼卿ヘ爲年頭御禮、諸公家、大坂ヘ下向云々、

廿日、陰亦晴、今日、一七日之、實壽院ヘ行、令燒香申、歸路之次、法輪寺幷清涼寺、妙心寺等、令拜詣畢、

廿一日、晴、
廿二日、晴、午刻、也足軒芳問之間、門外出逢、令相談畢、
廿三日、從也足軒、贈詠歌一首給、
いまさらに人のうへをもなけくそよ、われもをくれし心ならひに
予返事
おもひやれかれしなけきのそなれ松、そのこのもとの露のふかさを、
廿四日、晴、宗春令同道、遊山ニ行、淨土寺山ヨリ如意嶽打廻歸畢、巳刻、如雲齋來談、樽代百疋給
午刻、
廿五日、晴、全齋へ行
之、家君へ行、
廿六日、晴、齋了、氷室へ登山、入石風呂、
廿七日、
廿八日、

廿九日、從官務、はさみ箱、借ニ來、竹內源藏人被來、鬪鷄觸狀令敎訓畢、城職事來談、木綿二端惠之、今日、第六宮、妙法院座主宮へ御入室云々、

卅日、

三月小

一日、戊午、晴、母堂へ御見舞ニ參、北山金閣へ遊山ニ行、

二日、及夜、雨降、

三日、雨降、夜中祝義如例、雖可令鬪鷄、參內依有穢氣、不參、源孝治、奉行之云々、次家君へ參、數刻御雜談之、

四日、晴、春岳宗英童眞三七日之、設齋了、

五日、晴、來十六日、和漢執筆、可令參勤之由、有御觸、

六日、晴、高野山參、出立畢、平野村ニ一宿、

七日、陰雨、早天、出於平野、高野麓、紀川邊、橋本ニ一宿、

八日、晴、早朝、高野山ニ登、自性院へ案内者、令奥院參詣、歸路、兩院不動奉拜畢、自性院一宿、

九日、晴、齋了、嶽之弁才天へ參詣、直下山畢、吉野之路、うの村に一宿、

十日、晴、早天出立、吉野山ニ登、麓之花悉落、山上盛之、事外參詣之人繼踵畢、明日、當山依會式之云々、出吉野、かやの森に一宿、

十一日、晴、早天出立、岡寺之觀音打過、安部山之文殊ニ參、泊瀨參詣畢、自泊瀨、下向之道、三輪ニ參詣、三わか崎、さのゝ渡、相尋處、細川堰?出名はかりなり、市のもとに一宿、布留神社、花盛ゝみえぬれとも、奴僕草臥ぬれは、みやりてこをり侍り、

十二日、晴、春日社見物、殊勝銘肝者也、二月堂、三月堂、八幡、東大寺、興福寺等見物畢、俊正房、西大寺ニ住居之由、聞及間、相尋處、西大寺奥院、石塔院ニ被居云々、相逢、累日之事共、相語畢、及晩、催歸、木津ニ一宿畢、

十三日、小雨、早天立出、玉水にて齋調味畢、井手里、玉川、玉水なと見侍畢、未刻、歸蓬華畢、則家君ニ參、此中、路次躰談畢、路次中の事、別ニ記之、

十四日、春岳宗英、月忌初之、自性院在洛之間、被薦齋、家君、意齋令來給、午刻家君、意齋、氷室へ

御登山之、高尾性院僧正、出京、

十五日、晴、也足軒來談、双瓶嘉殽給之、數刻打談、廿四孝ことは假名に所望之仁有之、其內談、也足軒來談之、宮川殿來入、鷹晚飡畢、母堂へ家君、御留守見舞行、

十六日 禁和漢御會之、執筆令參勤、發句御製、花そちるよしやうらみん風もかな、連衆八人、酉下刻、滿百畢、則退出、入夜、上冷泉へ行、

十七日、參番、

十八日、

十九日、嵯峨釋迦へ參詣、池坊へ立寄、御そ?起乃舍利拜見畢、高尾へ行

廿日、高尾ニ滯留、地藏院兒成ニ行、樽代三十疋遣之、

廿一日、高尾御影供拜後、歸宅畢、今日、大樹、到二條城、御上洛之、及晚、御城へ行、大樹懸御目畢、

廿二日、參番、

廿三日、吉田へ行、長岡越中見舞之爲之、巳刻參內、衞士掃除令下知畢、

廿四日、參內、及晚、大樹へ參、懸御目、有御雜談、
廿五日、大樹御參內之、早朝令衣冠參內、巳下刻、大樹へ參、路次行粧、先童僕、善阿彌、御物令持、騎馬諸大夫、若輩之衆、二十人步行、御車之前行之、次隨身八人騎馬、次御車、次騎馬、諸大夫十人、次扈從衆五人、越前宰相、豐前宰相忠興、播广少將、京極少將、安藝侍從等之、各長柄輿之、各衣冠、將軍從里亭、御衣冠之、長橋ニ御休息、傳奏案內之後、御前ニ令參、給三獻畢、有御通、將軍御杓之、烏丸父子、日野父子、廣橋父子、飛鳥井父子、勸修寺宰相、白川二位、藤侍從、万里小路等之、
將軍御進物、銀子千枚、將軍勅許之御禮之、年頭爲御進物、綿百把、銀子百枚、御太刀之、次親王御方御進物、銀子百枚、年頭進物、銀五十枚、親王御方、立所にて御對面之、次女院へ令參給、御進物銀二百枚、年頭御進物、御小袖、銀五十枚等之、午下刻、大樹御退出、
廿六日、午刻、大樹へ參、懸御目畢、
廿七日、諸家、將軍參賀之、予雖當番、令相博、將軍へ伺候畢、及黃昏、宿ニ參、
廿八日、午刻、大樹へ參、懸御目畢、

廿九日、大樹ヘ諸門跡、御禮有之云〻、

四月大

一日、日蝕、早朝御所褁ニ參內、

二日、當番令相博、大樹ヘ參、

三日、大樹ヘ參、

四日、大樹、於御新宅、有御能四座、立合云〻、可令見物由、內々雖被仰、今日聯句御會、依御人數、參內、當座上句鬮取、冲長老之、紅葉傍階新、知令恩露沐、紫栴望闕焚、仰以叙鈴祝、有簡、申下刻、各退出、及申刻、雨降、

五日、大樹御能樂、可致見物、依仰、向二條亭、因雨氣、延引、仍頓而歸宅、及晚、大樹ヘ參懸目、

六日、大樹ヘ御能見物ニ參、山科、冷泉、四條、水無瀨中將、烏丸辨、六條等之、觀世、金滿兩大夫之、九番有之、脇能、矢立賀茂之、

七日、當番、令相博、御能見物ニ行、日野宰相、猪隈少將、阿野少將、烏丸頭辨、源藏人等、同道了

畢、披能、養老十一番有之、酉之刻、歸蓬華、
八日、長越中見舞ニ吉田行、暫有雜談、未刻、大樹ヘ參、
九日、掃部頭來談、次水無瀨依誘引參、揚明有御對面、次及黃昏、出川(土州カ)一齊向亭、淺野左京大夫、爲相伴之、半夜鐘之後、歸蓬華、
十日、城識事方ヨリ春秋會通、取返ニ來、則返納畢、
十一日、大樹(○大樹朱線)ヘ參、
十二日、參番
十三日、大樹ヘ參、
十四日、大樹ヘ參、
十五日、大樹ヘ參、
十六日、大樹伏見ヘ還御、及晩、土州常通寺來、
十七日、參番、
十八日、女御杣ヘ參、七宮御忌明之御盃參故之、

十九日、於ニ禁中一、當代上手碁有レ之、從ニ右府一可レ被レ備叡覽之由、內々有奏聞云々、內々衆、十人斗、從召伺候、予同伺候畢　碁打四人、本因坊、利玄、仙角、道石等之、先、御黑戶之前、打板をかまへ、其上ニ疊一帖を敷、爲座、見物之公家衆、其遶ニ圓座を敷、巳刻斗ニ始、先本因房、利玄打レ之、持碁之、次仙角、道石打之、道石三目勝、次本因房、利玄打レ之、利玄三目勝之、次道石、仙角打レ之、仙角負入レ夜終、亥刻各退出、碁打四人ニ一束卷物、各被下之、

廿日、中院入道鷲尾令ニ同心、石山へ參詣、及ニ黃昏一歸蓬華、女房衆、同石山へ參詣、日吉、西教寺等見物云々、

廿一日、周易御傳授之御道具、可申付之由、被仰出、則御細工之大工、召寄、寸法以下申付畢、

廿二日、參番、

廿三日、高尾へ登山、未刻雨降、

廿四日、大覺寺御門主十日比より高尾ニ一度、御籠居之由、性院內々被示之間、今日、御見舞ニ令伺候畢、果子令持參、終夜雨降、朝來、麓川水、二間餘、漲波瀾、假橋三流、兩日絕通路、

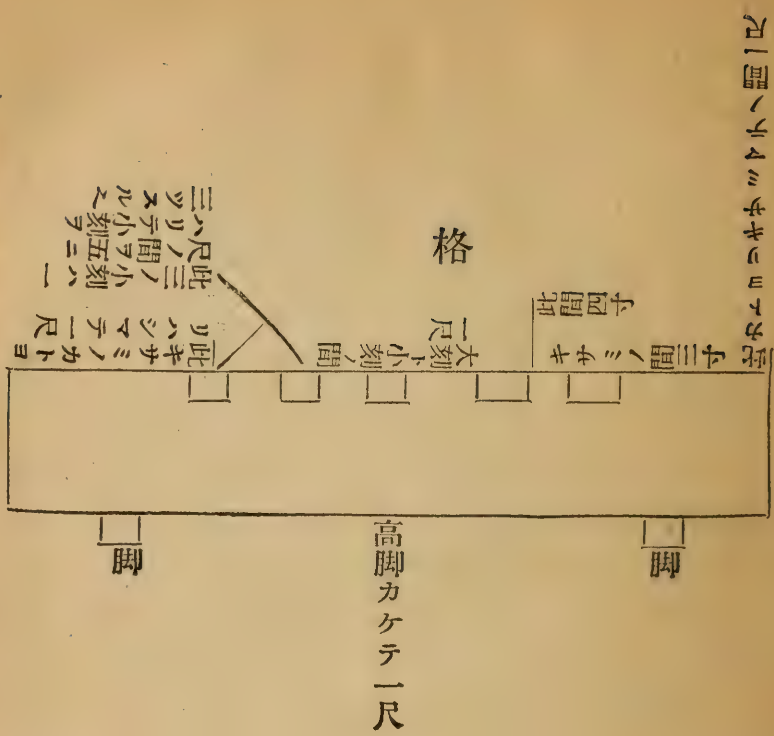
廿五日、晴、

廿六日、晴、

廿七日、晴、齋了、企歸步、午前歸蓬華、則參內、今日內々衆、御振舞有之、當番之間、不及退出、令宿、

廿八日、晴、家君へ參、次九條殿、御方御所へ參、次竹門主へ晚飡御振舞有之、中院相伴之、

廿九日、晴、相國寺芳西堂へ朝飡ニ行、寶壽院來、薦晚飡、易御道具共出來之由、大工告來之間、則勾當局へ參、道具共出來之由、申入、今度新調之物共、〻筮机一脚、長五尺、横三尺、高一尺七寸、板ノ厚八分〻 供物机一脚、長五尺、横一尺、高二尺、 〻小机二脚、長二尺横一尺高一尺六寸 此小机ハ硯紙板等可置用之、〻黄漆紙板、横一尺五寸竪一尺〻 格、長五尺高一尺 此尺いつれも周世ノ尺ヲ用、周尺ハ今金ノ八寸之、


此カトヨリキサミマテノ間一尺
格
大刻ト小刻ノ間一尺
脚
高脚カケテ一尺
脚

卅日、雨、高尾ヨリ傳內來、作物所ノ、細工人三衛門來、筮鑑之樣子示之、

五月小

一日、丁巳、霎、陰晴、家君へ參、宗甫來、薦晚飡、十如院、松藏主來、左傳十五册全部、尙書疏十册全、相渡畢、御盃參內、大外記來談、

二日、晴、參番、

三日、

四日、宗甫來、藥拵之、於官務亭有晚飡、六條冷泉、內藏頭等參會畢、

五日、伏見へ行、大樹御禮申、冷泉、山科、六條、四條、內令同道畢、內藏頭、予兩人、參川守殿へ行、歸路深草祭見物之、照高院へ參、御對面、暫有御雜談、申刻歸蓬蓽、親王御方へ御禮ニ參、次二條殿へ參、入夜御盃ニ參、先女院之御所へ參、御盃以前於朝餉間、朝餉參、命婦達指合之故、予手長ニ參、

六日、晴、於女院かふきをとり有之、出雲國人云々、女院之御振舞之、內々衆多分、被召立之、

七日、晴、參番、終日御前令伺候、入夜有御別殿、

八日、甲子、從午刻參內、甲子御遊之故之、今夜遊興之故、遲明退出、
九日、早天、高尾へ行、中川久左衞門事僧正へ令音見相濟畢、入夜、大覺寺宮へ參、
十日、雨降、中川久左衞門來間、則僧正へ一禮令申、於尾崎房、有晚飡、雨故乘物歸京、冷泉へ行、明
日會歌、令談合、
十一日、於冷泉亭、月次歌會興行之、巳刻彼亭ニ行、兼日題、郭公何方、

詠郭公何方、

和謌　　予懷帋之書樣如此、堂上傍翟中、參會之時、季同等字不書入、當座二十首有之、

藏人、式部亟、秀賢

あけのこる月に
とはゝやほとゝきす鳴
つるかたは雲のい
つこと

右二首、

會之人數、山科父子、冷泉父子三人、四條官務、予、今川宗閑父子、宗超等之、此月次、予內々

令異見取立者也、及晩、家君へ參、入夜、己雲齋來談、
十二日、晴、當座之、晝之間、滋野井へ令相博畢、己雲齋、朝食ニ請待、家君御出、宗甫、家君、予、法身院等、治藥、被調合、入夜參番、
十三日、晴、今晩、平大炊入道、高尾へ可有登山由之間、法身院へ書狀遣、双瓶葛袋にて遣し、大門主より謠本外題二百五十番字にてかき可進之由、被仰間、字を腸付而令進上候、二三番、字不審、
十四日、雨降、之仲參番、從京極許來、月次歌題、被觸之、夏月如秋、海上遠望、二首之、
十五日、午刻、己雲齋來談、次京極中將來談、及晩、觀修寺へ行、鷹之鴨振舞之、
十六日、雨降、七觀音參詣、小川坊城頭之、高尾平岡之中河久左衛門來、樽二種進之、御簾中へ唐鏡、唐扇進之、令對面、薦酒、須刻歸畢、
十七日、晴、當番、從腹中氣、不參、平野大炊入道來談、寶壽院來、家君御出、全齋被來、各薦晩飡畢、及晩三條西殿へ行、行成、佐理、五筆、光明皇后等名筆、令拜見、何も眞跡之、驚目畢、
十八日、晴、讃州筆結來、中院殿より平野大炊方へ牡丹花之筆跡被遣之、予令傳達畢、午刻大炊來談、地藏院弟子、契約過半相濟、則今日到伏見、下向、來月中旬入寺之約諾之、

十九日、晴、筆結來、已上三日來、十五對結之、高尾ヨリ傳內來、城職事方ヨリ御內書之認樣問ニ來、調樣書付遣之、冷泉予兩人、書狀之、予於冷泉亭、返札書調、兩判遣之、次家君參、次全齋ヘ行、入夜歸蓬華、

廿日、雨降、庭前芍藥分種之、入夜參番、伯卿代之、

廿一日、雨降、於親王御方、照高院准后、仁王經讀誦、內々衆參候、廣橋大納言兼勝卿衣冠、持明院中納言基孝狩衣、中院入道前侍從、中納言通勝、伯二位雅朝卿狩衣、勸修寺宰相光豐卿衣冠、鷲尾宰相衣冠、五辻左馬頭之仲衣冠、正親町三條實有狩衣、四辻少將季繼狩衣、富小路左衛門佐秀直狩衣、猪熊少將狩衣、廣橋右中辨總光直垂、小川坊城左少辨俊昌狩衣、松木少將宗信衣冠、予狩衣、此外、外樣衆、西洞院父子、阿野小將等之、從早朝、參入、夜退出、

廿二日、晴、當番之、參內有御連歌、御雜談之次、伋之字有御尋、七尺之由申上畢、尋伋同由有沙汰、尋八尺、然て、字意不同、

廿三日、陰雨、日暮中院入道殿來談、當時諸道零落可哀云々、

廿四日、陰晴、鶴壽丸百ケ日之、設小齋、揮淚、未刻朝會、店屋有之由、人來被告知之間、則見ニ行、

廿五日、晴、朝會取寄、禁中ヘ懸御目、則被留置、銀一枚之、次家君御出、次也足軒ヘ行、晩飡有之、入夜、歸蓬華、

廿六日、朝雲、巳刻晴、筮之御道具共、 机大小四脚、格等之、以朱、可致書付由、被仰出、仍如此書付者之、

　慶長八年癸卯夏、依　今上皇帝周易御傳授、考舊規、令新造之、

次巳刻、冷泉、山科內藏頭令同道、大樹ヘ參、懸御目、有振舞、及暮歸華、次竹內源藏人ヘ行、

廿七日、陰、雖當番、相博伯卿、不參、但晝許之、寶壽院來、花山院ヘ可參由間、令同心、及晩歸、當番宿ニ參、於御前有圍碁、予、右大辨、宰相、少將、碁指之扇子一本、拜領畢、

廿八日、雨陰、

廿九日、晴、高尾傳內來、次花山院少將讀書、次高尾地藏院來談、及晩、冰室登山、

六月

一日、晴戌、今日、冰室明神祭之、早朝明神ヘ社參、未刻、從萱堂、歸蓬華、入夜御盃ニ參內、

二日、晴、當番參內、終日候御前、聖護院宮、予打碁畢、
三日、申刻雨降、高尾地藏院、普賢院來談、
四日、晴、五條亭行、
五日、晴、銀子四百目、令借用、
六日、冷泉亭月次哥會有之、兼日題、夏月如秋、海上遠望、兩首之、愚詠、　みし月の程にそ夏は
知れける、あけさらましを秋の夜ならは、
　　わたつうみの雲井につゝく波よりやその岩舟もかよひ初けん、
當座三十首、愚詠二首、荻　水鳥之、
　草むらは吹はらひつゝ白露のまくらにふかき荻の上風、
　水きよくすめる心は繪にもはたうつさまほしき池のをしかも、
山科父子、四條澄昌、官務孝亮、今川仙巖、同左馬助、極樂寺、松泉院等之、
七日、晴、祇園會朝齋ニ今出川、東向全齋、同簾中、新大夫等被來之、午刻參番、到夜半迄、御前伺
候、小刀一拜領畢、曙天、雷雨甚、

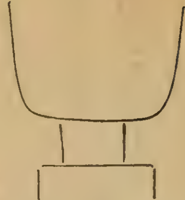
八日、巳、雨降、從番退出、午晴刻、晩雾、花山少將殿、讀書毛詩、入夜、喜多坊來、夜半後、雷雨驚人、
九日、陰、及晩、冷泉へ行、令同道、東河原水見ニ行、晡時、中院侍從來談、
十日、晴、喜多坊來、
十一日、晴、女院御所御囃、內々衆不殘、被召畢、予雖預御觸、依所勞、不參、穴澤雲齋、桃一折、贈給之、
十二日、陰晴不定、從禁中、筮之御道具、出來之由、仰下、薦槓龜等被見下、雖當番、依所勞、不參、勾當局へ御理、申入了、
十三日、晴、法身院被來、喜多房同道、一宿、土用入、
十四日、晴、御光御松、祇園會見物行、治部卿、喜多房、薦朝飡畢、予齋之、
十五日、晴、家君御出、從禁中、易御傳授、吉日之事被仰出、予以書狀、家君へ申處之返狀云、御傳授之月日之事、先當月はよろしからす候、來月は御忌月如何候、前々御吉例候へは是を被用事候、近代御傳授之無御沙汰候へは、御吉例など不覺悟候、惣而七八月、庚子日、被遊事候、幸、今

年八月十六日、相當庚子候間、如本式可被遊之候哉由可被言上候、誠ニ折にあひたる義、奇妙候
申候、

六月十五日　極﨟宛　　草名

供物已下御器共出來候哉如何

此御狀、則勾當御局より懸御目處、御心得之由之、次供物御器可爲何樣之由、御尋之間、則令圖
進了、



經四寸余、高四寸斗、以
銅、内外滅金之由、書
付進之、數二ツ飯ノ器之、



經三寸余、高二寸斗歟、
同以銅、内外滅金之由、
書付進之、數六ツ、菜六種之器之、

圖如右、則多い阿彌ニ被仰付、次存庵爲吹擧、東福寺僧、東光寺作藏主、兩人被來、各五明十本被
惠之、論吾?講可聽聞云々、及晩、治部卿、從伏見、歸來、板倉折帋出之、仕合云々、

十六日、

十七日、雖當番、從所勞、不參、

十八日、万葉集十五、十六、兩卷、令書寫終功、冷泉爲滿朝臣許へ遣之、助筆之、入夜冷泉來談、万葉出來、祝着之由之、

十九日、晴、今日ヨリ三日間、禁中御虫拂之、齋了、參內、御唐櫃共、取出、清凉殿、紫宸殿、小御所、記錄所等風凉之、予從所勞氣、哺時退出、各及黃昏、退出云々、

廿日、晴、齋了、參內、御書籍共令部分、及黃昏、退出、今日、石山觀世音開帳之、

廿一日 晴、齋了、參內、宗甫從伏見、被來、

廿二日、晴、未刻夕立、當番、齋了、參內、御虫拂取置、令終了、宗甫、朝脉診之、則藥調合、今日より服用、

廿三日、晴、花山院參、次六條亭行、終日雜談、次家君參、次冷泉へ行、

廿四日、晴、 家中共四五人愛宕山へ參詣了、東福寺、東光寺、存庵來談、

廿五日、早朝聖廟へ參、歸路、冷泉令同道了、今日聖廟法樂之御會、可有之由、昨日御觸之、巳刻衣冠參內、御當座五十首之、勅題之、予探得、曉觀念題、 浮雲の行衞なからもすむ月にその曉の契

りむすはん、

御人數　八條宮、聖護院宮、曼殊院宮、廣橋大納言兼勝卿、山科前中納言言經卿、中院入道前侍從、中納言素然、平宰相時慶、飛鳥井新宰相雅庸、右大辨宰相光豐、和哥奉行之三條宰相中將實條、鷲尾宰相中將隆尙朝臣、頭辨光廣朝臣、左馬頭之仲朝臣、阿野少將實顯朝臣、四辻少將季繼朝臣、飛鳥井少將雅賢、猪熊少將敎利、予等之、以上堂上十五人之、辨辨（マヽ）被講之、御製初七反、後三反、宮門跡初三反、後二反、堂上一反之、申下刻、各退出、

廿六日、晴、日出之比、雲沃、二條前關白殿より眞桑瓜一籠五十拜領、調子越前守御使之、令對面、薦一盞、及晚、近衞左府へ參、瓜一籠進之、次冷泉へ行、次家君へ參、亥刻歸華、少風雨、

廿七日、晴、當番參內、舞樂之道具、被風涼、午刻以後大風、黑戶之前柳吹折、即可令斬之由仰之、仍鳥飼之衆召寄、令斬之、

廿八日、晴、辰刻自內退出、宗甫被來、被診脉、藥調合、及晚六條宰相來談、及黃昏家君へ參、次冷泉へ行、今日予齋之、六齋日可行齋、雖覺悟、事繁多之故、每度令懈怠而已、

廿九日、雲沃、宗甫伏見へ被行、万里小路より六月之御盃ニ可參之由、被觸之、例年如此無御觸、

不審、及晩勾當御局より六月秡可參之由、被觸、卽參內、於御三間、御通有之、

七月小

一日、乙卯、晴、今日大樹御上洛之由、雖有沙汰、延引、仍巳刻伏見へ行、卽大樹懸御目、暫有御雜談、御振舞共被仰付、及晩歸蓬蓽、秉燭之程、御盃ニ參內、先參御前、暫有御雜談、子刻退出、存庵來之、

二日、丙辰、晴、當番、午刻參內、韻會法印本懸御目、卽可被召留仰之、

三日、丁巳、晴、愛宕寶殊院來談、今日生見玉催之、仍遣侍者迎ニ遣之、卽來義、次法身院高尾より下山、午刻家君御出、全齋、梅龍軒、日宰相、意齋、德庵等被來、內義方母堂御出之、辨新大夫、梅龍室、德庵母等來、申刻各令歸、次今晩右府御上洛由之、仍有御迎、二條城へ行、及黃昏右府御上洛之、車寄ニ待迎、入御後歸宅、

四日、晴、冷泉へ行、自官務、瓜共被惠之、卽十五冷泉へ遣之、午刻右府へ參、懸御目、晡時歸宅、今夜禁中御目出度事之、仍及黃昏參內、伺候之衆、廣橋大納言兼勝卿、万里小路大納言充房卿、中院

入道、伯二位雅朝卿、右大辨宰相光豐、鷲尾宰相隆尙、五辻左馬頭之仲朝臣、正親町三條少將實有朝臣、四辻少將季繼朝臣、廣橋左少辨總光、小川坊城俊昌、猪隈少將教利、持明院少將基久、松木少將宗信、山科内藏頭言緒、藤侍從永慶、万里小路侍從兼房、中院侍從通村、廣橋侍從兼賢、滋野井侍從冬隆、高倉侍從嗣良、予、源藏人孝治、新藏人安倍泰重等之、七獻之、二獻目より各御前へ參、公卿搆疊着之、殿上人圓座之、五獻目、天杪之、鷄鳴退出、

五日、晴、於冷泉爲滿亭、有月次會、予出席了、兼日題、新秋、草花、契戀、三首之、當座三十首、予二首、都月、寄舟戀、今日予講師之當番之、雖未稽古、爲心得勤之畢、赭面〻〻、入夜歸蓬華、歌共別記之、後聞、今日曼殊院宮より瓜一籠被下之、

六日、晴、庚申、 早朝、東光寺被來、瓜共被惠之、存庵同道之、齋了參内、龍安寺、眞珠院、韻會一部令吹擧、被召留、終日伺候、未刻夕立、巢松軒へ瓜一籠遣之、

七日、晴、二條殿參、次九條殿參、家君先參、次近衞殿、同政所殿參、午刻參番、早朝守之來、瓜共進之、

八日、壬戌、晴、巳刻大樹へ參、昨日より御猿樂有之、大夫金滿井之、 昨日、當番之間、殿中へ不參、今

日番より退出、後御猿樂見物ニ參、酉刻歸蓬華、次家君ヘ參、次梅龍軒行、

九日、癸亥、晴、魚住與介、甘瓜五十進之、次穴澤寬齋方ヘ瓜共遣之、午刻阿野少將、四辻少將兩人令同心、殿中ヘ參、兩人御禮被申、頓而退出、予居殘、及日暮退出、

十日、甲子、新三郎、脇指失却之間、家中者共、靈社起請文、令書之、順暫來談、次治部卿方より盆之爲祝義、瓜十、茶二袋被贈之、未刻、殿中參、入夜參內、甲子待之故之、

十一日、乙丑、晴、烏丸頭辨來談、晡時令出川殿ヘ參、夕立甚、雷聲驚耳、二三ケ所落云々、及晩、山科黃門ヘ行、數刻打談、

十二日、晴、拂曉嵯峨寶壽院祖廟參詣、巳刻、歸蓬華、

十三日、晴、午刻大樹ヘ參、御咳氣由、無御對面、入夜參番、鷲尾代之、

十四日、晴、巳刻、家君ヘ參、未刻、參內、今日は兩親有之衆斗、番ニ參之、終夜有盃杓、各携一種一瓶了、

十五日、陰、辰刻、退朝、次御灯籠令進上可然之由、勸修寺宰相より被示之、俄ニ尋遣之、無之間、御理申入了、午刻參內、晡時、大樹、相國寺兌長老ヘ御成、仍相國寺ヘ行、懸御目了、次親王御方參、

有御盃、次參內、御盃有之、大樹、及晚伏見へ還御、
十六日、及晚、冷泉亭へ行、山々燒灯、見物ニ東河原へ出了、
十七日、晴、辛未、齋了參番、晡時、夕立甚、亥刻迄、御前伺候、
十八日、壬申、晴、午刻、山科亭へ行、入夜歸蓬華、御靈御出之、
十九日、癸酉、晴、全齋來談、 次自小川坊城左少辨俊昌許、來廿四日、陽光院御聖忌之經供養、於般舟院有之由被觸之、其一通文躰甚左道之、不有職之故之、卽出納方へ一通遣之、

來廿四日、奉爲陽光院聖忌、於般舟三昧院、可有御經供養、任例可令下知之狀如件、

七月十九日　　式部亟判

出納殿

及晚山科亭へ行、山科青侍民部令口論云々、仍爲見舞之、入夜歸蓬華、次踊出逢、卽見物畢、
廿日、晴、甲戌、 淸涼寺池房來談、次存庵來、 糒袋二惠之、堺衆玄庵始而來、鵝眼五十疋惠之、存庵案內者之、
廿一日、晴、

廿二日、晴、參番、管蠡抄一册拜領了、

廿三日、晴、東福寺天得庵、西堂來談、五明五本被惠之、廿六日、和漢執筆令伺候之由、揚明より有御使、即令伺候、一巡申入之之、夜半歸蓬華、

廿四日、晴、大工召、中間部屋板敷令敷之、

廿五日、未明、北野參詣、次家中令掃除、次六條宰相より軍代記借ニ來、即借遣之、

廿六日、陰晴、中國兵庫頭息女、小宰相毛利輝元女中ニ隨逐之、然共病氣ニヨリ乞暇、今日伏見ヨリ京上之間、迎ニ人足以下遣之、午時今出川へ被來、及晩拙宅被來、

申刻公家中、若輩衆、廿四五人おこり興行、被盡美麗云々、及晩吉田番代參內、

廿七日、當番參內、辰刻雨降、於御前、聖護院宮、予打碁、

廿八日、壬午雨、陰晴不定、掃正來談、今日、內大臣秀頼公被迎妻室云々、江戶大納言家　卿息女之、伏見ヨリ大坂ニ到舟船悉、

廿九日、雨降、廣橋大納言ヨリ可來談由、雖被示之、隙入間不行、次法身院來、

卅日、雨降、庚侍者來、及晩家君へ參、數刻御雜談、横大路長介八朔爲禮來、兩瓶餅等進之、

八月小

一日、乙酉、雨降、早々禁中ヘ御太刀金覆輪進上、次親王御方ヘ御太刀進上、同金覆輪、則被返下之、次女院ヘ杉原一束進上、飯後將軍ニ參、伏見御城ニ御座之、六條宰相、冷泉中將、四條中將、土御門左馬助、山科內藏、

太刀進上、予同太刀進上之、晡時歸蓬華、六條宰相來談、卽令同心、女院ヘ參、少納言御局中置者之、次女御ニ參、次近衞殿政所ニ參、次近衞殿參、次家君參、次九條殿參、次二條殿參、沈醉之故、御盃不參、氷室百姓共來、掃部正より双瓶佳肴給之、

二日、晴、雖當番、因少病煩不參、昨日御德日之故、禁中ヨリ御太刀、今日返給之、次女院ヨリ一束ニ錫一對被返下、次鷄冠井庄屋二郎左衞門、昨日之爲禮來、小角立〔豆カ〕進之、次平岡之中川九左衞門母來、木練柹進之、

三日、丁亥、晴、花山院少將殿、讀書令來給、毛詩十八卷之、次意安許ヘ三國志、晉書借ニ遣、卽今到來、兩部册數、合六十四册有之、

四日、晴、伏見宗甫へ人遣之、次性院書狀遣之、
五日、晴、家君へ參、高野自性院、去月廿六日逝去云々、次冷泉亭、月次歌會之、予頭役之、短册料帋打曇五枚、杉原一帖、銀子五匁遣之、入夜歸宅、懐紙題、月前聞鴈、遠寺晩鐘、兩首之、
六日、晴、庚寅、北野觀音坊來、五明三本進之、大坂已雲齋より使扎到來、來八日連歌月次、予頭役之、仍銀五匁目遣之、入夜冷泉中將、山科內藏頭等來談、薦一盞、夜半比、各歸趨之、
七日、晴、參番、終日御前伺候畢、
八日、雨降、南禪寺語心院、沖長老來談、近衛殿可令案內者由之、仍即令同道、即對面之、次家君へ參、次堺道保來、鰹二十ふし進之、東光寺來談之、
九日癸巳、雨降、式日假名註出來、懸表紙了、及晩風呂入、次冷泉立寄、初夜歸蓬華、
十日、甲午、晴、
十一日、乙未、晴、秀賴卿御祝、其爲御禮諸公家下向、仍予也亦大坂ニ下、冷泉、山科、四條令同船、申刻到大坂、着岸、秀賴卿拜出、長印軒宅ニ一宿、
十二日、晴、齋了、着衣冠、秀賴卿亭へ參、先攝家衆御禮、有御振舞、次淸花等之、有一獻、御太刀

進上、晡時各退出、平野大炊入道己雲齋許へ行、

十三日、晴、早々長印許へ行、長印令同道、片桐市正許へ行、式目假名抄遣之、一段滿足由之、今度、秀頼卿自萱堂、式目假名抄之事被仰出、書本出來之間、市正令同道、城ニ參、則式目抄上下二冊、居臺并錫酒鍋三つ進上之、見事出來御祝着之由、御返事之、帷壹重給壹銀子五枚致拜領、尤眉目之至之、未刻退出、長印令同道、長印私宅ニ歸、次今中彌三郎許、振舞行、今中勘右衛門始逢宅、及黄昏、歸大炊許ニ、

十四日、晴、大坂町見物ニ出、白氏六帖兩冊感得之、午刻平遠州許へ行、風呂興行之、卽一宿、

十五日、早々上洛、路次逢相（雨カ）於橋本邊、雨晴、申刻歸宅、暫令休息、家君ニ參、大坂之樣躰相談畢、次冷泉山科等來談、及夜半、

十六日、晴、全齋來談、次家君ニ參、周易之傳授次第草案書之、

十七日、晴、當番參、

十八日、晴、東光寺宗承道法等來談、及晚、御靈會祭禮見物ニ令出川へ行、有晚飡、

十九日、晴、早々依召、長橋局へ參、周易之傳授次第可令進上由之、卽家君へ參、仰之旨令申、次第

等書之、午刻已後雨降、

廿日、晴、午刻勾當局へ參、周易之傳授之次第令進上、祿物樣躰等內々御局御尋之方疋?御太刀等給之由令申、

廿一日、晴、東光寺、存庵、宗承等來、三畧密々談之、次中院侍從通村、藤侍從永慶始而讀書之、則大學教之、後薦一盞、中院侍從より錫一對給之、藤侍從兩樽二種給之、次勸修寺宰相光豐卿來談之、周易御傳授之事、此比、女院被聞召云々、主上、今年厄年、又御若年之處、易學可爲如何哉、儒道之大事、卒爾ニ御傳授、神罰如何思召間、先延引之通、主上へ可被仰由、御存分之、如何存哉之由之、予申云、大藏卿惣別病者、此義再三雖辭退申、强依仰、領掌侍之、何も大藏卿ニ相尋、返事可申上之、勸宰相、則被參女院、予返事被相待云々、則家君へ參、右之旨申處、御厄年之事は不苦事之、文王羑里作易辭、然者有愼時節可沙汰事之、然共御若年之、五經未御讀間、如何雖爲之非常儀故、兎角不申令領掌乎、惣而病者故失忘多々之、仰幸之間、御延引尤之由、可申之云々、仍女院御局へ參、勸宰相召出、右之通可申處、一段尤之申樣之云々、則叡慮被伺之處、然は先々延引有之由之、此旨猶大藏卿ニ可申御届云々、則家君へ右旨令申畢、御厄年御若年彼是雖不苦事、女院易之事、

神罰難斗依之右延引有之事之、女義御不案內之故歟、
次、平野大炊殿大坂より上洛、愚宅一宿、薦晚飡、家君御出、次治部卿來、及夜半家君今出川へ令
歸給、入夜雨降、
廿二日、晴、參番、申刻大炊被歸云々、
廿三日、晴、於揚明、和漢之會御興行、予執筆可伺候由、內々被仰、仍早々令伺候、漢人數、相國寺
保長老、南禪寺三長老、沖長老、傳西堂、東福寺藤長老等之、和人數、揚明照高院殿、松梅院□(○
時カ明カ)能等之、秉燭滿百、各退出之後、予保長老殘居、有御雜談、夜半後、歸蓬華、
廿四日、晴、三界講之、女房衆長岡殘中、息女病惱、以外之故、見舞ニ行、及黃昏歸宅、
廿五日、晴、拂曉、聖廟參詣、飯後、六條殿令同道、大樹へ御見舞ニ行、御振舞有之、入夜歸蓬華、
廿六日、三界講之、宗甫被來、
廿七日、三界講之、當番參、入夜、御前御田樂有之、
廿八日、齋了、九條殿ニ參、終日曇時々降、
廿九日、晴、家君へ參、次山科亭へ行、

九月小

一日、甲寅、三畧講畢、次家君へ參、次勸修寺右大辨宰相より有使者、從禁中被仰出有儀、可來(臨カ)段云々、仍申刻、向彼亭、被仰出意趣、御外樣番不沙汰以外之、可被置壁書云々、然て予草案可書進由之、入夜御盃ニ參、

二日、乙卯、當番早々參、次御前ニ參、御聯句獨吟被遊之、今日、昨日壁書之趣被仰出、付而外樣內々不殘伺候、其壁書云、

內々、

條々

一小番之事、請取、飯後二番詰以下は四時已前ニ各可有伺候、番帳ニ參次第可被着之、宿之義は、秉燭已前、可有參集事、

一參內之時、衣服冠帶、不拘美惡、正威儀、各從官位、可守如法禮節之事、

一早朝、上格子以前、下格子以後は從常御所、兩序懸筵、奧江出入禁制之、雖晝、無御用は申口、

男末、大臺所迄も不可致伺候之事、

一於非常之砌は、非兼日之制限、雖內々御前、依時宜可致伺候事、

一靑侍雜色以下之輩、於御番所、作法、各可被堅申付之事、

右旨、若於違背之輩は、急度可被加御糺明者也、

慶長八九月二日　光豐判

兼勝判

外樣

條々

一小番之事、請取、飯後二番詰以下は四時已前ニ各可有伺候、番帳ニ參次第可被着之、宿之義は秉燭已前、可有參集之事、

一各從官位、可守如法禮節事、

一參內之時、衣服冠帶、不拘美惡、可正威儀事、

一於非常儀は非兼日之制限、雖內々御前、依時宜可致伺候事、

一青侍雜色以下之輩、於番所、作法、各堅〔可被〕申付事、

右旨、若於違背之輩者、急度可被加御糺明者也、

慶長八年九月二日　光豐判
　　　　　　　　　兼勝判

右壁書、兩通共ニ予令淸書之、

被御出壁書、五ケ條、畏而奉各存其趣、堅可守御制法ハ、仍所請如件、

慶永八年九月二日　淸原秀賢
　　　　　　　　　嗣良

如右、請文調之、各具ニ連署加判形、中院入道、丨

執筆之、外樣、同右請文、花山院大納言、丨

執筆之、

又爲私、定置條々之事、

一當番請取乃人、青侍一人、雜色一人をかるへき事、

一青侍共かたきぬ袴をき、あしなかをはくへし、皮きぬかは袴たうふく禁制事、

一御車寄、御門以下らくかき、柱をきりきさみ、番所の戸障子をはつし、敷物なとに、するとかたく禁制の事、

一各こうた、まひ、うたひ、幷雜人共わるくるひ、停止事、

一、大なるわきさし停止事、但所により時により、さすへき事、惣別、異類異形の出たち共、各可有分別事、

一夜に入、町ありき、なとあるましき事、

一各似合さる侍、中間なとめしつかはるゝ事、分別有へき事、

右條々、隨分、互申合、可相嗜之、其上於違背者、各迄可申達候也、

慶長八年九月二日　各連署加判形

廣橋大納言殿

勸修寺宰相殿

及黃昏、各退出、

三日、

四日、

五日、宗甫來、予持藥調合之、

六日、大工源左衛門來、北之廂、爲修理之、

七日、庚申、大工源左衛門來、次相國寺慈照院澤座主來義、五明十本被惠之、巳刻參番、午刻雲沃、入夜大雨降、

八日、大工源左衛門來、家承來、入夜一松見舞ニ今出川ヘ行、

九日、藤侍從、讀書來、木練柿一鉢給之、次伏見ヘ行、爲大樹御禮之、御對面有碁、次家君ヘ參、次近衛殿、九條殿、二條殿御禮ニ參、次親王御方ヘ參、次御盃ニ參、

十日、大工來、

十一日、甲子待參內、

十二日、當番、藤侍從、相博、

後聞、九條殿御方御所、花水御聽聞、片陰別ニ搆御座、縣山宮內少輔、依爲案內者之、

十三日、論吾講尺始之、序講之、相國寺慈照院、澤座主、東福寺衆、四五人發起之、其外緣聞之衆、三十人餘有之　予烏帽子道服着用、

十四日、

十五日、論吾、學而篇講之、午刻以後、南禪寺證範來義、平岡大中庵之義、高雄出入爲扱之、晩湌薦之、

十六日、治部卿來、

十七日、當番、今日於親王御方、有御祈禱、予被召、然共當番之故不參、

十八日、論吾、爲政篇講之、

十九日、宗甫、中國下向由、被示間、爲餞、鵝眼二百疋遣之、

廿日、治部卿賡侍者等來、

廿一日、語心院より紅柿五十被惠之、次しま?久衛門女中より二荷三種給之、

廿二日、齋了、治部卿令同道、高雄へ行、普賢院、密藏院不出逢、大中庵之事令談合、及黃昏歸蓬蓽、家君ニ參、此中高尾座方申分、咋夜智積院被登山、色々被扱、院家衆之如存分被申、諸相濟者

之、
廿三日、宗甫、中國下向延引、自伏見被歸、
廿四日、陰、雲沃、八佾篇講之、家君、全齋等來幸給、九條殿御方御所御成、片陰搆御座、御聽聞之、夜雨降、
廿五日、晴、戌刁、飯後參番、三條西殿代之、
廿六日、晴、大坂己雲齋より書狀到來、預錢之都合被尋上者之、
廿七日、晴、里仁篇講之、午刻參番、從九條殿、御樽二荷兩種拜領、
廿八日、晴、九條殿御方御所ヘ參、次全齋ヘ行、次風呂ヘ入、
廿九日、性院三鈷寺ニ籠居之間見舞ニ行、及晚歸宅、次梅龍軒ヘ行、

十月大

一日、晴、伏見ヘ行、爲大樹ヘ見舞、入夜歸蓬華、仍御盃不參、
二日、紹節來談、春日禰宜、丹治主水初而來、紹節案內者之　神道之事共可令相談由之、乍去、予

無相傳、少々雖有聞置事、一部不相續間足斟酌乎、次參番、於御前、鷲尾宰相、予打碁、

三日、晴、春日禰宜、丹治主水來談、荒神供次第、壽命經、淸秡次第、其外彼是秡共、寫持來、令一覽畢、入夜家君ヘ參、

四日、晴、宗甫令相談、予也、持藥令相調、

五日、晴、及晩親王御方ヘ參、有御通、亥餠拜領、次參內有御盃、

六日、公冶長篇講之、

七日、參番、

八日、寶壽院來談、眞乘院洪首座來義、大栗二百被惠之、次今出川殿ヘ行、次全齋ヘ行、及夜半歸宅、

九日、全齋令同心、南禪寺聽松軒ヘ行、及晩歸蓬蓽、

十日、冷泉亭月次哥會之、予令出席、早朝、伯子息來談、

十一日、時雨降、宗承來、蒲鉾一折惠之、次御靈別當來談、五明五本惠之、

十二日、晴、宗甫歸國、女房衆爲産、德庵家令借用、自今日移居之、次參番、終日御前ニ伺候、水無

瀨中將、夜終令閑談、

十三日、陰、午刻斐、大樹十八日江戸御下向云〻、仍水無瀨中將可被見舞云〻、被予令同道、及晚、大樹御出、懸御目、有御振舞、頓而退出、初夜歸蓬華、十五日御日待可伺候由、御觸有之、

十四日、陰雨、

十五日、飯後參內、依御日待之、盤上御遊共之、

十六日、終日候御前、日入各退出、予番之、

十七日、飯後、伏見へ行、大樹明日江戸へ御下向、爲御暇乞之、及黃昏歸蓬華、未刻以後、入夜雨降、

十八日、庚子、霧降、日出以前、但辰刻歟、男子誕生、於德庵令產者之、母子共以無事、珍重〻〻、今日辰刻、大樹至江戸御下向云〻、及晚冷泉へ行、暫時相談、天龍寺藏主來、大栗百ヶ給之、

十九日、雍也篇講之、天龍寺妙智院長藏主來談、筆二双被惠之、

廿日、家君參、次全齋へ、行、終日令相談、及黃昏歸宅、次平遠州來一宿、

廿一日、述而篇講之、次從近衞殿、漢和一巡被持下、霧開村路顯四句目、風急晚潮狂予、如此令對進之、次愛宕山實珠院宿坊眞如堂之中ニ有之、晚湌ニ被喚請畢、入夜歸蓬華、

廿二日、雨、寶珠院へ一字板、注字木以上三百遣之、巳刻參番、
廿三日、晴、及晩、也足軒へ行、次揚明へ參、
廿四日、晴、及晩冷泉へ行、次全齋へ行、亥刻歸蓬華、
廿五日、晴、女房衆、從産所、歸來、
廿六日、
廿七日、陰霽、講泰伯篇、次參番、禁中御書藏周備、夜中、召鳥飼之侍十余人、令掃除畢、入夜雨降、
廿八日、晴、
廿九日、子罕篇講之、梅龍軒被來、次林又三郎來談、双樽兩種惠之、及黄昏、亥子參內、御盃有之、先親王御方參、
卅日、晴、大工源七郎來、中大外記被來、

十一月大

一日、癸丑、晴、大工來、

二日、參番、女御殿御壺口切之、內々衆十五六人被召、有御振舞、楊弓被遊、宗春、橫大路鷄冠井村等遣之、

三日、雲、狩野源七來、

四日、鄕黨篇講之、林又三郎書簡進之、眞珠院來談、

五日、

六日、先進篇講之、

七日、參番、

八日、庚申、及晚參內、

九日、治部卿來、夜前留守□併□□□

十日、顏淵篇講之、寶壽院召ニ遣之、被來一宿、今日烏丸頭辨、并大外記武藏江戸ヘ下向之、大納言秀康卿、右大將被任、頭辨者勅使之、大外記宣旨爲持參之、

十一日、

十二日、甲子、參番、
十三日、九條殿御振舞參、及晩寳珠院來、
十四日、晴、眞藏坊來、當代八卦上手之、盜賊占之、万一不違云々、寳壽院相伴、薦朝飡、
十五日、春日社人、丹治主水來、楊明、漢和再返伺御意、伺候、依而丹治主水、不及對面、次冷泉、行、入夜丹治承主(主水カ)來、神道事、被彼是令雜談、地鎮作法并秡御書佐(?)、令相傳授了、
十六日、禁中御會、題者、建保名所百首之、楊明被遊付、御人數、八條宮、照高院准后、聖護院宮、梶井宮、曼珠院宮、近衞左大臣殿、烏丸大納言光宣卿、廣橋大納言兼勝卿、花山院大納言定凞卿、山科前中納言言信卿、中院入道前侍從中納言、伯二位雅朝卿、高倉宰相永孝卿、西洞院宰相時慶卿、六條宰相有廣卿、右大辨宰相光豐卿、三條宰相中將實條卿、鷲尾宰相中將隆尙朝臣、左馬頭元仲朝臣、四辻少將季繼朝臣、阿野少將實顯朝臣、富小路左衛門佐秀直朝臣、右中辨總光、予等之、以上廿四人、主上共廿五人之、哥數、主上、八條宮、照高院准后、聖護院宮、梶井宮、左大臣殿、中院入道、三條宰相等、五首充、殘公卿分四首充、殿上人三首充之、予題由良、三崎、天香久山、松浦山等之、澄座之、日入時分、各清書、夜半前各退出、

十七日、午間、持明院少將令相博、宿參番、
十八日、家中令掃除、
十九日、三男忌明、今出川衆、各令来給、御靈社ヘ參、大工源左衛門、予也、披官分ニ可成由、令契約來、樽兩種進之、內義ヘ折進之、向後可令奉公意、次湯淺長七來、錫鉢給之、蔦晩湌、
廿日、晴、勸修寺宰相許より書札到、來廿二日、甘呂寺元服云々、理髮可來云々、
廿一日、晴、冬至
廿二日、晴、參番、午刻女御殿ヘ女院御成、有御振舞、御壺口切之云々、內々衆十七八人被召之、予同參
廿三日、晴、今日甘呂寺首服、於勸修寺宰相亭、被搆之、一條前關白加冠、着座、万里小路大納言、葉室中納言兩人之、各爲祝義太刀捧之、
廿四日、禁中有御連歌云々、
廿五日、
廿六日、子路篇讀之、

廿七日、參番、

廿八日、伯二位息首服、名字顯成、予可令理髮由雖約諾、新冠年十八九歳之故、髪內々被剪之故、於內義被着冠、理髮其由許之、万里小路大納言加冠之、着座勸修寺宰相、中御門中納言等之、早朝爲祝義、双樽兩種遣之、新冠、予彌從弟之、

廿九日、

卅日、憲問篇講之、此二三日從虛熱、篇半分講之、

十二月小

一日、癸未、　庭田少將藥師參、頭役之、予被誘引、令同心、人數、鷲尾宰相、左馬頭、廣橋辨殿、万里小路侍從、猪隈少將、亭主、予等之、早朝すい物有御酒、次因幡堂へ參、一百度有之、各歸庭田亭、有朝飯魚味振舞之、終日遊興之、次御盃參內、

二日、雖當番、令相博中院侍從、宿山科內藏頭、

三日、憲問篇殘分講之、幽齋來談、

四日、女院御所參、今日御壺口切之、女御殿、楊明、照高院准后、大覺寺宮、聖護院宮、曼珠院宮、梶井宮等御成、內々衆十七八人被召之、予參之、

五日、早朝、女院少納言殿へ參、昨日被召忝由、御禮申入、次源藏人亭へ行、及晚、七觀音御撫物申出之、

六日、七觀音參備之、五辻左馬頭、庭田少將、山科內藏頭、万里小路侍從、高倉侍從、白川侍從、予七人之、先河崎、次革堂、中山、長樂寺、淸水寺、六波羅堂、六角堂之、於長樂寺、御酒薦之、於六波羅、御酒又薦之、

七日、己丑、小寒入、參番、御書藏御取置之、勸修寺宰相殿へ兩種二荷遣之、儀同殿爲一周期故之、曉天雪、

八日、庚寅、入夜年筮勘之、

九日、晴、衞靈公、季氏兩篇講之、次竹內源藏人令同道、冷泉亭へ行、次白川二位亭へ行、晚飡相伴之、亥刻歸蓬華、

十日、晴、今日冷泉亭月次會之、雖然、參內之故不出會、紙遣之、

十一日、晴、巳刻、左衛門佐番代參內、入夜、平遠叧來、
十二日、午刻、女御殿へ參、二宮樣御ふかそぎ御祝義有て、左大臣殿令剪髮給、遠叧滯留之、
十三日、陽貨篇講之、建仁寺常光院被來訪、油煙三挺給之、次堀之九太郎家中、醫師紹元、始而來、常光院同道之、鵝眼五十疋給之、
十四日、晴、禁中和漢御會、予執筆參、發句御製、春も此花には待し雪の庭、簾前香避寒 靈三 闔の戸に風は嵐の音そひて 照高院准后、枕の月に晴る夜の雲 左大臣、並影万行雁 周保、横秋一点鶴、元沖、野虞迷草偃 守藤、もとめ〳〵てわかなつむ道 入道前侍從中納言、春新氷未解 秀賢、秉燭以前、滿百句引以下終、戌刻許退出、歸路中院入道殿令同道、白河亭へ立寄、數刻打談、夜半後、歸蓬蓽、
十五日、晴、平遠卿、朝飯令相伴、午刻遠州至伏見、歸宅、今日聖護院宮より御盞被進、仍雖被召、從內故障事畢、明日爲講尺用意之、
十六日、晴、微子篇講之、
十七日、飯後參番、則御前ニ候、數刻御雜談有之、次親王御方御煤拂也、仍直ニ此由申入、親王御方へ令參、及晚、又參內、親王御方御煤拂伺候之衆、左馬頭、左衛門佐、正親町三條、松木、滋野井、

中院侍從、廣橋辨、左衛門佐、常親王御方伺候之、後ニ鷲尾宰相御見舞被參、今夜從女院、主上ヘ御盞被進、仍內々衆十人斗被召之、盃酌及曉更畢、

十八日、晴、巳刻從內退出、申刻從召集內、女御殿より御盞被進之、爲其之、於御前、各賜酒飯、亥刻各退出、

十九日、朝陰、子張篇、堯化兩篇講之、全部終、今度講、日數廿ヶ度之、全部令講事、至今年三ヶ度之、二篇三篇講之事、其度不可勝計、講後全齋行、家君御出、梅龍軒、意齋等令同道、歲暮爲祝義之、入夜歸宅、巳刻より雨雪降、

廿日、夜前、子刻前、三條之通燒失、今朝相尋處、曇華院御所云々、因而則御見舞ニ參、方丈庫厨等、不殘一柱、悉燒失、令怖愕畢、隣寺ニ方丈御所渡御之間、則令參、懸御目、言語道斷之由令申畢、手過、賊火之間、不一決、盜賊一兩人搦捕、板倉ヘ被渡云々、幽齋近所之間、則立寄、昨夜恐怖之由令音清畢、歸路梅龍軒ヘ行、次論吾發起衆、此中、爲禮鵝眼五百疋、双樽佳肴給之、相國寺晫藏主、天龍寺洪首座、東福寺黃首座、

從禁中、明後日廿二日、御煤拂御觸有之、則出納所ヘ令下知者也、其一通、

來廿二日、可有御煤拂、任例可致下知之狀如件、　十二月廿日、　式部亟判、

出納殿

次、明日、女院御所、御煤拂可候之由、有御觸之、次入夜、竹田宰相被來、論吾序分談之、

廿一日、晴、家中煤拂之、今日女院御所煤拂也、仍飯後、女院參、日沒之比、退出、次風呂入、

廿二日、禁中御煤拂之、朝飯令支度參內、衛士五人參、與介、茂兵衛、與兵衛、甚五郎、新藏等之、入夜退出、今夜、中院侍從へ御番、令相博、

廿三日、家君爲年忘、申入、同母堂、全齋、同內義、子息等、梅龍軒、同源宰相、意齋、虎法師等來、隼人正母、新大夫隣?御五郎等被來、全齋內義一宿、及晚雨降、入夜甚雨、丑刻斗雷鳴甚。午刻法身院出京、

廿四日、陰、齋了、全齋女中歸宅、從知行所、宗春被歸、次大外記掃部頭、從江戶、唯今爲歸宅、有使者、及晚彼亭へ行、亭主留守之、幡摩御局、白川之女中等可令對面之由、奏者演說之間、卽至亭、今度、大外記仕合之樣子共雜談之、去月十日發足、廿五日江戶へ被着、宣旨十二月八日被請取云々、被擇吉日之間、十二三日之間、徒然而滯留云々、大外記宣錄、金一枚、歸京途中爲用意、銀子百

枚給之云々、召使銀五十枚被下之、頭辨金五枚、銀子五百枚拜領云々、近代之仕合云々、有暫、亭主被歸、有盃抄、戌刻歸蓬華、

廿五日、晴、齋了、聖廟へ參、及晩曼珠院宮より菓子折給之、

廿六日、晴、二條殿より綱(缶)令拜領、次藤林長介來、途結解之處、算用相違之間、勘定狀遂返畢、道、當年荒分無之樣ニ申付之間、長介下作之畠、壹石二斗一升四合可作取之由、申付畢、若於不沙汰ニ、可取上由令下知候。　次狩野源七來、五明十本進之、聖蹟圖返之、令?對面之(マヽ)事有家中餅つきえ、

廿七日、晴、巳刻參番、未刻退出、大外記掃部頭より今度右大將宣錄、仕合之間、爲樽代、銀子壹枚、被惠之、次幽齋簾中より白綿貳把、被惠之、及晩參內、卽御前ニ參、御冠拜領歡悅々々、

廿八日、晴、庚戌、　入夜家君ニ參、主上御年筮勘之、富小路左衛門佐へ遣之、　卽女院御所迄被進上之由之、

廿九日、午刻、歲末御禮ニ行、先二條殿、次九條殿、次揚明、次家君へ參、　及晩、令衣冠、女院幷親王御方、歲末ニ參、次女院御所御髮上之、參勤、次參內、歲末御禮之、

慶長九年、甲辰、

正月大

一日、壬子、四方拜、丑刻參內、脂燭衆、大內記爲經朝臣、左馬頭之仲朝臣　四條少將隆益朝臣　四辻少將季繼朝臣、富小路秀直朝臣　飛鳥井少將雅賢　平少納言時直　猪熊少將敎利　持明院少將基久　難波侍從宗勝　山科內藏頭言緒　冷泉少將爲親朝臣　滋野井侍從冬隆　高倉侍從嗣良　予等之

御劍、庭田少將重定朝臣　御裾、頭左中辨光廣　草鞋、左少辨俊昌奉行　御簾、右中辨總光、

丑下刻、出御　以前、從黑遣戶、勾當內侍、御劍并式莒、御笏等令出之給、御笏、硯蓋居之、式筥次藏人ニ令持、內竪ニ渡之、御劍、予請取、晝御座ニ置之、御劍置之間、爲番、候御座前、出御之前、重定朝臣渡之、還御後、又請取、從黑遣戶、御劍、式莒、御笏等、奉返上之者也、次內侍所ヘ參、散錢二丁進之、刁下刻退出、一睡之後、看經、先護身法、次中臣祓、三元神咒、上科津祓、下津祓、中津祓等讀之、次荒神經、

次文珠經、藥師、愛染、虛空藏、觀音、不動眞言等誦之、次四聖人、朱文公之像等掛之、令供具、祭之、孝經一部讀之、次家中祝儀如嘉例、次林又三郎禮ニ來、扇五本給之、及晩御盃ニ參、先親王御方、次女院、次禁中、御盃ニ被參衆廿八人有之、子刻退出、

二日、癸丑、 家中祝儀如嘉例、巳刻參番、闕改有之、番頭、万里小路大納言重定朝臣、敎利、冬隆、予等之、昨晩有番觸、

御番二七

御參　重定朝臣　敎利　冬隆　充房　觸狀如此、

及晩、御前ニ參、暫有御雜談、敎利打碁、初予勝、後敎利勝、又次御理申入、女院并親王御内御盃ニ參、飛鳥井少將被參、五明五本給之、

三日、晴、家中祝儀如嘉例、次家君ヘ御禮ニ參、樽代三十疋進之、豈堂ヘ双瓶兩種進之、妹子香筋二遣之、次近衛殿ヘ參、一荷三種進之、御對面之、次鷹司殿ヘ參、御對面、次九條殿ヘ參、御方御所御對面之、歸蓬華、令衣冠、御盃ニ參、先女院、次親王御方、次禁中、御盃以前、御前ニ被召、勅作一具拜領、歡喜躍踊不過之者之、

四日、晴、勸修寺宰相亭へ禮ニ行、三種二荷進之、對顏有盃抄、次諸家禮ニ行、引付ニ書之者也、次伏見殿へ參、御對面也、次二條殿へ參、御對面、次大聖寺殿へ參、御對面也、次曼殊院宮へ參、御對面也、次全齋へ行、隻樽有之、內義へ筆三對進之、隆首座五明二本遣之、次梅龍軒へ行、五明五本進之、宰相、扇二本、元丁、五明二本遣之、

五日、晴、女房衆、家君へ行、出納來、納莒一桶進之、及晚自左少辨許大殿、護摩一通來到、出納方へ令下知、其一通、從來八日、大元法可被行、任例可致下知之狀如件、

正月五日　　式部亟判

出納殿

六日、晴、早天令行水、東北院辨才天へ參、次橫大路、庄屋長介幷九衛門、孫九郎幷百姓共來、長介餅鏡進之、長介ニ帶二筋、九衛門ニ扇三本、孫九郎扇三本、百姓共、扇二本宛遣之、

「西安縣之內之、
自長安至蜀二千一百里、日本路三百五十里
積年、七兆令七万令九百廿、
自天元甲刁以來、至慶長甲辰、二兆七億六万二千令卅一也、

慶長九年甲辰日件錄

慶長九年甲辰、正月大　　乃臤

一日、壬子、晴、子刻令行水、

慶長九年甲辰歲　日件錄　　乃臤

正月大

一日、壬子、晴、子下刻、令行水、次看經、次令束帶參內、四方拜、奉行、左少辨俊昌小川坊城草鞋被勤之、御簾、廣橋右中辨總光、御裾、烏丸頭左中辨光廣朝臣、御劍、庭田源少將重定朝臣、次脂燭衆、大內記爲經朝臣、五辻左馬頭之仲朝臣、四條少將隆昌朝臣、四辻少將季繼朝臣、富小路左衛門佐秀直朝臣、冷泉少將爲親朝臣、飛鳥井少將雅賢、平少納言時直、猪熊少將敎利、持明院少將基久、山科少將言緒、難波侍從宗勝、滋野井侍從冬隆遲參、高倉侍從嗣良、予等之、寅一點出御、兼庭上構屛風三双、內設御拜座、

出御以前、自黑遣戶、勾當內侍、御劍幷御笏、式筥等令出之給、御劍ハ予請取、晝御座ニ置之、爲番、即晝御座之前ニ令伺候、出御之時、御劍之役者ニ令渡之者之、御笏硯蓋戴之、式筥、內竪ニ渡之、頭次藏人令傳之還御之後、御劍、御笏、式筥等黑遣戶より勾當內侍ニ返上者之、

刁下刻、內侍所へ參、爲散錢、鵝目二十疋奉之、先於庭上、護身法、中臣祓、三元神咒等讀之、次昇外陣、令引鈴、此間三元神咒之、御供米令頂戴、次神盃令頂戴、爲佳例、有盃酌、其後退出、

次如例年、四聖人像、朱文公像等掛之、薦供具、祭奠之、孝經一部讀之、次家中祝義如嘉例、及晚親王御方有御盃云々、即令參候、次各被參女院、予同從之、次參內、御盃ニ被參候衆、廿八人有之、

內々衆不殘者歟、子刻退出、

二月大

一日、壬午、晴、於中院亭、有當座、水邊紅葉、山家夕嵐、二首、詠之、入夜御盃、參內、

二日、晴、參番、

三日、

四日、

五日、

六日、

七日、參番、御黑戶有御取置、明日攝家、門跡御參之故之、從內被催御遊、被召者之、

八日、攝家衆、御父子不殘、御參、仍而御遊共有之、黑戶庭切立令用意、有御鞠、主上不遊、次揚弓、次碁、將碁等之、入夜酒宴、夜半、各退出、

九日、晴、土御門亭へ晚飡ニ行、及暮全齋へ行、

十日、山科内藏頭亭、有連哥、仍向彼亭、入夜歸宅、

十一日、家君ヘ參、今日冷泉亭、雖月次、依有用所、不出、雖然、當座題被送之間、令詠吟、入夜令持參畢、秀直、番代參、

十二日、參番、今日三百韻、御連哥有之、

十三日、家君令御供、紹元宅ヘ行、法嚴院出逢、內々今日(今日)[衍カ]振舞之契約之、

十四日、鶴壽丸一周忌之、野僧供養之、於嵯峨寶景院、令齋者之、愁淚不屑春雨、次高尾治部卿煩、先日より未驗氣之由、告來間、卽令登山畢、顏色衰弊、驚入畢、此中、梅龍軒藥、以相當之趣、少驗之分際猶驚入者之、法身院一宿、

十五日、梅龍軒登山、被胗脉、一藥被調合、少驗氣之間、梅龍軒令同心歸京、高尾涅槃講令聽聞、殊勝〳〵、歸路槇尾ヘ使者遣之、五明十本送之、

十六日、

十七日、晝間相博、入夜參番、

十八日、禁中より漢和一巡被下之、

十九日、及晩、九條殿へ參、

廿日、佐久間久右衞門、旅中令來給、杉原一束給之、

廿一日、於持明院亭、長橋御局、夢想之續哥三十首有之、人數、廣橋大納言、同右中辨、中院入道、同侍從山科中納言、同少將伯二位、藤宰相、勸修寺宰相、鷲尾宰相、頭辨、五辻左馬頭、飛鳥井宰相、園少將、阿野少將、猪熊少將、松木少將、小川坊城左小辨、予等之、亭へ菓子折送之、晡時、詠吟出來、講頌有之、發聲、亭主、讀師、廣橋大納言、講師、園少將、講次終盃酌、及夜半者之、自黄昏雨降、

廿二日、於禁中、水無瀨御法樂有之、十七日從和歌奉行被觸之、其廻文如左、

來廿二日、可有水無瀨殿、御法樂和歌、御會各可令參給之由、被仰下候也、　二月十七日

光豐、勸修寺宰相之、

日野大納言殿　廣橋大納言殿　持明院中納言殿

入道前侍從中納言殿　伯二位殿　飛鳥井宰相殿

三條宰相殿　鷲尾宰相殿　[illegible]辨殿

左馬頭殿　阿野少將殿　四辻少將殿
左衞門佐殿　藏人辨殿　飛鳥井侍從殿
猪熊少將殿　中院侍從殿　藏人式部亟殿
右各參集、但左衞門佐不參之、此外御所へ令參給、
八條宮　妙法院座主宮　大覺寺宮　聖護院宮　曼珠院宮　近衞殿　以上六ツ所之、題、飛鳥井
宰相被書之、五十首之、予也一首、左馬頭より以下一首充之、晡時、詠吟出來、頭辨被讀上之、申
刻下刻、各退出、御所之於紫宸殿、御鞠被遊之、主上被遊畢、予今日當番之、入夜參御前、數刻御
雜談有之、
廿三日、紹元來、尙書讀之、花山院少將へ毛詩令讀之給、次從殿中納言殿御使被下、今晚可參之由
之、卽可令伺候由、御返事了畢、及晚、九條殿へ參、有晚飡、連哥一折、御興行之、
廿四日、晴、高野自性院より書扎到來、予也讀書望之僧、下山之間、可令同心之由、被示之、彼僧
一兩日中可來云〻、次三重韵字解、假名付可進之由、近衞殿被仰下之間、卽假名付令持參、入夜歸
宅、

廿五日、丙午、晴、爲聖廟御法樂、禁中有漢和御會、第上句御製、花綻霞綃絢、雨にみとりの青柳の糸　式部卿宮　舞粧穿箔燕　梅印　一巡、不及詳記、予執筆ニ祗候畢、申下刻退出、及黃昏聖廟ヘ參詣、歸路向山科亭、亥刻歸蓬華、今日、漢和集、雲句ニ鄕念北鄕（キタニムカフ）雁ト被出、嚮之字鄕ニ書替云〻、予云、月令ニ書替有之、雖然、鄕字ノ嚮向ニ通作可爲仄平ニ被用例有之者可然由申候處、北鄕思鄕厂ト被改者之、

廿六日、齋了、聖廟ヘ參詣、自昨日一七日參詣可申旨、令祈願畢、次高野釋迦文院之僧、長深來　從自性院、舉狀到來之間、卽令對面畢、件僧論吾文字讀切望云〻、次兼如來云、下京、紹與、万句興行云〻、就其題、冷泉中將ヘ所望之由、予也可傳達由、示之間、卽彼亭ヘ向、述旨趣所、冷泉領掌之間、令滿足畢、次女御殿より明日女院御成之、可致祗候由、被仰下、

廿七日、雨降、長深齋令相伴、論語五篇、令受說畢、次花山院少將殿、毛詩受說畢、次參番、次女御殿參、女院御成、茶殿、照高院殿、大覺寺殿、聖護院宮、近衛殿、光照院殿、各御成、內〻公家衆、廣橋父子、持明院中納言、伯二位、平宰相、同少納言、勸修寺宰相、左馬頭、鷲尾宰相、正親町三條、阿野少將、富小路左衛門佐、猪隈少將、中院父子、滋野井侍從、予等之、此外松木侍從祗候之、事

外酒宴之、亥刻各還御、

廿八日、陰、巳刻、篠勘之、次紹元來、尙書受說畢、次高野長深來、論吾、自雍也至鄉黨、受說畢、次冷泉亭ヘ行、披講之、博士令稽古、夜半前歸宅、高野僧、南命院賴深、泉榮兩人、長深令同心來、各鵝眼二十疋進之了、

廿九日、高野僧三人來、論吾自先進篇、至憲問、授說畢、次比叡山僧　僧來、出納將監令同心、年始之爲祝義、鵝眼二十疋進之、來月中旬より毛詩之板、可摺始云々、

卅日、晴、高野僧三人來、論吾自衛靈公篇、至堯曰、乞授說畢、次又和漢朗詠上卷、授說畢、授說篇數、雖多々、予近日尾州ヘ可令下向、因有支度之、彼僧歸山亦近々之故之、次雜筆往來點出來之間、井家攝津守許ヘ遣之、次花山院少將殿令讀書來給、毛詩伴宮篇授說畢、

三月小

一日、壬子、家君ニ參、次高野僧三人被來、朗詠集令授說畢、自性院返札遣之、三人僧歸山云々、入夜御盃ニ參、先御前ニ參、今日、三條西實條卿就發起、源氏講被遊由、有勅定、亥刻退出、次冷泉亭ヘ行、

來四日尾州へ可令下向、爲門出之之、双瓶重箱携之、夜半後歸宅、今朝鬪鷄之觸狀方々へ持遣、多分被加奉、

二日、晴、新衛門氷室へ遣、母堂御住山之間、予尾州へ下向事申進畢、今日晝番、中院侍從へ令相博、宿ニ參處、被召御前、數刻有御雜談、

三日、晴、曉天霜厚、鬪鷄ニ參、殿上人四十余人之、其次第、廻文ニ見タリ、

來三日、鬪鷄三羽可令持參給之由、被仰下候、各可得御意候也、　追申、宿帋揃底之間、先內々申入候、

三月一日　　秀賢

頭辨殿光廣朝臣　大內記殿爲經朝臣　冷泉中將殿爲滿朝臣　左馬頭殿之仲朝臣　源少將殿重定朝臣
四條少將殿隆昌朝臣　右少將殿季康朝臣　冷泉少將殿爲親朝臣　三條少將殿實有朝臣　阿野少將殿實顯朝臣　四辻少將殿季繼朝臣　左衛門佐殿秀直朝臣　藏人辨殿總光　藏人左少辨殿俊昌　左馬助殿久脩　吉田殿兼治　園少將殿基任　飛鳥井少將殿雅賢　平少納言殿時直　猪熊少將殿教利
持明院少將殿基久　四條侍從殿澄致　日野侍從殿光慶　內藏頭殿言緒　中御門少將殿宗信　藤侍

從殿永慶　万里小路侍從殿兼房　右衛門佐殿宣衡　中院侍從殿通村　廣橋侍從殿兼賢　難波侍從殿宗勝　滋野井侍從殿冬隆　高倉侍從殿嗣良　白川侍從殿顯成　清閑寺侍從殿共房　堀川侍從殿康滿　右兵衛佐殿豐長　源藏人殿孝治　祭主殿種忠　新藏人殿泰重　秀才殿在通

右各鷄進上也、參候衆十人余有之、次於親王御方御所、少々有鬪鷄、予せんわう彌一召具、令參故之、

次、長橋之御局ヘ參、尾州ヘ罷下之間、御所之事申入處、御心得之由被仰下、令滿足者之、次家君ヘ參、次大聖寺殿、女御殿、近衛殿等今日御禮ニ參、次冷泉山科亭ヘ立寄、明日之支度令相談畢、

四日、刁刻ヨリ出立、尾州ニ下向、先冷泉亭ヘ向、山科内藏頭兩三人令同道、予何も乘物、倶僮四人、荷持四人、鑓持一人、小者一人、青侍一人、以上十一人、召具畢、巳刻草津ニ令休息、水口ニ一宿、及薄暮、雷雨甚、

五日、早天雨晴、日出之程、出水口、午前關地藏ニ令休息、至石藥師一宿、

六日、拂曉、出石藥師、至四日市場、桑名ニ行、路頭迄、宣阿彌、冷泉爲迎出逢、桑名宣阿彌宿ニ令休息、則乘船、着熱田、四條道場之末寺、龜井之道場之內僧、阿彌坊ニ一宿、亭坊事外丁寧之振舞共

之、

七日、早朝、令行水、熱田大明神令社參、透廊之內入、悉令見物、本社南面之後ニ小社兩所アリ、此內東之方寶藏ト云々、則草薙劍被藏所云々、此寶藏之下、不地震云々、先年大地震之時、處々傳說之間、試處、彼寶藏下雨垂之內、一切不震者之、雨垂外、本社之下、悉地震甚者之、奇妙々々、不及言舌云々、〔果〕(〇此間廿日マテ日記闕)

廿一日、雨降、勢多より令歸宅、直ニ家君ニ參、路次中之樣躰、雜談申畢、家君へ伊勢みやけに魚箸、文函進之、母堂へふのり御秡等進之、次全齋へふのり御秡、文函等遣之、

廿二日、雨降、今日當番之間、巳刻參番、勾當之御局へ伊勢御秡のし一把進之、上樣へ美濃柿百進上之、有暫勸修寺宰相御前へ可參之由、被示之間、即御前伺候申畢、今日御千句之指合等被直之間、御連衆悉參候、及晚各退出、

廿三日、晴、存庵來、扇廿本進之、次元庵來、鰹廿進之、酧一盞、次法身院より書狀到來、休間來間、令對面、樣躰聞畢、次防州山口より神光寺門弟、兵部卿弟式部卿來、令對面、宗甫、兵部卿等

方より書狀共到來、入夜山科內藏頭へ行、數刻打談、從近衛殿有使、廿五日漢和可被遊、可致伺候云〻、

廿四日、晴、片桐市正許より書狀到來、秀賴卿より職原鈔外題可書由、被仰下故之、

廿五日、雨降、午刻晴、近衛殿有漢和御會、予也六句日中入畢、日沒之時分、滿百、入夜退出、來廿七日有御能、可致伺候之由、女院御所より有御觸、

廿六日、晴、朝食ニ官務へ行、延曆寺題者之宣旨爲相談之、午刻山科內藏頭亭へ行、尾州國守野州へ先日罷下處、御懇之段爲禮、使札可遣云〻、予也書狀共相認とつて遣畢、及晚梅龍軒へ行、其後久我殿へ行、見舞ニ行、有盃抄、

廿七日、晴、晨鐘之比、女院御所致伺候、御能、廣橋大納言、勸修寺宰相、兩傳奏申沙汰之、大夫觀世、御能十三番有之、日入之比、相終、後於御前、數刻有酒宴、戌刻退出、令行水、參番、則御前ニ被召、暫有御雜談、來三日、四吟之和漢可被遊、愚也令致執筆者之、

廿八日、晴、日出之後、自番令退出之處、叡山、智藏坊來訪、彼毛詩之一字板、漸出來之間、近日可令摩摺云〻、爲挍正、予也點本令拜借、大全本一冊、是又令借與、辰刻參女院ニ、今日御能、後朝有

九番、大夫ニ御扇被下、亥刻退出、
廿九日、晴、將軍御上之間、大津迄御迎ニ行、矢橋より御船ニ被召、大津ヘ御着岸之間、於船着、懸御目、小關越ニ令歸宅、直ニ土御門左馬助ヘ立寄、晩飡有之、

四月大

一日、辛巳晴、日蝕、申刻云々、掃部寮御所裝之由、告來間、早々參內如例、令裝畢、源藏人相催裝樣等見置畢、次巳刻許伏見ヘ行、大樹ヘ御禮可申覺悟之處、御草臥之間、重而可有御對面云々、仍各歸宅、次家君ニ參、次御盃ニ參、參內亥許退出、伯樂藤內來、馬爪髮そろへ畢、
二日、壬午陰、半口來談、次水無瀨中將來談、晝間白川侍從ヘ令相博、入夜參番、
三日、雨沃、早朝從番令退出、整衣冠即參內、今日四吟和漢御會被遊、予也執筆可候之由、內々仰之、御發句、松に風音するを聞郭公 左大臣
短宵檐雨長 有節　　書窓灯易曙 集雲
竹の葉分の月くらき空 御製

百韻別ニ記之、及暮退出、入夜、山科内藏頭許へ行、
四日、晴、存庵來、及晩九條殿御方御所へ參、入夜歸宅、薄暮ニ淵左馬助許ヨリ書狀刻來、示云、今朝諸大夫ニ被召加云々、然ハ烏帽子直垂可令許借云々、予無所持之間、出納方へ借ニ遣、則使者ニ渡遣畢、竹田宰相來、花山院殿へ人足進之、
五日、晴、早朝、到伏見、水無瀨中將令同心、於藤森、山科内藏頭六條等出逢了、御城へ各令同心、出頭畢、今日大名衆、其外諸大夫衆、大樹へ年始之御禮被申云々、其次、御禮可申入内拜ニテ山科父子、六條、四條、予等烏帽子狩衣令着用、罷出之處、諸大名御禮申畢、後公家方禮可被請之由、内々被仰下、仍諸大名百余人御流、被頂戴、小袖一重充拜領、其間候便宜之處、令見物、諸大名禮畢、後各禮申入退出、晡時歸宅、及晩、全齋令同心、錯庵へ行、歸路梅龍軒へ立寄令打談、初夜之程、歸私宅畢、
六日、晴、竹田宰相來、論吾一篇講之、森慶安來、五明三本進之、次叡山、智藏坊來、毛詩御本、摺本、同註本 摺本小本 一册、借遣之、次官務來談、叡山題者宣旨爲談合之、宣案調之、遣畢、次龍安寺、眞珠院、因藏主來談、

七日、晴、參番、被召御前、和漢懷帋、被處々削改畢、次公羊傳疏被借下畢、
八日、微雨、於禁中、南禪寺語心院、冲長老、錦繡段談義被申上、午刻參內、午下刻談義相始、於黑戶有之、八條樣、大覺寺宮、曼殊宮御聽聞、鷲尾宰相、勸修寺宰相、庭田少將、山科少將、中院侍從、予等聽衆之、詩三十首被申之、花山院殿へ人足三人進之、
九日、微雨、陰晴、夜前冷泉、自尾州歸宅之由、被示之間、齋了、立越彼亭、仕合之躰有雜談、自野州、金子二枚、馬一疋、小袖二重、被送之、次山科少將亭へ向、有晚飡、興正寺出逢、次南部與福寺、松林院、始而令對顏畢、冷自禁中、土圭之十二支之書付被仰付、卽刻書付進之、
十日、陰、齋了、六條宰相、冷泉中將、四條少將、山科少將等令同心、向伏見城、晡時加藤肥後守御禮ニ被登城之、次御前へ罷出畢、歸路長岡越中守へ行、對面、暫有雜談、及薄暮歸宅、次今日、性院僧出京、法庵處ニ被寄宿云々、則立越、伏見之樣子令相談、夜半前歸宅、
十一日、晴、竹田宰相被來、論吾一篇讀之、次藤內來、秀賴へ可進用意、三界染禿筆、出來之間、表帋自懸之、及晚山科亭へ行、次官務亭へ行、今夜花山院少將殿、納婦之、本願寺隱居門跡息女之云々、冷泉山科令同心、見物ニ行、次自禁中、明日錦繡段談義有之、可令伺候之由、御觸之、今日性院、

大樹ヘ爲御見舞、伏見ヘ被越、人夫一人遣之、則被懸御目、仕合云〻、

十二日、晴、及晩小雨、巳刻參番、沖長老參內、錦繡段之談義被申上、未刻退出、及晩於紫宸殿有御鞠、八條宮、大覺寺宮、阿野少將、曼殊院宮、予等之、

十三日、朝間雨降、辰刻從番退出、伯樂藤內來、朝飯廳之、

十四日、晴、藤內來、馬之血針成之、次冷泉馬引來、同令養生、次大坂ヘ下向、秀賴樣ヘ爲御禮之、高尾性院木食令同心畢、先伏見遠州許ヘ行、伏見浦より令乘船、日入之時分、大坂ヘ下着、至平野已雲齋宅處、已雲今日上洛ニて、然て雖留守、令滯留畢、　長印ヘ足袋一足、同內義ヘ水引廿把、息男ニ銀扇一本遣之、

十五日、晴、巳刻御調、長印許ヘ行、數刻令打談、晩湌振舞畢、後、片桐市正宅ヘ行、有暫、片市正、依御城被歸、則令對顏、錫二對市正ヘ遣之、秀賴卿ヘ爲御禮、令下向之由、述之處、明日御禮可然之由、被示間、長印令同心歸宅、市正家中之人道和ト云入道ニ初而出音成畢、薄暮、已雲齋宅ヘ歸畢、

十六日、晴、朝食、片桐市正可被振舞由、被示之間、僧正令同心、向彼宅、於書院、片市相伴、有振舞、此間榜庵被來、則令雜談畢、巳刻、市正令同途、御城ヘ登、有暫、秀賴樣御對面、御手取熨斗鮑

給之、予秀頼様へ進物、御太刀一腰、三畧跡本一字不見點之、黃帋書之進之、則有御披見、御祝着之由之、次秀頼様御母堂様へ杉原一束、箔ノ帶二筋裁一筋上ニ置之進上、又秀頼様政所様へ（此時御姫様稱之）錫五對進之、午刻歸宅、次平野已雲齋嫡男五郎左衛門、加藤主計頭家中ニ居住之、今度被上畢、已雲齋宅ニテ出逢、舊時之事共令雜談、次主計頭舟新造之、事外之大船之由、聞及之間、五郎左衛門爲案內者、見物ニ行、船之長二十間、横五間餘歟、船中座敷三重、十六疊之間有之、御風呂等有之、驚目事、中々筆舌非盡者之、於船中有振舞、船中浦景、夕陽雲閑、最可愛時節之、及黃昏歸宅、次存庵、宗紹、予下向之由、聞及見舞ニ來、今日高尾僧正、秀頼様御禮被申之、

十七日、晴、片市正處へ昨日禮狀遣之、則有返札、長印へ同遣之、巳刻出立、令上洛之次、石淸水へ參詣、末社等造營、奇麗驚目畢、及暮天之間、平野遠州許へ立寄、伏見ニ一宿、僧正同一宿、

十八日、早朝、加藤主計頭殿へ禮ニ行、榜庵相尋、奏者ニ相頼者之、則對面、有振舞、巳刻歸、次山名禪高許へ行、令雜談、有晩飡、則禪高令同心、將軍へ參、暫有御雜談、白鳥之御振舞有之、及黃昏歸宅。則參家君、

十九日、晴、全齋へ行、次家君へ參、及夜、法身院、普賢院來、夜中、女房衆俄ニ煩之間、元丁召遣、卽

時本復、
廿日、晴、冲長老參內、錦繡段講談有之、予聽聞、及晚、御室御所御參內、年始爲御禮之、薄暮歸宅、次花山院へ參、次梅龍軒へ行、
廿一日、巳刻、御靈御旅所、勸進能、見物ニ行、大夫女房之、つれ同女房、女猿樂八九人有之、世人美人そろへと稱之、晚ニ冷泉亭へ行、數刻打談、
廿二日、晴、予三男千代丸、食初之、家君、全齋等御出、鷹朝飡、巳刻參番、則御前ニ被召、大工衆ニ御用共申付畢、未刻平野遠江守來、晚ニ近衛殿へ參、依召之、高尾衆被來、山下公事百僧衆理運□□申請云々、
廿三日、曉天より雨降、及夜陰、平遠劦歸宅、
廿四日、陰、及晚晴、紹元來、尙書讀書、五六ノ卷、從存庵來、春秋大全五策返遣之、次高野自性院より書狀到來、油烟貳挺被贈惠、及晚、風呂へ入、僧正來談、
廿五日、早朝、令行水、聖廟へ參、歸路雨降、次參家君、次紹元來、尙書讀書、及晚、法身院來、今朝妙法院齊之、其歸云々、終日雨甚、

廿六日、雨降、大坂今中勘右衛門方より書狀到來、令神扎取ニ來、法身院調之遣之、及晚家君ニ參、

廿七日、晴、參番、林又三郎來、菓子折被惠贈之間、郞女御殿令進上畢、女房衆、事外煩之、梅龍軒被與藥、今日午刻、菊亭侍從元服云〻、名字宣未子、申刻御禮ニ參內、巳刻沖長老參內、錦繡段三十首被講之、

廿八日、晴、午刻冷泉來談、及晚山科亭へ行、次家君へ參、明日南都御下向云〻

廿九日、早〻家君御出、南都御下向之、法身院同下向之、及晚冷泉亭へ行、　次今出川、　留守見舞ニ行、

卅日、冷泉亭月次會之、午前向彼亭、日沒歸宅、

五月小

一日、亥晴、巳刻、冷泉、六條、山科內藏頭等令同心、大樹へ御禮ニ行、日野大納言父子、烏丸大納言、飛鳥井宰相、勸修寺宰相、土御門左馬助、水無瀨中將、藤侍從等御禮之、各退出、予、六條、冷泉、山科、左馬助、日野等居殘、香若舞令聽聞、及晚歸宅、入道御盃參、

二日、晴、梅龍軒、來談云、昨日、競馬有喧嘩、本願寺青侍兩人、當座及殺害、一人蒙疵云〻、相手未顯其名云〻、當番令中院侍從相博、宿番參、

三日、晴、癸丑飯後、聖廟參詣、歸路冷泉亭へ行、

四日、晴、早朝、聖廟へ參詣、午刻梅龍軒來談、次紹元來、次全齋來談、及晩、母堂へ見舞ニ行、予馬人々依所望進之、銀子五枚之、

五日、早朝、聖廟へ參、午刻雨降、依蒙氣、諸方へ不出頭、

六日、晴、早朝、聖廟へ參詣、依蒙氣、午睡閑〻、可得宰我責者之、

七日、晴、早朝、聖廟へ參詣、巳刻、參番、終日候御前、山科內藏頭、馬鞍、鞦、腹帶、泥障等返遣畢、

八日、陰、從番退出、及聖廟參詣、於神前、松梅院出逢畢、巳刻雨降、

九日、朝雨降、飯後、今出川家君へ參、此中、高野參詣、夜前御歸之、及晩、風呂へ入、冷泉へ行、

十日、庚申、四時、從召參內、今日庚申御遊、晝より被催云〻、終夜、盤上御遊共有之、晨鐘之比、鬮取有之、予さらし一端取之、日出已前、退出、

十一日、晴、家君、此中、御旅遊之間、爲御慰、進晩湌、竹田梅龍軒、同宰相、全齋等請之、薄暮御

歸、入夜參番、秀直代、

十二日、晴、參番、錦繍段講尺之、沖長老祗候之、聽衆、八條宮、聖護院宮、山科中納言、同內藏頭、鷲尾宰相、伯二位、水無瀨中將、庭田少將、阿野少將、予等之、未刻、大雨降、

十三日、晴、從小川坊城、來十六日より御修法之由、有觸、其狀、

從來十六日、被行御修法候、脂燭可有御參之由、被仰出候、宿紙拂底之間、先內々可得御意候也、

五月十三日　俊昌

十六日

左衛門佐殿　飛鳥井少將殿　藤侍從殿　高倉殿　源藏人殿

十七日

源少將殿　滋野井殿　極﨟殿

十八日

五條殿　持明院少將殿　新藏　殿

十九日
左馬頭殿　四辻少將殿　西洞院少將殿　內藏頭殿　源藏人殿
廿日
冷泉殿　難波殿　新藏人殿
廿一日
四條殿　阿野殿　左馬助殿　園少將殿　極﨟殿

十四日、晴、出納方ヘ淸涼殿、御帳可直之由、申遣畢、相心得之由返答之、次家君ヘ參、次竹內門跡ヘ參、五妃曲令点進之、次也足軒ヘ行、次源藏人ヘ行、次竹田宰相來談、入夜、甲子待ニ參內、御人數、兼勝卿、雅朝卿、光豐卿、隆尙朝臣、氏成朝臣、之仲朝臣、實有朝臣、季繼朝臣、俊昌、通村、豐長、予等之、□□見物御鬮取有之、予帶一筋、水引十把取之、鷄鳴後退出、戌刻雨降、
十五日、陰、明日より梶井宮被修不動法、仍、淸涼殿御帳取置之、役者等相具、出納早々參由、及案內間、卽令衣冠參內、御聽聞所等、見計。未刻退出、次聖廟ヘ參詣、路次之間、雨降、及晚又雨

降、

十六日、陰雨、齋了、親王御方へ參、今日御祈禱有之、內々依有召之、晡時退出、自今夜、於清涼殿、梶井宮寂胤法親王、令執行不動法、入夜參內、御撫物取渡之、

十七日、卯刻、微雨沃、齋了、祇薗清水寺へ參詣、次關山正法寺へ行、次智恩院新造之堂宇、見物ニ行、漸渡桁者之、於清水寺、冷泉、四條出逢、歸路令同心、於四條道場之前表具屋ニ、鎮宅靈符之本尊、令感得畢、今日當番、書許永慶ニ令相博畢、

十八日、雨降、朝食ニ竹田御門跡へ參、也足軒、同侍從、鷲尾宰相出逢畢、齋了、台嶺正覺院被參、圓頓者已界及佛界衆生界之處ヲナ被談之、令聽聞、未刻歸、從松浦、肥前入道法印被來候由、全齋より被示之間、卽全齋へ行、有晩飡、入夜閑話、及亂酒、亥刻各歸宅、雨天之間、輿儓召寄、家君奉乘、予步行歸蓬蓽、

十九日、雨降、寶壽院へ竹子取ニ遣之、及晩家君ニ參、午時竹門主へ參、圓頓者談義爲聽聞之、

廿日、晴、松浦法印來談、朝飡薦之、午時うとん薦之、晩飡、家君ニ御用意之、及晩家君へ法印被向、予同參、松浦法印爲相伴、好庵召寄、唐墨二挺給之、彼好庵へ?牧庵昨??彼老友之醫師之弟子之、於全齋始令面謁畢、

廿一日、晴、齋了、竹門主へ參、正覺院令伺候、圓頓者被談、爲聽聞之、午刻談畢、一軸今日終、次中院入道、伯二位令同心、勸修寺宰相亭へ向、數刻相談之處、那須大良被來、有盃抄晩飡、亭主相伴、後歸宅、午刻、松浦法印より太刀、馬代被贈云々、予留守之間、使者歸畢、入夜參內、御修法、今曉結願之、仍脂燭ニ參衆、隆昌朝臣、基任、基久、嗣良、予等之、兼勝卿、番代令宿直畢、高尾法身院、蜜藏院玄存等一宿、朝飡薦之、

廿二日、晴、御修法結願之間、御撫物奉返上者之、其義於殿上請取、衛士ニ相渡、臺盤所之前階より衛士捧之、則請取、臺盤所妻戸相開、少褰御簾、指入者之、勾當內侍、被請取之、女中御撫物之運、遣戸より返上之者之、次清涼殿、御帳臺立之、出納下知之、御藏等參役之、次沖長老參內、錦繡段有講尺、山科父子、中院入道、伯二位、鷲尾庭田少將、阿野少將、予等聽聞、講畢後、及第之事共有御尋、予一人候御前者之、余右退出、當番晝夜相詰畢、今日高尾普賢院ヘ鎭宅本尊借用ニ遣、則到來令祝着之、

廿三日、晴、爲通村、番代參內、酉刻退出、次入風呂、巳刻平野五郎左衛門來談、

廿四日、晴、巳刻、高尾ヘ登山、

廿五日、晴、高尾普賢院へ朝食ニ行、早朝下籠、休間、中川九左衛門方へ遣之、歸路心蓮院へ行、和玉篇、一字板、令見物畢、次聖廟へ參、次家君へ參、

廿六日、晴、松浦式部卿、法師宗靜へ三略、令點加、奧書遣之、竹田宰相被來、論吾季氏篇講之、次紹元來、

廿七日、晴、無朝湌、參番、請取番之故之、此間、主上御腫物氣之、昨今、彌令腫痛之、仍道三內藥進上之、

廿八日、戊辰刻、從番退出、齋了、鞍馬毘沙門參詣、未下刻歸蓬蓽、路次中、陰々、涼氣滿袂、無炎蒸、及晩、長橋局へ參、主上御腫物如何、御見舞之由、申入畢、次已實齋より書狀到來、次大坂御城、大藏卿之爲、兩女房衆より上臈へ書狀到來、來三日、九條殿へ御祝言、御酌ニ可令雇給由、告來者之、

廿九日、雨降、午前全齋へ行、今日、松浦式部卿法印、全齋へ請待、仍予爲相伴之、入夜、法印歸宅、甚雨之故、予全齋ニ一宿、明朝、早々歸蓬蓽、

六月大

一日、庚辰、雨降、松浦法印より高麗茶碗一ッ唐墨十挺、伽羅香少許被贈惠、御弁より傳達之、及晩、主上御腫物爲御見舞、長橋御局へ參、膿血少出、御痛疼令息止給之、次九條殿へ見舞ニ參、來三日、殿中納言殿へ岐阜之小吉息女御嫁娶云々、仍、事外有取紛之、次掃部頭之亭へ行、有盃抄、幡广御局出逢、數刻有御物語、次花山院少將殿へ行、及對顏、有盃酌、

二日、雨降、掃部頭へ鎭宅本尊借遣、到來之間、予也所持本尊令挍處、相違共有之間、直者之、參番、主上御腫物、紫野元首座御藥進上之、於常御所、障子こしに御藥をつけ申畢、

三日、晴又陰、彼是女房客人有之、今夜九條殿、殿中納言、御納婦迎之、其身三好小吉息女之、小吉死後、秀頼卿母堂爲猶子養育之、今度秀頼卿母堂、悉皆御造作之、路次行粧擔物等驚目者之、

四日、晴、冷泉爲滿來談、竹田宰相來、陽貨講之、及晩、主上御腫物見舞參內、大半御驗氣之、

五日、晴、愚息男滿丸、五歲、着袴初、於家君亭、被催之、早朝、向今出川亭了、次冷泉亭へ行、次山科亭へ行、及晩、高尾木食性院御出京、愚宅令來談給、次御千代丸、領下灸治、

六日、晴、御松丸髮置之、次寶壽院來、竹子給之、次清凉寺池坊來、予行水之間、不及對面、次法身院來、

七日、晴、祇園會、家君、母堂、全齋、同御弁、性院、同法身院等令出給、鷹朝飡、齋了、九條殿御祝言御禮申ニ參、關白樣へ御樽一荷、三種、くま引五、昆布三束、するめ十れん、殿中納言殿へ三荷三種、昆布五束、くま引十枚、するめ十れん、同御簾中へ三荷三種、昆布五束、鯛廿枚、するめ十れん進之、朝山宮內少輔目錄斗披露之、御對面、御盃頂戴、有暫退出、新衞門御樽ニ付而遣之處、中納言殿より帷壹ッ被遣之、御簾中より帷二ッ被遣之、新衞門令滿足者之、今日雖當番、鷲尾令相博畢、

八日、晴、家君九條殿へ御參、先於愚宅令支度給、御方御所御對面云々、次參番、鷲尾宰相番代之、次平野五郎左衛門方より書狀到來、返書并性院より齊書三冊遣之、半井之骨髓云々、入夜、家君へ參、次德庵へ行、僧正數刻打談、

九日、晴、女房衆、秀賴公御母堂、御乳母大藏卿、隣單?ニ此中、逗留之間、見舞ニ行、十帖一包遣之、午刻大藏卿より返禮、十帖一卷到來、入夜、九條殿若御上樣へ女房衆參、三荷三種進之、法身院一宿、

十日、晴、花山院大納言殿へ振舞ニ行、巳刻、大樹、自伏見、到二條城御上、及晩二條城ニ參、今日爲御草臥、無御對面、

十一日、晴、午刻、水無瀨中將、烏丸頭辨令同心、大樹へ參、則懸御目、次高尾、性院僧正、大樹へ御禮被申候、予中入畢、歸路頭辨へ立寄、入夜歸宅、今朝九條殿、殿中納言殿より唐嶋帶衣一、帷子二ツ給之、先日御返禮之、御使服部忠兵衞令對面、侑一盞、

十二日、晴、齋了、參番、未刻退出、後水無瀨中將爲同心、二條城へ參、無御對面、次九條殿昨日御禮ニ參、御對面、有御盃事、入夜參番、午刻、平遠江守來、

十三日、飯後、大樹へ參、令水無瀨中將、頭辨令同心畢、花山院御父子、是又令同心、未刻退出、雀亂氣之間、雖未晩、入寢處、

十四日、晴、明後日、大樹御參內云々、仍內裏御取置ニ可參之由、勾當局より被觸之、然共腹中散々之故、不參內、巳刻竹田宰相召遣、藥服之、

十五日、腹中未平復、平野大炊殿來臨、鵝目三十疋給之、年始之故、

十六日、早天雨降、今日大樹御參內云々、從雨延引、午前より晴天、次竹田宰相來、從女院、嘉定饅

頭給之、及晩母堂令來給、
十七日、晴、雖當番、從腹中煩、不參、長橋御局迄、御理申入畢、次築紫相樂內衆歸宅、干飯五袋給之、
十八日、晴、晡時小雨沃、飛鳥井より郡村之義ニ有使者、千勝寺村より井手之事被懇望云〻、於予、難同心由申之、
十九日、晴、平大炊入道より新八預置金屛風取ニ來間、一双相渡者之、此內隻失却、巳刻、大炊入道薦蒭飡畢、
廿日、晴、竹田宰相、予世煩見舞ニ被來、午刻至齋來談、晩飡薦之、入夜冷泉來談、
廿一日、晴、午刻、雨沃、
廿二日、晴、大樹御參內云〻、予也雖當番、依爲病中不參、巳刻、明朝、醫師、一貫來、萬應膏三貝給之、數刻打談、卽席述詩云、尊顏未會聽名清、文學才能冠賈生、一刻交談胸芥掃、芳情却勝故人情、林和拜、
廿三日、晴、德庵來、

廿四日、紹元來、香需散、一包給之、
廿五日、晴、微明豊廟へ參、次殿中御猿樂見物ニ參、大夫觀世、矢立賀茂、八嶋、二人靜、舟弁慶、生贊、三輪、是界、返魂香、山姥、養老、二人靜之後、大夫ニ百貫一重被下之、其外、座者、悉單給給之、公家衆、烏丸父子、飛鳥井父子、藤宰相、廣橋弁、花山院大納言、德大寺、日野宰相、堀川侍從、予等之、予、二人靜、舟弁慶之間、大樹御そばニ伺候、又返魂香、山姥、養（老脫カ）之間、御前ニ伺候畢、惣別、公家衆之座敷、大樹之御座之間、以屛風被立切、御自由御見物之故之、一乘院門跡、同公家衆、座敷ニテ御見物之、池內三左衛門、毛利宰相、對馬屋形、加藤主計頭等同座有之、及晩、殿中納言殿へ參、次家君へ參、
廿六日、禁中、御書籍虫拂之、辰刻參內、入夜退出、夕立、
廿七日、晴、禁中御虫拂之、今日、大樹相國寺之、兌長老、幷圓光寺へ御成、禁中御書籍之內、海上仙方有之由、先日令語申處、御一覽有度由、被仰之間、今日主上へ申入處、則可令持參被仰出間、則兌長老之室へ相向、卽大樹懸御目畢、御一覽之後、卽可致返上之由、大樹被仰之間、則令持參內、當番之、

廿八日、晴、禁中之虫拂之、從早々參內、今日、御書籍共、悉取置、入御書藏畢、其次、子平三命通變一冊全勅本申出畢、入夜退出、性院御出京、
廿九日、德庵來談、高尾衆來、明一夜、及晩揚明へ參、
卅日、晴、高尾衆へ朝食薦之、依令心痛、名越秡不參內、及晩高尾衆歸山、

七月小

一日、庚戌、晴、寶壽院來談、次家君御出、治部卿普賢院等來談、治部卿、勸修寺黃門へ行、予也添書狀畢、次庭田少將來談、一盃、不參、
二日、雖當番、從所勞、白川侍從殿、令相博畢、早朝、宗春、寶壽院方へ遣、寶壽爲媒介、銀子七百匁借用畢、次德庵來談、祐乘坊高尾出入之事、令相談未濟云々、次冷泉來談、次高尾へ行、衛門遣、即性院御出京、於寶壽、さけ槌竹壹本、令所望、
三日、晴、高尾普賢院來談、同大智院中將來、次烏丸頭蘭來談、今日、冷泉亭月次會之、予也用所有之故不出、雖然、短冊被持送之間、令詠之遣畢、夕立、入夜敬俊來、

四日、晴、左久間九衛門女中天朔誕生女子云〻、日取共書付遣之、從女房衆、爲祝義、双樽兩種遣之、次ニ淵伯耆守へ伯耆守并叙爵之口宣持遣之、卽有返札、次平野五郎左衛門へ書狀遣之、有返札、次德庵來談、次性院僧正歸山、

五日、晴、花山院へ晩飡ニ行、德庵來談、入夜德庵へ行、心蓮院、普賢院等出逢、數刻打談、

六日、晴、德庵、心蓮院來義、祐法、高尾出入之事、德庵、心蓮院爲拵相濟者之、高尾手前予也請乞畢、高尾存分不相濟樣子、于今不始なから、予以腹立、此事之、未刻、夕立如車軸、入夜晴、性院此中所持之硯、心蓮院へ被遣之間、予又心蓮院へ令所望處、則被恩惠畢、予祝着、則從此方硯兩面遣之、次眞西休間來、鷹晩食、令歸畢、

七日、晴、拂曉令行水、靈符祭之、次從冷泉、大樹へ可參哉、被相催、予也人足不合期、不同心、次從也足軒書狀到來、禮書借用之間、被勅物全本、十冊、入箱遣之、

家君、今日、禮ニ參、次楊明へ參、扇哥申入處、則被遊被下、忝次第之、次西洞院令同道、聖護院宮へ參、次竹內門跡へ參、次殿中納言殿へ參、次鷹司殿參、次二條殿へ參、何も御對面、有盃扚、及晩、親王御方へ參、巽躰之故、御乳母人へ申入退出、次女御殿へ參、是又左衛門督局へ申入候也、次女院御

所ヘ参、少納言局ヘ申入退出、次從大外記錫給之、次從久我大納言殿帷子壹ッ被惠之、竹田宰相禮ニ被來、今日雖當番、晝間菊亭侍從殿、相博、入夜、御盃ニ参、則宿番、

八日、晴、一條殿、八條殿、聖護院宮、大覺寺宮、御参內有之、鞠自未明、被始之、主上、同被遊、飛鳥井宰相、同侍從、難波侍從、阿野少將、四辻少將等御人數之、今度、御黑戶東、御文庫南、被搆御懸敷、板敷、鞠垣、悉連綱之、此比、主上切々御鞠被遊之故、被搆之、日沒之比、各退出、今日、御鞠爲見物衆、廣橋大納言、中院入道、伯二位、鷲尾宰相、勸修寺新中納言、被参、甘呂寺、予、祭主兩三人爲御配膳参、從九條殿關白樣、青門五十被贈下、又從二條、青門七十被贈下、例年如此、

九日、晴、祐乘與高尾百姓之申分有之、此中、德庵相拵濟寄之間爲其究、高尾ヘ登山、從後、德庵是又登山、高尾衆、存分雖有之、公事繁多之間、兎角公儀ニテ沙汰如何之間、十ノ物、七八モ拵ニ被免、可被濟之由、達而申間、同心漸之、予今夜御目出度事ニ参內間、急速ニ雖可令歸宅□彼是隙入、日沒以後歸宅、則参內、宮門跡御不参、廣橋大納言、万里小路大納言、持明院中納言、中院入道前中納言、勸修寺新中納言、伯二位、藤宰相、鷲尾宰相、四辻少將、廣橋右中辨、坊城左少辨俊昌、山科內藏頭言緖、松木侍從宗信、藤侍從永慶、万里小路侍從兼房、中御門右衛門佐宣衡、廣橋侍從兼

賢、高倉侍從嗣良、滋野井侍從冬隆、白川侍從顯成、甘呂寺右兵衛佐豐長、予、祭主、新藏人等之、

夜半前、退出、

十日、晴、早朝、德庵令同心、祐乘坊へ行、今度一義爲擠、同心禮之囗之、次全齋へ行、今日、全齋女房衆、家君へ生見玉之、仍、竹田法眼、同宰相出逢、終日樂上遊興、消永日畢、入夜、也足軒へ行、他行之、

十一日、晴、青門廿穴、深雲齋へ遣之、次青門十五、冷泉中將へ贈之、次青門卅、南禪寺語心院贈之、巳刻、白川亭へ向、也足軒出逢、武王殷紂征伐之處、謠ニ被作、予ニ談合之間、少存寄令申畢、午刻、家君へ母堂御出、今日、生見玉爲祝義也、竹田梅龍、同女房衆、同宰相、全齋、同女房衆、德庵、同母等來、祝義重疊之、入夜、庚申ニ參內、酉刻、有御鞠云々、飛鳥井父子、難波侍從等、則庚申ニ被召加、惣而御人數、八條宮、妙法院宮、阿野少將、小川坊城、猪熊少將、水無瀨中將、白川侍從、左衛門佐、予等之、曉天有鬮取、予鬮札認之、予太刀ト圓座拜領、無之衆、一兩人有之、乍次、爲乘勝卿代參、宿番、

十二日、晴、早天令退出、實壽院御庿へ參、予退出遲々之間、家君拂曉御出云々、巳刻、家君令御供

歸蓬華、今日當番令相博、大工源左衛門方へ銀子渡之、宿番ニ參、

十三日、齋了、（廣橋）右中辨亭ニ向、次冷泉亭へ行、伏見ニ行、先德川下野守衆へ行、銀扇五本進之、次武將へ參、無御對面、申刻歸蓬華、

十四日、晴、早天、從冷泉、灯籠持給、內々於七條、誂之物之、次坊城基(?)中納言有使者、鷄冠井村用水之事、西土川卜申分有之處、相濟間、板倉伊賀守へ各連署ニテ爲禮、可遣使者云々、令同心畢、午前、紹元來、瓜廿惠之、性理字義持來、則令借用一覽之、紹元三國志、華他傳令借與、次灯籠、內へ進上畢、午刻、參番、御灯籠被見之、

勸修寺新中納言許より法身院孝海僧正、贈大僧正勅許之由、被告知、則口宣被持下、奉行弁、廣橋右中辨總光、上卿、持明院中納言之、

十五日、晴、早々退出、齋了、參內、御灯被出、清京殿西北緣へ被見之、入夜、灯籠共、常御所へ入、又灯之、申刻御前へ被召、藻塩草被返下、又きれ〳〵の草子共、可撰取之由、被仰之間、三寶抄出記一冊、聯句集一冊、朗詠註一冊、達磨太師安心法門等、令拜領畢、今夜、甲子待ニ郎伺候、御人數、聖護院宮、曼殊院宮、廣橋大納言、中院入道中納言、勸修寺新中納言、四辻少將、鷲尾宰相、正親

町三條實有、小川坊城、甘呂寺左衛門佐、阿野少將、予等之、鷄鳴之後、退出、

十六日、晴、從內、御灯籠拜領、藥屋藥種共取遣、次家君ヘ參、次陽明ヘ參、女三宮樣、御屋敷御殿作事、揚明令御供見物畢、入夜、山科冷泉令同心、万灯籠見物ニ東河原出畢、歸路山科亭ヘ立寄閑素、及鷄鳴歸蓬蓽、

十七日、晴、腹中氣之、仍空腹清水寺ヘ參詣、午前歸宅、次全齋ヘ調中散取ニ遣之、數度瀉閒、雖當番、白川侍從ヘ令相博畢、

十八日、晴、今朝、腹中大方相とまり畢、及晩、全齋爲見舞來談、御靈御祭禮有之云々不見物、

十九日、晴、紹元來、三國志、華他傳返之、卽收之畢、及晩冷泉亭ヘ行、冷泉より先刻來廿八日月次會之由、被觸、題、夜深聞荻、入夜、乘涼、全齋ヘ行、月出之後、歸蓬蓽、

廿日、晴、華撥丸調合、次紹元來、官務ヘ年代記借遣之、

廿一日、晴、竹田宰相來、堯曰篇講之、論吾一部終功者之、來廿五日、可有北野御法樂和歌御當座、各可令參給之旨、被仰下候也、七月廿一日、

廣橋大納言殿　入道前侍從中納言殿（光豐）　伯二位殿　平宰相殿　飛鳥井宰相殿　三條宰相中將殿

鷲尾宰相殿　頭辨殿　阿野少將殿　四辻少將殿　左衛門佐殿　職人辨殿　飛鳥井少將殿　平小納言殿　猪熊少將殿　藏人式部丞殿

有御觸折帋、自長橋之局被觸之間、加奉了、

次自殿中納言樣、爲服部忠兵衛御使、明日御在所之近所、川狩ニ可有御成、可參乎之由、被仰下候、予也、明日當番致相博、可參之由、御返事申入畢、次全齋得効方借寄、令一覽、即時返献畢、次西洞院より有使者、今晚、中院入道、伯二位來談之、予也可來云々、雖然、折節、客來之條不行、高倉嗣良より相博之間、宿番ニ參內、今夜大　震可催來之由風說、洛中洛外専なる間、京中町人不寢云々、內裏ニモ乍風說被驚、鷄鳴時分より上格子之、少も不地震、一犬吠虛、万犬吠ト可謂者之、

廿二日、晴、町人來云、夜前丑刁刻可地震由、雜說故、世間騷動以外之云々、次自庭田殿、雲雀十被惠、予也腹中氣之砌、令祝着畢、次冷泉へ使者遣之、訪夜前雜說畢、當番參內、終日候御前、平野五郎左衛門より書狀到來、今夜山科內藏頭へ有嫁娶、新庄越前女子云々、

廿三日、晴、性院、喜多坊御出、今晚龜屋榮任、躍興行、下立賣衆、五十許、不殘相催云々、予他適之間、不見物、美麗盡金銀云々、午刻より紹元處へ振舞ニ行、終日打談、圍碁、入夜予賦一絕云、打談且

歇手談攻、相對不知炎日終、竹隱得閑無世慮、解君是慕晉賢風、紹元和答予又和答云　又重屬洒盃
留長袖、主人情厚興難終、此筵不厭到深曉、歸計應期月下風、又、紹元有詩作、予和之云、
君詩練漉又硏精、同友社中名獨清、和答醉眠都不作、愧殊李白數盃傾、月出後、歸蓬蓽、右中辨よ
り明日、於般舟三昧院、有御經供養、布施取可令參勤云々、此中、腹中相煩得驗、雖致參番、長座如
何之間、相理之處、次ヘ可相觸云々、　仍予不參、午刻、右中辨來談云、祭主、神職之間、寺院之役義、
不可相勤之由、申之云々、予云、先年御懺法講之時、吉田左兵佐以下神職之衆、布施取ニ不可參勤
之所存雖有之、以道理勅定之間、各參勤之、然上ニ何寺院之役不勤之乎、右中辨同心之、仍明日祭
主向般舟院云々、

廿四日、晴、於般舟院、御經供養有之云々、導師

及晩、性院令來給、卽一宿、

廿五日、晴、拂曉聖廟ヘ參、歸路、冷泉亭ヘ向畢、次東寺寶嚴院來談、　次爲俊昌代參番、及晩、退出、
未刻淸凉殿東庭、被堀新井、予也事付畢、及黃昏、夕立、性院一宿、

廿六日、晴、性院滞留、喜多坊、休間等、豊光寺へ被行、及晩雨降、此中、炎日打續、上京中、渇水、以外也、予也、後庭井水盡之間、新又令堀畢之、德庵來談、家君并全齋來談、

廿七日、晴、所用有之之間、雖當番、俊昌相博、不參内、及晩大雨降、幾度降、性院一宿、今夜女三宮へ鷹司中將殿嫁祝云々、

廿八日、陰、冷泉亭、月次和哥會之、兼日題、夜深聞荻、會席令清書、巳刻、向彼亭畢、當座二首、探得冬朝、旅宿雨題、入夜歸宅、晡時雨降、

廿九日、晴、新井堀終、才藏爲代官、鞍馬寺へ令參詣、未刻歸、灑進之、此中、渇水故、從廣橋大納言二本松之井水被汲處、今日町人出逢、下部共打擲云々、伺後事見廻行、彌以理不盡之沙汰云々、歸路向庭田少將亭、門内立談畢、治部卿來一宿、内々番欠改云々、阿野被召加内々云々、

八月大

朔、己卯、陰、早朝、金覆輪太刀進上内、即被返下、次親王御方同進之、次近衛殿、絲巻太刀進之、

今日伏見大樹へ可參之由、冷泉令約諾、然共人足依有相違事、不參、錯庵よりちいさ刀到來、昨日

令借用故之、午刻、官務來談、次九條殿參、次一條殿參、次揚明へ參、次家君へ參、次聖護院宮へ參、次大聖寺殿へ參、次曼殊院宮へ參、次二條殿へ參、方々事外令沉醉、御盃不參、去月、廿七日、女三宮、鷹司中將殿御嫁取故有祝義云々、仍、各御樽進上、予也、今日進之、御肴三色（昆布三束 鯛十 鯣十連）御樽二荷、女三宮へ進之、同肴三色、御樽二荷、鷹司中將殿へ進之、女三宮樣より使靑侍ニ帷壹つ被下之、

二日、晴、（庚辰）齋了、女三宮へ參、昨日雖進御樽、依令沉醉不參、仍今日、着烏帽子狩衣、鷹司殿御兩殿へ參、則鷹司中將殿、御對面、巳刻參番、勸修寺宰相依被任中納言、番但改易、番頭、万里小路大納言、藤宰相、四辻少將、中院侍從、予等之、晡時、御前ニ被召、御手つから杉原一束、銀子一枚、被拜領、勅定忝次第之、四辻少將、同拜領之、兩人斗之、

三日、小雨降、巳刻以後、大雨甚、治部卿來一宿、

四日、雨降、女三宮樣より御肴三色、干鯛十枚、鯣十連、昆布三束、御樽三荷拜領、次水無瀨中將來談、次全齋へ行、晩飡有之、打碁、存盤、次花山亞相より書狀到來、次治部卿來談、一宿、

五日、雨降、子平大全、終書寫功、令表帋、治部卿一宿、庭田少將へ日本紀神代一卷、借遣之、

六日、陰、早朝、梅龍へ行、今朝家君、全齋等被申入、仍予同行畢、晡時歸蓬蓽、午刻甚雨、次嵯峨

寶壽院より栗木堅柱廿本、竹廿本到來、西洞院少納言へ桃實一鉢遣之、右中辨俊昌之許より有使者云、予也從五位之事今日勅許云々、予留守之間、使者歸、

七日、晴、早朝、向右中辨亭、昨使之旨尋之處、　勅許云々、滿足此事之、則參(衍カ)勾當之御局へ參、忝由申入畢、次近衞殿參、勅許之由、申入畢、是又自拙子、御滿足之由、被仰、忝次第之、先度、東坡表紙修補之事、被仰之由、令細工、則持參申畢、次參番、則參御前、有御鞠、飛鳥井父子、難波阿野等被召之、午刻、八條宮御參之、及晩、俊昌許より、口宣送給、今月一日、叙從五位下書付之、

八日、晴、齋了、向俊昌亭、少納言之事申入、即小折帋遣之、同侍從小折帋進之、明日可被披露契約之、次梅龍軒へ行、數刻打談、入夜冷泉亭へ行、夜半前歸蓬蓽、亥刻大雨、

九日、陰、竹內來談、來十三日、於豐國社、可御神樂由、被相觸、如何可下知哉由、及談合之間、出納方へ可被下知由、令指南、一通之案書、與之畢、宮務より鍚肴被惠之、次竹內母義、始而來義、雨肴双樽、被惠之、入夜、水無瀨中將來談、

十日、陰、大工來、卯刻至巳刻、雨沃、次從近衞殿被召下、則令伺候、予任官之事、何之官可然哉之由、被仰之間、四府佐、式部、少輔之內、可然乎之由、申入退出、次築地破損之處、御先作壁畢、次

珠三來談、次阿野少將、廣橋辨來談、廣橋辨、今月一日被任頭辨云〻、阿野從四位被叙云〻、入夜參番、重定朝臣代之、

十一日、陰、竹內へ行、次掃部頭へ行、入夜參番、廣橋頭辨代之、紫宸殿取置、屛風立之、

十二日、晴、參番、有御鞠、大工來、

十三日、雨降、大工來、烏丸頭辨來談、次小川坊へ式部少輔之小折帋遣之、及晚　勅許之由被告知、口宣未到來、入夜參番、基孝代之、

十四日、陰晴、今日、豊國社祭禮、馬二百疋相渡云〻、小川坊城より式部少輔之口宣到來、令珍重者之、今月一日、拜任之分之、

十五日、晴、今日爲豊國祭禮、上下京、地下人催風流、上京より三百人、下京より二百人、都合五百人、一樣ニ持作花、縚生帷、美麗驚目者之、禁中へ懸御目、於紫宸殿、被御覽之、終日候內、日沒後退出、入夜家君へ參、今日之樣子、令申候、次予今度口宣等、懸御目畢、次冷泉亭へ行、東川原出、月見也、內藏頭双瓶令携、令沉醉、夜半後歸蓬華、今夜、月一天無雲、淸朗之、遊興勝多年者之、伏陽より、上郎婦令歸給、

十六日、晴、巳刻、紫宸殿取置ニ參、今夜於豐國社、有御神樂、鷲尾宰相、四辻少將、持明院少將、園少將等之、外地下歌方有之云々、

十七日、晴、雖當番、白川侍從ヘ令相傳、宿予參、

十八日、晴、御靈會、平野大炊入道來、薦晩飡、卽氷室被登山、黑木釜湯治云々、

十九日、晴、豐國社ヘ伶人見物ニ行、先智積院ヘ行、鵝目二十疋遣之、次社預二位ヘ行、數刻令打談、次左兵衛佐處ヘ行、是又數刻、令打談、及晩歸蓬蓽、

廿日、有法來、沙糖三桶惠之、次廣橋辨ヘ行、明日頭辨被拜賀、爲習禮之、次竹內極﨟來談、是又明日申次之爲習禮之、

廿一日、廣弘蘭ヘ兩種一荷遣之、爲祝義、及晩、令裝束、向廣橋亭、座中衆、烏丸大納言、同頭辨、日野大納言、同侍從、勸修寺中納言、鷲尾藤侍從、松木少將、竹屋竹丸、廣橋大納言、亭主、予、竹內極﨟等之、三獻之後、出門、卽參內、拜舞、殿上吉書之作法等、令見物畢、於御□被召、御盃頂戴退出、予亦藤侍從令同心、令退出之、

廿二日、自廣橋頭辨、爲祝義、兩種一荷、被贈之、次自女三宮、三荷三種、拜領、先日御移徙之御返

之、參番、番組依有紛、番頭使者遣之處、予今日之番、不可相勤之由、返答之、仍欲令退出之處、被召御前、今日番組、相紛之旨、御尋之間、予也方へ無御觸由申之、即番組不念入之由、被仰出、如元、可爲番組、勅裁之、仍、如元、依番頭、有番觸、參宿、携双瓶佳肴、相番衆へ酌之、

廿三日、晴、伏見へ行、大樹懸御目、池田三左衛門、福嶋左衛門大夫、森右近等、有御前、放鷹するあくる事、可爲禁制由、被仰出、此中、放鷹するあけ令沽却由依有其聞之、其主ハするあくる事勿論之、かくし置輩、固御禁制之、入夜歸宅、

廿四日、山科へ諸家傳、返遣之、次平野大炊、氷室ニ滯留之間、見舞ニ行、双瓶佳肴携之、埴原光龜衛門是又登山之、於御宿所、有晩飡、入夜歸蓬蓽、家君、此中、氷室ニ御住山之間、一重双瓶進之、

廿五日、拂曉、聖廟へ參、次太子觀音へ參詣畢、大工來、

廿六日、晴、午前冷泉亭へ行、月次會之、當座二首詠之、入夜歸蓬蓽、

廿七日、晴、齋了、參番、今日鷹司三位中將殿、御參內、去月、女三宮御嫁娶之後始之、仍御進物等有之、純子十卷、太刀、馬等之、女院、女御殿、其外女中等有引出物云々、予內々今日、可致伺候之由、有御觸、各被參衆、廣橋父子、勸修寺新中納言、伯二位、鷲尾、四辻少將、阿野少將、正親町三

條、猪熊少將、予等之、勾當局、從車寄令參內給、右之衆、各唐門之內ニ相待、御供申、車寄より御昇殿之、太刀、馬、廣橋大納言披露之、御前御相伴、女御殿、女三宮、鷹司殿之、二獻之後、御退出、次御院參、有二獻云々、次於女御殿、獻上有之、其後晚飡參云々、及黄昏、親王御方ヘ御參、御進物、杉原五束、太刀、馬、純子（二卷）等之、杉原純子之類、予、秀直、兩人御前ヘ持參、禁中ニテモ予、秀直持參之、二獻之後、近衛殿政所ヘ御成之、亥刻許、御歸宅之、予亦令退出、服晚飡、參番、

廿八日、晴、午前、雨降、紹元來、左傳、隱二三四五年之分、文字讀授之畢、次萱堂ヘ行、有漸、女房衆同行、及黄昏向冷泉爲滿朝臣亭、双瓶携之、自今夜、詠歌大概講談被始之、予發起之序分被講之、予刻前、歸蓬蓽、

廿九日、大工來、晴、

卅日、今日、七條本願寺參內、仍、予也參內、本願寺、先勸修寺中納言亭ヘ被向、路次行粧、百人余、驚目畢、禁中ヘ進上、太刀、馬、綿百抱（代銀子廿枚）、女院御所ヘ綿百抱、銀子十枚、親王御方、太刀、馬、代銀子十枚、杉原五束之、於禁中作法、淸凉殿於西間、御對面之、則入御、次院參、有一獻、次親王御方ヘ被參、則退出、禁中幷親王御方兩御所、無一獻、申刻各退出、源少將、爲代參宿番、

閏八月小

朔、己酉晴、爲今日御禮、鷹司殿御方御所參、數刻指將碁畢、次九條殿へ參、數刻令蹴鞠畢、從是已前、家君へ參、從氷室、未御歸之間、卽時立歸畢、入夜參御盃、勸修寺中納言、鷲尾宰相、源少將、正親町三條、阿野少將、秀直朝臣、總光朝臣、言緒、宗信、基久、嗣良、兼賢、顯成、予等之、

二日、晴、及晩、九條大納言殿へ參、有御鞠、亥刻退出畢、賀茂猪兵衛來、論吾一部遣之、今日雖番、令相博、不參、入時正、

三日、晴、冷泉爲滿朝臣、山科內藏頭令同途、將軍へ參、新注古注義理相違之處、如何有之乎之由、御尋之、予答申云、新注義理雖精微、却而淺、古注其義雖不精、却而得道心處深、將軍叶御心者之、次唐人、一貫、來月歸國之由、相語之間、書籍共、令目錄可遣之由、令約諾畢、及黃昏、歸蓬華、

四日、雨降、寶壽院來談、八專入、烏頭蘭より書狀到來、及黃昏、竹內極﨟へ行、

五日、晴、筆結來、次、殊三來、及晩九條殿へ參、入夜冷泉亭へ行、詠歌大概聽聞之、夜半後、歸蓬華、

六日、晴、烏頭蘭、花山羽林令同心、伏見へ行、次寶壽院より木練柹百被惠之、

七日、晴、高尾より書狀到來、次參番、木綿布二百積臺進上之、勾當局御披露之、及晩有御鞠、飛鳥井父子、難波、阿野少將、四辻少將、八條宮等之、主上被遊畢、

八日、晴巳刻、九條大納言殿へ參、數刻御雜談有之、次家君へ參、御雜談共有之、及晩歸、次紹元來、百瓶序返之、次阿野少將來談、次風呂へ入、

九日、陰雨沃、飯後、阿野羽林令同心、幽齋見舞ニ行、今朝、豐前へ下向云々、次冷泉爲滿朝臣より拾遺愚草全本、

十日、晴、冷泉爲滿朝臣、山科內藏頭言緒、花山羽林郎將等、令同心、大樹之見舞ニ行、今日攝家門跡御出之、一條前關白殿、二條前關白殿、九條大納言殿、鷹司中將殿、照高院殿、妙法院殿、梶井殿、隨身(心カ)院殿、一條(乘カ)院殿等之、先攝家衆御對面、則令立座給、大樹緣迄送給、次門跡衆御對面樣子、同攝家衆、次堂上公家衆、大炊御門父子、烏丸大納言、万里小路大納言、藤宰相、飛鳥井宰相、花山少將、平少納言等之、攝家衆ヨリ以前、爲勅使、廣橋大納言、　勸修寺中納言、兩人先被參、大樹御前、禁中ヨリ純子十卷、親王御方ヨリ燒物被遣之、此外諸寺ヨリ御暇乞禮共有之、予冷泉、山科兩三人、猶大樹御前相詰畢、申下刻退出、予平野遠江守處へ行、留守之、次平野五郎左衞門處へ行、是又留

守、仍而歸蓬華、及夜半、今晚從禁中有御使、明日和漢御會之、可伺候云〻、予內〻今夜者伏見可滯留支度之、知音衆依留守、令歸宅、可謂仕合者之、

十一日、晴、飯後參內、漢和御會云〻、書章句、語心院梅印和尙被申之、賞月喜添閏、梅ちるも咲つく露の萩か枝　一條院准后　連衆、一條（乘カ）院准后、近衞殿、山科前中納言、中院入道前中納言、鷲尾宰相、阿野少將、予、慈照院保長老、語心院冲長老等之、戌刻、滿百、山科內藏頭執筆之、亥刻各退出、

十二日、晴、雖當番、晝間、阿野少將へ令相博、伏見へ行、未刻過、大樹懸御目、呂宋（ルソン）國使者御禮申、令見物、呂宋國王ヨリ書札兩通到來、一通者彼國以字書之、一通者以漢字書之、呂宋國王、名、郞徹洛黎勝（勝カ）君迎、云〻、呂宋國主始ヨリ至今年、壹千六百四年云〻、彼國无年号、國主初出來ヨリ只以年号之云〻、彼書簡令一覽、唯本朝へ通船之義、非金銀貪、無極之大道爲令知之云〻、偏爲傾我國歟如何、日沒之比、歸蓬華、則令衣冠參內、今夜庚申之、各參集、廣橋大納言、中院入道、伯二位、勸修寺中納言、鷲尾宰相、阿野少將、左衞門佐、小川坊城、四辻少將、飛鳥井宰相、難波侍從、予等之、鷄鳴之後、各退出、予也、當番不退出、

十三日、晴、山科亭へ行、數刻打談、次竹內極﨟へ行、入夜歸宅、愛宕寶珠院來義、盃同臺給之、他出

之間、不及對談、

十四日、晴、今日大樹江戶へ御下向之、泉州堺之立庵宗承來、砂糖一桶遣之、次實珠院來談、東陽弟子來、五明五本進之、

十五日、晴、巳刻參內、今日和歌御會之、五十首御當座之、いろは字かしらに被置之、予也、山居萩、慶賀兩首之、刁刻退出、入夜參番、重定朝臣代之、

十六日、晴、齋了、伏見へ行、加藤肥後守下國、暇乞ニ行、及對顏卽歸、次冷泉亭へ行、沙糖一桶送之、入夜、甲子待ニ參內、及曉天、有御鬮取、予也杉原一束、抦抄取之、今夜、嗣良代ニ參番、

十七日、晴、當番請取之、自夜前直不退出、相番衆、參集之後、令退出、押小路掃部頭行、內々晩湌可用意之由、依被示之、中院入道、伯二位、中御門中納言、予等之、數盃相傾、沉醉以外之、入夜、歸蓬華、今日、午前、高尾僧正御來談、卽歸山、次、御弁被來、

十八日、曉天より雨降、及天明、流車軸畢、午刻、雨晴、次九條大納言殿より可致伺候之由、預御使者間、卽令參入、夜歸蓬華、

十九日、晴、齋了、鞍馬寺へ參詣、申刻、歸蓬華、次自阿野少將許、檜被所望、卽庭前數株之中、一株

遣之畢、
廿日、晴、掃部頭來談、陣官人戸嶋、名字反切如何之由、被尋之間、重職重時之內、可被定令申畢、戸嶋本者、秦氏、此二三代以前より爲橘氏云々、巳下刻向中院方、今日和歌月次之、其人數、白川父子、中御門父子、鷲尾、飛鳥井少將、正親町三條、不出甘呂寺、淸閑寺、高倉、竹內三十郎（正親町三條舍兒之、左眼依爲盲、家督無相續、）要法寺之僧、本池院大蓮坊、予等之、日入前、起座、歸路竹內へ行、彼靑侍和泉事再三、乞詫言、無同心、重而猶可令口入、申捨令歸宅畢、
廿一日、晴、齋了、九條大納言殿へ參、蒙求二三枚講之、今日初度之、午刻冷泉亭へ行、今日、月次會之、
廿二日、晴、參番、參上前、來月上旬之比、和漢御千句可有御沙汰云々、仍、南禪寺語心院沖長老、歸雲院五西堂、正周庵洪西堂、牧護庵傳西堂以上四人可伺候之由、書狀可遣之旨被仰下、卽於御前、書狀相認、勾當之御局より被持遣、及晚有返札、宿不參、令相博、
廿三日、竹內極﨟へ晚飡ニ行、月出之後、歸蓬蓽、
廿四日、晴、早々、勾當局へ可參之由、被仰下、卽令伺候之處、就御千句義、南禪寺へ書狀可遣之由

仰之、巨細書狀難述之故、即立越、語心院へ中渡畢、語心院へ唐墨二挺遣之、未刻、歸蓬葦、次高尾へ行、東寺法嚴殿登山之、仍於尾崎終夜打話、此中栂尾新鑄之鐘銘、所望之間、令草案、性院へ進置畢、

廿五日、歸宅、次聖廟へ參、及晩勾當之御局へ參、

廿六日、晴、日出已前、參內、今日三百韵、和漢發句一巡等被定之、御人數、式部卿宮、照高院准后、一乘院准后、楊明左相府、中院入道、飛鳥井宰相等之、五岳衆被召之衆、南禪寺語心院冲長老、歸雲院五西堂、正周庵洪西堂、牧護傳西堂、相國寺慈照院保長老、東福寺不二庵藤長老等之、以上御製共十三人之、初百韵、畢句五西堂被申、爰更硎方戶、正五予令執筆、第二發句御製之、山風や鹿の音おろす庭の松、鷲尾宰相執筆之、第三露恩蘭賜紫、周洪、予執筆之、亥上刻終、各退出、曉更甚雨、

廿八日、晴、大佛智積院來談、鵝眼百疋被惠之、及晩風呂へ入、法身院、蜜藏院一宿、

廿九日、齋了、家君へ參、次全齋へ行、次二條殿へ參、松茸二十本進上之、有晩飡、九條殿御方御所、於二條殿、懸御目、還御之處、即御供申、九條殿へ參、及黃昏歸宅、

九月大

朔、(寅)今日、和漢千句御發句定之、仍、過日、不二庵藤長老、丑刻許出京、被扣予門、即請入、待曙天、令同途、参內、今日、御千句一巡共相巡畢、御人數、先日三百韵和漢ニ同、但、式部卿宮無御参、秉燭之後、各退出、於申口有御盃、

二日、晴、雖當番、令相博畢参、次明日より御千句御會之、予鷲尾兩人、執筆被仰出之間、令支度、宿ニ参、僧衆從今夜出寺、各樂屋ニ被宿、

三日、晴、和漢千句初日之、寅刻より始、御人數、照高院准后、一乘院准后、近衛殿左大臣、中院入道前侍從中納言、飛鳥井宰相、相國寺慈照院有節、(南禪寺新〔語カ〕心院)梅印、(東福不二庵)集雲、(南禪寺歸雲院)正五、(南禪寺正周庵)周洪、(南禪寺牧護)崇傳等之、御製共十二人之、鷲尾宰相、予兩人執筆之、戌刻終、御千句之間、於私宅、僧衆同宿、火番等、二時齋申付之畢、予也宿內、

四日、晴、寅刻、御鷹初、御陪膳之衆、阿野少將、四辻少將、極﨟源孝治、大中臣種忠、安倍泰重等之、御千句之中、此五人被相詰、今日、四百、難澁、鷄鳴之比終、

五日、微雨沃、昨夜遲終之間、日出已前より始、亥刻終、

六日、微雨沃、今日指合以下、御再見有之、仍、僧衆各滯留、早天參內、照高院、一乘院、左大臣御遲參之間、六言聯句有之、第上句御製之、

菊籬落垂金砌 御、　楓夕陽晒錦峯 梅印

玉欄迎明月 有節　石硯亞仲冬 周洪

更奏琴風裏竹 崇傳　屢傾蓋雪中竹 秀賢　鶴捴就翦鬢髮 集雲

鸞照看紡毿容 崇傳　施即身即佛 集雲　濟禪其　其宗 有節

指合共被改、未刻各退出、御千句第三書寫之、

第一

穗にはいつ出そそゝや荻の聲　信尹

綴珠穲露叢　元冲　元中

蛩啼殘月落　守藤　守藤

第二

轉玉虫鳴砌　周保　有節

釣簾の隙もる月ハ半天　御製

桐の葉のもろき軒はに風觸て　信尹

第三

第四

中絶し綿を花の野分哉　雅庸
聲幽何處蛩　正五
秋の霜枕に寒き夢覺て　素然

第五

霧間山幽盡　元沖
紅葉のかけもくるゝ松か枝　道終
鹿の音を庭に嵐のさそひ來て　御

第七

あひにあひて鴈かねなひく田面哉　道澄
江村夕霧晴　周保
露行沙易濕　正五

第九

楓有無香恨　守藤

年もへぬいかにめてなは秋の月　御製
菊浮累壽盃　守藤
折かさす袖に紅葉の色そへて　篁政

第六

露かろき葉つたひそよく小篠哉　隆尙
園深有鹿馴　秀賢
冷扉蛩音少　周保

第八

暮とあくと野山に有や鹿の聲　篁政
帶霜草色稠　周洪
芦花汀誤雪　元沖

第十

とふきの星かも菊を雲の上　素然

花野の末の岡越の途　信尹　逐秋蝶過垣　崇傳
小鷹狩歸る袂も霧分て　道澄　虫機催野外　周洪

追加

霜松秋表物　秀賢
軒端の風のやゝ寒き音　隆尚
明ほのゝ枕おとろく鴈鳴て　實顯

七日、晴、齋了、参番、被召御前、懐帋共、直句書加畢、宿令相博、不参、及晩、一乗院殿、御里坊、御見舞参、松茸一本進之、有御對面、有盃酌、

八日、晴、近衞殿姫君、御煩之間、見舞参、有御對面、數刻御雜談有之、次九條殿参、蒙求讀之、次至齊行、晩湌有之、

九日、晴、家中祝義、如不例、惣照院嘽藏主、管城子三双、被惠之、二條殿御禮参、次鷹司殿御方御所へ参、次近衛殿へ参、次聖護院宮へ参、次伏見殿参、次鷹司殿へ参、次九條殿へ参、次勸修寺中納言へ

行、數刻有盃酌、及晩、令衣冠、親王御方御例(礼カ)ニ參、御對面御盃令頂戴、次女院へ參、少納言御局より申入畢、次女御殿へ參、無御對面、次近衛殿大政所殿へ參、御對面、次參內、御盃人數多分、內々衆被參、

十日、晴、午刻、時雨、全齋來談、次、從九條大納言殿、蒙求上卷可進之由、被仰、則令進之、次道法來、足袋一足進之、三畧点本借遣之、及晩、入風呂、

十一日、飯後、冷泉亭へ行、詠歌大概、秋部より十六首講談有之、次相國寺惣照院へ行、全齋同心之、夜半鐘之後、歸宅、

十二日、晴、參番、也足軒被召、源氏有校合、宿不參、鷲尾相博、

十三日、晴、也足軒より書狀到來、正宗贊付與之、予及晩近衛殿へ參、上句可申上之由被仰之間、

又艶倣霜菊 秀賢 籬の露に月うつる昏 底相 絡絲虫促織、杉 衣手寒み分野の原、杉 松かけの道は嵐のをくり來て、底相 夢醒鐘韵喧 秀賢 報晨鴉同々 同 雲よりをちの里の一村、杉 八句有之、秉燭之後退出、次冷泉亭へ行、內藏頭、參番之故、詠歌講延引、

十四日、早々、鷄冠村之義ニ付而、主御門左馬助へ行、次富小路へ行、次家君へ參、次冷泉へ行、詠歌大

概被講之、及晩歸蓬華、來廿一日、御能有之由、御觸之、次甲香廿枚可摺進云々、

十五日、晴、

十六日、晴、冷泉爲滿朝臣、嫡男、千壽丸、次男、藤壽丸、兩兒讀書始來入、爲祝着、三荷三種被贈之、孝經序、三行、教之畢、給酒盃縮物出之次筆屋　召寄、筆四對誂之畢、及晩、九條殿參、宿番ニ參內、實顯朝臣代之、

十七日、晴、四條冷泉令同心、清水寺參詣、歸路、知恩院、本堂造作之見物、次鹿谷石不動へ參、未刻歸蓬華、次家君、全齋鷹晩飡、秉燭前、宿番參內、今日晝間、小川坊城へ令相博畢、早朝、冷泉兩兒、讀書參入、

十八日、晴、早朝、冷泉兩息兒來入、齋了、親王御方へ參閣、唐墨八箱　織香五十本、令進上之、有御對面、御盃令頂戴畢、次九條殿參、關白殿、同大納言殿御對面之、次梅龍軒へ行、次梅龍軒と同心、平野勘右衛門處へ晩飡ニ行、申小刻前、烏丸頭辨へ行、渠刻打談、秉燭後歸蓬華、勾當御局より明日御取置可伺候之由、被相觸、畏之由、答申畢、

十九日、飯後、御取置ニ參內、巳刻より常御所、井　黒戸令掃除之處、各油斷之由、被仰、事外、御逆

鱗之、今日、御取追ニ參衆、鷲尾宰相、左馬頭之仲朝臣、四辻少將季繼朝臣、左衛門佐秀直朝臣、阿野少將實顯朝臣、猪熊少將教利、甘呂寺右兵衛佐豐長、予等之、日沒以後退出、

廿日、晴、元澤雲齋來談、長太刀令稽古、及晩風呂へ入、

廿一日、晴、於黑戸前、有御能、日出參內、大夫、虎や彌兵衛尉之、脇、進藤九衛門之、能數十番、白樂天、賴政、野宮、張良、天鼓、葵上、項羽、藍染川、鞍馬天狗、吳羽之、秉燭之程、各退出、今日御能被召衆、烏丸大納言、同頭辨、廣橋大納言、同頭辨、同侍從、万里小路大納言、同侍從、持明院中納言、同少將、山科中納言、同內藏頭、中院入道前侍從中納言不參、勸修寺中納言、伯二位、同侍從、藤宰相、同侍從、三條西宰相、鷲尾宰相、阿野少將、四辻少將、富小路左衛門佐、五辻左馬頭、正親町三條不參、飛鳥井少將、平少納言、猪熊少將、高倉侍從、甘呂寺右兵衛佐、小川坊城右中辨、松木侍從、予、竹內極﨟、祭主、新藏人等之、御通二度有之、初度八條殿御酌、二度廣橋大納言之酌之、御簾中之衆、女院御所、八條宮、近衞殿、照高院殿、入江殿、

廿二日、御能、後朝、巳刻以前、各參集、大夫、早朝より令伺候、先老松曲舞囃之、次御扇拜領、大夫則令頂載、入樂屋、海士、滿仲、女郎花、杜若、自然居士、鐘馗、養老等之、申下刻、各退出、參衆

同昨日、唯中院入道被參、日沒比より常御所、黑戶、御取置之、初夜過、取置終而各退出、予當番之、則令宿、今日、大夫虎屋彌兵衞尉、被任長門椽、奉行、右中辨總光之、

廿三日、晴、午刻雲齋令同心、松木侍從へ行、爲長太刀習心之、及晚、竹內極﨟へ行、今夜月待之、丑刻歸蓬華、今日於松木揚明院少將、長太刀執心之間、雲齋ニ引合畢、

廿四日、陰、大工來、米藏ねた直之、次學問所閑爐開之、次學問所、東小便所搆之、

廿五日、早朝、聖廟へ參、次紹元許より書札到來、非當時文躰、予亦隨式報酬、性理字義、則返遣之、爲予代、才藏鞍馬寺へ令參詣、

廿六日、朝程微雨、今日本願寺參內之、予內々知音之間、爲出逢、令衣冠參內、本願寺先於九條殿被裝束、仍九條殿へ參、本願寺へ令見參、於議定所上段御對面、本願寺中ノ間ニテ禮被申、午下刻、本願寺參內、馬代銀子五十枚進上之、次、女院へ被參、次親王御方へ被參、馬代銀子三十枚進上之、及晚、愚宅へ下妻少輔爲使、自本願寺馬三百疋、太刀被贈之、今日參內之砌、出逢之義祝着之、及晚、九條殿へ參、本願寺御振舞之、予御相伴之、大酒、亥刻計、本願寺歸寺之、其後、猶大酒有之、九條大納言殿、御簾中御局等被出、亂酒以外之、予也沈醉、事外、無正躰之、午刻、虔藏主來、語心院長老より書狀到來、銀瓶一双被惠之、

次大中庵之事、契約筋目相違之間、一行ヲ返可遣之由、被示之、則高尾へ申遣畢、次栂尾常降來、大栗百進之、次賓寺院來、大栗五十進之

廿七日、晴、巳刻、參番、

大工來

廿八日、大工來、齋了、冷泉兒二人讀書被來、入夜、殊三來、

廿九日、大工來、齋了、冷泉兩人來臨、未刻、意安方より三國志、晋書、兩部取返ニ來間、則持遣畢、

女房衆、淸水寺へ參詣、息男三人同參詣、小川坊城殿代ニ參番、

十月大

朔、丁未大工來、晴、月次會ニ冷泉亭へ行、入夜御盃ニ參、學問所圍爐開之、

二日、晴、冷泉息男、千壽丸、藤壽丸、讀書ニ來入、次九條大納言殿より蒙求、兩册被返下、巳刻、山科内藏頭、令同心、七條本願寺へ行、山科中納言出逢、則爲引導、本願寺門跡對面之、歸時興正寺へ行、有晩飡、令沈醉畢、入日之比、歸蓬華、夜半後、從揚明有御使、明日於南禪寺傳西堂、和漢會有之、可參云々、可令伺候由、返事令申ひ、性院出京、

三日、晴、早朝、南禪寺へ行、揚明、從夜前、御成云〻、和漢、人數、院主、語心院、歸雲院、正周庵、相國寺、惣照院、鷲尾宰相、山岡主種、兼如、昌琢、予等之、會終後、大酒、夜半後、歸宅、

四日、晴、性院、歸寺、元澤、雲齋、來之間、松木幷持明院少將、召招之、薦晚飡、長太刀令稽古、

五日、齋了、喜多坊令同道、高尾へ登、高尾若輩衆、勤行寺法等懈怠之間、定□畢、

六日、冷泉中將、山科少將、紅葉見物ニ高尾へ登山之、予出逢、於法身院、薦晚飡、方々令案內了、及晚、令同道、歸京、

七日、晴、參番、來九日照高院御中沙汰可有御能云〻、仍今日黑戶御取置之、双瓶田樂等携之、相番衆へ酺之、

八日、晴、九條大納言殿へ參、有晚飡、及晚、南禪寺語心院、長福寺衆へ行持遣之大中庵之事一行之、

九日、雨降、依雨御能延引、及晚竹內極薦へ振舞ニ行、

十日、晴、今日御能之、拂曉、自伏陽、平野五郎左衛門、魚住彥十郎、　兩三人今日御能見物ニ被來、則薦朝食、其後參內、日出比、御能相始、大夫、本願寺少進法印之、鵜飼、實盛、江口、是

害、三輪、鷄、龍田、藤戸、三井寺、玉鬘、祝言、吳羽、　日沒之比、御能終、主上、入御之後、女院、照高院殿、妙法院殿、聖護院殿、八條宮、近衛殿、一條院准后、鷹司中將殿等有盃酌、公家各被召之、廣橋大納言、同頭右中辨、烏丸大納言、同頭右大辨、万里小路大納言、同侍從、山科中納言、同內藏頭、持明院中納言、同少將、中院入道前侍從中納言、勸修寺中納言、白川二位、同侍從、藤宰相、同侍從、鷲尾宰相、水無瀨中將、同侍從左馬頭、阿野少將、四辻少將、左衛門佐、猪熊少將、平少納言、難波侍從、小川坊城左少辨、飛鳥井少將、滋野井侍從、甘呂寺右兵衛佐、中御門右少辨、高倉侍從、極﨟、祭主、新藏人、予等之、

十一日、雨降、仍、後朝、御能延引、午刻より持明院少將許へ行、長太刀令稽古、及晚歸、

十二日、雨降、一昨日、御能、後朝早々より參內　御能遊行柳、舟弁慶、邯鄲、黑塚、融、富士大鼓、祝言等之、御人數、如一昨日、入夜各退出、予當番、一宿、

十三日、晴、

十四日、晴、參、九條大納言殿、午刻參內、今夜御庚申之、

十五日、晴、早々より參內、爲御日待之、參內之衆、四辻少將、阿野少將、勸修寺中納言、左馬頭、

鷲尾宰相、左衛門佐、予等之、入夜、中院入道、伯二位、廣橋大納言、小川坊城、飛鳥井少將、難波侍從等、被參、此外近衛殿、聖護院宮、大覺寺宮御參、晝夜碁、將碁共、御遊之、

十六日、晴、候內、入夜退出、

十七日、晴、參番、

十八日、晴、九條大納言殿ヘ參、午刻、從召參內、源氏葵卷、中程有御講尺、於小御所被成勅談者之、聽聞參衆、廿人斗有之、今夜甲子之、則候內令朝食、於廣橋、頭薗亭ヘ行、相伴、持明院少將、水無瀨中將之、今日御千代丸、誕生日之、仍家君萱堂に進朝食畢、爲持明院代、御番參、

十九日、晴、午刻、九條大納言殿申入、進晩飡、調子、越前、朝山、宮內少輔、服部忠兵衛、久雲等被召連、入夜堀川侍從被來、如形大酒之、及謠曲畢、亥刻還御之後、也足ヘ行、

廿日、晴、早々參、九條殿御方御所ヘ昨日被成御成御禮之由、申入、次東寺寶小殿院ヘ行、家君、梅龍軒、全齋等御出、及晩歸蓬華、

廿一日、晴、

廿二日、晴、雖當、令相博、宿ニ參、

廿三日、雨〔○此字見セ消〕降、
廿四日、晴、午刻、全齋へ行、東寺侍嚴院來談、爲相伴之、
廿五日、晴、於愚宅、和漢令興行、人數、中院入道、鷲尾宰相、山科中納言、烏丸辨、阿野少將、廣橋辨、冷泉少將、惣照院、保長老、予兼如等之、執筆者、內藏頭之、兼如發句之、此會從六月、令延引、今日會席之、

霜の花咲そふ菊の籬哉　兼如
捲簾曉月傾　周保
遠さかる雲井の鴈に起出て　素然
名殘のこけきかたしきの夢　實顯
挽回春醉裏　隆尙
賀七節元正　言經
色〱に裁かさねぬるきぬの袖　光廣
夜寒思旅程　予
漕行も末はしられぬ船の上　總光
かた〱にしもうかふ嶋山　爲親
靄散暮鐘近　言緒

入夜、滿百、夜半前、各歸宅、
廿六日、高尾性院僧正、今日大坂へ伽藍造營爲訴訟下向之、喜多坊敬淡同心之、

片岡左門、晩飡召之、入夜迄大酒之、

廿七日、晴、參番、入夜、御田樂有、光照院殿御振舞之、

廿八日、晴、千代丸從夜前、少發熱之、宮川智光院來臨、大宮官務伊治手記之伊勢物語被附與、予、此本、後淨居院被挍、息女智孝院ヘ被遣本之云々、薦晩飡、令一宿給、入夜家君御出、智廣院（光カ）ト數刻御雜談、次大坂性院より書狀到來、蜜柑五十給之、

廿九日、藤壽丸、千壽丸讀書、次紹元來、禮記一帖借遣之、次阿野少將來談、次宮川智光院歸宅、雖今夜亥子、小兒千代丸、依煩御盃不參、入夜、九條御方御所ヘ參、新造御殿見物ニ行、綺麗驚耳目畢、客殿、臺所、小出屋所以上風呂、女房局等之、宇數十余歟、

卅日、全齋、妙庵等來談、次藤壽丸、千壽丸讀書、次花山院少將來談、次竹內極薦來談、理髮之樣、令教訓畢、

十一月小

朔、丁丑　晴、早朝、妙庵來、藤壽丸、千壽丸讀書來、次花山院父子來訪、次掃部頭來談、次萱堂令來

給、御盃不參、
二日、陰、雖當番、持明院少將へ令相博、不參、爲代參、鞍馬寺へ才藏令參詣、次全齋來談、薦晩飡、千代丸疱瘡得捴、未刻、沐、申刻、雨降、今夜、勸修寺中納言奏慶云〻、爲見廻、鯛二ッ遣之、千壽丸、藤壽丸讀書、令來、
三日、雨降、齋了、參內御取置共有之、及黃昏退出、次從雲齋、春屋和尙手跡到來、
四日、晴、午刻、參內、宗信番代之、及晩、近衞殿御參內、有御振舞、各夜半後、退出、
五日、晴、全齋來談、次家君御出、次九條大納言殿御簾中、御局晩飡ニ召之、相伴、中殿、調子、越前女房衆召之、御局予ニ板物一端、女房衆へ杉原一束、綿一把給、及黃昏、九條關白へ參、御息女八條宮、御簾中以外御煩云〻、仍爲御見舞令參畢、入夜九條殿御方御所へ參、鷄鳴之比、堀出之小家二三間火事盛、法印壽命院、聖護院宮等御見舞ニ行、今朝藤壽丸、千壽丸孝經終、
六日、晴、來年筮共勘之、廣橋左中辨より來月二日より可有御八講、令參懃之由內々廻文到來、卽加奉畢、午刻參內、女院より御振舞有之、大酒之、亥刻各退出、今朝從冷泉中將、錫二對、赤飯佳肴等被惠之、

七日、晴、千壽丸、藤壽丸讀書、大學始之、次道法來年筮共勘之、雖當番、令相博、不參、
八日、晴、早朝、參番、持明院代之、宿周參、今曉、八條宮御簾中、御遠行云々、去四日より御煩之、眼口耳下衆、以外下血云々、中毒歟如何、九條關白御息女之、廿二歳云々、
九日、昨夜、大雪、今朝、亦微雪、道法來、職原抄、文字讀敎之、次年筮共勘之、次千壽丸、藤壽丸讀書、入夜、性院、喜多坊、從大坂歸京、一宿、入風呂、次冷泉亭へ行、
十日、雨降、千壽丸、藤壽丸讀書、次道法來、職原抄讀之、性院喜多坊一宿、
十一日、雨降、年筮共勘之、次道法來、職原抄讀之、及晩竹田梅龍軒へ行、予筋痛之藥、令所望、則調合、
十二日、巳刻、參番、午刻、性院歸寺云々、宿令相博、入夜、年筮勘之、大黑祭之、
十三日、雨降、齋前、聖廟へ參、次九條殿御方御所へ參、次山科へ行次、冷泉へ行、次廣橋頭蘭へ行、午刻道法來談、職原抄文字讀授之、今日終、彼本令奥書畢、件奥書云、右或人以環翠軒法名宗花自筆本、遂寫功、重而於予案前、訂挍之、尤可爲證本者之、
慶長甲辰、中冬、中澣、吏部員外郎、清原判、

及晩、九條殿へ參、次山科亭へ行、次冷泉亭へ行、

十四日、今日親王御方御紐をとし之、仍女御殿へ可參之由、御觸之、午刻、女御殿へ參、楊明御成、被召衆、廣橋大納言、同頭辨、同侍從万(マヽ)小路大納言、同侍從、勸修寺中納言、正親町三條實有朝臣、阿野少將、實顯朝臣、左衛門佐秀直朝臣、小川坊城俊昌、中御門右少辨宣衡、甘呂寺右兵衛佐豐長、予等之、親王御方、女御殿、揚明御相伴、有三献、親王御方御前御陪膳、新大典侍殿取之、日野輝資卿女之　右公卿殿上人、予等御相伴之、及晩天、退出、入夜參番、從白川侍從相博之、今日、飛鳥井宰相、從江戸歸路云々、今夜伏見殿へ有納婦、浮田宰相息女之、

十五日、三湯院殿、正忌月之、於今出川殿、有齋、仍、向彼亭、巳刻、歸蓬華、雨雪降、かゝりの寺僧來、高尾へ才藏遣之、及晩全齋來談、次家君幷廣藏主來談、次廣藏主令同心、花山院へ行、和漢五十句、令吟興畢、夜半後歸蓬華、鷄冠井より又一歸、八木五石五斗納之、

十六日、晴、速水左衛門尉來、明日、廣橋亜相請待(??)、予也相伴可來云々、明日當番之由、令返事畢、次花山院少將來談、次九條殿御方御所へ參、此中、依姉君御他界、御籠居之間、携瓶幷田樂畢、子刻前、歸蓬華、平野五郎左衛門方より燒物方所望之間、書付遣之、

十七日、晴、去十四日、伏見殿へ有御嫁娶、仍爲御祝着、昆布三束、鱈五つ、するめ十れん、御樽三荷進之、次竹田宰相來云、

蘷命孤城落日斜　毎依北斗望京華　聽猿實下三聲涙、奉夫虚隨八月□畫省香爐違伏枕山樓粉蝶隱悲茄請看石上藤蘿月已映洲前蘆荻花　如此令點遣之、次從伏見殿御樽有□返　□□□十本鯛五ツ、昆布三束、樽三ケ云〻、巳刻參番、御前ニ參、暫有御雜談、入夜又參御前、辛酉甲子算軒ニ仰ト定なとの事、粗御尋有之、存寄分申上畢、

十八日、甲午、　晴、齋了、淸水寺へ參詣、八條宮御簾中、於東福寺、今日有御葬禮云〻、入夜參番、持明院相博之、

十九日、晴、從四辻少將書狀到來云、請文書樣、不案內之間、案文可示教之由之、仍、案文遣、　來

十二月二日奉爲舊院十三回聖忌、可被始行御八講、可令調出居次將之旨、謹而所請如件

十一月十九日　　左少將季繼

謹上頭左中辨殿　　如此認遣之

次、九條殿御方御所へ參、次、性院、全齋等來入、愚妹嫁妻之談合之、家君御氣毫可笑止千萬之、次

入夜、殿大納言殿へ參、

廿日、晴、九條殿、御新造客殿、見物ニ行、各金間驚目畢、次半笑來入、つれ〳〵草披合之ためニ、次、極﨟來談、來月御八講、一通不案內之間、可令指南云々、則案件書之遣之、﨟晩飡、次入風呂、

廿一日、晴、全齋來談、愚妹嫁娶之契約、相調了、次建三來、溫胖湯七包惠之、次參內、今日勾當局へ御別殿之、仍、內々衆不殘被召之、猶勾當爲各、有振舞、愚也、阿野、四辻少將、被召御前候之、入夜退出、

廿二日、晴、雖當番、令相博、冷泉亭哥會ニ行、入夜寶壽院來、一宿、

廿三日、晴、廣橋頭左中辨より御八講之一通到來、

自來月二日、五ヶ日、奉爲舊院十三回聖忌、可被始行御八講、第三日結願日、散華役、可令參勤給者、依　天氣執達如件謹言、

十一月九日　　左中辨總光奉

謹上　式部少輔殿

一通如此日付、今日雖送之、九日日付之、則請文相調遣之、

自來月二日、五ヶ日、奉爲　舊院十三回聖忌、可被始行御八講、第三日、同結願日、散華役、可致參勲之由、謹而所請、如件、

十一月九日　　式部輔秀賢請文

卽時之間、不及被書遣之、今度一通散華役ト被書之事如何、唯華籠役ト可有之歟、不然者堂童子ト可被書之歟、雖不叶愚存、應一通散華役ト請文ニ書之畢、

及晩、平野五郎左衛門□□右衛門晩食ニ召之、爲相伴、家君、梅龍軒御出、入夜竹內へ行、今夜月待之、中院侍從　古筆朗詠一卷、被隨身、筆跡驚目者也、行成卿筆無疑者歟、月出之後、歸蓬蓽、

南禪寺語心院へ御八講、佛前打敷借ニ遣之、寺中無所持云々、則奉行へ返札見遣之畢、

廿四日、晴、飛鳥井亭へ行、新古今集雅緣卿筆跡、或人被見之、則飛鳥井令見之處、正筆云々、次軒院御出、次全齋來談、次今出川家君へ參、次今齋へ行、喜多坊來談、

廿五日、晴、早朝、喜多坊令同心、豐光寺、江戸へ下向、見舞ニ行、小錫一付遣之、明朝、發足云々、次參番、光豐卿代之、次近衛殿へ參、入夜參番、高尾普賢院寺役等不沙汰之故、僧正被勘當、仍、高尾衆來談、

廿六日、晴、早朝、梅龍軒來談、次高尾より喜多坊被歸、入夜梅龍軒へ行、

廿七日、晴、向廣橋辨亭、次參番、今日主上、照高院、御兩吟連哥有之、

廿八日、晴、喜多坊、密藏院、法身院等令相伴、薦朝食、次全齋來談、次行願院來談、次參內、及晚入風呂、次廣橋辨亭へ行、次九條殿へ參、御八講僧名定、奉行持參之、同傳奏、行事辨、以上三人伺候之、其作法、九條大納言、奥間御座搆一疊、則座給、次傳奏、烏丸大納言進出、次奉行辨、廣橋頭左中辨總光進出、次行事辨、進出、次奉行辨、僧正定持參、大納言殿御一覽之後自行事辨給、行事辨進寄、取僧名定結畢、懷中復座、次各退出、於內々有盃酌、

廿九日、晴、早々參內、御八講、御聽聞所等見つくろい畢、退出、次阿野少將來談、御八講請文爲相談之、次參內、及晚、山門三井兩寺之衆、於北御所、有御對面、各杉原一束、扇被下之、則論義御聽聞之、講師三井勸學院、問者正勸院、證義眞祐、重難之衆、嚴證院、惠心院、十妙寺、正覺院等之、戌刻終、次九條大納言殿御拜賀之、前斷可候之由、內々雖令約束申、依候御前不參、於內、懸御目畢、前斷衆、万里小路左衞門佐秀直、堀川侍從、竹內極﨟三人之、有御對面、申次小川坊城右中辨之、次、著陳等令見物退出、

十二月大

朔、丙午、早朝、參內、御聽聞所屛風等搆之、次九條殿へ參、今度御八講行事被仰被遊之間、今日有御習禮、二條前關白、御指南之、中御門中納言、飛鳥井宰相等、同參會、

二日、晴、御八講初日之、刁刻、令衣冠、九條殿へ參、藤宰相、同侍從御裝束被參、御裝束之後、予先參內、時分案內可申入云〻、仍退出、次參內處、妙法院宮御參內、山門有訴訟云〻 其巨細粗傳聞之計之、其意趣ハ、今度御八講、三井寺より四人被召之、山門より三人被召之是一、御經供養、三井寺衆へ被仰付是一、彼是五六ヶ條有之云〻、一色も猶不被仰付ニ可令不參云〻、雖然無勅許、仍山門衆不參、爲三ヶ寺八講可被行云〻、仍巳刻僧俗參集、〔○以下空白二面〕

二條前關白殿より雉二番拜領、

七日、晴、早〻從勾當御局被觸之、午刻、御盃參之間、可致伺候云〻、予今日當番之、巳刻參內、今日被參衆、廣橋大納言、同頭辨、鷲尾宰相、阿野少將、四辻少將、左衞門佐、水無瀨中將、小川坊城右中辨、万里小路侍從、予等之、此中御精進上之、當月親王御方、御讀書始可被遊云〻、當今御讀

書始如何有之乎之由、大藏卿ニ可尋申上旨、直ニ仰之、仍而、家君ヘ參御伺申處、天正七年十二月廿三日、當今御歲九、於小御所、有御讀書始云〻、此由則申上畢、勸修寺儀同、第三回忌之、仍二荷三種贈之、

八日、晴、早〻、勾當局ヘ可參云〻、則向彼御局、勾當內侍被出逢之、御讀書始以誰乎人、被觸送乎、又御祝義御太刀、御馬なと令拜領乎、先例可申上云〻、則向家君御亭、仰旨令申處、記錄高尾被置云〻、仍與三郞則取遣畢、返事明日可申入覺悟之、今日勸修寺儀同、晴豐卿第三回忌之、昨日可燒香之由、內〻被示之間、辰刻、向彼亭、座敷相伴衆、廣橋大納言、中御門中納言、亭主、飛鳥井宰相、鷲尾宰相、阿野少將、左衞門佐、小川坊城、土御門左馬助、予等之、此外僧俗卅人斗有之、午刻、歸宅、次九條殿ヘ參、次家君ヘ參、次近衞殿ヘ參、平遠州、伏見ヘ歸宅、

九日、晴、女院、御煤拂之、辰刻參院、次御讀書之次第、昨日御尋之事共、返答申ニ御局ヘ參、當今、御讀書始之時、勸修寺中納言より被觸之云〻、御太刀、御馬、拜領、勿論云〻、家君御記云、天正七年十二月廿日、從勸修寺中納言、儲君讀書始、可爲來廿三日、可令伺候云〻、廿三日、甲午、時巳、儲君、御歲九、近代御佳例之、

御讀書始參勤、於小御所、申上之畢、後、御太刀、御馬令拜領、退出、猶

別記之云〻、此分予書付御局ヘ進之畢、及晩、入風呂、歸路、竹內極﨟ヘ行、
十日、早〻、廣橋亞相より以速水右近被申送云、來十三日親王御方御讀書始可有之、大藏卿可令
伺候由、勅定之、一通又觸折帋之樣子、不案內之間、可示之云〻、予答云、舊儀之一通有之云〻、雖
然無所持、當今御讀書始之時、勸修寺中納言、以折帋被送觸之由、慥ニ大藏卿覺申之、此由速水右
近申含之處、則廣橋亞相到愚宅來義、當今御讀書始之樣子御尋之間、右之通返答、則被觸折帋調
畢、其書樣、親王御方御讀書始、可爲來十三日、可被伺候候也、　十二月十日　兼勝
　大藏卿殿ヘ
如此被書、則予ニ被渡之、從予方能〻可申傳之由內談之、次今朝食ニ家君、同東向御弁梅龍軒內
義、同□等召之、歲忘之祝義之、梅御料、明日嫁娶之間、今日表祝義畢、從昨晩、女房衆、風病之
間、妙庵召遣、則來義、藥調合、從九條殿可令伺候之由、雖有御使、女房衆煩之故、不參、入夜、從
中院可來談之由、被示之間、則向彼亭、夜半前、歸蓬華、
十一日、晴、官務ヘ大帷袖單返之、次今出川ヘ行、梅御料人用意、共令手代畢、青侍兩人、人足六人、
中間二人遣之、此外、全齋之衆、氷室者共、彼是卅余人有之、今度、嫁娶媒介、梅龍軒始終被馳走

者之、予爲餞、染小袖一ツ遣之畢、

十二日、晴、進上字指共請調、家君へ持參、則廣橋大納言許へ遣、親王御方へ可被進上由、申達畢、被心得之由返答之、次二條殿へ參、御隙入故、無御對面、次竹內極﨟より刀借寄見之、薩州住、重吉作、天文十年比之物之、

十三日、戊午、晴、儲君御讀書始、家君御伺候之、於小御所、南妻戶、授之給、廣橋大納言申次之、猶別ニ記之、次御煤拂各參集、巳刻、掃始、入夜退出、

十四日、晴、親王御方、御煤拂ニ參、被召衆、阿野少將、四辻少將、左衛門佐、滋野井侍從、廣橋頭辨、新藏人、甘呂寺、高倉、小川坊城、白川侍從、中御門右少辨、予等之、未刻、拂終、親王御方へ孝經奉授之、及晚、家君令同心、女御殿へ參、次揚明左府御袋樣へ參、入夜、竹內極﨟母義來談、

十五日、晴、家中煤拂、妙庵被來、及晚入風呂、次、爲庚申待、參內、爲猪熊少將番代一宿、

十六日、晴、郡庄屋九衛門算用來、算用未相濟之間、退歸畢、次寶壽院來、入夜、梅龍軒へ行、

十七日、晴、早朝、大覺寺門跡、御年筮勘之、齋了、參番、次親王御方へ參、孝經奉授之、次女御殿へ參、今日女院、女御殿へ御成之、仍廣橋大納言、同頭辨、万里小路大納言、同侍從、中院入道侍從中

納言、勸修寺中納言、伯二位、鷲尾宰相、正親町三條實有朝臣、阿野少將實顯朝臣、四辻少將季繼朝臣、左衛門佐秀直朝臣、坊城右中辨俊昌、西洞院少納言時直、廿呂寺右兵衛佐豐長、予等被召之、入夜、女院還御、御相伴之衆、光照院殿、入江殿、大聖寺殿、近衛殿之、

十八日、陰、押小路掃部頭ヘ袍返遣之、次貝香廿枚すり立進之、節分之、九條大納言殿御方違ニ御成、二荷三種拜領、亥刻斗、還御、次阿野少將方違ニ來臨、双瓶三重肴被惠之、子刻斗、大覺寺殿御里坊敬春部屋ヘ方違ニ行、飛鳥井宰相出逢、令雜談、投一宿、至早朝歸宅、

十九日、晴、甲子、立春、入夜御盃ニ參、次親王御方御盃ニ參、次爲甲子待參內、鷄明之後退出、

廿日、晴、齋了、聖廟ヘ參、入夜九條殿ヘ參、拙也、口中腫痛之間、頓退出、九條大納言殿組懸被返段、如何之由、有勅使云々、不能分別事共之、關白御息、自余各別之事、雖所世知、當代攝家御褒微、又々不有職之故、如此云歟、子刻雨降、

廿一日、雨、午刻、晴、上野持明院、祐宜法印、今度爲大覺寺宮末寺、御門主以御肝煎被任權僧正、仍上卿、職事、傳奏、方々爲一禮、出京、智積院師弟之間、於愚宅可被寄宿之由、從指南、始而來臨之、樽代二百疋給之、則酤一盞、數刻雜談、

廿二日、晴、雖當番、口中依相煩、御理申入畢、持明院僧正滯留、及晩歸寺、密藏院一二泊、冷泉より大魚貳つ給之、

廿三日、晴、高雄宗春遣之、次池坊來、次法身院來、各一宿、敬春來、叡山月藏坊より毛詩注本一二之卷一冊幷小本毛詩一册返來、則又毛詩十七十八之卷、同小本十七十八之卷兩册借遣之、

廿四日、晴、西院クホ方より銀三百目借之、池坊歸寺、入夜、從九條大納言殿、白小袖一ツ被下之、喜多坊來、

廿五日、晴、爲代參、北野、淸水へ才藏遣之、密藏院、法身院、大佛へ行、敬春來、夜嵐甚、

廿六日、微雪、大覺寺宮、年筮持遣之、午刻、敬春來、次淸涼寺池坊來、今度、淸涼寺公事之義ニ付、而訴狀之案、予令草案遣之、爲其禮、從寺中、双樽、串柿貳把惠之、次大工源左衛門乘物出來持之來、尤見事之、

廿七日、晴、口中相煩故、雖當番、不參、次横大路長介來、大根五束、牛房二束、双瓶進之、勘定之面、理屈不相濟之故、返之畢、次九條大納言殿へ年筮持進之、今日爲佳例、家中餅つき之、筆結翰墨爲歳暮、吉書筆二對進之、同女房衆へ二對進之、巳刻、鎭宅祭之、次年筮共勘之、

廿八日、晴、早朝、實壽院へ書狀遣、次金子壹枚、實壽院取次之方へ質物ニ遣之、次烏丸頭辨より四方拜御脂燭可候之由、被觸□□可候之由、令返答畢、入夜中院侍從白川侍從、予煩爲見舞來談、數刻打談、曉天、雨降、

廿九日、雨降、宗春、大坂、平野遠州方へ下向、次從也足軒、和漢會帋返來、次沐、

卅日、晴、及晩、歳末之禮ニ家君へ參、有盃抄、次揚明へ參、次鷹司殿へ參、次九條殿へ參、次一條殿へ參、入夜參內、從御煩、無御對面、各帳ニ付後退出、次親王御方へ參、次九條大納言殿御方進御成、則還御、次今中彌三郎方より書狀到來、狩對內膳、平家繪樣之事ニ付而、愚也可令談合云々、仍平家二卷不審書付到來、次掃部頭より爲祝義、双瓶兩種、被惠之、次爲歳暮禮、冷泉殿、官務、山科內藏頭殿等來入云々、午刻、主上御年筮、以富小路女院へ進上之、則富小路年筮遣之、次全齋年筮之、次久我大納言殿年筮遣之、次姑母年筮遣之、

（朱）寫本ニハコノ二枚ヲ十一月五日六日ニ條ノ間ニ挿入セリ

表包

慶長九年甲辰日件記六十二葉ノ內ヘ入御座候折帋
追而御閉入させ可被成候旨付而別ニ仕置申候

寫　一枚有六拾六葉ノ中江入折紙

慶長九十一六廻文

從來月二日五ケ日
奉爲舊院十三回

清閑寺殿
堀川殿
甘露寺殿
舟橋殿

聖忌可被行御八講
可令參懃給之由內々
御默之宿紙拂底之間
重以一通可申候也
十一月六日　總光
御方
烏丸殿
五條殿

御方
山科殿
中御門殿
御方
高倉殿
御方
万里小路殿
御方
中御門殿
難波殿
滋野井殿
高倉殿
御方
水無瀬殿
御方
白川殿

水無瀬殿
五辻殿
德大寺殿
庭田殿
正親町三條殿
阿野殿
四辻殿
富小路殿
御方
花山院殿

丙
乙丑庚
甲戌丁丑甲子甲子

慶長日件錄　第二

金神辰巳

文選十一卷、王康琚、反招隱詩云、小隱ハ々ニ陵藪ニ、大隱ハ々ニ朝市ニ、伯夷ハ竄（カワン）ニ首陽ニ、老聃ハ伏（カクル）ニ栭（柱カ）史ニ、

又白樂天詩、大隱任朝市、小隱入丘樊、丘樊太冷谿、朝市太囂喧、不如作中隱、々作留司官、

積年、七兆令七萬令九百廿一、

慶長十年乙巳日件錄　乃叡

自天元甲寅以來、至今年乙巳、二兆七億六萬二千令卅二之、

試筆

一夜挽回春又春、東風吹送暗香新、衆花未辨詔光意、梅是樹中先覺人、　秀賢

野へも山も空もひとつにみどりにて
もるゝ方なき春の色哉　同ー

春といへは冬より來鳴鶯の聲も今朝猶あら玉の年　同

朝日

世のねかひけふしもみつのはしめ哉　同

慶長第十曆、歲次乙巳　日件錄　乃䝨

正月大

朔、丙子晴、無四方拜自舊冬、依御惱之早朝、行水、次整衣冠、參內侍所、鷄限二十迎塞之、猶庭上護身院、中臣祓、六根清淨祓等讀之、次參御殿、神盃令頂戴、次參男末、有佳例盃抄、退出、則不脫衣冠、五聖人、朱文公影像等掛之、居餅、祭奠之、於像前、孝經序讀之、次春秋元年之分讀之、是ハ今年左傳可講談𥘉義之、次吉書、

天下泰平　四海安全　財寶充屋　官位如心

學及大儒　智能中道　孝濕顏巷　德排孔門

慶長十年乙巳、正月吉日、　式部少輔秀賢

右四行書之、次家中祝義、如嘉例、次宗春、自大坂被上、遠江守より返書到來、銀子五枚來、及晩、從召朝餉參、御手長、次親王御方、御盃ニ參、次參內、無天酌、於申口、內侍殿御酌、有御盃、亥刻、各退出、

二日、晴、丁丑 早朝行水、次於五聖人像前、孝經自天子章、至廣要道章、讀之、次毛詩序讀之、次看經、次家中祝義、如嘉例、次參番、其間、意齋息男禮ニ來、串柿一把進之、次全齋來入、蘇香圓一貝給之、次官務來入、五明三本給之、次大外記來入、双樽兩種給之云々、次朝餉御手長ニ參、次親王御方御盃ニ參、次女御殿ヘ御禮ニ參、有御對面、有御盃、次參內、於申口、有御盃、扇拜領、

三日、晴、微雪沃、夜前番衆、於男末、有一獻退出、次於五聖人像前、孝經讀給、次易乾坤二卦讀之、次看經、次家中祝義如例、次家君ヘ參、兩種双瓶進之、萱堂ヘ美濃帋一束進之、有一獻、次揚明ヘ參、二荷三種進之、有御煩氣由、無御對面、次鷹司殿御方御所ヘ參、有御對面、次九條殿ヘ參、有御對面、次伏見殿ヘ參、無御對面、次二條殿ヘ參、有御對面、白川侍從殿來臨、五明五本給之、次竹田宰相來入、牛黃圓一貝給之、及晩、朝餉御手長ニ參、次親王御方ヘ御盃ニ參、次參內一盃、於申口有

之、勾當局御酌之、亥刻各退出、
四日、微雪沃、兼如來、次鷄冠井、庄屋宇左衛門來、鵝眼一連進之、爲祝義、扇三本遣之、次全齋來談、予息男、松丸發熱云々、多分可爲疱瘡云々、次竹田法眼へ行、五明五本遣之、宰相へ筆一對遣之、入夜九條殿御方御所、御方違ニ愚宅へ御成、御樽二荷三種給之、奉一獻、子刻還御、亥刻より至曉天、大雪之、
五日、雪沃、昨夜雪盈尺、飯後板倉伊賀守許へ禮ニ行、爲樽代、百疋進之、片岡左門ニ二十疋遣之、
八衛門ニ二十疋遣之、荒木三平ニ二十疋遣之、
次、郡百姓兩人禮ニ來、伊勢御祓、熨斗鮑等進之、爲祝義、五明三本宛遣之、同庄屋久衛門來、鵝目十疋進之、五明三本遣之、次大工源左衛門來、けた木履一足進上、內義へ木燈臺進之、爲祝義、帶壹筋遣之、次東寺寶嚴院來入、鵝眼二十疋給之、餡一盞、入夜家君へ參、松丸疱瘡見舞畢、病証可然之間、令滿足畢、
六日、晴、飯後、狩野與一來、小盃二ツ遣之、平家二ノ卷、繪樣相談之間、則書付遣之、次休圓來、ヒイトロノ火カキタテ木進之、次横大路、花屋、藤杜長介來、餅鏡、双瓶等進之、同內田九衛門甚

蕷、若菜等進之、源介大根一束進之、百姓共悉來、三人侍共、令對面、面々給盃畢、次寶嚴院殿へ參、御留守、無御對面、次本法寺へ朝鮮人見物ニ行、見物禁制之間、從門外歸畢、次光照院殿へ參、御對面、有盃酌、次入江殿へ參、御對面、有盃扚、事外令沈醉者之、次聖護院宮へ參、御對面之、雖可有盃酌、沈醉之間、早率令退出畢、大佛師大貳卿法眼來、五明五本給之、全齋女房衆來入、砂糖一斤給之、

七日、壬午、陰、七種粥如例、次黃符祭之、次女房衆、今出川殿へ禮ニ行、次條平甲參番、冷泉山科來入、次柴竹彥衛門來、

八日、晴、齋了、松木少將、持明院少將、令同道、宍澤雲齋宅へ行、美濃帋一束遣之、次鷹司殿へ參、次一條殿へ參、次伏見殿へ參、次竹內門跡へ參、次諸家禮ニ行、早朝左馬頭來、五明貳本進之、及晚、難波侍從禮ニ被來、美濃帋一束、五明五本給之、入夜、大雨、今出川へ御松丸疱瘡見舞ニ行、

九日、雨降、早朝、今出川へ松丸見舞ニ行、妙庵、全齋等出逢、有朝飯、午刻、雨晴、全齋へ禮ニ行、美濃帋一束出之、御弁、小引十把進之、數刻打談、有晚飡、入夜歸蓬蓽、次鷹司殿新大夫被來、次庭田少將來入、双瓶兩種給之、次冷泉少將來入、

十日、晴、意齋へ朝餉雖令約束、俄用所有之間、不行、女房衆、松丸見舞ニ今出川へ行、次、予、吉田二位へ禮ニ行、五明五本進之、次南禪寺語心院へ禮ニ行、毛穎五双遣之、次同聽松軒へ禮ニ行、及晩歸蓬蓽、雨降、曉天、雪降、

十一日、雪降、爲吉田代參番、阿野少將へ年筮遣之、

十二日、晴、齋了、照高院殿へ禮ニ參、御對面、有御盃、次妙法院殿へ參、御對面有御盃、次智積院へ行、筆五對遣之、暫有雜談畢、次持明院僧正へ鵝眼、兩斤遣之、次智光院殿へ參、水引十把進之、有盃扐、長岡越中息、次男、與五郎髻被切、南禪寺ニ蟄居、今日、初於賀光院、令對面畢、歸路大覺寺御門跡へ參、御對面有御盃、及黃昏歸蓬蓽、次、女院侍從御局より鱈十、昆布五束、樽二荷、被送之、女房達來之間、女房衆、予令對面薦一盞、女房達ニ美濃帋一束遣之、下部下女之中へ三十疋遣之、次予留守之間、小川坊城被來云々、齋了、三省來、五明三本進之、明日大坂令下向云々、仍平野遠江守方へ書狀遣之畢、次中院入道殿へ行、ヒイトロノ火カキタテ木二進之、

十三日、戊子、陰、爲實條卿代參番、及晩大聖寺殿御煩見舞ニ參、疱瘡云々、御快氣之、次爲滿朝臣許へ行、次松丸疱瘡見舞ニ行、咋日より快氣之、仍双瓶肴携之、入夜歸蓬蓽、

十四日、陰、齋了、上郎婦迎ニ乘物遣之、午刻上郎婦御出、美濃帋一束給之、次女院御局侍從殿へ二荷三種鯛五、するめ五まい、昆布三束遣之、うは乳母使之、予文遣之、有返札、次四條善藏來、扇三本進之、次紹元來、五明二本進之、次廣侍者來、

十五日、晴、庚申、拂曉、鞍馬毘沙門天へ參詣、女房衆、同上郎婦參詣、各令乘物用意、巳刻下向、次家中祝義如例、及晩今出川殿へ行、御松疱瘡大驗、今日湯ヲ被懸云々、仍爲祝義八木一俵進之、次御盃ニ參、先女院へ參、御日待依御神事、無御盞、御左毬打令見物、次年內今夜始而親王御方御相伴、有御盃、仍內々衆、各親王樣御迎ニ參、予同參之、次御盃ニ參、次左毬打六位藏人不參之間、予也淸涼殿御座可構之由仰之、仍構之、御吉書出之畢、次親王御方へ御盃ニ參、夜半後退出、勸修寺黃門被示之、來十九日女御腹、三宮樣、聖護院宮爲御弟子可有御入寺、可致供奉之由、內々仰之、可令用意云々、

十六日、晴、平野遠江守來、鵝眼百疋、杉原一束給之、及晩遠江守令同道、近衞殿へ參、次勸修寺黃門より來十九日三宮御入寺者必定之、彌以可致用意被示之、遠江靑侍少五郎、五明貳本進之、

十七日、雨降、遠江守滯留、朝食令相伴、次西洞院少納言許へ行、雖當番、令相博、

十八日、雲沃、家君御出、献朝食、平遠州歸宅、次風呂へ入、次冷泉亭へ行、次今出川へ行、次廣橋頭蘭許へ行、明日義相談、次南禪寺へ塗輿借ニ遣之、

十九日、晴、女御腹第三宮、爲聖護宮院御弟子、今日御入寺之、三歳之、供奉之衆、烏丸大納言、廣橋大納言、万里小路大納言、中院入道前侍從中納言、勸修寺中納言、伯二位、飛鳥井宰相、鷲尾宰相、頭辨總光朝臣、五辻之仲朝臣、正親町三條實有朝臣、阿野實顯朝臣、四辻季繼朝臣、富小路秀直朝臣、坊城俊昌、西洞院少納言時直、万里侍從孝房、甘露寺豐長、予等之、路次行列之次第、先女中、轅板輿八丁 次殿上人十一人塗輿轅 下﨟爲光、次宮御方御輿、板輿轅 次公卿八人、塗輿轅 卯刻、令衣冠各參内、有暫、宮御方、從女院、内へ渡御、從車寄被御輿召云々、此内、殿上人皆乘輿、宮御輿左右、北面衆八人、供奉公卿衆靑侍十人、布衣二人、雜色十人、笠持一人被連云々、此内、多人數之衆も有之云々、殿上人布衣一人、靑侍七人、雜色七人、笠持一人召連畢、予爲沓持、雜色八人召連畢、卯下刻、聖護院宮へ渡御、公卿殿上人、各先傍令休息、有暫、各爲祝義、太刀令持參、御禮申畢、次御盃參、三獻有之、公卿殿上人不殘御相伴之、有暫、有湯漬、七五三之、此後、麵、次すい物有之、及大酒、御寺衆、於御前、有御通、申下刻各退出、則直勾當局へ參、御供仕令退出由申入、次女

御へ申入、次女院へ申入、各歸蓬華、後聞、靑侍雜色不殘、於聖護院殿、有夕飯云〻、此度、予、塗輿轅、於相國寺想照院、令借用、簾不具、令迷惑畢、建仁寺十如院、轅輿有之云〻、

廿日、晴、爲年始御節、家君萱堂申入、梅龍夫婦、鷹司殿、新大夫、德庵母、同虎法師等來、全齋、依咳病、不來、及晚冷泉亭へ行、次全齋行、

廿一日、晴、冷泉亭、月次會初之、兼日題、鶯是万春友、愚詠、

鶯にいさなはれてやかしこきもいてゝつかふる萬代の春

當座、逐日雪深　　ふり初ていつれ眞砂こみし色もうつもれはつる雪の濱松　　大坂より已雲齋、夜前上洛之由、有使者、則今晚食可相調之由、申遣處、可被來云〻、仍家君、全齋、梅龍召之、及晚家君行、已雲齋より年甫爲祝義、鵝眼三十疋給之、

廿二日、晴、急令朝食參番、主上、小御所へ御出、予也、一人候御前、數刻、御雜談、未刻、御前ニ被召、鷲尾宰相、予兩人參御前、彼是御雜談共有之、於番衆所、夕食給之後、又參御前、御雜談共有之、御調合黑方一貝、予鷲尾兩人令拜領、尤忝次第之、秉燭之後退御前、夜番衆へ一盞相可酤之、双瓶一重箱令持之、中院侍從、假名筆、五對被惠之、良筆之、

廿三日、陰、全齋來談、宮川智光院へうつほの物語、全部目録尋遺處〻、先年淸光院方々被尋之、雖然、全本無之云〻、源氏よりは少よしと云〻、禁中うつほ御本雖有之、全本不知之間、智光院若被覺否、可尋之由、勅定之、仍尋遣處、右之返事之、返札卽備叡覽、則御所被留置之、次家へ君參、次高尾大智院中將禮〻來、蔫晩飡畢、五明五本給之、入夜中院侍從來談、松浦宮物語配卷令寫之、

廿四日、雨降、家中遠侍、中間共、愛宕山へ參詣、次冷泉爲滿朝臣、息男、兩人年始、爲禮來入、兩種双樽給之、女房衆方へ鵝眼三十疋給之、青侍共扇被惠之、隔心之義之、大學讀書、蔫吸物、調盃酌、入夜中院侍從來入、松浦宮物語出來云〻、予也、初卷一帖書之、

廿五日、晴、齋了、參內、明日爲參賀、御座敷共被取置、及晩退出、

廿六日、晴、各御參賀、八條宮、妙法院宮、梶井宮、同御弟子御所、仁和寺宮、伏見殿、聖護院宮、近衞殿、鷹司殿御方御所等、長橋局車寄より御參內之、九條殿、鷹司殿、於議定所、御對面、二條殿、於御三間御對面之、次外樣衆悉御禮被申、次三寶院殿、御禮、次理性院、神光院等御禮被申ゆ、次持明院僧正御禮、此僧正、去冬爲大覺寺御門跡御末寺、初而被任僧正、上野之住僧正之、舊冬依無御對面、今日參內之、次諸寺御禮　僧衆、前後坐爭有之、參次第、御對面之、仍參次第之帳、予

付之畢、先大德寺、同三玄院、妙心寺、康德寺、淨華院、松林院、泉涌寺、禪林寺、正法寺、眞如堂、誓願寺、西敎寺、知恩寺等之、於清凉殿、西面間、御對面之、次於黑戶、遊行上人淸水寺、本願、石淸水別當善法寺、次醫師衆等、御對面之、予及晚、退出、

廿七日、晴、親王御方御祈禱有之、可參之由、有御觸、當番之由、令申候處、親王御方より、御理可有之間、可參之由、重而仰之間、令伺候、及晚參內、

廿八日、晴、明日諸家、秀賴公へ御禮云々、仍早々冷泉爲滿朝臣、令同心、伏見より乘船、大坂へ下向、大炊殿一宿、

廿九日、齋了、冷泉令同心、著衣冠、大坂城へ參入、各參集之後、禮被請之、午刻斗歟、攝家門跡有三獻、淸花平名有一獻、未下刻各退城、存庵、晚飡可振舞之由、令約束之間、冷泉殿令同心、存庵宿へ行、次片市正へ行、依沈醉、無對面、次片主膳許へ行、燒物三具遣之、近衞殿從先程有御成御酒半之、亥刻、平遠江守許へ行、

卅日、晴、遠州ニ滯留、及晚、長印許へ行、

二月小

朔、丙午、平遠江守許ヘ近衛殿御成、連哥令興行、予也、加連衆畢、亥刻還御、

二日、晴、近衛殿御方、丹後許、茶湯御出、予也可參御相伴云々、仍令御供、丹後許ヘ行、近衛殿則御上洛、予也遠江許ヘ歸、伊勢物語、半卷讀之、及夜大炊殿許ヘ行、

三日、晴、於大炊殿、令朝食、辰刻上洛、遠江守馬送之、次東寺法嚴院ヘ行、鵝眼二十疋進之、黃昏歸蓬蓽、

四日、晴、女院御所可參之由、有御觸、咳病之故不參、飛鳥井宰相來談、來八日、於禁中、和歌當座有之云々、入夜阿野少將來談、

五日、庚戌、晴、入夜、今出川ヘ行、性院、全齋等雜談、微雪、

六日、晴、平野部右衛門許ヘ梅龍軒、全齋令同心、晚湌ニ行、歸路、今出川ヘ行、松丸咳病見舞之畢、

七日、晴、齋了、參番、於御前、親王御方ヘ孝經序中程五六行、奉教授之、

八日、陰、今日和歌御會之、被召人數、照高院准后、八條宮、大覺寺宮、竹內宮、日野大納言光宣

卿、廣橋大納言兼勝卿、持明院中納言基孝卿、山科中納言言緒卿、中院入道前侍從中納言素然、勸修寺新中納言光豐卿、飛鳥井宰相雅庸卿、三條宰相中將實條卿、鷲尾宰相隆尙卿、頭右大辨光廣朝臣、頭左中辨總光朝臣、水無瀨中將氏成朝臣、左馬頭之仲朝臣、阿野少將實顯朝臣、四辻少將季繼朝臣、左衞門佐秀直朝臣、飛鳥井少將雅賢、西洞院少納言時直、予等之、百首御當座之、予探得題、柳無氣力　爐火似春　憑誓言戀已上三首之

春の色はそれとはかりに白露のむすふもよはき青柳のいと　秀賢

さりやとてくらせる程や春の日のひかりにあたる埋火のもと　秀賢

さりともとをもひかへして幾年かたのみて過ぬちかふ心を

申刻各退出、無講頌、有一獻、及黃昏、頭右大辨亭へ向、水無瀨中將、阿野少將兩人、予以前より被雜談、幾刻打談之、當座五首宛可讀之由、被催之間、令同心、至東方既白、歸蓬蓽、

九日、雨降、齋了、參內、今日龍山爲年始、御禮御參內之、仍廣橋父子、鷲尾宰相、左衞門佐、滋野井侍從、予被召之、女院へ龍山御成、各令御供、次親王御方へ龍山御成、各又親王御方へ參、及黃昏退出、入夜、爲言緒卿代參番、

十日、雨陰、存庵方より書狀到來云、秀頼公爲仰、短册五十枚來、花山院大納言、勸修寺中納言、冷泉中將、中院侍從、予以上五人十枚宛、令書遣之由仰之云々、各へ自予方可相届由之、仍各へ令持參、右之旨申渡畢、次山科亭へ行、數刻打談、次今出川へ行、御松咳病見舞畢、

十一日、陰、及晩、飛鳥井へ行、次冷泉へ行、爲家卿自筆新勅撰令拜見、驚目畢、定家卿奥書有之、

十二日、晴、冷泉爲滿朝臣來談、郎令同心、庭田少將へ行、次中院へ行、次極﨟へ行、次烏丸頭蘭へ行、入夜參番、

十三日、晴、巳刻、大霰降、冷泉爲滿朝臣許へ行、彼息近日首服云々、仍令見舞者之、次全齋へ行、

十四日、晴、巳刻、女房衆、令産、今月八月之、仍傷胎産後平安之、令滿足畢、全齋、梅龍軒等見舞被來、次中院侍從來談、次好庵來談、薦晩飡、次賀茂猪兵衛見舞ニ來、五明二一本進之、

十五日、庚申、晴、今日庚申有御遊云々、雖有召、有産之故、不參、次全齋へ行、及晩、梅龍軒、同宰相、宰（衍り）相等、令誘引、於予亭、守庚申畢、夜半後、各歸宅、次冷泉爲滿朝臣來談云、今日息男叙爵勅許云々、然ニ來十八日可令首服云々、

十六日、晴、平野部左衛門より太平記見ニ來、次從山科黄門、諸家傳、借寄、令一覽、

十七日、晴、今日、大樹御上洛之由、令風聞之間、冷泉、山科、七左等令同心、大津迄、御迎ニ行、雖然、無御上洛之間、卽時歸蓬華、及晩、冷泉亭へ行、入夜雨降、

十八日、雨降、性院、喜多坊、法身院、密藏院敬俊等來入、薦朝食、次中院侍從より手本一爲見ニ來、多分可爲行成卿筆之由、申遣畢、次今日晩、冷泉息千壽丸元服云々、仍爲祝義、三種二荷遣之、及晩、向冷泉亭、於彼亭令衣冠出座、加冠、勸修寺中納言光豐卿之、著座、公卿光豐卿、六條宰相有廣卿、鷲尾宰相隆尙卿等之、列座之衆、山科中納言、四條少將隆昌、土御門左馬助久脩、內藏頭言緒、予等之、理髮、極﨟孝治、今度首服之作法、大概予令指南畢、新冠、今年十四歲云々、

十九日、陰、辰刻、御方御所へ參、有御讀書、次參內、今日甲子之、仍、有御遊、八條宮、揚明、中院入道、勸修寺中納言、鷲尾宰相、水無瀨中將、五辻左馬頭、阿野少將、四辻少將、坊城右中辨、甘露寺右兵衛佐、万里小路侍從、予等之、申刻、御當座、五十首有之、予、餘寒月、海旅、兩首詠之、入夜盤上御遊之、及鷄鳴、各退出、今日、午刻、大樹伏見御着城云々、

廿日、晴、冷泉、六條、內藏頭等令同心、大樹へ參、今日ハ依御草臥、無御對面、歸路、東福寺立寄見花畢、日入之比、歸蓬華、次冷泉より三種二荷、被送惠之、

廿一日、親王御方へ參、孝經奉授之、次參番、實顯代之、同參宿、已雲齋、并遠江守より書狀到來、
午後雨降、
廿二日、雨降、參番、未刻、親王御方へ參、孝經奉授之、及晩、竹內極﨟許へ行、入夜歸蓬華、
廿三日、齋了、竹內令同心、久我大納言殿へ行、五明三本、かな筆二對進之、次風呂へ入、竹內ニ一
宿、
廿四日、晴、齋了、竹內極﨟令同心、東山龍山へ年始之御禮ニ參、檀帋一束進之、御對面、數刻御雜
談、宗養、連哥之事共、申入、其覺共令語之給、たゝ袖に春風ちかし梅花、宗養、於若狹、獨吟之、
此獨吟、宗養自慢云々、歸路、鹿谷不動、次黑谷へ參、及晩歸蓬華、御內樣、愚宅へ令同心、薦晩飡、今
日午、家君御繼母逝去、
廿五日、晴、聖廟之御法樂有之云々、雖有召、依產穢、不參、入夜竹內令同心、冷泉へ行、
廿六日、晴、齋了、烏丸殿、六條殿、冷泉殿、四條殿、山科內藏頭殿、令同心、伏見へ大樹御見舞ニ行、
三月三日迄、無御對面、重而可參之由之、歸路、豐國社へ參、次淸水寺へ參、花最中之、及黃昏歸蓬
華、入夜、爲兼勝卿代參番、

廿七日、晴、參番、女院有御花見、依召參院、八條宮、照高院准后、一乘院准后、大覺寺宮、曼殊院宮、近衛殿、鷹司殿等、御相伴、廣橋大納言、同頭辨、勸修寺中納言　中院入道、持明院中納言、白川二位、三條宰相中將、鷲尾宰相、左馬頭、阿野少將、四辻少將、左衛門佐、平少納言、滋野井侍從、万里小路左少辨、高倉侍從、坊城右中辨、右少辨、庭田小將、予等之　從未刻、至戌刻、大酒、各酩酊、不斜者之、入夜參番、

廿八日、陰、冷泉亭、月次和哥會之、依余醉、不出座之、然共、短册被送之間、令詠遣之、竹内來談、入夜大雨、

晦日、大雨、家君御出、砂石集外題書之、次前□侍勸之御□□與、九條殿へ參、風呂へ入、及晩歸蓬華、入夜參番、俊昌代之、

三月大

朔、乙亥、竹内極﨟來談、鬪雞觸狀次第等、被讀合、次第書付遣之、

來三日、鬪雞三羽可令持參給之由、被仰下之、各可得御意候之　追申候宿帋拂底之間、先内々申入候、

三月一日　孝治

頭辨殿光廣朝臣　頭左中辨殿總光朝臣　大內記殿爲經朝臣　冷泉中將殿爲滿朝臣　左馬頭殿之仲朝臣　源少將殿重定朝臣　三條少將殿實有朝臣　阿野少將殿實顯朝臣　四辻少將殿季繼朝臣　左京佐殿秀直朝臣　四條少將殿隆昌朝臣　右少將殿季康朝臣　冷泉少將殿爲親朝臣　左兵衛佐殿兼治朝臣　藏人辨殿俊昌　左馬助殿久脩　園少將殿基任　飛鳥井少將殿雅賢　平少納言殿時直　猪隈少將殿教利　四條侍從殿隆致　中御門少將殿宗信　持明院少將殿基久　日野侍從殿光慶　內藏頭殿言緒　藤侍從殿永慶　左少辨殿孝房　右少辨殿宣衡　中院侍從殿通村　廣橋侍從殿兼賢　難波侍從殿宗勝　滋野井侍從殿冬隆　高倉侍從殿嗣良　白川侍從殿顯成　左衛門權佐殿共房　堀川侍從殿康満　右兵衛佐殿豐長　春宮權大進殿業光　式部少輔殿秀賢　冷泉侍從殿爲賴　祭主殿種忠　新藏人殿泰重　秀才殿在通

如右、書付遣之、名乘之爲覺、註之畢、次紹元來讀、小學注本四册借遣之、次九條殿へ參、職原抄講之、今日初度之、攝政關白之段迄講之、及晚揚明へ參、次一乘院殿へ參、有御對面、暫御雜談有之、入夜御盃ニ參、

二日、晴、齋了、參番、於御三間、親王御方、御讀書奉授之、主上暫有御雜談、
三日、晴、早朝、六條宰相、冷泉中將、四條少將、山科內藏頭、烏丸頭辨、予令同心、大樹へ御禮ニ參、著烏帽子狩衣、今日大名衆御禮之、先京極宰相、播广池田中將、安藝福嶋少將、美作毛利右近侍從、丹後京極修理、稻葉彥六等之、此外諸大夫五六十人有之、其次、醫師衆、御禮被申之、有暫、六條宰相以下、太刀令持參、御禮申之畢、大名衆御禮申間ニ御前令候畢、各禮畢之後、烏丸大納言、花山院大納言、同少將、飛鳥井宰相、同少將等御禮ニ被參、大納言兩人、太刀披露、其外持參、午刻超歸路、始之衆令同心、予便當令携之間、於稻荷山中、令調義、傾數盃畢、自稻荷、山越ニ東福寺へ行、及晚歸蓬華、入夜親王御方へ御禮ニ參、次女御殿へ御禮ニ參、次、女院へ御禮ニ參、次御盃ニ參內、親王御方、御盃御相伴之、仍御盃御前、女御殿へ親王御方御迎、內々衆各參、予執燭之、盃畢後、又女御殿へ親王御方還御、各又奉送入畢、各退出、
四日、晴、齋了、參內、明後日より可有御能ミミ、爲令御座敷共御取置之、被召衆、鷲尾宰相、五辻左馬頭、阿野少將、四辻少將、左衛門佐、小川坊城、右中辨、滋野井侍從、予等之、未刻各退出候、次家君御出、法幢院來、

五日、晴、昨夜女院事外御病惱云〻間、早朝、內藏頭令同心、御見舞ニ參、次、平已雲齋來談、平遠州より懸硯一到來、

六日、晴、朝飯ニ花山院へ行、次、女院へ御見舞ニ參、未刻九條殿へ參、職原抄講之、及晩有鞠、次冷泉亭へ行、

七日、拂曉より參內、雨降、雖然、御能有之、大夫女之、堺之住人云〻、浮舟大夫号ト云〻、御相伴之衆、照高院殿、一乘院殿、大覺寺宮、聖護院宮、曼殊院宮、八條宮、近衞殿、鷹司中將殿、入江殿、光照院殿等之、廣橋父子、烏丸父子、白川父子、持明院父子、勸修寺新中納言、万里小路父子、飛鳥井父子、鷲尾宰相、三條宰相、中院入道、山科父子、小川坊城、西洞院少納言、四辻、阿野、左衞門佐、五辻、水無瀨父子、滋野井、難波、甘呂寺右少辨、松木、庭田、藤宰相父子、高倉、予等之、御能數十番、脇、賀茂、敦盛、釆女、愛壽、車僧、橋辨慶、當广、蘆刈、三輪、女郎花、吳羽之、及黃昏、各退出、予當番一宿、

廿八日、陰、齋了、參內、後朝御能有之、嵐山、八嶋、源氏供養、行家、葵上、花月、盛久、高砂之、御能以後亂酒之、及黃昏、各退出、予五六人居殘、御取置候之、戌刻退出、

九日、晴、性院僧正來談、高雄山可令結界申狀等、及相談、午刻、吉田へ行、長岡越中守、一二三日以前、上洛、依煩、吉田ニ被山居、仍爲見舞行向、病惱故、誰ニモ無對顏云々、次二位亭へ行、數刻打談、神事雜穢之事、部類記三四卷、取出被見之、及晩坊城亭へ向、鷄冠井村百姓共不謂事共申付而各令相談可申付云々、及黃昏、祭主亭へ向、次庭田令同道、風呂へ入、

十日、陰、叡山月藏坊來、鵝眼二ケ惠之、毛詩注本十五六卷并小本兩策借遣之、次中院侍從へ行、次九條殿へ參、入夜歸蓬華、

十一日、晴陰、齋了、伏見へ大樹御見舞ニ行、事外御機嫌之、牡丹年月令持出給可花與空?左禮共共之、有御振舞、入夜歸蓬華、

十二日、晴、齋了、參番、於御前、數刻有御雜談、次親王御方、從昨日御煩云々、仍御見舞ニ參、次大炊殿より春屋筆跡取ニ來候間遣之、五郎左衛門誂之、然共先遣之、

十三日、晴、平遠州許より書狀到來、先日預ケ置かゝけ硯、兵吉、半兵衛兩人ニ可渡云々、仍渡之畢、此方使、新右衛門之、親王樣へ參、次冷泉亭へ行、及晩家君、全齋等御出、

十四日、晴陰、掃部頭來談、次郡村之事ニ付而行、田下代來、次敬俊來、次親王御方へ御見舞ニ參、及

晩雨降、

十五日、陰、午刻冷泉へ行、次山科へ行、今日右大將殿永原へ御着云々、

十六日、雨降、親王御方へ見舞參、一乘院殿へ參、入夜筮勘之、一條院殿御誂之、

十七日、晴、已雲齋令同心、近衛殿へ參、次親王御方へ參、筮一乘院殿へ進之、

十八日、雨降、及晩冷泉亭へ行、冬隆爲代參宿番、

十九日、晴、爲宣季代參番、及晩光丸乳母夫(ヲツト)初而來、三荷三種進之、女房衆へ足袋一足進之、令對面、小袖一つ遣之、次冷泉、山科、烏丸辨、左馬助來談、薦晩飡、

廿日、晴、右幕下江州永原ニ御滯留之間、爲御見舞、烏丸辨、馬令借用、冷泉、山科內藏頭、土御門左馬助、予等折令持參、午下刻永原ニ着、於傍、改衣裳、御宿所へ參、則大くほ相模守、出逢之間、御見舞之申處、やかて御對面之、則御暇申歸、及日暮、奴僕草臥之間、勢多別保ニ一宿、

廿一日、晴、日出以前歸蓬華、及黄昏、入風呂、次冷泉亭へ行、今日右大將殿伏見へ御着云々、路次行粧驚目也、前後騎馬三千騎余云々、東國諸大名、悉馬也云々、

廿二日、陰、雖當番令相博、伏見へ右幕下御見廻ニ行、卽御對面之、次右府公へ參、御對面、有御振

舞、次最上殿へ行、入夜歸蓬華、

廿三日、陰、親王御方見舞ニ參、次家君へ參、次九條殿へ參、次六條宰相へ行、冷泉、山科令同心、有粥盃酌及度々、入夜歸蓬華、未刻甚雨、

廿四日、晴、齋了、廣橋辨へ行、數刻打談、次勸修寺黄門より宿帋所望ニ來、一帖遣上、來廿九日、右幕下御參內云々、仍爰元御前路令掃除畢、次九條殿へ參、職原抄講之、及晩、雨沃、入夜九條殿御方進ニ御成恩宅、一折一樽令拜領、〇女院御所、侍從局へ一折一樽令音信、〔〇以上の十五字廿四日の終と廿五日の條の行間に在り。或に拜領につゞくにや〕

廿五日、晴、巳刻より伏見ニ行、右大將殿へ參、御對面之、匂袋十五進之、さかい兵衛大夫奏者之、山科父子、冷泉、土御門、六條、予等之、及晩、右府へ參、數刻有御雜談、御振舞已後、退出、三淵伯耆守宿所へ行、令休息一宿、

廿六日、晴、早朝、大くほ相模守へ行、遂對顏、匂袋五遣之、次大くほ加賀守處へ行、匂袋五遣之、兩所、山科內藏頭、六條、冷泉令同心畢、次三淵伯耆宿へ歸、令朝食、令休息之處、烏丸辨來訪、卽令同心、右大將殿へ參、懸御目、次右府へ參、有御振舞、及晩退出、日沒之比、歸蓬華、

廿七日、丑晴、早朝聖廟ヘ參、歸路、高麗人伏見ヘ行ニ出逢、於油小路、令見物畢、冷泉爲滿朝臣より鱒五被送惠之、齋了、參番、當季令扶助靑侍、自富小路有理、子細依有之、逐出畢、治部卿來、次畑九左衛門來、

廿八日、陰、晡時、雨沃、實條卿爲代參宿番、

廿九日、晴、平野遠江守來、右大將秀康(忠カ)卿御參內之、先伏見より二條之御城ヘ御成、次ニ於藥院御裝束、山科、冷泉候御裝束ニ、烏丸父子、予、藥院ニ相待、懸御目、參內御成之程、立石之邊迄、各御迎ニ出、傳奏兩人、日野父子、烏丸父子、飛鳥井父子、藤宰相父子、山科父子、冷泉、四條、予等令御供、自四足門參內、先鬼間ニ御休息、有暫、主上出御、右大將、淸凉殿於西間御禮、進物御太刀御馬、銀子二百枚、綿千把、親王御方ヘ、進物御太刀、御馬、銀子百枚、親王御方同御座ニテ御對面、三獻參、次大名衆御禮、米澤中納言景勝、京極宰相、伊達少將政宗、毛利右近少將、池田三左衛門少將、佐竹少將、最上少將、毛利宰相、丹後侍從、稻葉侍從、會津侍從等之、各御太刀、御馬進之、天盃被下之、次右大將御退出、山科父子、冷泉、予、藥院迄奉供、後退出、

卅日、雨降、午刻、西洞院少納言許より送書札云、庭前之藤花春猶深云々、仍卽行、六條相公、竹

內極﨟出逢、及黃昏、歸蓬華、

四月大

朔、乙巳晴、六條相公、冷泉中將、烏丸頭辨、山科內藏頭令同心、大樹ヘ參、則御對面之、其後右大將ヘ參、御對面、哺時歸宅、今日、其外、大樹御見舞之衆、烏丸大納言、廣橋父子、花山院大納言、日野父子、勸修寺中納言、藤宰相父子、飛鳥井父子、水無瀨中將、土御門左馬助等之、

二日、陰、愚足腫物出來之故、番百川侍從ヘ令相博、又雖被召御取置、依腫物不參、筑後來、腫物之義傳之、入夜冷泉、山科內藏頭來談、有盃酌、

三日、陰、桶大工來、五斗樽三ッ桶盤等令細工、次筑後來、藥付之、次冷泉より青侍、烏帽子單襖幷雜色具等借來之間、召遣之、次親王御方より有召、依腫物不參、及晚親王御方ヘ參、孝經奉授之、黃昏退出、未刻微雨沃、入夜冷泉中將、山科內藏頭來談、

四日、陰、令行水、齋了、鎭宅靈符行之、巳刻より雨降、乘物令買得、代銀子十六匁目之、午刻親王御方ヘ參、孝經奉授畢、及晚於近衛殿政所殿、有御振舞、令沈醉退出、今日、大樹御上洛之由、內々

有沙汰、依雨延引云々、
五日、晴、及晩九條殿へ參、
六日、朝雨降、巳刻晴、全齋來談、及晩梅龍軒へ行、
七日、晴、齋了、參番、午刻親王御方へ參、孝經奉授之、
八日、晴、池田三左衛門息男、備前侍從照直、今日昇殿、仍各參內、大樹二條之御城へ御上、羽柴越中吉田ニ被居之間、見舞ニ行、
九日、晴、未刻、雨沃、巳刻、參內、今日最上息男、羽柴越中息男、昇殿、仍各參內、及晩大樹へ參、○
〔○行間ニ「最上、今日侍從名乘家親、羽柴越中息、內記、今日叙爵、侍從、名乘忠利」あり〕
十日、晴、大樹御參內、仍早朝參內、辰下刻、大樹御參、塗輿唐門之外迄被召、仍各唐門外迄御迎に被出、自長橋局御參、長橋局へ御供ニテ參衆、烏丸父子、日野父子三人、廣橋父子三人、万里小路父子、勸修寺、藤宰相父子、六條飛鳥井父子、山科父子、四條隆昌、柳原、予、冷泉侍從等之、右衆即御供以前ニ參、大樹御酌ニテ右之衆廿二人御通被下候、此衆昵近之衆之、大樹御進物、綿二百把、銀子百枚、親王御方へ銀子五十枚、有三獻畢、後、女院へ大樹御參、女院へ御供之衆、廣橋父子三人、

万里小路父子、勸修寺、予迄之、女院ヘ進物、紅花二百斤云々、有二獻畢、後御退出、於長橋局有一獻、午上刻御退出、各唐門外迄送申畢、次禁中御座敷御取置有之、未下刻大樹ヘ參、御對面、との外御機嫌之、入夜飛鳥井亭ヘ行、鞠之裝束令談合之處、紫末濃之袴可着用云々、鞠天上紫紅、杏之外は紅色ヲ着用も不苦云々、文紗不苦之、露なとは紫も紅も不苦云々、

十一日、晴、齋了、烏丸頭辨之許ヘ行、次、今日、大樹御息、松平上總介忠輝昇殿、被任叙從四位下少將、仍各參內、未刻主上御對面、天盃被下、進物御太刀御馬、銀子五十枚、親王御方同座、御對面之、御太刀銀子三十枚、被進之、及晚冷泉、山科令同心、大樹ヘ參、

十二日、晴、諸公家、諸門跡大樹ヘ年頭之御禮之、仍爲御見舞大樹ヘ參、令同心衆、山科內藏殿、冷泉中將、六條宰相、烏丸頭辨、四條少將等之、入夜參宿番、候御前、水無瀨中將ト中將碁被遊、令見物、御雜談共有之、

十三日、晴、松浦法印ヘ双樽一折、芍藥花等贈之、留守之云々、大樹ヘ參、不懸御目、及晚勸修寺亭ヘ行、次山科亭ヘ行、次宮務ヘ行、入夜歸蓬華、

十四日、陰、早朝、九條殿ヘ參、職原抄談講之、有御振舞、次大樹ヘ參、有暫御出、予也有御尋之義、

子細者、近日醫者衆、院號稱之衆、繁多之、爲勅命如此哉、私ニ如此義歟、如此繁多ニハ有間敷被思召之由之、予尤之由申候、內々可得勅意之、其旨以傳奏御尋可有之云々、未刻雨降、

十五日、雨降、大外記、官務來談、次小史定照、出納將監等來、次竹內來談、

十六日、早朝、六條宰相、冷泉中將、山科內藏頭、四條少將令同心、伏見へ行、今日大納言源秀忠、被任將軍、有宣下、上卿、勸修寺中納言、奉行、廣橋頭左中辨總光朝臣、職事、右中辨俊昌、參木、雅庸、巳刻有宣下云々、此次、被任內大臣淳和院別當、次被叙正二位越階之、前從三位、氏長者奬學院別當者、前將軍御兼帶之、仍淳和院斗被宣下、位記、五條大內記爲經朝臣、作進請印、西洞院少納言、輔代、中務亟源孝治、午刻伏見へ上卿以下今日宣下之役者悉被參、秀忠則紅直垂御着用ちいさ刀令指給、出御（山科父子、六條、冷泉、四條、予也、自奥間令御供、候簀子）次、爲勅使廣橋大納言被參、（直衣著用如何、不有識歟）被示宣下、後着座、次上卿着座、次參木着座、次奉行、次職事、次少納言、次輔代、各着座畢、官務將軍宣旨持參、於簀子、細川侍從源忠利請取、御前へ持參、有御頂戴、被置右御脇、卽沙金二裹入覽莒被拜領、官務卽令頂戴退、次大內記爲從朝臣、位記持參、於座敷下、細川侍從請取、御前へ持參、御作法如先、卽沙金一裹拜領、次淳和院別當宣旨、官務持參、作法如先、次大外記、內大臣宣下持

參、如先、次牛車兩宣旨次第ニ持參、如先、午後　勅使上卿以下祿給之、廣橋大納言ヘ金子五枚、上卿ヘ金十枚、奉行辨、五枚、職事、五枚、參木、御服一重、金一枚、大內記、御服一重、少納言、御服一重、金一枚、輔代御服一重、金一枚、各於坐中披露、　勅使上卿兩人ニ鞍置馬被下之、次各起座、御太刀進上、被禮申之後、各退出、御身固ニ土御門左馬助久修被參勤、秀忠着座後、即可被候之處、上卿以下着座、以後被參御身固、時刻失念歟、惣地下悉御禮申、御太刀進上畢、後山科父子、六條、冷泉、四條、予等御太刀持參、御禮申畢退出、次前將軍ヘ參、方外御機嫌之、有晩飡、日沒以前、歸蓬華、今夜庚申待之、仍參內、

十七日、晴、將軍二條御城ヘ御上、及晚御見舞ニ參、御對面之、次溝口外記處ヘ行、冷泉、山科令同心、留守之內、申置畢、扇子十本遣之、入夜參番、

十八日、晴、六條亭ヘ行、次押小路亭ヘ行、今度宣旨共錄、拜領爲述悅詞之、次冷泉亭ヘ行、次全齋ヘ行、家君只今從氷室御出京、次六條殿令同心、二條御城ヘ行、內相府內義御用し由之、仍頓而退出、平遠州來、一宿、

十九日、從昨夜雨降、今朝、於全齋、平戶法印被振舞、予也相伴ニ可來之由被示、仍、早々向全齋

亭ニ、有暫、法印被來、色々雜談共有之、午下刻、冷泉、六條令同心、二條へ行、內相府懸御日、碁將碁共有之、頓而退出、三男千世丸、從病惱、妙庵召ニ遣之、則來、一藥調合、遠州滯留、

廿日、晴、甲子齋了、參內、甲子待依召之、夜半後退出、今日鷹司殿御方御所、御讀書、家君師範ニ御參、孝經之、

廿一日、雨降、御取置ニ參、次大樹秀忠公より小袖一重（一ツハ綾一ツハ折筋）金子一枚拜領、御使小澤瀨兵衛尉云々、卽御禮ニ參、以大久保相摸守御禮申入畢、有暫退出、山科明日御參內之裝束等被點撿、予也令合力畢、次久我殿へ行、次家君へ參、今日法會等令雜談、次山科亭へ行、次富小路左衛門佐へ檀帋廿帖遣之、

廿二日、晴、路次、依泥滑、無御參內、齋了、參內當番之、宿松木少將ニ相博、及晩、平遠州伏見へ被歸、

廿三日、晴、齋了、冷泉中將、山科內藏頭、六條、宰相令同心、大樹秀忠公へ御見舞ニ參、次前大樹爲御見舞、伏見へ行、及晚歸宅、兩所なから懸御目畢、入夜全齋へ行

廿四日、晴、微明、小澤瀨兵衛尉許へ行、先御使爲禮之、薰衣香五袋遣之、次太久保相摸守許へ見

舞ニ行、錫三双遣之、午刻、御取置ニ參內、次大樹へ參、次最上出羽守へ行、有晩飡、古今古本被見之、歸路九條殿へ參、入夜平遠州來、次烏丸頭辨來談、

廿五日、陰、大樹可有御參內云〻、依雨、延引、辰刻より甚雨、齋了、親王御方へ參、孝經奉授、序分、今日終畢、入夜、平遠州來、

廿六日、陰、今日、大樹、秀忠公可有御參內之由之、仍齋了、着轡唐草夏袍、參內、堂上衆、悉參集、巳刻末、大樹參內、入唐門、長橋局へ渡給、經御湯殿、參御御前、進上銀子千枚、御太刀、廣橋大納言被披露之、親王御方、同御座敷、御對面、銀子百枚御進上、御太刀、勸修寺中納言被披露、次御盃參、初獻ぼうさう御酌藤典侍、日野輝資卿長女之、則御前御配膳之、大樹御前、四辻少將配膳之、親王御方御前、新典侍、兼勝卿息女配膳之、二獻、鯛すい物、御酌、同藤典侍、三獻一物、大樹御酌ニテ主上へ參、後天酌、大樹令參給、後大樹御酌ニテ、女中有御通、其後昵近衆御通ニ參、烏丸大納言光宣卿、日野大納言輝資卿、廣橋大納言兼勝卿、万里小路大納言光房卿、山科中納言言經卿（言緒カ）、勸修寺中納言光豐卿、藤宰相永孝卿、六條宰相有廣卿、飛鳥井宰相雅庸卿、左大辨宰相資勝卿、頭辨光廣朝臣、頭左中辨總光朝臣、四條少將隆昌朝臣、土御門左馬助久脩、飛鳥井少將雅賢、日野侍從

光慶、內藏頭言緒、藤侍從永慶、左少辨孝房、廣橋侍從兼賢、柳原春宮大進業光、予、冷泉侍從爲賴等之、土御門、昵近之沙汰不聞、及今日、御通ニ被出不審云〻、御通終後、主上入御、次大樹女院ヘ御成、廊下つゝき之、御供ニ候衆、廣橋大納言、勸修寺中納言、万里小路大納言、同侍從、予等之、此間昵近之衆、常御所西緣ニ被候、於女院、有三獻、大樹御酌ニテ各有御通、後還御、於長橋局有獻之、二獻之、四辻少將配膳之、公卿衆御通有之、御還、御唐門外立石之邊マテ車ニ被召、路次行粧事外之云〻、先同明權阿彌乘馬、臺皮籠二荷、令荷持、次先打、青山常陸介、板倉伊賀守兩人騎馬、次隨身衆十二人乘馬、次諸大夫百人步行、次布衣十人、次御車、次騎馬諸大夫十六人、次轅輿十三丁、毛利宰相、米澤中納言、京極宰相、福嶋、嶋津、最上、佐竹、松平、上總介殿、池田越後侍從、加賀侍從、會津侍從等之云〻、今日日出之比、女御殿、皇子、御誕生云〻、仍鷲尾、廣橋辨令同心、御見舞ニ參、龍山一乘院殿御出、有盃酌、及晚大樹ヘ參、

廿七日、晴、今日、諸公家衆、諸門跡、大樹ヘ御禮云〻、仍雖當番、菊亭侍從殿ヘ令相博、殿中ヘ參、予、御禮者、先日申之、只爲御見舞之、辰下刻、出御、勅使廣橋大納言、勸修寺中納言、次八條殿、伏見殿、攝家衆御禮、御太刀、細川侍從披露之、大樹廣緣迄送給、次諸門跡御禮、御太

刀、同細川侍從披露、次諸公家御禮上卿衆之、御太刀、酒井兵衛大夫、酒井宮内大輔、兩人披露之、自參木業至殿上人、各持參、次諸寺社禮有之、此間六條、飛鳥井、冷泉、烏丸辨、内藏頭、予、土御門、冷泉侍從等候緣畢、午刻、歸蓬華、今日、大樹伏見へ御下向云々、次自大樹、御いまへ金子一枚、小袖一重被下、次大久保加賀守より太刀折帋、曝布廿端、被贈、予也參番之由、令返答、切手遣之畢、及晩雨降、薄暮參番、勾當局、四辻少將、予也申口へ可參之由、令示、仍則參銀子二枚拜領、一枚ハ大樹御進上之御賦之、一枚御取置之骨折分之、四辻同二枚拜領之承由申之、土岐見松齋より金龍丹給之、

廿八日、晴、早朝主上番所へ出御、暫有御雜談、其次前大樹銅鑄一字板十万字可有調進之由、先日上送之由、令披露之處、事外叡感之、

廿九日、晴、家君令御供、伏見へ行、大樹へ家君檀帋二束、御進上、酒井兵衛大夫披露之、次前大樹へ御見舞、事外心懸之、有御振舞、及晩歸蓬華、

卅日、晴、家君令御供、香集齋へ行、伏見へ被行、留守之、次梅龍軒へ行、及晩、廣橋大納言腫物見舞ニ行、次冷泉へ行、次家君へ參、大久保加賀守へ先日之禮ニ書狀遣之、

五月小

朔、乙亥、曉天より雨降、家君へ參、次鷹司殿御方御所へ參、孝經奉授之、次近衛殿へ參、及晩御盃ニ參、次親王御方へ參、

二日、晴、令急朝食、參番、於御前、御雜談共有之、未刻親王御方へ參、孝經奉授之、日入、御前參番、

三日、晴、伏見殿中有御猿樂、四座立合云々、内々可令見合之由、雖令支度、御座敷狹之由風聞、仍不參、後聞、烏丸大納言、日野大納言、勸修寺中納言三人出頭云々、

四日、晴、今日殿中御猿樂之、仍未明ニ伏見へ行、六條宰相、藤宰相、日野宰相、烏丸頭辨、廣橋頭辨、冷泉中將、四條少將、土御門左馬助、山科内藏頭、堀川侍從、予、冷泉侍從等之、辰刻御猿樂始、今春、觀世兩人立合之、式三番今春、賀茂今、張良觀、熊野金、項羽金、舟辨慶觀、自然居士金、天鼓觀、善知鳥今、三井寺觀、葵上金、祝言岩舟今若大夫、舟辨慶、過後、御簾被下、大樹於御前、御通有之、其後御振舞有之、戌上刻各退出、日沒後、歸蓬華、

五日、雨降、大樹ヘ御禮ニ參、六條、花山院、大炊御門、冷泉中將、山科內藏頭令同心、於本丸、大御所ヘ各御禮申入退出、愚也令退出、御用有之由仰之、仍、候殿中、於御茶湯座敷、御雜談共有之、論語之義理共少々御尋之、返答申上、御機嫌之、御振舞被仰付給之後、西丸當將軍ヘ參、豐光寺、圓光寺、道三ニ令同道、則御對面之、有暫退出、次參川殿ヘ參、依御病氣、無對面、酉刻歸蓬蓽、着衣冠、御盃ニ參、親王御方內ヘ御成、仍內々棠爲御迎、女御殿ヘ參、予秉燭前行、伏見、歸路之時、直ニ家君ヘ參、咋今之樣子、申入畢、次楊明ヘ參、

六日、晴、大佛照高院殿ヘ參、爲昨日御禮之、次二條殿ヘ參、次九條殿ヘ參、職原抄下卷講之、次曼殊院宮ヘ參、及黃昏、歸蓬蓽、內藏頭來談、次九條殿御方違ニ御成、奉酌一獻畢、高尾法身院來、

七日、晴、冷泉亭ヘ朝食ニ行、次家君ヘ參、巳刻參番、親王御方ヘ參、孝經奉授之、

八日、陰（壬午）、伏見ヘ行、青山常陸介ヘ行、錫之鍋三遣之、留守之間、書狀遣之、次木造左馬助、宿所ヘ行、太刀馬代三百疋遣之、於門外、被出逢畢、次松浦法印ヘ行、帷子（貳つ）遣之、數刻令雜談、有振舞、次大樹ヘ御見舞ニ參、懸御目畢、次前大樹ヘ參、懸御目退出、善阿彌於私宅、令休息、善阿彌出逢、有振舞、及黃昏、歸蓬蓽、入夜全齋ヘ行、

九日、晴、午刻、甚雨降、竹內極﨟行、新庄越前守ト行差ニ成、晩飡令相伴、入夜歸逢華、

十日、微雨沃、午後晴天、平少納言令同心、竹內ヘ行、

十一日、晴、予妹聟、東寺執行初而被來、於參君雖可有御振舞、座敷狭之間、於愚宅有對面、家君ヘ五荷五種、同東向ヘ杉原一束、百疋、予ニ二荷三種、百疋、女房衆ヘ杉原一束、家中ヘ三百疋、先引渡ニテ一獻、次吸物一獻畢、後出飯之後酒半、家君より執行ヘ帷子貳つ銀子三枚、論語註點本被遣之、午刻歸寺、今日相伴衆、全齋夫婦、梅龍夫婦、幷宰相、新大夫等之、及晩全齋ヘ行、平戶法印來談、□□之、入夜參番、雅朝卿代之、

十二日、晴、早朝、竹內極﨟許ヘ行、平少納言、左馬助、予等令同心、竹內曹代青侍、竹村和泉可召直之由、令異見相濟畢、仍新庄越前守許より同名又右衛門被差越畢、今日雖當番、顯成ヘ令相博、家中男女八九人同時ニ腹痛、不審千萬之次第之、後聞、世間如此腹痛俄はやると云々、

十三日、陰、執行女房衆御飯ニ召、仍家君、全齋夫婦、新大夫、調子越前守女房衆等來入、巳刻山科少將、冷泉中將令同、伏見ヘ行、先新庄越前許ヘ行、有振舞、數刻令打談、新庄越前ハ山科少將しうこ之、次青山常陸介ヘ行、他出之間、不及對面、次鵜殿兵庫頭ヘ行、薰衣香五袋遣之、出逢祝着之由

之、次大樹へ參、明後日御下向云〻、仍爲御暇乞、御對面相待之處、有暫御出、懸御目、頓而退出、及黄昏歸蓬華、午刻より甚雨、

十四日、甚雨、梅龍軒來談、次全齋來談、晩飡令相伴、次筆結來四對出來、木造左馬助へ爲餞、薫衣香五遣之、女房衆方より錫三つい遣之、中院侍從來談、次内藏頭來談、

十五日、雨降、今日大樹秀忠公、武州江戸へ御下向云〻、今夜勢多ニ御留云〻、

十六日、雨降、及晩全齋へ行、中院侍從より行成卿眞筆之朗詠借寄、令臨寫、早朝依召、勾當局へ參、韵會被出給、慧郎之兩字可引進之由仰之、則引出令進之、及晩全齋へ行、明日早〻可令伺候之由、從勾當局被觸遣、

十七日、晴、早朝參内、巳刻揚明、八條殿御參、御當座可有之支度之、中院入道素然、三條宰相中將、鷲尾宰相、頭右大辨、左馬頭之仲、四辻少將季繼、平少納言時直、予等之、題、雨中螢、寄水雞、當座懐帋ニ被書調、又戀五十首有續歌、又各探題、予也、三首詠之、亥刻各退出、御製以下至予、懐帋、悉小鷹檀帋被用之、

十八日、晴、巳下刻烏頭薗、六條宰相、山科内藏頭、令同心、伏見前將軍へ御見舞ニ參、先有御振舞、

其已後、於御書院、有御雜談、東鑑（アヅマカヾミ）新板出來云々、仍被取出、被見下、則處々讀申畢、晡時歸蓬華、

十九日、晴、齋了、長崎平三始而來、伽羅三兩、唐墨一挺惠之、妙庵同心之、薦一盞、晩飡、於全齋有之由、被示之間、則全齋へ行、二兵衛、妙庵、平三、予等也、數刻雜談之後、平三所望之間、論語學而篇、令講尺畢、其已後有盃酌、及數盃、日入之比、各歸宅、予也、全齋令同心、相國寺法堂見物、過半出來、柱等奇麗驚目畢、近日又鐘樓出來云々、豐光寺、當代依爲歸依僧、寺院繁昌與他寺者之、

廿日、晴、東寺執行女房衆被歸、仍下部兩人遣之、今日於親王御方、有御祈禱、雖有召、依腹痛不參、次、自香集齋、筆五双、干鱈十、被惠之、次新庄越前守より書狀到來、竹內極﨟來談、次高尾、性院より休間來、次久遠院皓叔、始而來、宗元同心之、文字讀懇望之故之、油煙五挺進之、酎一盞、入夜全齋行、

廿一日、晴、齋了、久遠院皓叔來、左傳序授之、次家君御出、次寶壽院來、晩飡薦之、宗春、横大路へ被行、竹內へ屛風隻幷碁盤返遣之、次中院侍從へ朗詠下一卷、返遣之、入夜全齋來談、次山科內藏頭來談、錯庵ちいさ刀返遣之、夜半後、雨降、

廿二日、雨降、齋了、親王御方へ參、孝經天子章奉授之、爲御賦、銀子壹枚拜領之、次當番參内、晩飡於御前賜、入夜楊明御青侍、肥前守青侍令噇啋云々、

廿三日、雨降、及晩、天晴、久遠院皓叔來、左傳文字讀、自隱元五年授之、次中院侍從來談、大學授之、與七郎爲代間、愛宕へ令參詣、

廿四日、晴、齋了、皓叔來、左傳一卷終、文字讀、次親王御方へ參、孝經奉授之、未刻吉田へ長岡越中見舞ニ行、暫有雜談、及黄昏歸蓬蓽、

廿五日、晴、拂曉、堀川侍從、竹内極﨟令同心、愛宕山へ參詣、歸路天龍寺見物ニ行、次寳壽院へ行、令行水、暫令休息、及晩天、歸蓬蓽、押小路掃部頭爲燭迎、嵯峨邊迄被出云々、予也、各、寳壽院へ行間、於路次、不出逢、仍入夜、掃部頭、愚宅へ來臨、被携双瓶甘肴、則極﨟相招、夜半前迄、及大酒、各事外沉醉、愚入寢、

廿六日、晴、皓叔來、左傳ニ一卷授之、次性院より書狀到來、及晩參番、雅朝卿代之、妙庵來、香薷散一包給之、

廿七日、晴、庭藏主より朱傘借來、於德庵借寄遣之、今日女御殿御忌明有御祝義、依召參、女御殿

被參衆、兼勝卿、宣房卿、基孝卿、光豐卿、雅朝卿、隆尙卿、總光朝臣、之仲朝臣、秀直朝臣、俊昌、基任、時直、教利、宗信、宣衡、予等之、飯後及大酒、各令沉醉、午刻退出、早朝家君御出、已雲齋より被預一包返進之、及晩、母堂御出、入夜家君へ參、

廿八日、晴、南禪寺牧護庵、崇傳、西堂入院云々、雖爲可令見物內存、依暑天不行、未刻全齋入來、打碁、次竹內來談、次、從大覺寺門主、杉原一束、菓子折賜之、敬俊房使之、鞠沓、自飛鳥井到來、錦皮之、

廿九日、晴、從南禪麿藏主、朱傘返來、則德庵へ返遣、次高尾永純來、次親王御方へ參、孝經奉授之、皓叔來、左傳桓公、文字讀授之、

六月大

朔、甲辰（晴カ）、明、齋了、越中守見舞ニ吉田へ行、晡時近衛殿へ參、令沉醉、御盃ニ不參、

二日、晴、齋了、參番、桑山法印、智恩院長老、禮ニ被參、午刻親王御方へ參、孝經奉授之、

三日、晴、觀音房來、唐墨一挺進之、入夜納涼ニ相國寺ヘ行、
四日、晴、觀音房方ヘ杜子詩廿五册、韻會十册返遣之、次紹元來、霍亂氣間、不及對面、
五日、晴、觀音坊來、尙書文字讀、堯典授之、次久遠院皓叔來、左傳莊公文字讀授之、次吉田左兵衛佐女中御息、男十一歲、小字御こう來義、息男文字讀以下被頼由之、仍爲祝義、袷壹つ、帷子壹つ、三荷三種給之、女房衆方ヘ練一端給之、乳母共帶一筋宛、被遣之、隔心之至之、薦盃酌、後、左兵衛女中被歸、息男ニ孝經授之、薦晩飡、日入、同息男歸宅、入夜冷泉中將見舞ニ行、病惱心外之、
六日、晴、羽柴越中守より單物帷子幷豐前樽貳つ、酒糟漬鮑壹桶被惠之、次午刻より六條宰相、山科内藏頭令同心、前大樹爲御見舞、伏見ヘ行、無御對面、及晩歸蓬華、次山科亭ヘ行、冷泉殿、煩ニ付而醫師何可然哉、爲相談之、及夜半歸宅、
七日、晴、參番、終日於御前將棊相指、次鷹司殿より双樽兩種、御誕生日取之爲祝義、被贈下、
八日、晴、觀音房來、尙書舜典讀書、次吉田左兵衛佐、息男御こう來入、
十日より十二日まてよろづのつかさ御めされ候まゝ、いつものごとくみな〳〵御しこう候へのよし申との候

入江前しゝう中納言殿　わしのおの宰相殿　さまかみ殿　おほき町三條少將殿　四辻少將
殿　左衛門佐殿　くら人右中辨殿　中御かと少將殿　左少辨殿　右少辨殿　中のゐん侍従
殿　たかくら侍從殿　白川しゝう殿　ひやう衛の佐殿　しきふのせう殿
御しやうそくの御ふ行しゆう
山しな中納言殿　とう宰相殿　くらのかみ殿　藤しゝう殿
せいりやう殿御ふ行しゆう
はむら中納言殿　中御門中納言殿　けん少將殿　さ衛佐殿　その少將殿
しゝてんの御ふ行しゆう
へい宰相殿　六條宰相殿　頭辨殿　大ないき殿
右御虫拂御觸之、かしこまりてうけ給りぬと名の下に書付進之、
入夜、冷泉へ見舞ニ行、昨日より道三藥服用云〻、吉田御こう一宿、
九日、晴、午刻、九條殿へ參、忠榮公御本卦勘進、次隨心院門跡御本卦勘、委曲令注進之、入夜冷泉
見舞ニ行、少驗云〻、

十日、晴、禁中御書籍虫拂之、仍齋了、參內、入夜退出、次尾州熱田四條道場宣阿彌許より書狀到來、政常作小刀一進之、入夜退出、

十一日、晴、齋了、參內、御虫拂之、入夜退出、平野大炊入道、從大坂上洛被來、次家君御出、南禪寺沖長老參內之、一束綿子三把、拜領、予之御使之、

十二日、晴、齋了、參內、御虫拂之、當番之、今日御書籍幷御服等、悉御取置之、此次、楊子法言全本三冊、歷評比辭一冊全申出、幷大藏一覽申出、此本ハ沖長老借用之、仍內々申入處、被借下云々、仍予取次、先預置者之、

十三日、晴、卯刻、箆共勸之、次吉田御こう來入、次密藏院來入、入夜已雲齋宿所へ見舞ニ行、亥刻斗、正親町通烏丸之西ニヲイテ辻切有之、切殺云々、

十四日、晴、祇園會見物ニ家中郎從悉行、予也一人令留守、入夜松林院、双瓶遣之、次冷泉へ見舞ニ行、煩氣現驗暫有雜談云、哥之題、中古者、小鷹檀紙一重ニ書之云々、一首、三首之題ハ奧へナラヘテ書之云々、短冊ニ書之は略義之云々、

十五日、晴、早朝九條殿へ參、次已雲齋來談、朝湌湌之、次親王御方へ參、孝經奉授之、次佐久間九

衛門息女來入、三荷三種給之、奴僕以下悉薦晩飡、及晩九條殿へ依召參、有蹴鞠、

十六日、晴、從掃部頭、嘉定給之、梅龍軒より紺鰭給之、從女院御所嘉定酒、隻瓶給之、家君へ串鮑五串給之、午刻、半笑來入、家中嘉定如例、各切麵、次自九條殿嘉定給之、平遠州、眼中煩爲見舞、大坂へ人下之、

十七日、晴、齋了、參內當番之、御庚申待之、被召衆、左馬頭、阿野少將、右中辨、四辻少將、水無瀨中將、左少辨、予等之、觀音坊、瓜共惠之、

十八日、晴、女房衆母義、伏見佐久間九衞門へ被行、二條殿より青門百被下之、調子越前守御使之、次吉田御こう來入、次九條殿より青門五十被下之、家君へ藻塩草全本、返進之、

十九日、晴、早朝、觀音坊來、尙書令授之、尙書疎本借遣之、次九條殿へ參、古文眞寶前集奉授之、次、頭蘭、飛鳥井父子、大炊御門花山院大納言、水無瀨中將等、令同心、大樹爲御見舞、伏見へ行、先、烏丸亞相之亭へ立寄、有盃酌、前大樹、從昨日、御霍亂氣云々、仍無御對面、歸路飛鳥井從誘引、酒井丹後守許へ行、有鞠、頭蘭、予人數入分之、入夜歸蓬華、午刻、從宇治、茶壷到來云々、次東寺、寶嚴院、眞桑瓜廿被惠之、

廿日、晴、癸亥 觀音坊來、尙書禹貢篇授之、次吉田御こう來入、次長橋局へ參、見臺勅物中出、爲本令新調支度之、次石寺宗惠來、次東寺より瓜廿惠之、及晚冷泉見舞ニ行、

廿一日、晴、甲子 竹內門跡より手本ニ被遊給之、午刻依召參內、今夜甲子待之、仍鷲尾宰相、左馬頭、阿野少將、四辻少將、正親町三條少將、甘呂寺左少辨、右少辨等伺候、有鬮取、予也、紙一束、色紙卅六枚、拜領之、各子下刻退出、予也、爲雅朝卿番代、一宿、

廿二日、晴、雖當番、令相博、菊亭侍從殿、巳刻六條宰相、山科內藏頭、令同心、伏見へ行、愚也、羽柴越中處へ行、暫有雜談、次豐前嶋木綿一端給之、次御城へ行、無御對面、晡時、六條內藏頭等令同心退出、及黃昏歸蓬華、平遠州方より書狀到來、

廿三日、晴、久遠院晧叔來、次吉田御こう來入、及晚冷泉亭へ行、入夜九條大納言殿御方違ニ愚宅へ渡御、次隨心院門跡御出、自門跡、帷子壹つ拜領、數刻及盃酌、子刻還御、

廿四日、晴、丁卯 立秋節、早朝九條殿へ參、

廿五日、晴、萱堂御出、次全齋、同女房衆來入、薦晚飡、

廿六日、晴、齋了、中院へ行、次伏見へ行、長岡越中殿依有之用所、終日滯留、及黃昏歸蓬華、次九條

殿參、

廿七日、晴、齋了、親王御方へ參、孝經奉授之、勸音房來、次參番、書籍共於內々御涼之、仍、目六共予書之、治部卿來、

廿八日、晴、妙庵朝食ニ召、次㕓藏主來、大藏一覽勅本十一冊、語心院へ遣之、次親王御方へ參、孝經奉授之、次山科亭へ振舞ニ行、及黃昏、歸蓬蓽、

廿九日、壬申、觀音坊來、尙書授之、次長岡越中殿より紫硯三面給之、次吉田御息、幸鶴丸來入、

卅日、晴、拂曉、密藏院敬俊令同心、高尾へ登山、性院へ紫硯壹つ遣之、密藏院へ水引十把遣之、俊正房へ筆二双、墨二双、遣之、槇尾ニ行、布薩令聽聞畢、羽越中殿より饅百五十本 緇卅れん 饅三十本給之、及黃昏歸京、歸路、家君へ行、

七月小

朔甲戌、晴、午剋、雨沃、掃部頭來入、次吉田幸鶴丸來入、次九條殿より帷子貳つ拜領、次極﨟被來、職原抄文字讀授之、次觀音房來、尙書五之卷授之、及黃昏、御盃ニ參、

二日、晴、雖當番、內藏頭令相博、不參、齋了、九條殿へ參、弘誓院光明峯寺道家卿之御弟之云々御手跡拜見之、建保四年八月十三日中殿御會之記之驚目畢、次梶井宮へ參、有御對面、暫有御雜談、次宗順來、扇子進之、次吉田幸鶴丸來入、次久我殿より帷子壹つ贈給之、

三日、晴、辰刻、雨沃、早朝より大坂へ下、伏見より乘船、申刻、大坂着岸、存庵許へ行、一宿、

四日、晴、早朝、片市正方へ書狀遣之、頓而可令登城之由、返事之、仍、存庵令同心、巳刻登城、先市正許へ行、薰衣香五遣之、次秀頼公へ參、薰衣香十、憲法点本進之、御袋樣、小鷹檀帋五束進之、憲法講談可有御聽聞之由、秀頼公仰之、仍談之、有御振舞、晡時退出、及晚平遠州へ行、入夜已雲へ行、一宿、

五日、晴、朝食ニ今中彌三郎宿所へ行、次登城、於秀頼公御前、德失鏡談之、晚飡ニ淺野右兵衛殿へ行、入風呂、貞觀政要一二枚談之、存庵一宿、長印處へ行、「○行間ニ「□□大炊より錫鉢五つ給之」ト「淺右兵衛へ錫鉢三遣之」トアリ」

六日、晴、朝食、於已雲齋有之、齋了、登城、於秀頼御前、吳子二三枚講之、令退出之處、生衣一つ帷子二　令拜領、存庵處ニテ令休息、平遠州馬、令借用、上洛、入夜横大路ニ一宿、

七夕、晴、辰刻、横大路より歸蓬華、吉田幸鶴丸來入、乾撰五袋給之、次久遠院皓叔來、關東紙一束進之、次花山院少將殿來義、双樽兩種給之、

八日、晴、巳刻、雨沃、吉田幸鶴丸來入、次中院侍從來入、朗詠古筆被見之、誰人筆共不知之、入夜中院侍從又來談、行成卿眞筆之一軸、隨身令一覽之處、多分正筆之、子刻雨降、

九日、早朝、花山院使者送之云、今日伏見前大樹殿中、有御猿樂、令見物は可有同心云〻、又山科內藏頭よりも同前申來、然共、愚也、少霍亂氣之間、不令同心、未刻甚雨、從七夕致今日、三日間殿中御猿樂有之云〻、

十日、晴、巳刻、押小路掃部頭亭へ行、關白宣下、下行方、令相談、次近衞殿へ參、近年、關白宣下、下行方、令目六進之、午刻退出、次、今日、生見玉、家君萱堂御出、仍竹田梅龍夫婦、全齋同女房衆、新大夫、東寺執行室等來入、常〻出入之者共、悉來、申刻大雨降、亥刻晴、

十一日、陰、冷泉中將より鯖魚廿指、被惠之、

十二日、陰、晴、女房衆、嵯峨寶壽院御廟へ參、予依當番、不參、從竹內御門跡、一折壹荷給之、次叡山自然坊弟子來、五明五本遣之、次雲齋方へ折遣之、午刻地震、

十三日、陰晴、幸鶴丸來入、鯖廿指給之、次灯籠禁中へ令進上、全齋來談、薦晩飡、及晩雨沃、

十四日、晴、齋了、參番、雖非當番、今日ハ兩親有之者、各勤番中古以來例之、御灯籠ハ於淸凉殿北西南之緣、被見之、携双瓶三種、相番衆へ詣、

十五日、晴、齋了、參內、今日御灯籠被見之、事外羣集之、入夜御盃參三獻、天酌如例、夜半過、退出、

十六日、晴、吉田幸鶴丸來入、薄暮全齋へ行、

十七日、晴、參番、實壽院見舞ニ宗春遣之、

十八日、晴、吉田幸鶴丸來入、次廣橋大納言へ行、次官務へ行、次揚明へ參、次鷹司中將殿へ參、孝經奉授之、及晩御靈社祭禮、幸鶴丸令同心、見物ニ行、次家君へ參、入夜爲基孝卿代參番、

十九日、晴、今朝、辰刻、勸修寺中納言息男誕生之、仍爲祝義、太刀一腰、令持參、沉醉之故、不及對面、次掃部頭來入、次極﨟來入、職原抄授之、次成曼院來談、次親王御方へ參、孝經奉授之、急風急雨沃、入夜大雨、

廿日、雨、午天晴、大外記亭へ行、次廣橋亞相亭へ行、次揚明へ參、次五條へ行、次親王御方へ參、孝經

奉授之、及黄昏、中院亭へ行、數刻打談、

廿一日、晴、大外記來入、出納將監來、團扇壹つ進之、次竹內極﨟來入、職原抄授之、次平遠州使者通、今朝前將軍御上洛、仍及晩ニ條城へ行、數刻御雜談有之、及黄昏歸蓬莖、申刻雨沃、

廿二日、晴、雖當番、令相替、近衞殿へ參、及晩ニ條城へ行、御雜談共有之、

廿三日、晴、午刻後、親王御方へ參、孝經奉授之、近衞殿、關白御拜任、仍有宣下、上卿、花山院大納言言淵卿、奉行、頭右大辨光廣朝臣、職事、右中辨俊昌云々、申刻陣儀有之、入夜大外記官務等、宣旨持參、少內記詔勅持參、予也未刻より着烏帽子狩衣、揚明亭ニ參候、諸事令御沙汰畢、宣旨詔勅書等持參、其儀先上段ニ間半被懸直翠簾、南面奧方ニ御座ニ疊構之、先大外記、經賢子、關白宣旨令持參之處、滋野井侍從冬隆出逢、覽筥請取、簾中へ押入、宣旨局於簾中被請取、白御前ニ被置之後、空筥自簾下被押出、滋野井取之、大外記ニ被返渡、次詔書少內記持參如先、冬隆被請取、簾下へ被押入、女返空筥、次々、皆如此、已上八通之、今度一座宣旨之事終後、參候之衆、御對面、廣橋大納言、花山院大納言、葉室中納言、勸修寺中納言、頭辨、頭左中辨、富小路左衞門佐、右中辨俊昌、平少納言、滋野井、予、極﨟等之、各太刀進之、公卿之分四人者、滋野井披露之、頭辨已下

持參、吸物有之、次各給御盃之後、各退出、

同宣下之下行方、

少外記二百疋　少史二百疋　少內記二百疋

陳官人二百疋　出納百疋　陳疊三十疋

幔三十疋　軾三十疋　使部催三十疋

目錄物方

大外記　太刀一腰、馬一疋代三百疋　副使百疋

大內記　同　副使百疋

官務　同　副使百疋

內侍所　太刀一腰、馬一疋代三百疋

廿四日、晴、親王御方へ參、孝經奉授之、次關白殿へ參、勅詔等令就進之、次二條御城へ行、早朝、南禪寺語心院沖長老、煩見舞ニ行、十死一生之躰之、入夜中院へ行、

廿五日、齋了、南禪寺へ行、夜前、沖長老寂滅云々、仍爲吊企恨歎畢、次圓光寺より銅鑄一字印、可

備叡覽之由被示、仍着衣冠參內、件字共備叡覽處、如件字可然之由、其旨前將軍ヘ可申入云〻、件字十万被鑄立、可有進上之由、前將軍內々仰之、圓光寺、予也、令相談、樣子可相究由、是又仰之、晩、親王御方ヘ參、孝經奉授之、次九條殿ヘ參、入夜內藏卿來談、

廿六日、雨降、午刻家君ヘ參、次二條御城ヘ參、於奥座敷有御雜談、次二條下押小路之上新町可取立云〻、其通ぬえ石有之由被聞召、板倉伊賀、令同心、予也可見參之由、上意之、仍先、板倉亭ヘ行、晡時令同心、見ニ行、古町人共召出、相尋之處、其子細不慥、

廿七日、晴、南禪寺語心院、香典百疋遣之、次女院姉局ヘ參、次二條殿ヘ參、御對面數刻、有御雜談、次圓光寺行、銅一字印之事、令相談畢、入夜參番、女院ヘ御刻殿之、

廿八日、晴、長橋御局ヘ參、高麗銅一字印、返進上之、自將軍、銅一字印、令新調可被進之由、申上畢、次親王御方ヘ參、孝經奉授之、次吉田幸鶴丸來入、次將軍ヘ參、次自二條殿、乾飯十袋拜領、次全齋ヘ行、次近衛殿ヘ參、次山科亭ヘ行、入夜雨降、

廿九日、雨降、爲鷲尾代參番、及晩、親王御方ヘ參、

八月大

朔、癸卯早朝、豐光寺ヘ行、錫鉢二つ遣之、次禁中ヘ嘉例太刀、令進上、次親王御方ヘ太刀令進上、次山科、四條、六條、富小路、冷泉侍從、令同心、大樹ヘ御禮ニ參、各太刀令持參、歸路、板倉伊賀守ヘ行、留守之間、申置、歸宅、次關白殿ヘ參、太刀令進上、次廣橋亞相行、次竹內門跡ヘ參、次大聖寺殿ヘ參、次二條殿ヘ參、次勸修寺ヘ行、次梶井殿ヘ參、次令衣冠、親王御方ヘ參、次女御殿ヘ參、次女院ヘ參、次御盃ニ參、大樹ヘ參、留守ニ觀音坊來、乾飯五袋惠之、女房衆ヘ扇二本進之、次掃部頭より双瓶、食籠惠之、吉田幸鶴丸來入、小錫一双惠之、女房衆ヘ帶一筋惠之、橫大路庄屋、長介、双瓶、餅等進之、女院御所ヘ爲嘉例、杉原一束令進上、則爲御返一束ニ碁笥給之、次冷泉殿より双樽二種惠之、次大工源左衛、禮ニ來、

二日、晴、吉田幸鶴丸來入、午刻二條御城ヘ參、及晚板倉伊賀守ヘ行、爲八朔禮、鵝眼五十疋遣之、入夜參番、早朝鷄冠井村ヘ鎌留ニ使者遣之、

三日、晴、齋了、親王御方へ參、孝經奉授之、次五辻、庭田等來談、次白川侍從、中院侍從等來談、次二條御城へ行、次土左來入、入夜、家君へ參、

四日、晴、中院へ行、次廣橋大納言亭へ行、次二條御城へ參、拙也屋敷可立替之由申上畢、次九條殿へ參、次山科內藏頭へ行、次近衞禪閤へ參、新古今眞名序、其外眞名序共令書寫、令点進之、兼日御所望之故之、御留守之、主水佑申置歸、次全齋へ行、

五日、晴、坊城中納言亭へ行、那須大膳大夫より書狀到來、晚飡可來云々、則令同心、向彼宿所、次御城へ參、無御對面、

六日、晴、早朝、全齋へ行、次內藏頭許へ行、次親王御方へ參、孝經奉授之、次相國寺、豐光院へ前大樹御成、仍御相伴ニ行、御相伴之衆、日野大納言、廣橋大納言、山科中納言、坊城中納言、勸修寺中納言、予等之、朝御相伴、日野大納言斗之云々、大樹御歸之、次、院御屋敷幷公家衆屋敷ニ可成、町屋共被御覽、予也、廣橋大納言、日野大納言、勸修寺中納言、令案內者之、及晚雨沃、

七日、早朝、少程雨沃、坊城亭へ朝食ニ行、次參番、次親王御方へ參、孝經奉授之、全部相終者之、入夜參番、

八日、雨沃、前大樹へ參、御臺之口切有之、御茶給之、入夜山科內藏頭亭へ行、夜半後、歸蓬華、
九日、雨沃、觀音房來、尙書授之、次坊城亭へ行、
十日、晴、早朝、板倉伊賀守許へ行、太子憲法遣之、次板倉伊賀爰元屋敷見ニ來之間、出逢、令隨逐、終日、入夜、全齋へ行、晚天風吹、
十一日、晴、九條殿參、次前大樹へ參、御對面、有御雜談、歸路梅龍軒へ行、入夜參番、御前被召、色々御雜談共有之、今日親王御方、江州石山觀音御參詣、於三井寺聖護院宮、被進一獻云々、御供奉之衆、廣橋大納言、勸修寺中納言、左馬頭、左衛門佐、四辻少將、阿野少將、猪隈少將、平少納言、右少辨、祭主、高倉侍從以上十一人之、路次、肩衣、袴、騎馬云々、殿下御供奉也、
十二日、晴、早々參番、次曼殊院宮より有御談合子細、可參之由、御書被下之間、則令伺候、次全齋へ行、次、梶井宮へ參、次坊城亭へ行、雞冠井村免札之事、土成ニ相定畢、
十三日、晴、午過二條御城へ行、無御對面、次竹內門主へ參、次冷泉亭へ行、吉田幸鶴丸來入、
十四日、晴、觀音坊來、尙書授之、次周防山口神光寺來入、香爐一、葛袋二給之、次吉田幸鶴丸來入、午過二條御城へ行、前大樹御對面、歸路六條宰相亭へ行、子刻打談、

十五日、陰、觀音坊尙書授之、午後、二條之御城參、御對面之、數刻有御雜談、及晚雨降、中秋不看月、仍賦一絕、暮擔期月欲開筵、雨傍西風雲靄連、今莫趙知徵異術、向空只晴約明年、又、仲秋逢雨豈遊賞、双月招來酬又献、終夜期晴不須眠、勸盃更唱嫦娥怨、攝家衆二條御城へ御見舞之、一條殿、二條殿、九條大納言殿、鷹司大納言殿之、次、妙法院宮、三寶院門跡御見舞之、今夜、月蝕云々、月曆所注、辰時刻虧初、午加持、未復末申云々、月有他方時之、以何故註之乎、大樹尤御不審之、滿座尤之由申畢、誠以蝕一分も不可見、注之事不勘之至之、重而賀茂在信ニ可尋之、

十六日、陰、午後晴、觀音坊來、次飛鳥井少將來入、次二條御城へ參、御對面之、次全齋へ行、

十七日、晴、雖當番、令相博、不參、愚宅懸□(?)□(?)飛鳥井依所望、遣之、次二條御城へ參、御對面數刻、有御雜談、入夜參番、那須大良殿より綿百目給之、

十八日、晴、午刻、內藏頭令同心、二條御城へ參、無御對面、及黃昏參內、庚申待之、仍被召畢、鷲尾宰相、左馬頭之仲朝臣、四辻少將季繼朝臣、右中辨俊昌、予等之、爲實條卿代、則參番、

十九日、陰、午後、頭蘭、六條宰相、內藏頭、德大寺殿等令同心、二條之御城へ行、御對面之、仁和寺宮、前大樹へ御見舞之、今度大樹有御執奏子細、其子細は於仁和寺宮者、異他門跡由、自元承届者

之、然ハ不依位次、諸門跡之第一ニ可有御着座之由、被申定者之、仍爲其禮、今日御成之、御太刀折帋、小袖一重進物之、次仙洞御屋敷事、傳奏被申出、大方相濟畢、次予板倉伊州へ行、愚屋敷之事、今相談畢、入夜全齋へ行、次飴?庵へ行、

廿日、小雨沃、梶井宮へ參、次御方ノ御所へ參、孝經可有御復云々、次女御殿より孝經全本奉授、御祝着被思召由、御內ゝ御局より御文幷十帖一卷純子被下之、尤忝次第之、卽女御殿へ御禮ニ參、御內々の御局へ御禮申入、罷歸畢、次冷泉中將殿、六條殿、內藏頭令同心、二條御城へ參、無御對面、及黃昏、歸宅、次久我殿御息、今年十六歲次男 揖也子分之御契約可有之云々、仍御來義、二荷三種給之、彼御子息、御兩所なから父卿ト相姓惡故之、次內藏頭許へ行、夜半後、歸蓬華、

廿一日、陰雨沃、齋了、親王御方へ參、大學奉授之、今日初度之、次板倉爰元屋敷見渡之由、從冷泉被告知之間、則板倉ニ出逢畢、先、八條殿御屋敷被打渡、次、鷹司殿九條殿御屋敷被渡之、及晚二條御城へ參、御對面之、及黃昏歸蓬華、今朝幸鶴丸來入、則宿、後聞、今日母方叔母死去云々、

廿二日、雨陰、早朝板倉へ行、今朝前大樹、伏見御城へ還御、巳刻參內當番之、甲子待有之、被召衆、左馬頭、鷲尾宰相、四辻少將、左衛門佐、右中辨、予等之、

廿三日、早朝、令行水、聖廟へ參、次全齋へ行、次西洞院少納言許へ和歌會ニ行、中院入道、花山院大納言、中御門中納言、白川二位、鷲尾宰相、頭右大辨、正親町少將、予等之、亭主父子、以上十人之、各三首宛詠之、入夜歸蓬華、

廿四日、晴、冷泉亭へ行、次、予共吉田祭禮見物ニ行、及晩板倉へ行、數刻令雜談、入夜歸蓬華、

廿五日、晴、冷泉亭へ行、

廿六日、雨降、觀音坊來、尙書讀書終、次南禪寺語心院へ行、聽松三長老へ行、小錫二對遣之、次、牧護庵傳長老へ行、檀帋一束遣之、愚也茅庵?侍者事頼入由、令相談畢、歸路六條殿へ行、冷泉山科等、令雜談畢、

廿七日、雨沃、巳刻晴天、吉田幸鶴丸來入、次掃部頭來談、明日二宮、爲近衛殿御猶子、御首服云々、及晩風呂へ入、次全齋へ行、

廿八日、晴、齋了、伏見へ行、先豐光寺へ行、次板倉へ行、愚也屋敷相濟之由被相談、次前大樹より爲合力米百石可被下之由仰之、近日可相渡之由、是又板倉相談之、次御城行、御對面之、近日申刻、殿下御猶子（當今之二宮）御首服云々、加冠、殿下、理髮頭左中辨總光朝臣、着座、廣橋大納言、万里小路

大納言、勸修寺中納言云〻、愚也、爲輕服、不參、

廿九日、晴、大工源左衞門召寄、臺所客殿等、指圖令作之、次吉田幸鶴丸來入、次比叡山智藏坊來入、毛詩印本六部之分惠之、次左傳之本共借與之、入夜大外記、極﨟、中院侍從、白川侍從等來談、

卅日、晴、齋了、冷泉、山科、內藏頭等來談、次吉田二位より圓空使ニ來、午刻內藏頭令同心、伏見ヘ行、入夜梅龍軒ヘ行、

九月小

朔、癸酉、晴、齋了、近衞殿御方御所ヘ御元服之祝義申ニ參、太刀進上之、今日、早々以頭右大辨、除服之事申入處、則被成御心得之由、被仰出云々、近衞殿御方御所より爲御使二條殿ヘ參、次參內、今日近衞殿御方御所御禮ニ御參內之、仍廣橋大納言、勸修寺中納言、鷲尾、五辻左馬頭、阿野少將、四辻少將、左衞門佐、右中辨等被參、午刻關白殿被召輦輿、同心方御所同輿ニ被召、自唐門入內、長橋局車寄より御昇殿、於常御所中對面、有御一獻、次女院ヘ御參、次於女御殿、各有御振舞、次

親王御方へ御參、入夜、御盃ニ參、
二日、晴、齋了、參番、主上番所へ出御、來十六日千首之御當座可有之由仰之、午刻圓(園カ)城寺之僧正
理覺院、日光院 兩人被召、十如是十界等之義、有勅問、於黑戶、御對面之、予令申次畢、
三日、晴、石寺宗惠來談、次冷泉中將、山科內藏頭等御同心、伏見前大樹へ參、御對面之、予居數百
石拜領之御禮等申入畢、於御前、御茶共給之、
四日、晴、親王御方へ參、大學奉授了、次女院御所へ參、御振舞被召衆、廣橋父子、万里小路父子、勸
修寺中納言、中院入道、鷲尾宰相、藤宰相、五辻左馬頭、四辻少將、猪熊少將、左衛門佐、小川坊
城、平少納言、阿野少將、白川侍從、正親町三條、甘露寺、高倉侍從、松木少將、予等之、入夜退出、
次全齋へ行、
五日、晴、早朝、小川坊城へ行、次依召、勾當局へ參、入夜曼殊院宮へ參、朗詠講尺之、
六日、晴、早朝、全齋來談、掃部頭へ朝食ニ行、次冷泉へ行、次近衛殿へ參、二宮御首服爲祝義、公家
衆へ振舞之、廣橋父子、持明院父子、東坊城、勸修寺中納言、中御門中納言、鷲尾、五條、左馬頭、四
辻少將、右中辨、飛鳥井少將、猪熊少將、松木少將、內藏頭、藤侍從、難波侍從、予、冷泉侍從、祭主

等之、

七日、晴、齋了、勸修寺中納言へ行、那須大良、被任修理權大夫、口宣之事、令相談之處、則右中辨可書調由、被申遣、則時口宣到來、次、冷泉中將、山科內藏頭、四條等令同心、伏見前大樹へ御見舞ニ行、則御對面之、次大炊大納言殿令同心、淺野紀州へ行、留守之間、申置畢、次板倉伊洲へ行、留守之間、是又申置畢、入夜歸蓬華、

八日、晴、早朝、那須大良へ行、修理權大夫口宣遣之、有振舞、次幽齋へ行、他出云々、晡時嵯峨池坊、池藏(密カ)院敬俊等來、及晩、那須大良より杉原二束被贈之、修理權大夫之口宣、令馳走、爲御禮之、入夜風呂へ入、雨沃、

九日、陰、齋了、花山院大納言、大炊御門大納言、六條宰相、頭辨、大炊御門三位中將、松木少將、竹內極﨟、難波、飛鳥井少將等令同心、伏見前大樹へ御禮ニ參、各御對面之、次板倉伊州へ禮ニ行、留守之、及晩歸蓬華、次六條殿令同心、關白殿へ御禮ニ參、次家君へ御禮ニ參、次御盃ニ參、次、女御殿へ御禮參、次女院へ御禮ニ參、次親王御方へ御禮ニ參、次近衛政所殿へ御禮ニ參、

十日、晴、全齋來談、今日、前大樹御禮被申云々、入夜山科亭へ行、次全齋へ行、

十一日、晴、齋了、伏見ヘ行、前大樹、近日、御下國之、仍爲御暇乞、冷泉、山科等令同心、有御對面、
十二日、晴、參番、及晩、御方御所ヘ參、
十三日、晴、冷泉亭ヘ行、次中院ヘ行、
十四日、晴、
十五日、晴、前大樹、御下向云々、
十六日、晴、千首和歌御會有之、去九日勸修寺中納言、爲和歌奉行、被觸催、當日各鷄鳴ニ參內、其儀於御黑戶、被構座、短册勅題之、硯蓋六ッニ被盛分、四季、戀、雜、爲令無甲乙之、秉燭各出來之、先、四季、戀、雜之題、一首宛、以上六首探之、則令淸書、又如初探之、依歌數多少、每々如此、
御製五十五首　宮御方三首　八條宮四十首　關白五十二首　聖護院宮卅八首　梶井宮廿一首
曼殊院宮卅六　一乘院准后卅八　西園寺大納言實益卿廿九　廣橋大納言兼勝卿廿九　花山院大納言定煕卿廿九　中院入道前侍從中納言素然五十二　伯二位雅朝廿六　藤宰相永孝廿六
西洞院宰相時慶卿廿五　六條宰相有廣卿廿三　三條宰相中將實條卿卅七　鷲尾宰相隆尙廿三
飛鳥井宰相雅庸四十七　勸修寺中納言光豐卿廿六　烏丸頭辨光廣朝臣卅　廣橋頭右中辨總光

朝臣廿一　五辻左馬頭之仲朝臣廿　冷泉中將爲滿朝臣四十七　冷泉少將爲親朝臣廿三　阿野少將實顯朝臣廿　四辻少將季繼朝臣十九　富小路左衛門佐秀直朝臣廿　園小辨基任十六　飛鳥井少將雅賢廿五　西洞院少納言時直十六　猪隈少將教利十六　山科少將言緒十六　中院侍從通村十六　難波侍從宗勝十六　予十六　以上三十六人之、爲竟宴、有和歌、懷帋、菊有傲霜枝、勅題也、各卽座調懷帋畢、亥刻各退出、

十七日、陰、參番、昨日歌共有御穿鑿、予歌少々直之、西園寺、花山院歌者傍題、落題、爲一首無奇云々、各及談笑畢、

十八日、晴、齋了、冷泉亭へ行、次山科少將へ行、次宮御方へ御讀書ニ參、大學奉授畢、次梅龍軒へ二荷三種遣之、梅龍嫡孫宰相、被迎女房、爲祝義之、

十九日、晴、齋了、親王御方へ參、次長橋御局へ參、葛細道之文臺、申出令取書、

廿日、晴、九條殿へ參、次文藏令返上、次親王御方へ參、次、大炊御門大納言殿、令同道、板倉へ行、他出之、

廿一日、晴、女院御猿樂之、內々御觸之、仍早朝院ニ參、今日被召衆、內々多分不殘歟、外樣西洞院

父子、中御門父子、飛鳥井少將、烏丸辨迄之、入夜退出、大夫ハ春一、本誓（頭カ）寺少進兩人之、

廿二日、晴、於女院御所、後朝有御猿樂、仍早々院ニ參、次當番候間參內、

廿三日、晴、吉田幸鶴丸來談、次依召、勾當御局ヘ參、入夜、圓光寺來談、新板周易注本給之、因周易本可備叡覽之由、被申之間、則可令披露之由、令約諾、

廿四日、晴、早朝、大炊御門殿、四條殿令同心、板倉伊州ヘ行、今日愚也屋敷可渡云〻、則令歸宅、相待處、有暫、伊豆被來、面廿五間、奧ヘ廿三間半被渡之、則令椽打畢、次勾當御局ヘ參、圓光寺進上、周易令披露、御祝着之由之、次來廿七日可有和漢御會、可致執筆伺候之、入夜、五辻左馬頭來談、

廿五日、晴、家君令御禮、板倉ヘ行、次聖廟ヘ參、

廿六日、晴、齋了、竹內極﨟令同心、鞍馬寺ヘ參、妙壽院ヘ行、

廿七日、晴、早朝、參內、和漢御會之、予執筆、

「相國寺兌長老

かつ散や苔のみとりの初紅葉 御製也　　岩蹊聽鹿鳴 西笑

山きはの田つらは霧のうちにして 照高院准后　　朝けの月のをちかたの里 關白

假装舟競渡 有節　　閑話漫?□更 閑室前足利學校今相國寺住僧 圓光寺

梅友以文會 以心　　窓をひらけは春の淡雪 入道前侍従中納言

風さゆるみきりはかすみ立消て 飛鳥井宰相　　按舞蝶衣輕 集元

叢密無人認 秀賢

亥刻、滿百、各退出、

廿八日、晴、齋了、勾當局へ參、去八月十五日月蝕、刻限午未中云々、就此義、賀茂在信被召、御不審之、予也、在信申分可聞置之由勘定之、及晩、圓光寺へ在信、令同心行、

廿九日、晴、及晩、時雨、

十月小

朔、壬刁 晴、齋了、參番、實顯朝臣代之、午刻親王御方へ參、奉授大學畢、及晩參御盃、

二日、晴、中院侍從、白川侍從等來談、次親王御方へ參、次九條殿參、次板倉伊賀へ書狀遣、宗春遣之、入夜全齋へ行、

三日、晴、全齋來談、

四日、晴、女院參、香若大夫舞有之、入夜退出、

五日、晴、齋了、勾當御局ヘ參、南禪寺語心院冲長老、去七月入滅之刻、遺言、梅谷筆跡東坡可備叡覽云々、仍件本并大藏一覽（此本去六月ニ冲長老被申請）勾當御局ヘ令持參、令進上畢、次御暇申、大坂ヘ令下向、伏見浦より乘船、及黃昏、水無瀨ヘ行、數刻令打談、夜半前乘船、大坂ヘ刁上刻、著岸、

六日、晴、平大炊所ヘ行、令朝食、次存庵處ヘ行、

七日、晴、平大炊所、令朝食、次存庵ヘ處行、則令同心、片市正ヘ行、密柑百五十遣之、則市正令同心、秀頼公ヘ參、密柑二百五十進之、御對面之後、吳子可有御聽聞云々、則講之、講後有御振舞、存庵處ニ一宿、

八日、晴、平野甚左衛門有朝食、午刻、秀頼公ヘ參、吳子令講之、晚飡、平遠州令契約、自城直ニ向彼亭、大炊所ニ一宿、

九日、辰刻、雨降、午前秀頼公ヘ參、吳子令講、晚飡片桐市正、可被振舞、昨日より契約之、仍講後有樂玄雄、釣庵等令同心、城より直ニ市正亭ヘ行、入夜、存庵宅ヘ歸、一宿、

十日、晴、巳刻、秀頼公へ参、呉子講之、今日終講、則御暇申、明日令上洛由、申入處、綾小袖一重、道服等給之、又頓而可罷下、大學可有御聽聞云々、晩湌、片桐主膳正、可振舞之由契約之、仍直ニ彼亭へ行、東條紀伊守、上野志广守、小林民部少輔等、相伴之、入夜、存庵處へ歸、

十一日、晴、存庵令同心、入安處へ行、次天王寺へ行、令見物、次堺へ行、勘解由小路修理大夫在信、杉原十帖令音信、請入之間、則向彼亭、數刻打談、歸路、住吉之半非安立軒へ行、內々可成知音之由、雖被示之、拙也無隙之故、打過之處、今度堺へ越次、可立寄之由、存庵誘引之故、路立寄之處、丁寧之振舞共有之、及黄昏令歸宅之處、住吉松原へ被送出、被携瓶、被勸酒、事外令沈醉、催歸計之處、於路邊安立軒、一絕詠之、　千年一遇洛陽君、他日文光爲義分、再會勿忘墨江月、松風吹掃暮天雲云々、歸程殊沈醉之間、即時不及答和、無念之、存庵ニ令一宿、

十二日、晴、早朝、令答和、爲禮書狀等安立へ遣、吟句弄詩風月君、名流清處渭徑分、情深一遇勝鄉友、去路慕看南浦雲、　安立留守之間無返札、次平遠州へ行、令相談、遠州度々可令下向、被示之間、爲其令滯留畢、

十三日、晴、遠州令借馬、上洛、

十四日、晴、今出川殿へ行、大坂之爲躰、令雜談、及晩、令行水潔齋、
十五日、晴、齋了、參內、御月待御とき之故之、曉天脂燭一寸、御當座被遊、御製、關白、也足等也、予令出題畢、
十六日、晴、御月待、後朝之、名所時雨、一通題、松霜有當座池氷等之愚也、同令詠吟、ほともなく晴しとみしも音は猶しくれてのこる宇治の川波、中刻、各退出、
十七日、晴、雖當番、內藏頭へ令相博、不參、次吉田幸鶴丸來入、
十八日、晴、山內山城守へ書狀遣之、宗春出?行處へ遣之、
十九日、晴、齋了、參內、庚申待御遊之、被召衆、中院入道、伯二位、鷲尾宰相、正親町三條、阿野少將、四辻少將、左衛門佐、右中辨俊昌、水無瀨中將、甘呂寺、予等之、爲內藏頭代番、宿、
廿日、晴、御方御所樣、御咳病氣云々、仍爲御見舞參、次冷泉亭へ行、次幸鶴丸來入、次全齋來談、次梅龍軒來談、次廣侍先來、今出川屋敷八間口、奧貳拾間貳尺之分、家君御借物、彼是事外以有之故、全齋へ沽却云々、如此之段、偏以家君御氣遣之爲躰、笑止千萬之、然共借物之爲返齋、不及是非次第之、

廿一日、晴、暮天、家君へ參、次全齋へ行、於禁中、百首御當座有之云〻、十人各十首充云〻、

廿二日、晴、齋了、參番、亥子之、冷泉中將より兩種双樽被贈之、

廿三日、晴、齋了、冷泉侍從、同舍弟藤谷、讀書ニ來入、午刻參內、甲子待御遊之、

廿四日、晴、早朝、淸水寺觀世音へ參詣、歸路、康德寺令見物、次幸鶴丸來入、冷泉侍從來入、大學授之、次中院侍從來談、

廿五日、晴、齋了、中院侍從令同心、鞍馬守、毘沙門天へ參詣、白川侍從同途、兩三人步行、歸路、貴布禰へ參、入夜歸蓬蓽、

廿六日、晴、冷泉侍從、兄弟來入、

廿七日、曉天より雪降、巳刻晴、三寸餘積地、及晚、御方御所へ參、

廿八日、晴、今日、巳刻、御方御所、聖護院宮へ御成、仍早朝より令支度、御方御所へ參、長袴、肩衣、ちいさ刀、路次之間用之、於聖護院宮、各改着烏帽狩衣、御供之衆、廣橋大納言、勸修寺中納言、伯二位、鷲尾宰相、正親町三條少將、阿野少將、四辻少將、左衞門佐、小川坊城右中辨、中御門右少辨、松木少將、猪熊少將、甘露寺、予等之、中院入道、頭左中辨、兩人ハ早朝より聖護院宮へ被

參、三獻參、後御囃有之、入夜還御、
廿九日、晴、冷泉侍從兄弟、讀書、次幸鶴丸來入、次中院侍從、白川侍從來談、及晩梅龍軒へ行、

十一月大

朔、辛未、冷泉侍從兄弟來入、讀書、終日雨降、未刻、親王之御方へ參、謠本二番書之、進上之、及晩御盃ニ參、
二日、晴、參番、關白御參、古和漢懷帋、被御撰有之、御方御所へ謠本五番書之進之、
三日、晴、齋了、板倉伊洲へ行、密柑百五十進之、次某新屋敷裏の場、女樣打之、次冷泉亭へ哥會ニ行、入夜九條殿へ參、次家君御出、
四日、晴、齋了、御方御所へ參、次參內、女御殿御壺之口切有之、八條殿、關白殿、廣橋大納言、勸修寺中納言、白川二位、鷲尾宰相、正親町三條、阿野少將、四辻少將、左衛門佐、右中辨、右兵衛佐、予等參候、大酒各沈醉、入夜各退出、
五日、晴、今中彌三郎上洛之間、振舞ニ召、數刻打談、次孝經明後七日より可講之由、有勅定、先畏

之由、勅答申畢、

六日、晴、早朝、家君へ參、次梅龍軒來談、次、要法寺上人被來、也足軒同心之、新板、和漢合運圖被惠之、薦一盞、入夜喜多坊來入、

七日、晴、齋了、參內、巳刻、於御黑戶、孝經序分講之、兼而被置見臺、八條宮、聖護院宮、御兩所御聽聞之、其外四辻少將迄之、

八日、晴、齋了、家君へ參、次二條殿へ參、次親王御方へ參、次九條殿へ參、次板倉伊賀守手前ヨリ前將軍ヨリ被下、百石御合力米、於伏見被渡之、以金子請取了、右予屋敷新院之依御敷地、被召上ニ爲造酢（作カ）御扶助之、外聞實義令滿足者之、九條殿御方御所、鷹司殿御方御所、兩御所へ銀子五百枚宛、前將軍より被進之、是又御造作之御合力之、

九日、雨降、親王御方へ參、予眼病、

十日、晴、板倉內、荒木三平、三宅傳右衛門兩人朝飯ニ召、數刻打談、酣酒、

十一日、晴、吉田幸鶴丸來入、

十二日、晴、參番、數刻、於御前、先日孝經義理、御不審共、申上畢、依眼病、孝經講不申上、

十三日、晴、親王御方へ參、
十四日、晴、齋了、相國寺秉拂見物ニ行、雖番刻相待、不始之間、令歸宅、申刻始之、喧嘩有之、死人兩人云々、今日冬至之、仍早朝、來歲筮勘之、
十五日、晴、三陽院正忌之、仍令精進、
十六日、晴、家君御出、敬俊入夜、冷泉中將來談、吉田幸鶴丸來入、孝經終、
十七日、晴、依眼病、御番御理申入、不參、觀音房來、毛詩序分授之、氷室山手貳石壹斗納之、又氷室山手貳石納之、請取遣之、
十八日、晴、吉田幸鶴丸來入、孝經文字讀終、仍智恵粥薦之、次宗春、自鷄冠井村被歸、所務調所遲々、大黑祭、如例年、
十九日、晴、伏見へ女房衆母堂迎ニ乘物遣之、午刻來入、次冷泉侍從、藤谷御兄來入、大學授之、次目醫師光安召遣、予眼中令療治、次全齋來談
廿日、晴、千代丸(三男)髮置之、爲祝義、乳母ニ小袖壹つ遣之、家中祝着如例、次御靈社へ千代丸令參詣、次吉田幸鶴丸來入、自今日、大學讀書之、次中院侍從入來、定家卿筆跡之懸物被見之、次白川

侍從來入、予眼中爲見舞云々、次板倉伊州へ先日之爲禮、書狀遣之、有返書來、雨沃、

廿一日、曉天、雲、日三竿之程、雪沃、次冷泉侍從、藤谷來入、讀書、次藤侍從より土圭被返之、夜中女房衆依發病、竹內宰相召遣之、則來入、一藥被與、得驗畢、

廿二日、晴、早天、微雪沃、齋了、冷泉侍從、同藤谷來入、大學文字讀、今日終已之、今日雖當番、眼病未平愈之故、御理申入、不參、次土御門左馬助許へ來歲曆借ニ遣之、則到來之間、家君へ懸御目畢、次藥屋へ人參、蓮肉等取ニ遣之、

廿三日、晴、愚誕生日之、仍家君初萱堂、全齋等申入、薦朝飯、次大工源左衛門來、次梅庵軒來談、薦晩飡之處、又家君、全齋來駕、則薦飡畢、入夜白川二位、双瓶御肴贈給、愚眼中爲見廻云々、次冷泉中將來駕、閑談及夜半、

廿四日、曉天白雪降、冷泉侍從、藤谷來入、自今日、論語文字讀、始之、序半分教之、刀之劘誂ニ遣之、

廿五日、晴、冷泉侍從來入、讀書之、次目醫師光安來、次中院侍從來入、

廿六日、晴、早天、宗春、高雄へ性院見舞ニ遣之、次大工源左衛門來、冷泉侍從、藤谷來入、讀書之、

入夜大外記來談之、來廿九日、伏見殿、親王宣下云々、小作、雞冠井村へ年貢催促ニ遣之、全齋へ法華經第七卷返之、次目之內藥給之、

廿七日、晴、黃金一枚代ノ銀、次與三郎高尾へ竹取ニ遣之、鵝目百疋遣之、次宗春、大工源左衞門召連、大坂へ被下、爲材木調法、銀子七百目遣之、次冷泉侍從、藤谷來入、讀書之、

廿八日、雨降、竹田宰相來入、予孟子初篇講之、入夜、中院侍從來談、次竹內極﨟來談、次山科內藏頭許より法華經和歌借請寫之、此釋傳敎大師、嵯峨天皇之皇后、被書進釋之云々、

廿九日、晴、大工來、酒紅之男柱立之、次女房衆母堂、伏陽へ御越、今日小寒節ニ入、

晦日、晴、竹內宰相來、仍予孟子講之、次中院へ歌談合ニ遣之、次冷泉侍從、同弟藤谷來入、論吾敎之、次竹內門主より有御使來、二日、先師三十三回御忌云々、品經之哥可詠進云々、次賴玄方より書狀到來、毛詩注本、自十二至十六借遣之、

十二月小

朔、辛丑晴、齋了、竹內門跡へ品經之哥、令持參、次關白へ參、無塩鯛五進之、數刻御雜談共之、次家

君ヘ參、次全齋ヘ行、次着狩衣、御方御所ヘ參、次着衣冠、御盃ニ參、

二日、晴、當番、急調朝食、參內、候御前、數刻御雜談共之、大原廣記勅本被出、有叡覽、午刻宗春、

大工源左衞門、大坂より材木相調歸、其注文云、

一九十本　三角　代銀貳拾四匁三分

一六十丁　杉けた代七匁八分

一貳拾壹間　松板　代貳拾九匁四分

一六拾本　六寸角　代五十五匁八分

一廿本　川上ひの木　代四十二匁

一六本　二間半 ひの木七寸　代貳拾七匁

一貳本　二間二尺 檜平物　代拾三匁

一三本　長三間 むね木　代八匁五分

一千三百丁　しと　代百六拾三匁八分

一百間　のね板　代卅八匁

一千丁　なみけた　代六拾匁
一五十本　五寸角　代卅六匁
一五十丁　上々杉桁　代貳拾匁
一壹本長さ二間ひの木一尺　代九匁
一貳拾本　六寸の二丁かけ　代五拾貳匁
一九枚下川七丁料代三拾匁
合六百拾六匁七分七リン
右舟ちん七艘分四拾貳匁一艘ニ付而六匁之
都　六百五拾八匁七分七リン
三日、晴、大工源左衛門來、近衛大閤ヘ晩飡ニ被召、古今以下眞名序共、依尊命令謄寫進上、件寫本稱名院、三條公之自筆自書之、
四日、晴、齋了、御方御所ヘ參、次參內、八條宮より禁中ヘ御盃、御進上之故之、
五日、晴、午刻雨、大工源左衛門、嵯峨ヘ壁、栗柱買ニ遣之、次親王樣ヘ參、大學奉授之、及晚源左衛

門歸、壁柱注文、

一二間栗柱八十本　代八拾四匁

一一間半栗柱卅本　代拾壹匁壹分

合九十五匁壹分

六日、晴、吉田幸鶴丸來入、

七日、晴、參番、次於御黑戶、孝經、開宗明義章より至孝平章、講之、主上、四辻少將、伺御前斗之、

八日、齋了、家君へ參、次全齋へ行、新屋敷鍬初見ニ行、次從大坂、材木共到來、次伏見より佐久間久右衛門女子、依煩爲養生來入、全齋一宿、

九日、晴、吉田幸鶴丸來入、全齋來入、次御靈別當、同子息、白川二位被召具、別當子息法眼より二種双樽被惠之、及晚、御方御所へ參、入夜全齋來入、一宿、夜半後、風吹、曉天、雨雪、

十日、雨降、巳刻晴、藤侍從來入、双瓶、佳肴被惠之、同舍弟長丸來入、大學授之、次冷泉侍從、同藤谷來入、次竹田宰相來入、及晚、親王御方へ參、大學奉授之、入夜、又親王御方へ參、鷹司殿御方御所より御盃御進上、仍各伺候之、

十二日、晴、齋了、參番、女御殿より御盃參、內々衆十人斗被召、及晚平遠州來、也足手本共被見之、一軸ハ佐理卿筆無疑者歟、

十三日、晴、遠州滯留、

十四日、晴、遠州爲相伴、關白殿ヘ參、未刻參內、

十五日、晴、午刻遠州歸宅、次親王御方ヘ參、次參內、

十六日、晴、午刻參內、巳刻親王御方ヘ參、大學奉授之、

十七日、晴、齋了、藤宰相二男來入、讀書、次參番、次女院ヘ參、今日、內々衆不殘被召之、

十八日、晴、齋了、佐久間久右衛門息女歸宅、此中依病惱、於予宅、養生之、本復之間、被歸宅、次淸水寺ヘ參詣、次祇薗ヘ參詣、

十九日、晴、於禁中、有連歌、御當座、予也腹痛之間、令故障畢、中院侍從、藤侍從來入、次筆結來、筆三對出來畢、次片桐市正より書狀到來、密柑幷繩千把爲音請助成被贈之、即返札遣之、

廿日、晴、全齋ヘ振舞ニ行、齋了、親王御方ヘ參、大學奉授之、次參內、庚申待之、內々御番缺改、仍勸修寺より番觸有之、相番之衆、光豐卿當番 實顯朝臣、宣季、嗣良、予等之、

廿一日、晴、家君幷萱堂、全齋、梅龍軒等朝食薦之、次親王御方へ參、大學奉授之、次參內、左馬頭御盃進上之、

廿二日、晴、齋、女院へ參、御煤拂之、及晚、中院侍從、白川侍從、令同道、風呂へ入、歸路中院へ立寄、數刻令雜談畢、

廿三日、晴、梅龍軒へ朝食ニ行、家君、全齋等御出、次板倉伊賀守殿へ歲暮之禮ニ行、鵝目五十疋遣之、次吉田幸鶴丸來入、次長丸讀書ニ來入、次中御門右少辨來云、從五上勅許云々、恐悅々々、次冷泉侍從、兄弟來入、

廿四日、晴、齋了、親王御方へ參、大學奉授之、次參番、甲子待御ときとして御前ニ候、及夜半、有鬮取、予綿三百目、筆三双取之、

廿五日、早々聖廟へ參、次親王御方、御煤拂參、次大學奉授之、今日終全部、

廿六日、晴、齋了、參內、御煤拂之、入夜退出、次藤宰相許へ風呂ニ入ニ行、歸路、令南望之處、火氣及天、伏見之家共、燒失云々、

廿七日、晴、早朝令行水、鎮宅靈符祭之、次女御殿參、女院御成之、獻之及數盃畢、中院入道被談

云、女御位階、女官之内其差別可爲何樣乎之由、二條前關白へ勅問之處、則勅答有之、二條前關白御存分ニ女御は尙侍之下、典侍なとの類と被思召由云々、予及聞處甚相違畢、女御は可爲立后其仰(仁カ)被伺者之、其故於女御は無宮仕之由、見禁秘抄、如此之由、愚存令相談畢、中院入道與予同心之、次關白殿被召予、女御之事御尋之、右之旨申入畢、戌下刻、自女御殿退出、事外醉、令一睡處、吉田燒亡云々、則見舞ニ行、吉田左兵衛門外小家共、卅間斗、燒畢、歸路、阿野少將令同心、寅刻歸蓬華、

廿八日、晴、借銀共返弁之、或又借之、

廿九日、晴、主上御年筮、幷左衛門佐、年筮進之、例年左衛門佐、取次之、自女院御使之、次飴(?)庵年筮遣之、次大覺寺殿御年筮進之、及晚、女御殿、親王御方、殿下等、歲末御禮ニ參、入夜歲暮之御禮ニ參內、主上女院へ御別殿之、仍女院へ參、女院來年筮面、有御尋、於御前巨細申入畢、次家君へ參、則方違、唱鷄鳴、歸蓬華、子刻令束帶、參內、

施食文 毎日、授日用二淨盂、一盛飯、一盛牛(米カ)
夜靜散施

奉佛弟子某甲運悲憙。起乎等行。以我本願力。及佛加持力。以此淨食。普施法界婆羅門仙。諸餓鬼衆。曠野鬼神。孤魂滯魄。咸赴我請。無一遺者。願汝一一各得摩伽陀國七七斛食、第恐有語難通。當求三寶加被。南無佛陀耶。南無達磨耶。南無僧伽耶三稱以右手、用拇指與中指、微曲按器、誦甘露眞言　曩謨、蘇嚕婆曳達多孽多耶、怛儞他、唵、蘇嚕蘇嚕婆耶、蘇嚕婆耶、蘇嚕薩訶三遍、次誦、變食眞言、曩謨、薩嚩怛佗孽跢嚩路枳帝、唵、三跋羅、三跋囉、吽七遍南無多寶如來。南無妙色身如來。南無廣博身如來、南無離怖畏如來、三稱彈指七遍即將淨水、傾於食上。散施云。汝等、鬼神衆、我今施汝供。七粒遍十方。一切鬼神、共汝佛子等、受戒此法食。何異、阿難飡、常歸佛法僧、頓捨貪癡患、饑腸咸滿、業火頓淸凉、念念菩提心、處々安樂國、

按大藏云、阿難中夜、忽見焰口餓鬼現前、語言、汝三日徒死我趣中、阿難惶怖具陳白　佛捋以施食之法、乃瞻此尼、佛言、若比丘ゝゝ尼優婆塞優婆夷、能是施者、則同供養百千俱胝如來、非惟延祥益、抑亦成佛之因、厥功不淺ゝゝ、

日
未成交會屢通潮
潮信情深如久要
只恨在公莫閑暇
幾度背隱子佳招

屢
未成交會且通潮
潮信情深如久要
在　莫
只恨爲公　閑暇
幾回背隱者佳招

積年、七兆令七萬令九百廿二、

自天元甲寅以來、至今年丙午、二兆七億六萬二千令卅三也、

金神子丑寅卯午未　奧ニ廿四孝假名有

天聾地啞日、丙刁、戊辰、丙子、丙申、庚子、壬子、丙辰、爲天聾、、乙丑、丁卯、己卯、辛巳、乙未、己亥、辛丑、辛亥、癸丑、辛酉、爲地啞、百事吉、作厠吉之、

慶長十一年丙午日件錄　乃臤

慶長十一年丙午　日件錄　乃臤

正月小

一日、庚午立春節、丑刻令束帶、參內、四方拜、奉行、右少弁宣衡、御簾、頭右大辨光廣朝臣、御裾、頭左中辨總光朝臣、御草鞋、右中辨俊昌、御劍、源少將重定朝臣、御脂燭、左馬頭之仲朝臣、阿野少將實顯朝臣、四辻少將季繼朝臣、飛鳥井少將雅賢、平少納言時直、四條侍從隆敬、持明院少將基久、內藏頭言緒、式部少輔秀賢、以上九人之、極﨟源孝治御鍬、式筥、御笏等申出之事如例、丑下刻、雨沃、仍爲雨儀、於長橋、搆御拜座、入御之後、內侍所ヘ參、鵝目二十疋進之、次於男末有御祝、次退出、次如例年、五聖人、朱文公等影像懸之、居餅、次鎭宅本尊同懸之、一座祭之、於聖人前、孝經讀之、家中祝儀如例年、次嫡男鶴光丸、自昨日疱瘡、處々令見形、仍全齋、妙庵等召遣、令胗候脉、一藥被與藥、申刻、着衣冠參內、秉燭之後、御盃參、次女院ヘ御盃ニ參、次親王御方ヘ御盃ニ參、亥刻退出、次家君ヘ禮ニ行、美濃帋一束進之、萱堂ヘ錫兩種遣之、次全齋ヘ行、美濃帋一束遣之、同女中ヘ箄五双遣之、爲方違、卽一宿、

二日、晴、於聖像前、孝經讀之、申下刻、中院侍從令同心、女御殿ヘ御禮ニ參、次女院ヘ御盃ニ參、次參內、次御方御所ヘ參、戌刻退出、爲方違、全齋ヘ行、一宿、未刻、於新屋敷令出川、釿初、大工源左衞門來、

三日晴、雨飛、及黃昏、御盃ニ參內、次親王御方へ參、午刻、筮勘之、鷄冠井村百姓共來、

□日、晴、雪飛、當番、仍齋了、參內、式部卿宮、年始御禮御參內、於常御所、御對面、頭左中辨申次〔〇四ノ字虫ハミ〕之、喇時殿下へ參、御樽二荷三種進之、東山東求寺殿へ御成云〻、仍進藤宗岩ニ申置畢、次勾當御局より被申送之、今夜番之次、去冬孝經申殘處、可申上之由、勅定云〻、仍孝經注抄等、令隨身參內、亥下刻、三才章孝治章、二章之分、申之畢、

五日、晴、中院侍從來入、五明一束給之、次阿野少將來入、盃一給之、則阿野令同心、中院へ行、也足へ盃一つ、侍從殿へ唐〔〇少し虫ハミ〕墨一挺進之、他適之間不及面談、次全齋へ行、雪降、

六日、晴、巳刻、板倉伊賀守へ禮ニ行、鵝目百疋遣之、奏者ニ二十疋遣之、次寶篋院御所へ參、次光照院殿へ參、次入江殿へ參、及晚歸蓬華、全齋女中來入、砂糖桶壹つ給之、入夜參番、爲兼勝卿代、

七日、從曉天、雨降、終日盈尺、及黃昏御盃ニ參內、次親王御方へ參、勸修寺中納言へ二荷三種遣之、

八日、晴、寶壽院來、茶五袋給之、薦晚飡、次東寺執行來入、五明五本被惠之、同女房衆より二荷二種給之、酧一獻、次冷泉侍從來入、二荷二種給之、次自勸修寺黃門二荷兩種給之、次女院御所侍從御局へ二荷兩種進之、

九日、晴、齋了、令行水、鞍馬寺毘沙門天へ參詣、於階下とかき拾之大慶、晡時歸蓬華、白川侍從來入、五明五本給之、次侍從御局より二荷二種給之、

十日、晴、齋了、參內、大覺寺宮、聖護院宮、曼殊院宮、御參內之、次冷泉侍從へ二荷二種遣之、次家君へ參、次全齋へ行、二條殿へ參、御對面之、

十一日、晴、齋了、參內、御取置之、午後雨降、及黃〔○此字少シ缺〕昏、冷泉中將許へ江戶下向見舞ニ行、次番〔○一字上缺〕頭勸修寺黃門より有使者、明日蚤參之、可令早參云〻、

十二日、晴、攝家幷門跡等御參賀之、仍早朝より令參內者之、先諸家御禮有之、次諸寺、知恩院、大德寺、三玄院國師也、　沙門寺、高臺寺、淨華院、泉涌寺、般舟院、知恩寺、願行寺、禪林寺、西光寺、西教寺、次於御見聞、二條殿御禮、次近衞殿、同御方御所、鷹司殿御方〔御脫カ〕所等、於常御所御禮、次梶井宮師弟子、妙法院門跡等御禮、次照高院門跡御禮、次仁和寺御門跡御禮、次伏見殿御禮、次於黑戶、遊行幷清水寺、願等御禮、次醫師衆御禮、及晚、從將軍被進鷹雁爲吸物被下、仍外樣、內々不殘、於淸涼殿、一獻被下、及大酒畢、黃昏各退出、

〔○十字缺〕三日、晴、觀音房來、五明五本進之、次藤宰相、次男、長丸來入、兩種二荷給之、次諸家へ禮ニ

行、次聖護院門跡へ參、御對面之、次伏見殿へ參、無御對面、次鷹司殿御方御所へ參、御對面之、次大聖寺殿へ參、御對面之、御曼殊院宮へ參、御留守御所之、次大覺寺御門跡へ參、御對面申、次菊亭殿へ行、侍從殿、對面之、

十四日、晴、吉田幸鶴丸來入、二荷三種給之、家中者共、百疋給之、薦一獻、次參番、於御前、新院御殿、御指圖造之、

十五日、晴、家中祝義如例、予申刻參內、昨日御指圖共書付等成之、御左毬打、御盃等如例年、

十六日、晴、山科中納言、年始之禮ニ來入、次槇尾俊正房、宥存房等來談、次語心院慶藏主來、入夜烏丸頭辨來入、

十七日、晴、阿野少將より書狀到來、齋了、中御門黃門、阿野少將、四辻少將、祭主等令同心、照高院門跡へ參、御對面之、次妙法院門跡へ參、御對面有、晚飡、次淸水寺へ參詣、次曇華院御所へ參、入夜歸蓬華、於祇薗松原、催酒興畢、

十八日、晴、時々雪霏々、家君同豈堂、東寺執行處へ始而御入、仍靑侍下部等進之、午刻、平野遠江守來、爲年始祝義、杉原廿帖、鵝眼百疋惠之、餔一盞、次令遠州同心、近衛殿へ參、數刻御雜談有

之、入夜參番、言經卿爲代、

十九日、晴、雪霏々、三男千代丸、依發熱妙庵召遣、則來入、次全齋來入、薦朝食、次參番、暮時、萱堂令來給、入夜參番、早朝爲代參小作、石淸水厄神へ令參詣、晡時、令下向、近年大參詣云々、

廿日、晴、道意禮ニ來、

廿一日、晴、早朝、地鎭法一座行之、次親王御方へ參、今日御祈禱也、仍照高院御門主、令行法給、被召衆、廣橋大納言、持明院中納言、勸修寺中納言、平宰相、鷲尾宰相、左馬頭正親町三條實有朝臣、實顯朝臣、季繼朝臣、俊昌朝臣、宗信朝臣、永慶、孝房、宣衡、嗣良、顯成、豐長、予、種忠等之、女御殿御出、及大酒、予也、早出、入夜、梅龍軒へ行、五明五本遣之、宰相ニ毛頴三双遣之、

廿二日、晴、早朝、板倉伊賀守へ予知行所、人足、爲公儀、淀之塘、御普請ニ罷出由、承屆候、然は予也手前屋敷相替ニ付、屋作普請、人足無之間、被用捨樣ニト申遣處、則同心之、仍人足召遣畢、次九條殿へ參、御對面之、次親王御方へ參、論吾從今日令讀始給、次曼殊院宮より二種一荷給之、次九條殿二荷三種給之、次佐久間久右衛門女中へ二荷三種遣之、

廿三日、晴、早朝、飛鳥井宰相來入、美濃帋一束、五明五本給之、次關白殿より遣太刀一振、拜領

之、次大工源左衛門來、入夜勾當局へ參、明日大坂へ諸家御禮云々、仍御暇之事申之、御心得之由之、

廿四日、晴、齋了、大坂へ下向、先伏見平遠州許へ行、舟令借用、申下刻、大坂着岸、平大炊入道へ行、年始之爲祝義、筆十對遣之、次存庵許へ行、扇子十本遣之、大炊許一宿、

廿五日、晴、齋了、令衣冠、御城へ參、先攝家門跡等御對面之、三獻參、愚也隨心院門跡御陪膳之、次淸花幷諸家御禮、各太刀之、式折帋添之、有一獻、未刻退出、次片桐市正許へ行、大炊許宿、今日吉日之、仍到屋敷、大工部屋構之已、壁鞋拵之畢、

廿六日、晴、早朝五辻左馬頭宿所へ行、令朝食、齋了、左馬令同心、片市正へ行、沉醉ニより無對面、道和ニ申置歸宅、道和扇子五本遣之、次片主膳正へ行、檀帋十帖遣之、是又沉醉無對面、次御調長印許へ行、小盞貳つ遣之、內義、水引廿把、甚內ニ扇二本遣之、次二條殿御宿へ御見舞ニ參、次片主膳より天野橡ニ昆布五束、鯛十被送之、大炊一宿、

廿七日、晴、齋了、歸京、川村久月齋へ書狀遣之、存庵許へ立寄、長印、明衡往來点之事申置、則予本、存庵ニ借與畢、橫大路へ立寄、及黃昏歸蓬蓽、

廿八日、晴、爲人足共、屋敷普請、及晩關白殿へ參、田中藤右衛門令伺候、及大酒處之、次又板倉伊賀守被參、猶々大酒、仍入夜歸蓬華、

廿九日、晴、大工共來、次吉田幸鶴丸來入、次屋敷見舞ニ行、

卅日、晴、大工共來、次吉田幸鶴丸來入、次吉田より赤土持來、

二月大

朔、庚子、大工共來、次屋敷見舞ニ行、横大路より材木共來、入夜、久我殿御子息兩所來入、双樽兩種給之、次新屋敷設之壁買之、則錢共渡之畢、

二日、晴、吉田幸鶴丸來入、次官務來入、大工共來、次屋敷見舞ニ行、次半笑來入、五明貳本給之、次寶壽院來、銀子借狀遣之、

三日、晴、屋敷見舞ニ行、次存庵、從大坂來、鵝眼貳十疋進之、次官務來、次存庵令同心、也足軒へ行、

四日、晴、參番、及晩、從曼珠院宮、御書被下、則令伺候之處、今度愚宅爲院御屋敷、被改易付而、

從禁中、銀子十枚、竹百束、雜木百本、被拜領之由、仰之、則門主より可被傳下云々、仍即銀子十枚、令拜領、入夜歸蓬華、如此之段、外聞實義、眉目之至、華褒之榮、不慮之者之、入夜參番、大雪降、

五日、晴、昨日之竹百束、卽持下、則立入、左京方へ請取遣之、次勾當御局へ禮ニ參、承之由令申畢、

六日、晴、齋了、曼殊院宮へ參、唐墨貳挺進之、御禮共申入畢、次從　禁中雜木百本被持下、次幸鶴丸來入、次寶壽院より銀子、五百目到來、

七日、晴、

八日、雨降、德庵處、家中男女悉行、今度新造之間、座敷令借用者之、新屋敷壁柱立始、

九日、晴、

十日、晴、

十一日、舊宅壞之、

十二日、豐國社預ニ位より人足三十人來、彥三奉行來、

十三日、晴、同豐國人足三十人來、

十四日、晴、參番、
十五日、晴、今夜、自節分四十五夜之、仍全齋ニ一宿、曉天、刁刻、男子誕生、仍全齋令同心、德庵へ行、
十六日、晴、〔○以下空白數行〕
廿二日、晴、中川村人足卅人來、屋敷地形、築之、
廿三日、晴、高尾惣寺より爲合力、門前人足五十人來、以件人足、古屋殘處、雜倉樹木等、悉取寄之畢、次來廿六日、宮御方御申沙汰有之間、可參候之由、有廻文、
廿四日、晴、當番之、御取置旁以、早朝より參內、御屛風共立之、平遠州方より人足五人來、
廿五日、午刻雨降、及晩參內、庚申待之、鷄鳴之後、退出、
廿六日、霎沃、仍御能延引、新宅、今朝、礎柱立等始之、
廿七日、晴、今日御能、於紫宸殿有之、出御、五獻御盃參、御請伴衆、八條殿、一條殿、二條殿、近衞殿關白、同御方御所、九條殿、鷹司殿、同御方御所、照高院准后、妙法院宮、大覺寺宮、梶井宮、同新宮、聖護院宮、一乘院准后、曼珠院宮、靑蓮院宮、近衞大閤以上十八人之、今度不召衆、日野大

納言輝資卿、同左大辨宰相、同侍從、此外淸花之衆、一人も不召、其外悉參集、仍愚也、早天令衣冠、參內、今日、御能大夫、澁屋紀伊介之、高砂、通盛、芭蕉、紅葉狩、哥占、花形見、阿古木、養老以上十二番之、入夜、大酒、各沉醉、初獻、三條中納言御酌、二獻天酌、三獻關白殿御酌、四獻、五獻、二條殿御酌、
廿八日、晴、早朝參內、後朝御能之、金扎、小袖曾我、
廿九日、御取置ニ參內、
卅日、

三月小

朔、祭主より鬪鷄之廻文、到來、卽加奉了、
二日、東寺執行內義より爲見舞、兩種ニ荷被送之、今彌三來談、
三日、晴、爲祝義、家君へ双瓶兩種進之、則禮ニ參、次揚明へ參、次二條殿、竹門主、鷹司殿、九條殿等へ參、及晩御方御所へ參、御盃頂戴之、次揚明大政所殿へ參、次女御殿へ參、次女院へ參、次參內、御

盃戌刻、

四日、晴、女御殿へ女院渡御、御庭花見之、龍山、大覺寺門主、八條宮、關白殿、大聖寺殿、一乘院殿等御成、廣橋大納言、西洞院宰相、鷲尾宰相、左馬頭、左衞門佐、四辻少將、松木少將、甘呂寺、正親町三條少將、左少辨、予等之、於花下、有御當座、

五日、今彌三より普請爲合力、薰葮、五十束、被惠之、

六日、

七日、

八日、朝程雨沃、大工、源左衞門可荼引云〻、仍家君、全齋等御出、予附尾畢、源左衞門百疋、內義へ銀瓶二双遣之、是間令同心、打碁、及晚、大酒沉醉、以外之、

九日、晴、女院御所花見有之、二條殿、九條大納言殿、鷹司殿、兩御所、關白殿、八條宮、曼珠院宮、大聖寺殿等御成、內々衆、十六七人、參候、

十日、晴、竹丸、產衣着之、仍家君等、御出、

十一日、晴、楊明大政所殿、八瀨釜湯、去四日より御湯治云〻、仍爲御見舞、四辻少將、松木少將、

阿野少將令同心、行向、菓子折進之、今日より板倉伊洲八瀨釜湯々治云々、

十二日、

十三日、

十四日、

十五日、

十六日、晴、槇尾俊正房來、行事抄、板行之事、相談、

十七日、竹丸忌明、家君、全齋等御出、

十八日、晴、證心院へ簡竹、三本、取遣之、則到來、

十九日、平野遠江來、

廿日、廣藏主來、

廿一日、庚刁晴、今夜新宅へ移徙、仍爲祝義、佐久間九衛門女中より双樽兩種被惠之、次語心院より双樽惠之、次家君より双樽兩種給之、次全齋より海鼠十連、錫壹被惠之、亥刻移徙爲祝義、白粥薦之、世間定法之、家君、全齋、萱堂等御出、皆薦粥、隣笋粥双瓶送之、

廿二日、晴、來廿五日、家君有馬湯治、御發足云々、仍今晚、湌薦之、全齋、同來入、

廿三日、晴、有馬爲餞、手洒一樽補家君へ進之、全齋、同一樽遣之、

廿四日。雨降、藤中納言永孝卿より番觸來、廿六日より欠改ト云、四九番之、番頭永孝卿、重定朝臣、冬隆、豐長、予等之、

廿五日、晴、早朝、家君、全齋同心、弁等有馬へ發足、見立ニ行、全齋留守爲番、しゆし遣之、

廿六日、

廿七日、〔○以下二條空白〕

廿九日、晴、參番、永孝卿早參、彼卿、妹節局舊院勾當死去云々、巳刻仍永孝卿退出、於黑戸、御方御所へ論語奉授之、

四月大

朔、己亥、圓光寺より書狀到來、來書云、前大樹被仰付、銅印字、八万斗出來之、可備天覽否之由之、仍則向彼院、今年始之、仍爲祝義、毛頴十双進之、對顏、累刻打談、及晚、銅印字箱貳つ取寄、箱壹ニ千

字有之、細字二千字、有之令隨身、備叡覽、御前殿下令候給、一段見事出來之由仰之、先返遣畢、次親王御方へ御禮ニ參、次御盃、

二日、晴、家君爲御見舞、湯山へ餅五十、和布等遣之、〔○以下二行空白〕

四日、晴、雖當番、甚久相博、

五日、晴、明日前大樹、御上洛云々、仍御迎ニ可罷出、盃之段、冷泉中將相談、

六日、晴、拂曉、前大樹爲御迎、大津へ行、大炊御門大納言、烏丸右大辨宰相、一齋、冷泉中將、土御門左馬助、予等之、於船着、懸御目巳刻畢、大炊御門寄宿、晚湌被儲、仍御迎之衆、上乘父子、土岐道安之息、同見松之息等令抑留、及大酒畢、歸路三井寺へ立寄、令一見、次持能法師許へ立寄、又數盃傾之、予沉醉之間、先立座敷、小關越ニ令歸宅畢、

七日、晴、

八日、雨降、冷泉令同心、伏見へ行、前大樹、無御對面、

九日、

十日、晴、入夜、山科亭へ行、

十一日、晴、早朝、伏見へ行、前大樹御對面、大炊御門、花山院大納言、冷泉中將、烏丸右大辨宰相、山科內藏頭、左馬助等之、御雜談共有之、各退出之處、予、冷泉御抑留、可令雜談云〻、仍數刻候御前、晩湌之後退出、今日巳刻、家君、全齋各湯山より御歸宅、自家君、菜刀、鏝給之、全齋より沙糖一斤給之、

十三日

十四日、晴、通村令相博、伏見へ行、今日武家之衆御禮之、先、嶋津、次、池田、次、森右近、其外諸大夫衆等之、懸御目、歸宅、歸路豐國へ立寄、二位亭へ行、留守之、入夜參番、

十五日、米倉礎築之晩柱立始之、頭蘭へ楊弓弓（マヽ）□返之、

十六日、雨降、

十七日、雨降、德庵來、冷泉中將へ令同心、暮天、中院亭へ向、

十八日、雨降、入夜、冷泉來談、

十九日、晡時、大雨、巳刻參番、

廿日、晴、齋了、冷泉烏丸令同心、前大樹へ參、數刻御雜談有、御振舞有之、及晩退出、歸路各東福寺へ立寄、寺中令見物畢、

廿一日、晴、寶壽院來入、存庵方へ注蒙求兩册返遣之、次全齋へ松浦法印來入、仍出逢、數刻令雜談畢、次唐橋來談之、池田三左衛門女中朗詠有之、彼筆誰人哉、令存知否之由、被尋問、予答之、誰共不見知、貳百年以來筆歟、金澤文庫書物ト見タリ、今彌三より書狀到來、

廿二日、晴、實條卿番代ニ參、即庚申ニ令伺候畢、

廿三日、晴、入夜、冷泉亭へ行、

廿四日、晴、齋了、御取置ニ參內、

廿五日、雨降、早朝、令行水、聖廟へ參、歡喜寺之南町屋裏、畠土中、石函堀出、件函中一寸八分觀世音銅像有之云々、仍立寄令見物、彼石函之像ニ此觀音自熊野權現夢想仍奉歡生（勸請カ）治承三年正月十八日、平朝臣、敷田三郎兼朝、如此書付有之、奇妙云々、

廿六日、晴、午刻、參內、甲子待、御遊有之、曉天退出、

廿七日、晴、早朝、圓光寺來談、銅印字一枚、被揩、盤等可備天覽云々、正親町三條亭へ朝食ニ行、庭

田少將令同道、巳刻令參內、件銅印字、備天覽之處、御感之、申下刻、丹後守始而來入、仍太刀一
腰、馬代三百疋給之、冷泉中將同心之、立乙令供奉來、次、土左一齋等來談、明日御參內云々、次
大坂存庵方より書狀到來、秀頼公より中院入道、中御門中納言、中山中納言、大炊御門大納言、
六條宰相、猪隈少將、此六人へ短册十枚宛御所望之、件義拙子より各へ可申云々、仍各へ分遣之、次
中院入道亭へ行、數刻打談、當時內々御作法共、及野体之由、被相談、
廿八日、晴、早朝、令衣冠、向勸修寺中納言亭ニ、辰下刻、前大樹、勸修寺亭へ御成、出迎衆、日野大
納言、唐橋大納言、亭主、冷泉中將、山科內藏頭、予等之、數刻御雜談共有之後、御膳參、無御相
伴、一人參、又暫有御雜談、其次、傳奏へ有御相談云、武家者共官位之事、無御吹擧者、一圓ニ被成
下間敷由固可令申云々、巳下刻、御裝束、御指貫丁子、御袍葵丸、山科內藏頭、冷泉中將、御衣文ニ
伺候之、卽御步行ニテ參內、昵近之衆、勸修寺亭へ御迎ニ見參、烏丸父子、飛鳥井父子、日野父子三
人、唐橋父子三人、六條宰相、四條少將、冷泉少將、同侍從、山科內藏頭、（同中納言者、老屈之故無其義、於內、被出逢）柳原
春宮權大夫、予等也、此外之衆、唐門前へ被出、各磬屈、先於勾當局、御休息、有暫、主上出席之由、
勸修寺被申、仍前大樹御參、御太刀、折帋、廣橋大納言披露之、其外御進物、銀百枚、綿二百把、如

例年、
廿九日、晴、齋了、御番ニ參內、於御小所、親王御方ヘ論語奉授、
卅日、晴 冷泉中將ヘ振舞ニ行、

五月小

朔、己巳晴、及晚、殿下ヘ參、御對面數刻、御雜談之、入夜御盃ニ參、御咳病氣之、故無天酌、於中口、有御通、勾當內侍御酌之、次御方御所ヘ御禮ニ參、有御通、
二日、晴、德庵來、次冷泉中將來談、次語心院度來、女房衆忌明、御靈北野ヘ參詣、息男四人同參詣、入夜德庵來、次冷泉中將來談、
三日、晴、早朝、德庵來、定家卿自筆之源氏野分卷、德庵渡之、
四日、雨降、雖當番、令相博、通村宿番ニ參、
五日、雨降、冷泉中將令同道、殿下、大聖寺殿、二條殿、鷹司殿、九條殿、勸修寺、廣橋等ニ禮ニ行、及晚、御盃ニ參、

六日、晴、爲之仲代宿番ニ參、入夜傳奏より明日前大樹ヘ昵近之衆、年頭之禮有之由、被觸、

七日、晴、齋了、伏見ヘ行、於藤森、着烏帽子、狩衣、令登城、巳刻御禮有之、各太刀進上、先禁中より御馬、御太刀披露、勅使、勸修寺中納言、廣橋大納言兩人之、次三寳院門跡召之、次昵近之衆、烏丸大納言、日野大納言、六條宰相、飛鳥井宰相、日野宰相、烏丸宰相、冷泉中將、廣橋頭辨、四條少將、飛鳥井少將、內藏頭、日野侍從、廣橋侍從、柳原春宮大進、予、冷泉侍從等之、歸路之刻、板倉伊賀守宿所ヘ禮ニ行、卽各令抑留、湯漬有之、及大酒畢、申刻歸京、

八日、晴、

九日、晴、早朝、請取番ニ參、

十日、

十一日、

十二日、冷泉中將令同心、伏見ヘ行、無御對面、

十三日、晴、女院御所ヘ參、廣橋頭辨、御盃被進上、仍被召衆、中院入道、同侍從、民部卿、鷲尾、左馬頭、左衞門佐、阿野少將、四辻中將、猪隈少將、平少納言、正親町三條少將、甘呂寺、高倉侍從、

竹屋、廣橋大納言、勸修寺中納言、予等之、

十四日、晴、齋了、參番、於小御所、御方御所、御讀書、論吾奉授之、入夜、參御前、御雜談共有之、次聯句兩吟可有御沙汰之由、勅定之、仍章句鬮取次第可被遊云々、予鬮取之、雖然、卽時難吟之故、章句御製之、秦家齊蜀錦御漢岸菊燕脂秀賢舟被繋佳景同硯其磨小池御霞紅山艤畫同雪白座題詩秀文苑坡春色同子刻入御、

十五日、晴、齋了、冷泉亭、月次歌會ニ行、兼題、瞿麥勝衆花、

十六日、

十七日、

十八日、晴、午刻、伏見行、越前中納言殿ヘ冷泉令同心、向彼亭、於書院、有御振舞、雖然、御腫物之故、無御對面、予進物、薫衣香袋三ツ進之、冷泉中將、定家卿眞筆、三代集之拔書、被懸御目之、及晩天、歸蓬華、及黃昏雨降、

十九日、雨降、參番、於內百首和歌御會有之、主上、八條宮、東求寺禪閤、殿下、照高院准后、聖護院宮、中院入道、三條中納言、飛鳥井宰相、烏丸右大辨宰相、十人十衆之、未下刻各出來、清書以

後、有盃酌、入夜各退出、

廿日、辰刻、大雨、如形洪水之、存庵方より古筆共三部到來、此內、後拾遺者爲相云々、

廿一日、陰、烏丸右大辨、冷泉中將令同心、前大樹へ御見舞ニ參、無御對面、雖然、御振舞有之、捨子?壺御茶給之、及晚天歸蓬蓽、早朝、羽柴越中守より双樽、干鯛廿、鰹十連給之、午刻、鶴光丸、孝經讀始之、

廿二日、陰、午刻、雨降、東寺、寶嚴院來義、双樽兩種給之、於家君、有晚飡、東寺執行被來、

廿三日、雨降、冷泉中將來談、寶壽院より筝到來、全齋來談、次庭前檜植替

廿四日、雨沃、齋了、參番、次御方御所樣へ參、論語奉授之、次女御殿より、帷子三ッ拜領之、

廿五日、雨沃、早朝、令行水、聖廟へ參、中臣祓、六根淸淨祓、護身法等修之、令祈念畢、次九條大納言殿へ參、御夢想歌會有之、次吉田左兵衞佐、近日石州へ下向云々、仍爲餞、帷子二ッ遣之、有返扎、次冷泉へ文臺返之、

廿六日、雨沃、齋了、御方之御所へ參、論吾奉授之、

廿七日、雨沃、午刻語心院賡首座來、筝持參之、仍家君、全齋、德庵、喜三郎等薦晚飡、次予令章句、夏五菊秋色夜閑座書閱賡　欄晴山縮蜀、風散水搖湘予　染袖斑々雨、泛舟浩々洋賡

廿八日、雨沃、

廿九日、雨沃、當番參、次御方御所へ參、論吾奉授了、

六月

朔、戊戌齋了、伏見へ行、巳刻、前大樹御對面、從濃州伊吹山、氷令進上、於御前各賜之、今朝禁中へ御進上云々、各退出之後、猶令候之處、色々有御雜談、次銅印字出來、學校より請取可上申之由、上意之、及晩御盃ニ參、次女院へ御禮ニ參、次女御殿へ參、御對面、

二日、晴、午刻、爲勅使、越前中納言之亭へ向、於東福寺、遊山之間歸京、

三日、晴、齋了、爲勅使、向越前中納言亭、薰衣香袋廿拜領之、仍令持參、即中納言令頂戴給、後有振舞、中納言殿、今日、月待、無食之、仍無相伴之義、申刻歸京、忝之由、御返事申入畢、次平野彌次右衛門より書狀到來、

四日、雨沃、齋了、參番、未刻、越前中納言殿より御使被下、御書幷帷子五拜領、即御返事申入、高田遠江守宛所遣之、御使名字、高田平左衛門、次圓光寺より書狀到來之、銅印字令出來之間、六

日、七日之比、可令進上云々、

五日、晴、

六日、晴、早朝、圓光寺來入、今日銅印字、可令進上、禁裏へ可披露之內談之、令領掌、午刻銅印字箱百、圓光寺之使僧持來、即於殿上請取之、銅印字數覺、本字、五万五千三百六十字、注字、三萬五千八百九十五字、

合、九万千貳百六十一字、

右、從前將軍、禁中へ御進上、

此外、種盤五、封一通、鎖子百、鎰貳、以上箱數百

慶長十一年　　圓光寺

林鐘初六　　元佶判

舟橋式部少輔殿

人々御中

如此圓光寺より覺書被贈、即　禁中へ書狀共ニ令進上畢、

七日、早朝、相國寺、圓光寺へ行、他出不能面、

八日、

九日、晴、也足軒令同心、前大樹へ參、御對面之、先度銅印字御進上之　叡感之由申入畢、朝程石川主殿頭處へ也足軒令同心行、令休息、及晩歸蓬華、宿番ニ參、

十日、晴、〔○以下半葉ほど餘白〕

十六日、晴、早朝より吉田へ行、悉與見舞畢、

十七日、晴、也足軒令同心、伏見へ行、先至阿彌宿へ行、令休息、前大樹へ參、無入御之後之、無御對面、自御城、令同心、東條紀伊守處へ行、即有晩飡、數刻打談之後、石川主殿頭處へ行、同也足軒令同心、主殿頭宿ニ一宿、

十八日、晴、巳刻、也足軒、主殿頭、令同心、登城、御對面之、三光院自筆、源氏抄、被見下、次也足軒令同心、歸京、於五條、夕立、仍寄休町屋之擔下、

十九日、晴、今日より三ケ日、禁中御書籍之虫拂之、仍早朝より參內、如例年、書籍共被取出、也足軒、白川民部卿、雅朝卿、之仲朝臣、季繼朝臣、實顯朝臣、實有朝臣、宗信、嗣良、豐長、通村、總

光朝臣、孝房、宣衡、子等也、此外紫宸殿奉行光廣朝臣、有廣卿、時慶卿、同時直、爲經卿、淸凉殿奉行資胤卿、賴定卿、重定朝臣、基任朝臣、御服奉行言經卿、同言緖、永孝卿等之、

廿日、晴、御虫拂之、

廿一日、晴、齋了、參內、御虫拂、今日畢、如元取置、及黃昏退出、

廿二日、晴、冷泉亭、月次哥會之、仍巳刻、向彼亭、及晚歸蓬華、

廿三日、

廿四日、晴、齋了、前大樹爲御見舞、向伏陽、

廿五日、晴、早朝、令行水、聖廟へ參詣、

廿六日、廣橋侍從、舍弟竹屋竹丸讀書來入、次冷泉侍從、同舍弟藤谷來入、

廿七日、

廿八日、

廿九日、齋了、參番、二條前殿下より、瓜五十、拜領、

卅日、晴、未刻、夕立、冷泉亭へ竹內門主御成、仍爲御相伴、巳刻向彼亭、晚頭及大酒、令沈醉、荒和

秡ニ不參、入夜洗髮、

七月

朔、晴、今日爲御禮、前大樹ヘ參、御對面、及晩歸蓬華、則御盃ニ參、

二日、早朝、大炊御門亞相光義、相談之間甚雨、仍薦朝飡、今日院御所、御繩打云々、仍板倉伊賀守被參云々、仍大炊亞相附騏尾出迎畢、巳刻院南方今禁中之間、令繩張、殘三方、未明屋敷之故、無繩打、次冷泉、山科屋敷改替、仍替地被相渡、予隣町之、於廣橋亞相亭、板伊州被薦晩飡、仍向彼亭、板伊歸宅後、猶有盃酌、

三日、雯沃、

四日、參番、禁中御目出度事之、仍晡時、各參集、廣橋大納言、中院入道前侍從中納言、藤中納言、勸修寺中納言、白川二位、總光朝臣、之仲朝臣、實有朝臣、重定朝臣、實顯朝臣、季繼朝臣、秀直朝臣、俊昌朝臣、宗信、基久、孝房、宣衡、通賢、嗣良、顯成、豐長、予、源孝治、大中臣種忠、安陪泰重等之、三獻御酌、御方御所被遊之、五獻如例、天酌之、夜半前各退出、重定朝臣、依霍亂早出、

五日、晴、午刻竹內梅藕亭ヘ行、今日、物書會有之、予雖非人數、隨招耳、入夜歸蓬華、
六日、晴、圓光寺、一字板、並字卦、二通來、
「九條大納言殿より瓜五十拜領、
七日、晴、早朝伏見ヘ行、前大樹ヘ御禮ニ參、御對面之、次越前中納言殿ヘ參、依御所勞、無御對面、
次板倉伊賀ヘ行、暫令雜談畢、山科、冷泉依屋敷改替爲行料、百石被遣云々、板伊州折帋被出之、
次石川主殿頭處行、冷泉同心之、振舞有之、及晩歸蓬華、則御盃ニ參、昨日、並字銅卦、備天覽畢、
八日、晴、齋了、依召、勾當御局ヘ參、昨日、銅卦事共、御尋之、
九日、晴、顯成令相博、不番參、全齋豐前下國、箋勘之、入夜參番、
十日、晴、家中目出度事祝義之、仍家君、萱堂、虎藏主、梅龍、同宰相、德庵等來入、全齋伏見ヘ被
越、急用之故之、仍晩來入、東寺妹方より瓜十五送之、入夜、冷泉、山科新屋敷見舞ニ行、令歸宅、
霍亂發病、全齋與藥、則平愈、
十一日、晴、夜前霍亂、餘蘊之脚痛、
十二日、晴、脚痛、
十三日、晴、以外脚痛、全齋、給藥、

十四日、雖當番、從脚痛、不參、
十五日、以外、令脚痛、左脚腫、
十六日、同以外、脚痛、終夜不眠、
十七日、同、
十八日、同、
十九日、晴、梅龍軒、從江刕三上、歸宅之間、脚痛之療治、令相談、令服藥、
廿日、晴、
廿一日、脚痛少驗、梅龍軒藥相、有望歟、
廿二日、
廿三日、
廿四日、
廿五日、
廿六日、

廿七日、晴、前大樹、從伏見、二條城ヘ御成云〻、

廿八日、晴、早朝、御京、前大樹ヘ被參、愚也病惱之由、被申入、則淸心円五十粒拜領、能々可養生之由、被言云〻、

廿九日、晴、性院僧正、お京、喜多坊、并敬俊等來入、

卅日、晴、

八月小

朔、早朝、如例年、內ヘ御太刀進之、則被返下、次御方御所ヘ御太刀進之、今日依御德日、無御返、次殿下ヘ御太刀進之、次女院ヘ杉原壹束進之、午刻爲御返、壹束、錫鉢拜領、今日、諸家、前大樹ヘ年頭、御禮有之云〻、

二日、晴、於二條城、御猿樂有之云〻、觀世、金春、立逢云〻、

三日、晴、同於二條城、御猿樂有之云〻、拙也、脚痛行步不叶之故、御相伴ニ不能出、無念此事之、

四日、晴、脚痛心外、左脚風毒腫云〻、仍外料宗甫、召寄、令療治、先奇藥服之、妙庵來入、則內藥

服用之、
五日、晴、午刻、宗甫來、腫物立鐵針、膿血土器ニ六七盃出畢、及晩、性院僧正、出京、
六日、晴、宗甫來、藥共作直畢、夜中大雨、
七日、晴、於女院、有御能云々、可令參候之由、雖有御觸、從病惱、不參、
八日、晴、於女院、有御能云々、
九日、
十日、晴、御京、前大樹ヘ見參、拙也、煩風毒種之由、被申入、丸藥被下之、
十一日、晴、入夜甚雨降、拙也、此中五六日、秘結、申刻相通、自全齋藥之、今日前大樹、御末子、五郎太郎殿、長福殿兩殿、御參內云々、（○以下四行程空白）
十四日、微雨、戌亥刻、月蝕皆虧、此時刻晴天、人々相望看、奇妙云々、（○以下五六行ト半葉空白）
廿三日、晴、性院來入、喜多坊同來入、及晩、鶴光丸、吉田祭ニ行、
廿四日、晴、外科來、戌亥刻、鎮守遷宮、性院僧正令執行給、社奉置則、不覺正云々、如此御義佳瑞云々、珍重々々、從山科黃門、三八番之由、被觸之、

廿五日、晴、早朝、古庵來、六韜、中庸、渡之、
廿六日、冷泉中將殿より諸白、壹樽、給之、
廿七日、甲子 寵塗之、也足軒、拙也、所勞、爲見舞、來義、双瓶三重給之、同侍從來談、三淸來、三畧返之、次入安來、次存庵來、晩湌薦之、次九條大納言殿より拙也、所勞、爲御見舞、柿籠被贈下、久雲御使之、卽令對面畢、
廿八日、晴、親王樣、御乳母人、柿籠進之、
廿九日、入夜、大風、祐庵來、藥傳之、

九月大

一日丁卯 自所勞、御盃不參、昨夜大風、至巳刻、漸相止、
二日、晴、外科祐庵來、藥貼之、子共灸、女院侍從御局より、愚也所勞、爲見舞、かます十連贈給之、次東式部局より使者來、
三日、晴、自也足軒、北畠名字共、反音尋來、卽反音書付遣之、

四日、

五日、

六日、

七日、

八日、晴、　入夜、徳庵來、次冷泉來談、

九日、晴、竹内極﨟來入、次官務來入、次大外記來入、前大樹御禮之衆、小袖一重宛、拜領云々、

十日、晴、古庵來、壽命院へ五□□記借ニ遣、則到來、入夜冷泉中將來談、

十一日、晴、石川主殿頭より双樽諸白柿一折、被贈之、南禪寺竹取ニ遣之、

十二日、晴、

十三日、晴、外科祐庵處へ諸白一樽、串鮑三連杉原十帖、遣之、次外科宗甫處、諸白一樽、青銅五十疋遣之、次妙庵へ柿百、遣之、次參番、乙道女卷御講尺有之、令聽聞畢、講終後、御前へ被召、晩食被下之、數刻御雜談共有之、及黄昏退出、宿嗣良へ相博畢、入夜六條宰相亭へ行、

十四日、晴、早朝、勾當局へ可來之由仰之、仍則令伺候之處、禮記、内則篇小觿サクシリト讀乎之

由、御尋之、則小鱐（サクシリ）大鱐（ヲホクシリ）ト讀之由、令勅答申畢、入夜冷泉亭へ行、三清來、淺野紀刕へ書狀遣之、次入
案來、
十五日、晴、齋了、伏見行、前大樹へ參、懸御目、御機嫌之、則此中、愚也、病中御藥共拜領得驗之
段、御禮申入畢、晚飡之後、退出、次庭田少將、令同心、板伊州へ行、令對面畢、次淺野紀伊守へ行、
令面謁畢、庭田羽林宿へ行、令同心、歸京、
十六日、晴、齋了、中御門右小弁許へ行、東寺執行、津野口宣、所望之由、令相談之處、則調給之、即
東寺へ持遣畢、及晚、雨降、
十七日、晴、及晚、七觀音へ參詣、及黃昏、勾當局へ被召、則參、銅印字、御禮之事之、
十八日、晴、早朝、觀修寺亭へ行、次廣橋亞相亭へ行、對面之、學校へ書狀令讀合畢、次參番、宗春、伏
見學校へ遣之、晡時宗春歸、有返札、
十九日、雨降、女院侍從局より柹一折、給之、
廿日、晴、藤駿河來入、廣橋侍從、讀書、双瓶二重、給之、
廿一日、晴、東寺金堂供養、三寶院准后、導師云々、法會着座、西園寺大納言、中山中納言、西洞院

宰相云々、本寺衆僧五十供云々、
廿二日、晴、晡時、冷泉中將來談、則德庵處へ令同心、次予、關白殿參、數刻、候御前、
廿三日、晴、齋了、也足軒、同子息、侍從藤中納言、同右衞門佐令同心、東寺觀智院へ行、御祖相承之犍陀穀子袈裟、并七祖之銘文、十二光等、令拜見畢、晩湌於觀智院有之、次從執行切々使給之間、立寄畢、今日番、伯殿相博、宿小川坊城へ令相博、
廿四日、晴、性院、令入來給、
廿五日、
廿六日、晴、
廿七日、晴、及晩、庭田羽林へ行、
廿八日、晴、母堂、氷室より、御出京、酺盃抄、早朝、令行水、神事〻、入夜、全齋入談、曉天風雨、賡首座來、
廿九日、陰雨、
卅日、朝、雨、午前晴、及晩、隆首座、全齋等來談、終夜、圍棊、及明白、

十月小

一日、丁酉早朝、令行水、着烏帽子道服、拜日光畢、
二日、大工來、
三日、晴、辰刻、雨降、鶴善丸、孝經、一昨日讀終、仍今日、智惠粥催之、家君同萱堂、梅龍等來臨、次參番、
四日、
五日、
六日、晴、榑ふき二人來、羽越中殿より書狀到來、
七日、性院、出京、
八日、晴、古庵處へ行、聖德太子憲法遣之、淺紀弼、七書、四書奥書、外題等、染筆遣之、入夜參番、
九日、晴、齋了、廣橋頭蘭之亭へ行、高尾神護寺本願上人、綸旨之御事談之處、午刻、勅許由之、仍則綸旨被書調給之、覺音上人云々、次九條殿へ參、御對面之、次家君へ參、晩飡給之、入夜參番、永孝

卿代之、性院より黑木百束給之、
十日、晴、南禪寺へ使者遣之、
十一日、晴、性院歸山、廣橋侍從、讀書ニ來入、同竹屋來入、
十二日、晴、中院拾遺へ行、竹屋來入、
十三日、雨降、參番、宿通村へ相博、及晚令行水、入神事、
十四日、晴□火神事、
十五日、晴、齋了、參內、御日待之御遊之、
十六日、晴、候內、
十七日、
十八日、參番、性院、喜多坊等來入、覺音上人、高尾再興綸旨頂戴之、仍爲御禮、出京、市宅寄宿、
十九日、雲、未刻、上立賣さゝや、二兵衛へ振舞ニ行、
廿日、晴、
廿一日、

廿二日、晴、殿下ヘ參、聖護院宮ヘ參、毛詩、御讀書始之、
廿三日、晴、雖當番、伯殿ヘ令相博、宿ニ參、廣橋頭辨令同心、高尾上人禮ニ女御殿ヘ參、一束進上之、次也足軒ヘ行、令同心、賀茂ヘ行、
廿四日、庚申雖有、卽煩數故、不參、
廿五日、晴、高尾上人、出京、
廿六日、晴、聖護院宮ヘ參、毛詩二卷御讀書、爲兼勝卿代、宿番ニ參、
廿七日、凌晨雪降、及飯後、一寸晴、
廿八日、甲子番ニ參、甲子待ニ御前ニ候、
廿九日、晴、

十一月大

一日、丙寅、
二日、

三日、晴、雖當番、相博、

四日、晴、齋了、語心院庚首座令同心、高尾山へ登、途中風雪、

五日、晴、槇尾、栂尾へ行、

六日、晴、庚首座令同心、高尾より嵯峨法輪寺へ參、九日より開帳之、本尊、虚空藏、座像、右手持劍、左手ニ持寶珠、其身尺三尺許之、次松尾へ參詣、次梅津正法院へ立寄、晩飡有之、黃昏趣歸路、亥刻歸宅、正俊令同心、

七日、

八日、參番、請取之、

九日、

十日、晴、近衛殿へ參、依召之、明日、鷹司殿可有關白宣下之、其義如何、御相談之由之、次鷹司殿へ參、

十一日、鷹司殿へ御見舞ニ參、次二條殿へ參、入夜令衣冠、今日宣下見物ニ參內處、頭辨被談之、今度大內記欠之、仍少內記盛勝、詔書勅書調進之、可爲不調法之由、可令異見之由、被示之由、大外記

亭へ向、兩通令淸書畢、此義、昨夜、勾當御局へ被召、御尋有之、令相辨也、今度大內記欠之、然は少內記可爲勤役之由、勅定之、尤之由、勅答申、則職原抄、所掌同意之、每官正欠之時ハ次官勤之事、流例之、戌刻、上卿着陣、次宣下、上卿大炊御門大納言經賴卿、奉行辨頭、左中辨總光朝臣、參頭辨、左少辨孝房、內記安盛勝、大外記師生、官務孝亮、次鷹司殿へ參、詔勅宣旨等各持參、其儀從簾中、宣旨局令請取給、今度內覽牛車兵使隨身左大臣任之分之但昨日御拜宣旨等持參、畢後、上卿參候太刀進上、次奉行辨太刀、次參頭辨太刀、次極﨟補代之、太刀右今日役者之、次廣橋大納言太刀、次中御門中納言太刀、次平宰相、次大炊御門三位中將、平少納言、淸閑寺、予、藤谷、各御禮太刀進上之、次三獻有之、後各御盃令頂戴退出、

十二日、

十三日、參番、御方御所、御讀書之、次庭少令同心、坊城へ行、次六條へ行、

十四日、晴、齋了、中院へ行、万葉十三ノ卷、令助筆間、遣之、中院拾遺從年少、耽載籍、常翫翰墨、憑感御深志、馳禿筆、助其勤勞者之、如此、令奧書畢、

十五日、晴、拂曉、寶壽院へ行、今日三陽院殿、十七回忌日之、仍家君御出、全齋等令同心齋了、各

法輪寺ヘ參詣、開帳之、歸路妙心寺見物、晡時歸宅、
十六日、雨降、
十七日、
十八日、晴、參番、於小御所、御方御所、御讀書、
十九日、晴、豐國ニ位許ヘ行、終日令雜談、
廿日、晴、板伊州ヘ見舞ニ行、密柑一折進之、入夜、坊城亭ヘ行、
廿一日、
廿二日、雨降、
廿三日、參番、
冬至、年筮勘之、
廿四日、晴、早朝、性院并上人等令同心、板伊ヘ行、高尾之事演說之畢、巳刻、歸蓬蓽、又性院□上人等令同心、片桐主膳正許ヘ行、見舞ニ密柑一折遣之、香臺院政所、殿屋爲修理、片桐主膳正、爲奉行、秀頼公より被仰付云々、
廿五日、早朝、令行水、也足軒、同侍從殿、伯殿、令同心、聖廟ヘ參、於内陣、能札出來令頂戴、神盃

畢、次土左馬助令同心、町通薬屋、藤右衛門處へ行、薫物、香具共求之、及晡時、歸蓬華、金子内記許より山梁雌雄贈給了、次片桐主膳正許より生鯛五、天野双樽、贈給之、七書之点所望之由之、入夜、錯庵へ見舞ニ行、天野隻樽、生鯛三進之、同御子息へ錫壹對筆十對進之、夜半前歸蓬華、賀茂在家、燒亡、

廿六日、晴、竹屋、讀書來談、

廿七日、晴、聖護院宮へ參、御讀書之、次九條殿へ參、次土左守へ行、入夜歸蓬華、入夜大雨、

廿八日、晴、早朝、揚明前殿下へ參、今日和漢御會之、爲執筆、御召、發句、前殿下被遊、

雲の波わくる氷のわたち哉　杉

松風の散あへぬ花にしつまりて　玄仍

暮山雪漸晴　西咲

かすみつゝ橋の行衛の明渡り　玄仲

苫路のいつこ梅かほるらん　昌琢

漁□饗曉驚　正五

隔江舟送迎　以心

蹬少林栖寂　秀賢

友好巧言鸚　周洪

霧はたゝ尾上の風にかたよりて　衆如

影高松月清　昊書

右連數之、日入時分、滿百、入夜参番、晝間ハ藤右衛門佐ヘ相博、

廿九日、晴、荒木三平、晩飡ニ召、秀頼公より短冊四十枚被下、東坊城、西園寺、五條、小川坊城、三條西、四條、難波等可遣之由、存庵示之、仍令配分持遣之、入夜松下志广來談昨日豊前より被参候長岡越中より爲使者、春可來、鴨十五、鮎糟漬三百、被贈給之由之、

卅日、晴、小川坊城來入、錫湯繼給之、次竹屋廣橋侍從、讀書來入、次賴玄來入、一宿、

十二月小

一日、丙申、暫時雪下、鷲尾相公ヘ見舞ニ行、双瓶佳殽贈之、家君ヘ今日之禮ニ行、次晩食ニ梅龍軒ヘ行、次御盃ニ参、次親王御方ヘ参、次女御殿ヘ参、次女院ヘ参、酉下刻、退出、次年筮勘之、次賴玄毛詩授之、

二日、晴、聖護院宮ヘ参、御茶被下之、毛詩奉授之、

三日、晴、参番、次聖護院宮ヘ昨日之御禮ニ参、

四日、

五日、雨降、近衛殿ヘ参、

六日、早朝、近衛殿へ參、今日親王御方、御事之、仍有御能、仍公家衆、卅人許伺候、
七日、晴、土左令同心、藥屋へ行、
八日、晴、參番、次親王御方へ參、謠本外題書之、
九日、晴、女院ヘ參、今日內々衆、悉被召之、存外令沉醉、秉燭之後退出、
十日、雨降、齋了、聖護院宮ヘ參、毛詩十一卷より十四の卷迄、奉授之、次中院拾遺來談、次金子內記來、職原抄五六枚講之、晚湌薦之、咳氣散之、
十二日、早朝、全ヘ行、咳氣藥給之、入夜中院、也足軒來入、昨日廣橋亞相、八幡遷宮、爲上卿、參向之處、於下鳥羽、車借之車、上卿御乘物ニ行當云々、仍上卿腹立、車遣被拘云々、件之車遣、予百姓云々、可被曖之由、內談之間、任置申由、令返答畢、
十三日、晴、微雪、當番咳氣之故、御理申入不參、入夜中院侍從來入
十四日、晴、
十五日、
十六日、大坂中村九左衛門女中、予叔女今日死去云々、同日報來、

十七日、

廿一日、晴、家君ヘ朝食ニ行、女房衆、母堂、伏見ヘ被歸、

廿二日、晴、家君、全齋等爲歳忘、晩食召之、及暮雨降、

廿三日、雨降、晩飡ニ全齋ヘ行、雖當番、依服、不參、

藤家

大織冠鎌足—不比等—房前—眞楯—内麿—冬嗣—良房—基經—忠平

- 房前—魚名 河邊左大臣 西條流山科流
- 内麿—眞夏 日野流
- 冬嗣—長良 高倉流
- 冬嗣—良門 勸修寺流

忠平—師輔—兼家—道長—頼通—師實—師通—忠實—忠通

- 師輔—公季 閑院太政大臣 閑院流
- 道長—道隆 水無瀨流
- 道長—頼宗 中御門園持明院等流
- 道長—長家 冷泉流
- 師實—家忠 花山院流
- 師實—經實 大炊御門流
- 師實—忠教 飛鳥井流

忠通—基實—基通—家實—兼經—基平—家基—經平—基嗣—道嗣—兼嗣

- 忠通—兼實 九條殿流 二條一條等

兼嗣　良嗣　房嗣　政家　尙通　稙家　晴嗣改前久　信尹　信尋

九條殿
兼實　良經　道家　教實　忠家　忠教　師教　房實　道教　經教　滿教　政基　尙經　稙通
兼孝　忠榮

二條殿
道家男
良實　師忠　兼基　道平　良基　師嗣　滿基　持基　持通　政嗣　尙基　尹房　晴良　昭實

一條殿
道家次男
實經　家經　內實　內經　經通　房經　經嗣　兼良

鷹司殿
家實公男
兼平　基忠　冬平　冬教　師平　冬通　冬家　房平　政平　兼輔　忠冬　信房　信尙

花山院　〔○以下ナシ〕

慶長日件錄　第三

應無所住、而生其心、

山堂靜夜坐無言、寂々寥々本自然、
何事西風動林野、一聲寒厂唳長天、

慶長十二年日件錄　　乃岡

慶長拾二年丁未

正月小

一日、乙丑、依御不豫、無四方拜、予輕服之故、御盃不參、家中祝義、如例年、家君ヘ御禮ニ行、

二日、〔〇以下二行余白〕

八日、晴、除服、以頭辨申入、則番ニ參、全齋、豐前ヘ下向、

九日、晴、諸家年始、御禮ニ行、

十日、晴、同

十一日、晴、立春御盃ニ參、扇拜領、於申口、御盃有之、

十三日、晴、江戸將軍、爲見舞、下向可仕之由、御暇之事、勾當局より申入處、則勅許、參當、

「今日、大炊御門大納言殿、烏丸大納言殿、日野宰相殿、江戸ヘ下向云々、

十四日、晴、先年申出、勅本共、以目錄、返上申畢、件勅本、禮記正義、春秋釋義、禮書、大槐秘抄、屬辭比事、楊子法言（是ハ後日、以也足軒返上畢、）本朝書籍目錄、

十五日、家中祝義、如例年、左毬打三本、

十六日、晴、拂曉、江戸ヘ發足、土御門左馬助令同心、冷泉中將、山科少將、兩人、山科迄被送、大津より乘舟、矢橋ニ着、於草津令中食、水口ニ宿、

十七日、晴、石藥師宿、

十八日、晴、四日市場より乗船、熱田着、鳴海ニ一宿、
十九日、雨降、岡崎ニ宿、
廿日、晴、荒藺之里ニ宿、
廿一日、夜中ニ遠江、今切越、西坂ニ宿、則小夜中山麓之、
廿二日、晴、大井川越、江尻宿、
廿三日、晴、曉天、淸見寺ヘ登、風景見物之、於同關
　海つらはかすみなからも月影は淸見か關のあけほのゝ空
今日、始尙(而カ)富士峯見之、山容驚目者之、浮雲一點無之、風景不斷言舌者之、三嶋ニ宿、
廿四日、晴、箱根山越、相模川過、さかわの里ニ宿、
廿五日、晴、かの川ニ宿、
廿六日、辰刻江戸ニ着、大炊御門殿、烏丸殿、日野相公下着、
廿七日、
廿八日、晴、本多上野介ヘ行、薰物一貝遣之、次大久保相州ヘ行、薰物十貝遣之、兩所共ニ對顏、以外

懇情之、次靑山圖書へ行、薰物五貝遣之、是又對顏、次本多佐劦へ行、薰物五香合遣之、次近衛殿去三日御下向、未御滯留之、仍御見舞ニ參、對面之、

廿九日、大炊御門、日野、烏丸殿、宿所へ行、入夜雪降、

二月大

一日、日午、大久保相劦より被送示書狀、今日、大樹御對面可有之云々、但路次泥滑之間、可爲明日否之旨、被示之間、今日朔旁々條御對面有之樣ニト申入處、則可令登城云々、仍各登城、烏丸大納言、大炊大納言、日野相公、左馬助、予、各長袴、小刀、烏丸進物、唐織夜物壹つ　小袖壹重、大炊殿進物、小袖壹重、日野相公、小袖壹重、以上三人也、太刀折帋、申次、大久保相模守之、土御門左馬助、予鷹條卅筋、太刀斗之、太刀令持參、御對面之後、即退出、各大義ニ罷下之由之、

二日、大御所へ御禮ニ令登城、御寸白氣之故、無對面、

三日、從大御所、御鳥鴈壹つ、拜領、

四日、晴、本多上野介振舞之、五人公家、各向彼亭、爲相伴、大久保相劦、平岩主計頭、仙石越前、

正木大膳、石川玄番、水野市正、佐野修理、青山圖書、渡邊筑後等之、上野自身陪膳、懇志之振舞之、於書院有茶、各歸宅、相㕝被示云、明晩於御城、可有御振舞云〻、各忝之由申之、

五日、晴、上野介より被示旨、今日大御所、可有御對面云〻、各令同心、新城へ向、卽御對面之、奏者、城和泉守、予也、進物、鷹條十筋、令退出之處、被召返、暫御雜談共有之、次近日唐人令進上、万書統宗全本八冊、被取出、被見下、次本城へ參、大樹御對面、先御盃頂戴之、右座ニ大炊御門大納言、烏丸大納言、日野宰相、左座、土御門左馬助、予、各座、召御盃參、次御膳參、土左、予兩人送付、及晩退出、

七日、晴、御臺様より小袖壹重、拜領、大久保相州、書札被添之、次安東對面、土井大炊助兩人より兵粮米五十俵、被渡之、忝之由、相州へ書狀遣之、（馬カ）

八日、

九日、

十日、（〇以下裏面全く余白）

三月小

一日、巳、御盃ニ參、次親王御方ヘ參、
二日、
三日、御香ニ參、孝經孝治章より講之、水無瀨新三位等、聽聞之、
四日、羽越中殿見舞ニ吉田ヘ行、次二位ヘ行、五明五本進之、吉田庄兵佐ヘ五明十本遣之、同女中ヘ薰物香合進之、幸鶴ヘ薰物遣之、
五日、
六日、
七日、
八日、
九日、
十日、

十一日、晴、羽越中殿、爲相伴、巢松軒ヘ行、
十二日、
十三日、
十四日、晴、土左令同心、南禪寺語心院ヘ行、
十五日、於御黑戸前、泉水出來、仍有御振舞有之、
十六日、
十七日、
十八日、
十九日、
廿日、羽越州守より小袖壹重、糟漬貝、豐前酒、双樽給之、
廿一日、及晚吉田ヘ行、羽越中廿三日、下國之爲見舞之、
廿二日、
廿三日、〔○以下數行余白〕

四月小

一日、巳、親王御方へ御讀書ニ參、次御盃ニ參、

二日、

三日、

四日、

五日、大工來、

六日、及晩、山科內藏頭許へ振舞ニ行、大工來、

七日、

八日、參番、大學講可被聞召云〻、即申上畢、於黑戶、講之、聖護院宮、中院父子等、聽聞之、序分之、

九日、大學講之、

十日、大學講之、法身院來、

十一日、大學講之、今日終卷、及晩、勾當局ヘ被召、十帖、銀子五枚拜領、孝經大學、御聽聞、御祝着之由之、又頓而論吾可被聞召之、良庵、少貳、兩人予門弟成、仍令誓紙畢、良庵十帖給之、

十二日、朝鮮人、官使、今日大德寺ヘ來入云々、仍大德寺ヘ行、令見物、申刻朝鮮人來、其行粧、先、什物共、次、雜人共、次、纛、次、戈矛、次、旗、次、乘輿三、次騎馬廿余人、持弓者、皆赤服之、及日暮、歸宅、

十三日、參番、

十四日、巳刻雨降、全齋、豐前より歸宅、次也足軒卅六人家仙集被書直之間、予業平集令助筆、卽時、令書寫遣之、

十五日、雨降、大工來、

十六日、及晩、良庵、少貳等來、

十七日、

十八日、從所勞、御番不參、藤木駿河方ヘ銀子五十朱遣之、

十九日、大工來、

廿日、
廿一日、
廿二日、
廿三日、從頰、雖當番、不參、
廿四日、
廿五日、御靈法眼來、双瓶御肴給之、毛詩授之、
廿六日、御靈法眼來、毛詩讀書、次想照院啅首座來入、有馬諸白給之、
廿七日、御靈法眼來、
廿八日、雖當番、依所勞、不参、御靈法眼來入、
廿九日、御靈法眼來、良庵來、
卅日、御靈法眼來、中院侍從、伯殿來義、

閏四月小

朔、癸亥御靈法眼來、大外記來入、御盃不參、
二日、御靈法眼、便當被持、家中御振舞、次吉田幸鶴丸殿來入、豐前酒壹樽給之、
三日、御靈法眼來、次參番、次御方御所へ御讀書ニ參、及晩豐光寺江戸へ下向、見舞ニ行、扇子廿本遣之、次圓光寺へ行、扇子廿本遣之、何も拜顏之、
四日、
五日、幸鶴丸殿、被歸、御方御所へ御讀書ニ參、
六日、
七日、
八日、盜人之事、金子內記方へ爲相談、宗春遣之、及晩內記宅へ行、一義令相談畢、
九日、板伊州へ家中男共、幷小平次家君御扶持人遣之、件小平次不審多々故、宿ニ被預置者之、午刻參內論吾之講、今日より始之、序分講事畢、聽聞之衆、一條宮、大覺寺宮、中院父子、水無瀬、三淸等之、申刻退出、雨降、吉田幸鶴丸殿來入、
十日、雨降、御靈法眼來、

十一日、雨沃、御靈法眼來、次冷泉侍從、藤谷侍從讀書、次中院侍從、一條侍從來談、
十二日、晴、早朝、中院侍從、讀書來入、次御靈法眼來入、讀書、次爲基久卿代參番、
十三日、晴、當番參內、論吾學而篇講之、聽衆、大覺寺宮、八條宮、中院父子、西洞院宰相等之、申刻退出、豐前松井佐渡方より書狀到來、白砂糖壹壺給之、
十四日、
十五日、中院父子、伯殿令同途、聖廟へ參、次賡座元、令同心、氷室山へ登、入夜歸宅、
十六日、晴、午前參內、論吾、爲政篇講之、女院御聽聞之、聖護院宮、八條宮、大覺寺宮等、御聽聞、
十七日、
十八日、晴、午前參內、論吾、八脩篇講之、
十九日、晴、新藏人、御靈法眼、中院拾遺、冷泉拾遺、藤谷竹屋等讀書、及晚、若州御みや予伯母上洛、午前、高尾上人來談、
廿日、
廿一日、晴、女房衆、八千代丸、金丸等、伏見叔母之許へ行、佐久間久右衛門女中衆、予女房衆姉

之、午前烏丸右大辨之許へ行、行能卿源氏初卷、被染筆、末卷是時卿御筆跡之、希代珍物之、次寂蓮法師、二首懷紙有之、也足軒所望之間、亭主被出之、次參內、里仁篇講之、

廿二日、當番、公冶長篇講之、

廿三日、

廿四日、午時、參內、雍也篇講之、

廿五日、早朝、冷泉中將令同心、聖廟へ參、

廿六日、

廿七日、當番、參內、述而篇講之、薰衣香袋一ツ拜領、

廿八日、

廿九日、紹節來入、五明十本遣之、同子左平太筆三對進之、三略講所望之由之、同來三日可相始之由、令契約畢、

五月大

朔、御方御所江參、論吾御讀之、次女御殿より帷子貳つ令拜領、御盃ニ參、
二日、雨降、當番參內、次御方御所江御讀ニ參、
三日、雨降、御靈法眼來、次語心院來、紹節父子三人來、仍三略講之、直解講義、過半講之畢、次御方御所へ御讀書ニ參、
四日、雨降、四條侍從來入、讀書、御靈法眼來入、冷泉侍從殿より蒲節爲祝義、壹荷兩種給之、
五日、晴、家君へ參、次爲孝房代參、於申口、御冠同緌令拜領、平內侍殿被取傳、次御方御所樣へ參、御讀書之、次揚明へ參、次女院へ參、
六日、雨降、三略講之、次親王御方へ參、
七日、參番、
八日、三略講之、親王御方へ參、於一齋有晩飡、
九日、雨降、
十日、三略講之、親王御方へ參、吉田幸鶴丸、高尾山へ登山、爲洛□之、
十一日、雨降、九條殿へ參、次庭田亭へ行、

十二日、中院拾遺來入、參番、御方御所ヘ參、御讀書、
十三日、晴、三略講之、九條殿三略、爲御聽聞、御成、生絲帷子貳つ給之、
十四日、晴、御方御所、御祈禱、雖有召、小兒はしか相煩之故、不參、巳刻、全齋、豐前ヘ下國、次冷泉侍從來入、新藏人、御靈法眼、昕叔、中院侍從、伯殿等來入、
十五日、陰、三略講之、昕叔爲聽聞來入、
十六日、晴、自高尾、佳例祈禱札來、
十七日、晴、三略講之、今日滿座之、今度三略講、紹節父子三人、發起之、予四五年前、講義直解、令用捨、書集之、名義解、以件本、遂講者之、是書等粗加之、九條右府御成、瓶、食籠等拜領、午後、伯侍從殿、新藏人、賡座元等、令同心、御靈別當許ヘ晩飡ニ行、及黄昏歸蓬華、
十八日、陰、四條侍從、中院侍從、冷泉侍從、藤谷新藏人等、讀書ニ入來、次於御靈社別當、植竹令所望、卅本余植之、後園異方、
十九日、雲沃、御方御所ヘ參、早桃進上之、
廿日、陰、

廿一日、
廿二日、晴、好庵朝食ニ召之、愚也、脉被胗之、此中惡寒之故之、及晚、大雨、
廿三日、晴、冷泉侍從、藤谷等入來、
廿四日、晴、依昨夜、病惱、
廿五日、今日、月次會、雖可令興行、依病惱延引、
廿六日、
廿七日、
廿八日、土用入、宗春、高尾登山、
廿九日、益庵來、杉原一束給之、
卅日、

六月大

朔、晴、依病惱、御盃不參、

二日、不參番、俊正、盛順、正俊等來入、

川日、藤右衞門佐來入、双樽兩種給之、大寧院來談、

四日、晴、寶珠院來入、五明五本給之、大樹之御醫師、安世來、臘燭卅丁給之、寶珠院引導之、益庵

方へ書扎認樣、書付遣之、

五日、晴、二條樣より甘瓜髭籠、拜領、御使稻田之、則那須修理權大夫方へ遣之、

六日、喜多房來談、次船頭大夫より帷子貳つ被贈之、次難波殿より喜慶樓綴被見、卽寫置畢、龍

雲軒來入、香薷散給之、

七日、祇園祭之、家君等御出、子共見物ニ行、

八日、

九日、晴、九條殿より瓜百拜領、次圓光寺より七書、新板本、給之、

十日、晴、無氣之祝調之、吉田之與七郞、瓜卅進之、烏丸宰相殿、愚也、病中可見舞來入、瓜十給

之、及薄暮、觀音房來、

十一日、晴、夜半後、吉田在家、南三町、燒失、見舞人遣之、

十二日、晴、家君へ參、大學點不審共、令校正畢、庚座元來入、入夜、風吹、

十三日、陰、雨風吹、東寺執行內義より瓜廿顆給之、次同實嚴院より眞桑廿顆給之、妙庵へ瓜廿顆進之、

十四日、晴、東寺上人、河內方より瓜卅顆進之、中院拾遺江瓜十顆贈之、物忌事、藤木駿河ニ書遣之、

十五日、早朝、聖廟へ參詣、次觀音房、朝食被振舞、藤木駿河令同心、午前可令歸宅、內存之處、亭坊事外抑留之間、終日、入夜令歸宅、鶴光丸、同終日、令遊興畢、

十六日、觀音房來入、左傳始讀之、次中院拾遺許へ行、弘法大師之（之カ）、陀彌之名号拜見之、驚目者之、

十七日、藤右衛門佐來入、讀書、次藤木駿河ゐの志々常福寺之靈寶、彌陀尊像拜見之、件佛像、泥書尊形、悉以念佛幷阿彌經成立之上下ニ經文有之、終ニ入唐沙門空海書給之、誠ニ希有之寶物之、次良庵、寫作、藤木駿河等令同心、中院亭へ行、五筆之名号、令拜見畢、

十八日、晴、大學講始之、觀音房賴玄發起之、序分講之、次御方御所江參、御讀書、

十九日、晴、大學講之、次親王御方へ參、御讀書、

廿日、晴、御靈法眼來入、藤右衛門佐來入、讀書、入夜、飛鳥井相公亭へ行、
廿一日、霎沃、大學講之、次親王御方へ參、御讀書、次冷泉侍從、藤谷來入、讀書、論吾、今日終、
廿二日、晴、大學講之、參番、次御方御所江參、御讀書、
廿三日、晴、御方御所江令伺候、御讀書之、益庵來、筆結來、大筆持來、
廿四日、朝天、雨沃、大學講之、
廿五日、晴、大學講之、終篇之、次御方御所樣へ參、御讀書之、次奧州會津、感應寺、玄音坊、始而來、職原抄文字讀并講尺等所望之由之、五明五本給之、次極﨟來談、次妙庵來入、
廿六日、所永慶爲代參番、次親王御方御讀書ニ參、益庵色紙短尺持來、池田三左衛門殿、所望之由之、
廿七日、晴、午後、鷹司殿中納言殿へ參、今日姫君御膳始、祝義云々、仍ニ一條殿、揚明前殿下、九條右府御成之、公家衆、中御門黃門、左衛門佐、淸閑寺、予等之、入夜退出、□玄音來、次一乘坊來、五明五本遣之、
廿八日、晴、玄音來、職原抄讀之、親王御方へ參、御留守之御所之、冷泉中將令同心、竹內極﨟へ晩

滄ニ行、

廿九日、玄音來、職原抄讀之、御親王御方ヘ參、御讀書之、次冷泉中將ヘ廿首、御短尺之題、令所望之處、少眼病之由、侍從殿調之給、次冷泉亭ヘ行、後撰集令借用、次道意來、

晦日、晴、御靈法眼來入、左傳序始而教之、次中院歌會、月次、予頭役之、仍八木貳斗、美酒瓶四双、抹茶一桶、詠草紙二帖、三重箱精進一重、槿花一重、魚肴一重、短尺等遣之、件會之人數、花山院大納言、轉法輪中納言、三條西中納言、烏丸宰相、庭田少將、四條少將、正親町三條少將、高倉右衛門佐、高倉侍從、白川侍從、坊城右中辨、祭主、中川、予等之、今日俄相違衆過半、烏丸相公、四條少將、白川侍從三人迄出席之、仍四王院僧正、廣橋頭辨俄相依之處、出席之、申刻滿座、次傳灯錄全本十五冊語心院ヘ返遣畢、三重韵五部到來、今夜、家中祝義如例、

七月小

朔、晴、先家君ヘ參、次日向國、如法極樂之曼荼羅、信樂寺ニ有之由、風聞之間、則向彼寺令一見畢、希代之物之、及晩御盃ニ參、

二日、晴、參番、持明院黃門亭ヘ行、歌仙、色紙形、樣子習之、行俊卿中書、仍借給之、
三日、晴、九條右府御成、次御靈法眼來入、左傳讀書、次冷泉侍從、藤谷讀書、爲生見玉、家君、豈
堂各御出、梅龍軒、同女房衆等之、
四日、晴、御方御所ヘ參、
五日、晴、早旦、南禪寺語心院ヘ行、及薄暮、歸宅、
六日、晴、九條右相府ヘ參、御振舞之、
七日、晴、當番、御方御所ヘ參、
八日、晴、朝食ニ藤右衛門佐殿行、次竹內門跡參、次御方御所ヘ參、禁中御日出事之、
九日、夕立、爲通村代參番、
十日、晴、賴玄來、宗順房來、扇子三本給之、次高尾覺音上人來入、梨菓扇子等給之、御靈法眼、帷
子壹つ給之、
十一日、晴、孟子序、令講尺、賴玄發起之、九條右府公、爲御聽聞、渡御、聽衆廿人斗來入、灯籠令
進上、

十二日、晴、家君令御供、拂曉、實壽院へ行、唐前之義、如例年、齋了、高尾へ登山、來十六日槇尾俊正房、渡唐有願志、發足云々、仍爲暇之、神王院へ行、及黃昏歸蓬蓽、

十三日、晴、御方御所樣、御讀書參、次葡萄一折、備天覽、次法眼來入、藤右衞佐來入、新藏人許可、饅二連贈給之、

十四日、晴、齋了、參番、良庵、薄楮貳束進之、

十五日、晴、女院親王御方へ御禮ニ參、次御盃、槇尾俊正房へ爲餞、薄楮壹束、筆等遣之、送行詩送之、

十六日、晴、右衞門佐殿入來、從禁中、灯籠御返被下之、

十七日、晴、參番、御方御所樣へ參、早朝孟子講之、慈照院昕叔禪伯、孟子正義令持參、則借請者之、

十八日、晴、晡雲、御方御所樣へ參、

十九日、晴、孟子講之、逍水寺來入、大寧院同心之、臘燭十五丁給之、日野侍從殿來入、扇子廿本給之、

廿日、雲、於黑戶、論吾泰伯篇講之、大覺寺宮、八條宮、聖護院宮、西洞院宰相、季繼朝臣、秀直朝

臣等聽聞、御靈法眼來入、
廿一日、午刻、參內、論語講申之、子罕篇之、次親王御方へ參
廿二日、參番、
廿三日、晴、孟子講之、
廿四日、土御門左馬助へ朝食ニ行、次、晚、勾當御局へ參、多武峯御破裂先規勅問之、聞及申分、勅答申畢、
廿五日、冷泉亭へ月次歌會、予頭役之、
廿六日、晴、孟子講之、
廿七日、
廿八日、晴、孟子講之、
廿九日、庚申待、參內、

八月

朔、晴、太刀如嘉例、進上之、御方御所同前、次揚明前殿下、太刀進上之、次殿下へ參、次九條殿へ參、次曼殊院宮へ參、次兩傳奏へ行、次令衣冠、御方御所へ參、次御盃ニ參、

二日、參番、六田占文、愚分別思惟之分、達上聞者之、則於御前勘之、

三日、

四日、晴、孟子講之、甲子待ニ參內、鬮取、茶碗拜領、

五日、晴、御方御所へ參、

六日、晴、孟子講之、講後、雨沃、

七日、雨降、參番、於黑戶、論語講之、鄕黨篇、八條宮、曼殊宮、中院父子、伯侍從等聽聞、講後、也足、予兩人被召、御前有御振舞、女中御配膳之、

八日、雨降、午刻於黑戶、先進篇講之、聽衆如例、講後、有御振舞、

九日、雨降、午刻、於黑戶、顏淵篇講之、聽衆如前、講後御振舞有之、

十日、雨降、午刻、於黑戶、子路篇講之、聽衆如前、講後有御振舞、

十一日、晴、午刻、於黑戶、憲問篇半講之、及黃昏、也足軒へ行、

十二日、晴、參番、午刻憲問末半篇講之、八條宮、曼殊宮不御參內給、其外聽衆如前、御方御所江參、論吾御讀書、子張篇、明日和歌御會ニ伺候可申之由、勸修寺黄門、廻文到來、

十三日、晴、辰下刻、於黑戶、衞靈公篇講之、巳下刻講畢、後和歌御會之、御當座五十首云々、御方御所御出席、八條宮、聖護院宮、曼殊院宮三首 廣橋大納言三首 中院入道侍從中納言四首 三條中納言三首 白川二位三首 平宰相三首 烏丸右大辨宰相三首 頭辨總光朝臣二首 三條中將實有朝臣五首 阿野中將實顯朝臣二首 左衞門佐秀直朝臣二首 平の朝臣、時直朝臣二首 右少辨宣衡朝臣一首 中院侍從通村二首 予二首等之、哥數、主上四首、御方御所二首、八條宮四首、聖護宮四首、短册勅題各淸書之後、池月久明、給勅題、各詠之、則會帋令淸書畢、無講頌、戌下刻、各退出、

予哥　浦春月

浦風もよきて吹らむ春の夜の月はかすみにあはれそふやさ

恨戀　とはりとおもふ恨も人は猶我か身のとかといひやなすらん

池月久明

池水に君か千年の秋をまつうつして淸き月の影哉

十四日、晴、齋了、於蓬華、孟子講之、次良音來、五明五本進之、
十五日、晴、巳刻、參內、於黑戶、論語講之、
十六日、晴、巳刻、參內、於黑戶講之、親王御方、論語終、
十七日、晴、巳刻、參番、於黑戶、論語講之、
十八日、晴、巳刻、參內、於黑戶、子張篇、堯曰兩篇講之、講筵畢、滿足々々、退出之後、御靈神幸見物ニ行、次藤右衛門佐來入、次家君ヘ參、滿講之由、令申畢、
十九日、晴、午前、參內、孟子序講之、聽衆、通村、顯成兩人、被候緣、申刻退出、
廿日、晴、午刻、依召、勾當局ヘ參、尙書蔡沈注本被見下、次女御殿ヘ參處、此中、講、神妙ニ被思召之由、勅定云々、仍八木廿石令拜領、五辻左馬頭藏奉行、三上因幡、森下與左衛門兩人手前ヨリ可請取由、切手給之、卽兩下代手前ヨリ請取畢、外聞實義、大慶此事之、次息男、鶴光丸、爲別家、可被召遣由、勅約之、是又尤大慶之、
廿一日、昨日、拜領承之由、可申入爲、女御殿ヘ參、息男召連、女御殿ヘ御禮令申、勅約之義、承由申入畢、次親王御方ヘ息男御禮申入處、孝經序、高聲ニ可令讀書仰之、仍令讀畢、令退出之處、親王御

方御服〔箔生乳母被持出〕被拜領、愚息始而令出頭之處、仕合大慶此事之、尤爲眉目者之、

廿二日、孟子講之、講後、參番、賡首座、執拂爲合力、八木三石、遣之、

廿三日、南禪寺、語心院秉拂見舞ニ行、

廿四日、孟子講之、次午刻近衛殿ヘ參、今日御讀書始之、仍今朝字指一襲之、引合次第等進之、先前殿下御對面、刻限御方御所〔時中將〕御出、孝經序三行奉授之、退出之處、御太刀御馬拜領、滋野井被渡之、

廿五日、雨降、今日於中院亭、八幡法樂之、仍短册一枚被送、令吟詠遣之、次聖廟ヘ參、御靈□子、丹波屋九三郎始而來、双樽兩種進之、鶴光丸方ヘ帶壹筋進之、孟子授之、

廿六日、

廿七日、晴、孟子講之、次參番、次御方御所御讀書ニ參、

廿八日、晴、圓光寺毛詩被講尺、聽聞ニ行、正義序被講之、

廿九日、晴、孟子講之、

卅日、晴、圓光寺毛詩聽聞ニ行、詩譜被講之、次日野宰相より紅柿一折贈給之、入夜雨降、從郡村

倉付、鶏冠井村倉付、

九月小

朔、辛卯孟子講之、次親王御方へ參、次御盃ニ參、於申口有之、次爲實有代參番、

二日、照高院新宮ヱ參、圓光寺毛詩聽聞ニ行、自照高院歸路、淸水寺へ參、

三日、晴、未明、梅龍軒、御靈法眼令同心、南禪寺へ行、今日慶藏主、執拂之大祈禱之、仍家君爲見舞、彼院ヱ令越給、予令隨逐者之、日出後、到語心院、一寺之大衆會合、先粥薦之畢、大般若經轉讀平齋云々、楞嚴咒畢、後板有佛前拜、衆僧歸院、金地院今度指南之、仍淹留之間相談、及晡時歸蓬華、

四日、雨降、圓光寺、毛詩講、聽聞行、

五日、晴、孟子、離婁篇講之、聽衆及百人云々、次御方御所、御讀書參、

六日、毛詩講、聽聞ニ行、

七日、晴、孟子離婁篇講之、次參番、次御方御所御讀書ニ參、

八日、冷泉亭ヘ行、中院拾遺讀書、
九日、毛詩講、聽聞ニ行、義理少相違之事有之、次冷泉中將父子令同心、近衞殿、二條殿兩傳奏、竹門主禮ニ行、次近衞殿、政所殿ヘ參、
早朝、丹波屋久三郎禮ニ來、双樽兩種進之、次藤右衞門佐殿來入云々、予他出之間之、紅柿一折給之、出納豐後、山椒一盃進之、家君ヘ禮ニ行、御靈法眼是庵、良庵等禮ニ來、
十日、孟子講之、講後、冷泉中將殿父子、山科內藏頭殿等令同心、大德寺、船岡山、北山、金閣之邊、令遊山、及黃昏歸蓬蓽、山野秋色滿目、興尤佳節之、
十一日、晴、實有朝臣爲代參番、次親王御方ヘ御讀書ニ參、次來十八日和漢御會ト云々、入韵圓光寺東堂江可申遣之由、仰之、仍書狀認、則持遣畢、
十二日、晴、早朝、圓光寺東堂來入云々、予從番、未退出間之、仍不能對顏、齋了、毛詩講聽聞ニ行、次昨日、豐光寺和尚より隻樽兩種送給、爲謝禮、門外迄行、所勞之故、無對顏、次圓光寺ヘ行、對顏、卽入韵出來之間、可得叡慮云々、仍予令奏通則書付畢、次第三想照院保東堂ヘ可遣之由仰之、仍爲遣畢、

十三日、晴、孟子講之、次禁中和漢御會、第四句目可仕之由、仰之、仍兩句令吟案內々申上之處端可然之旨仰之、則於親王御方書付令進上畢、親王御方御讀書之、及黄昏、右衛門佐亭へ行、次四條亭へ行、今夜明月之、仍中院拾遺、冷泉少將、四條少將、右衛門佐、伯、予令同心、東鴨川之邊へ行、中院、冷泉一種双瓶被携、河邊設筵、催興、不知夜深、及曉天、歸蓬蓽、

十四日、晴、早朝勾當局江可參之由御使之、則令伺候之處、來十八日和漢御會ニ東福寺不二庵藤長老、龍吟珊東堂可令出席否、可書狀遣之由仰之、仍書狀遣之、次毛詩講、聽聞行、不二庵返札到來、廿一日入院有之條、彼之寺中取紛之間、參內難申云々、則此由申入畢、及晚□□上人來談、次秉拂爲見舞、餠、豆腐、隻樽、語心院へ遣之、

十五日、齋了、南禪寺語心院へ行、龜山法皇三百年忌、今日相當云々、仍法會有之、濟長老拈香令聽聞畢、當年之三百三年之、相當之年、法堂新造、未相調故、延引仍當年歟、執行之、陽關堂、粟田口法花堂等令見物、及黄昏歸蓬蓽、

十六日、晴、齋了、御方御所樣へ參、次參內、廣橋大納言、中院、也足軒、勸修寺中納言、民部卿、水無瀨新三位、實顯朝臣、季繼朝臣、實有朝臣、秀直朝臣、孝房、予等今日御振舞ニ被召衆之、於黑

戸、各賜宴者之、式部卿宮、大覺寺宮、聖護院宮御參之、入夜各退出、　今朝中院拾遺より折贈給之、

十七日、晴、當番、參內、吉田幸鶴丸來入、建仁寺大統庵、稽長老來入、扇子十本給之、

十八日、晴、禁中和漢御會之、仍早朝參內、發句染出す露のはへある紅葉哉 式部卿　霧淸山更新 圓光寺　閑室風摇簾吐月 有節　窓殿硯生塵 予　おこたれる學に年の積來て 御製、うしろみにたゝ世のまつりこと 曼殊院宮　潤遍太平雨 古澗　村より村につゝく苗代 廣橋大納言　聲々蛙互答 以心　子々燕能劇 正五　あたりまて軒端しつかに日のさして 水無瀨新三位　かつ〳〵けふる霜の松か枝 光豊朝臣

御連數十二人、實顯朝臣執筆之、愚句七句、申下刻、滿百、　爲冬隆代參宿番、

十九日、晴、自今夕、於紫宸殿、神道護摩、吉田左兵衞佐執行云々、齋了、毛詩講、聽聞、圓光寺ヘ行、申上刻、勅書被下、峻宇彫牆、白波綠林之事御尋之、從是書付可致進上、勅答申入畢、次御靈別當法眼兩種隻持參、

廿日、晴、昨日、勅問之事共、書付、以親王御方申上畢、次親王御方、御讀書、次紫宸殿ヘ、吉田見舞ニ行、及晩御靈法眼來入、次中院拾遺、右衞門佐來入、

廿一日、晴、

廿二日、晴、參番、護摩中日之、令聽聞畢、

廿三日、

廿四日、晴、治部卿、出京、

廿五日、晴、家君、凌山令行給、治部卿、堯空山同心、

廿六日、齋了、凌山ヘ登、入夜歸蓬蓽、

廿七日、晴、圓光寺ヘ毛詩聽ニ行、及晚天、豐光寺見舞ニ行、山科內藏頭殿、冷泉中將殿、令同心畢、
圓光寺ヘ行、有盃抄、歸路冷泉亭ヘ立寄、和漢一折興行、夜半後歸宅、

廿八日、

廿九日、毛詩講聽聞ニ行、道安來、毛詩授之、

卅日、晴、從堀川、赤土求之、十七荷十口之及薄天參內、庚申待之、入夜、中院父子、白川民部卿、實顯朝臣等參候、八條宮令參給、丑下刻、各退出、予爲實條卿番代宿、

十月小

一日、辛酉、晴、御盃ニ參、
二日、毛詩講、聽聞、圓光寺ヘ行、參番、
三日、亥子、御盃ニ參、
四日、佐久間久右衛門息女三人、被來、美濃帋五束給之、次鷹司殿より多武峯、古文、勘進、奇特ニ被思召云〻、仍百疋拜領、次飛鳥井相公來談、美濃帋一束、筆一双給之、次大佛文殊院來談、杉原十帖、扇五本給之、次親王御方御讀書ニ參、孟子序今日初度之、次甲子待參內、
五日、晴、
六日、晴、孟子万章篇講之、次親王御方御讀書ニ參、次勾當御局ヘ參、南息?累卵之古事御尋之、粗申上畢、說苑有之旨覺悟候處、卽引考無所見、叡山月藏坊より毛詩注本、新板十部、到來、
七日、晴、孟子講之、次參番、八條宮、御壺爲口切、御盃御進上、仍中院父子、勸修寺中納言、白川二位、正親町三條中將、阿野中將、四辻中將、万里小路左小辨、予等、於御前、有饗應、御盃數遍、

入夜、各退出、
八日、晴、圓光寺、毛詩、聽聞行、
九日、晴、孟子講之、講後、南禪寺ヘ行、薄暮歸京、歸路、冷泉亭ヘ行、
十日、晴、親王御方ヘ御讀書ニ參、
十一日、晴、孟子講之、
十二日、晴、參番宿令相博、終日於候御前、
十三日、晴、孟子講之、
十四日、郡村燒失、四十余宇、一村之內、四五宇相殘云々、
十五日、晴、孟子講之、御日待可令參內、覺悟之處、女房衆、俄墮胎之故、不參、
十六日、晴、墮胎爲見舞、中院殿、伯殿、四條殿給使者、
十七日、晴、雖當番、不參、
十八日、晴、孟子講之、
十九日、晴、

廿日、晴、入夜、藤右衛門佐、來訪、
廿一日、晴、孟子講之、靈符祭之、西岡寂臨院初而被來、五明五本給之、次秦十輪院是又初而來義、五明五本贈之、久三郎來、孟子教之、次楨尾友?尊坊被來、奈良油烟貳丁給之、次高尾上人被來、次德庵來、次藤駿河心地之事共令雜談畢、
廿二日、晴、未明、家君令御供奉、南禪語心院行、今日秉拂小祈禱、懺法、滿山衆會之、晡時歸蓬華、歸路黑谷文殊參詣、入夜良庵來、當家經學之趣、內々以藤木駿河懇望之間、粗令同心、仍今夜初而左傳文字讀授之、序文、雖當番、晝夜相博、北山在家燒失、
廿三日、晴、持齋、賀茂小家二三百燒失、五筆流筆道之事令相談處、藤駿河工夫處、愚存相叶、此中不審悉相散、令滿足之、
廿四日、陰、雲沃、中拾遺、來談之、
廿五日、晴、孟子盡心篇講之、敬俊來義、受濟事令相談畢、大久源左衛門、自駿河歸、臘燭五丁、富士灰進之、御靈別當、左傳授之、
廿六日、晴、出納豐後處、朝饗ニ行、左介横太路遣之、御靈別當法眼江晩飡行、及薄暮、歸蓬華、久

三郎來、曉天雪降、豐國二位殿より毛氈十五枚來、
廿七日、晴、孟子講之、午刻、雪霏々、次參番、終日、候御前、
廿八日、晴、御方御所樣江參、孟子奉授之、序分終、
廿九日、晴、家君へ參、受濟ニ與五郎、卽指添、豐前江指下、拙者身上之儀ニ付、越中殿へ扶助之事、申遣畢、及晩六條殿へ行、來四日江戸下向云々、爲餞別決拾進之、次竹內へ行、入夜、歸蓬蓽、平九左より書狀來、

十一月大

朔、庚刁、德庵處、朝飡ニ行、次速水右近子息彥三郎讀書ニ來、初度之、論吾敎之、隻樽、皮踏皮一足遣之、鶴光丸ニ踏皮壹足進之、次家君令御供、語心院へ行、次九條殿より金屛二双申請、南禪寺へ遣之、次心經開板出來、令摺見之處、刊工不上手、字面不似愚筆之勢、不快々々、次花山院毛氈五枚來、戌下刻雷雨、語心院へ見舞行、入夜歸宅、
二日、晴、依所用、當番令相博、九條殿金屛壹双來、次二條殿金屛壹双來、則南禪寺持遣之、夜半

後、愚妹、東寺執行室、産有、暫絶入、雖加療治、終無驗、令死去畢、悲哀過慟、
三日、晴、齋了、四條道場ヘ送葬云々、毛氈卅六枚、并燭臺四十、幕三張、語心院ヘ持遣之、
四日、雨沃、家君南禪寺ヘ令行給、今日別殿行幸云々、內々有召、然而依輕服、不參、
五日、晴、午刻、家君南禪寺ヘ御出、仍愚法身院等同行小答無言習等令見物、家君、法身院、語心院令宿給、予大宣院行、令宿、丑刻、藥師如來始云々、仍見物行、次滿寺衆僧、於方丈、有齋、夜未明、僧衆歸院、
六日、晴、上堂、令見物、雪沃、堂□習聽聞ニ行、於金地院有之、此度、秉拂、悉、傳長老、指南之、後板、着衣出法、先於方丈、有陞拂杖之禮、次法堂出法索?活拂子以大伽藍涌出百億都史月林新彌勒下生　築黃金臺從隗始
去年、法堂新造機緣云々　前主?雲?心庵、堅藏主、三問退、日入已前終、傳長老、最長老ヘ行、秉拂無事大慶之旨、伸賀禮畢、及薄暮、歸蓬蓽、
七日、晴、家君、令御供、南禪寺ヘ行、家君ヨリ傳長老ヘ十帖鈍子一卷、予十帖紗一卷献之、傳長老明日肥前唐津ヘ假裝云々、仍爲餞別、提子貳つ進之、次聽松軒ヘ行、

八日、晴、金屛二双、九條殿ゟ返上之、金屛壹双二條殿返上之、次、毛氈六枚、聖門樣返上之、次豐光寺、毛氈五枚返之、次花山院ヘ毛氈五枚返之、次丹波屋ヘ毛氈三枚返之、新大夫ヘ毛氈三枚返之、賀茂藤木源七相雇、知行所ヘ遣、

九日、晴、妙法院殿ヘ燭臺四丁、幕三張返之、御靈法眼取次之、次道意來、肴臺拵之、南禪語心院ヘ遣之、法身院歸山、

十日、晴、道意來、肴臺、盞臺等被拵之、午刻新右衛門相添、盞臺二つ　樋樽遣之、明日滿山請待云々、次敬俊房、嵯峨清涼寺、池房等來談、

十一日、晴、齋羅・語心院ヘ行、今日謝上堂、令聽聞、未上刻、滿寺衆、語心院ヘ來、入非時畢、各及亂酒、予事外令沈醉、及黃昏歸蓬華、大黑祭如例年、

十二日、晴、康首座來入、杉原十帖給之、女房殿ヘ美濃紙二束給之、秉拂成就祝義之、次橫大路九衛門、彥右衛門、百姓共來、上川分免相一樣、相究畢、

十二日(マヽ)、晴、早朝、板倉伊刕ヘ行、公事相競之間、不及對面、而歸、次語心院、今度、執拂成就、爲祝義來、杉原十帖惠之、女房衆、美濃紙二束惠之、酎一盞、次於家君、有晩飡、語心院等令相伴畢、

十三日、晴、板倉伊賀へ語心院、令同心、向彼亭、秉拂當日警固共被申付、爲一禮之、予爲案內者、即時伊賀對面、一禮子細相演被歸、及晩、大寧院、良首座來訪、次賀茂源七來、
十四日、晴、丹波屋久三郎來、次御靈法眼爲見舞來入、依穢不入座中、賴玄房へ食籠返遣之、
十五日、晴、三陽院正忌、仍家君へ齋ニ行、横大路より米納之、
十六日、晴、高尾上人來談、速水彥三郎來、論吾教之、語心院來入、次令沐浴、來年筮共勘之、藤右衛門佐へ毛氈二枚、返遣之、全齋從豐前、歸宅
十七日、晴、出納豐後、依所望、短册卅五枚書之、丹波や久三郎來、速水彥三郎來、年筮共勘之、
十八日、晴、午時雨降、孟子十四卷半卷講之、良庵、爲作等打談、丹波や久三郎來入、夜筮共勘之、
十九日、晴、竹田梅龍軒へ饗躍ニ行、君家（家君カ）、全齋等御出之、次横大路より米納之、幡磨國主池田三左衛門殿より爲使節、益庵來、去秋色紙、短册馳走筆、爲其禮、杉原百帖給之、即書狀到來、暫令雜談、次廣橋大納言、勸修寺中納言、兩傳奏、從江戶歸洛、午刻云〻、仍向彼亭、述歸京之祝詞、何も參內云〻、次家君へ杉原壹束進之、
廿日、陰、小寒ニ入、好庵へ杉原廿帖遣之、次豐國二位殿へ毛氈十五枚、返遣之、次丹波屋久三郎來、

次爲作方より孟子注全本、到來、
廿一日、晴、孟子講之、今日終全部功者也、全齋へ行、溫純有之、
廿二日、晴、豐前國主、羽柴越中守より書狀、幷樒柑千入、桶壹到來、來節分、方違、幷子息內記、嫁娶日取等、書付遣之、次鷄冠井村、人足兩人來、
廿三日、雨降、土御門左馬助來談、次勸修寺黃門より江戸みやけとして美濃帋貳束、書狀給之、卽令返札、次益庵來談、次全齋來談、
廿四日、雪沃、從頭辨、總光朝臣江送書狀云、愚也、輕服令除服、可致朝參之由、內々勅定云々、得其意之由、令返答之處、後刻、除服一通到來、次從勾當局、爲召有使、卽着衣冠參內、於黑戶、拜龍顏、御咳氣、巳下刻より至晡時、伺御前、三皇、五帝、系譜共勅問之、史記東萊、通鑑等所載、勅答申畢、御書籍被取出、棚共御新調、御前ニ有之、尤可然事之、晡時退出、藤金吾來訊、倚爲參朝刻、不及對顏、次道意江美濃貳束遣之、
廿五日、晴、女御殿へ樒柑一折、遣上之、御對面之、有盃酌、九宮樣御色直??之、家君上洛之事、女御殿へ申入畢、

廿六日、晴、中院江橘柑一折進上之、御祝着之由之、次親王御方參、次家君、上階之時分、先例御尋之間、書付進之□被成勅許、即頭辨御許ヘ行、小折帋進之、

廿七日、晴、中院拾遺來入、孟子讀書、次參番、候御前、唐文粹一冊、太平御覽二冊、綱目集覽十六冊、何共不足本共之、勅本共不足之處、予所持之分、令進上畢、次秦系譜於御前新作之、次新板史記全本拜領、年來所望之處、無力之故、不感得、毎度事欠之處、拜領、滿足、大慶〻〻、家君、叙三位給口宣、從總光朝臣、被送之、

廿八日、晴、道安來、毛詩讀書、次中院拾遺來入、孟子讀書、次藤金吾來入、次益庵來入、次家君叙品、御禮ニ女御殿ヘ參、

廿九日、晴、語心院ヘ行、良首座組句十六句被催之、語心院一宿、

晦日、早朝、雪沃、大寧院、良首座ヘ朝餐ニ行、晡時歸宅、依召參勾當局ヘ、次史記本、先日拜領、一冊不足、仍今日他本全本被替下之、即御禮申入退出、

十二月小

朔、庚申 早朝、爲作來、次依召勾當局へ參、沽却之書籍共被見下、令御用立物共、書付申入畢、次竹門主、被御書下、可致伺候云〻、仍參彼院、來十三日北野正遷宮ニ就テ四ケ法用有之、願文令草可進之由仰之、予申云、願文ナド當家一切不存知義之、幸菅家衆へ被仰出可然之由、申入處之、內々菅家衆へ雖仰出、無同心ニ付、御事被欠之間、如何樣ニモ草進可申之由、被仰之間、先領掌申畢、及薄暮、御盃ニ參、今夜庚申御遊有之、仍不退出、卽候御前、丑刻退出、

二日、晴、當番請取ニ參、白氏六帖、不足本一册拜領、聲津淵海柵子大工申付畢、次御方御所御讀書ニ參、左介從橫大路歸、治部卿來、

三日、晴、愚妹、梅御料人月忌始之、仍齋ニ家君へ參、次語心院房主座令同心、冷泉亭へ行、次又令同心、九條殿へ參、乘拂之刻、預御使、御音信爲御禮之、并堀來、

四日、晴、全齋來談、午刻女院御不例、見舞ニ參、次向廣橋亞相亭、從大樹、鷹鴈拜領ニ付、仍可給晚飡之由、一昨日有廻文、於彼亭、中院父子、白川民部卿、中御門黃門、大御門亞相、平宰相、日野宰相、松木少將、藤右衛門佐、予等之、及黃昏大酒、仍愚竊歸宅、

五日、晴、藤右衛門佐へ振舞ニ行、日野相公・正親町少將、予等之、午刻風呂、入夜參內、甲子待之、

實條卿爲代宿番、

六日、晴、語心院へ行、北野遷宮、法樂之願文、令草案、卽語心院一宿、

七日、早朝、歸蓬華、爲月菖圖卅五日於家君書齋、午刻好庵來、次家君、全齋、治部卿中將等令同心、院御所見物ニ行、入夜參番、晝實條卿へ令相博、

八日、晴、

九日、晴、東庭、井堀終、來十三日北野遷宮法用有之、仍願文令草案竹門へ參、

十日、晴、及晩參院、去七日より妙法院宮、安鎭法令行給、仍脂燭ニ參、衆僧共供、今夜中日之、仍舞樂有之、万歳樂、延喜樂、賀殿地、陵王、納蘇利三番之、御屋敷八方ニ符佛共被埋之、中央共以上九ケ所之、及鷄鳴、退出候、

十一日、晴、爲宣季代參番、御屏風共點撿之、爲願文錄、鵝目三百疋、從竹門被持下之、

十二日、

十四日(ママ)、晴、三宮樣御髪曾木之、仍女院御所へ參、次依召參內、書籍共被見下、入夜庚藏主令同心、北野遷宮見物ニ行、遷宮作法一圓不知舊儀者歟、亥下刻歸宅、

十四日、晴、午、雪降、
十五日、晴、九條殿ヘ、參、次竹內門主ヘ參、
十六日、晴、廣橋辨ヘ、方違方勘進之、次右少辨方違方勘進之、次富小路ヘ方違方勘進之、今日、一條北、新造院御殿、假ニ御移徙之、仍內々衆不殘被召之、雅朝卿、實有朝臣、實顯朝臣、季繼朝臣、通村、予、六人早朝參內、御道具共取出、長櫃ニ入、鳥飼衆ニ渡之、午刻八條宮令參內給、申刻新殿渡御、御引直衣內々衆、公卿、殿上人、悉供奉、重定朝臣御劔、御裾、總光朝臣、御沓、左少辨孝房、入夜於常御所、有御通、天抄、亥刻各退出、當番衆各伺候、之仲朝臣、實顯朝臣、季繼朝臣、宗信、予、五人加番、宿也、御盃以前、各爲祝義、太刀令持參、
十七日、晴、當番之、仍早朝參內、御道具共運之、
十八日、晴、參內、
十九日、晴、參內、爲御移徙祝義、女御殿三荷三種進之、
廿日、晴、九條殿御方違方書付進之、堀川亭ヘ方違ニ行、
廿一日、晴、女院御所より鴈一羽拜領、卽少納言局ヘ御禮ニ參、次立春御盃ニ參內、於御方御所、有

、入夜雪降、

廿二日、晴、參番、有御取箆、主上、御年箆進之、每年女院御所より被仰下、富少路申次之、仍富少路へ遣之、

廿三日、晴、有御取箆、

廿四日、晴、早朝、從富少路、被送使札云、女院御所より三ヶ年、御年箆之爲御祝義、銀子三枚被拜領云々、即女院御所へ御禮ニ參、帥局懸目申入畢、次御方御所參、愚息、鶴光丸、女御殿へ參、折令進上、次御方御所參、同折進上之、御乳母人、淸水寺へ參詣之刻之、仍終日、候御方御所御前、入夜退出、次六條宰相より爲江戶土產、紅花三袋給之、

廿五日、晴、

廿六日、晴、御靈別當法眼、爲歲暮祝義、双樽兩種給之、

廿七日、晴、箆勘之、當番參內、勅本共分部類、御書院之棚積之、次、女御殿江參、家君御落髮之事申之、次御方御所樣へ參、次宿 參、

後聞、今朝相國寺梵長老、遷化云々、

廿八日、晴、飛鳥井相公へ年筮遣之、次御靈法眼來、讀書、次女御殿、御やゝの御方より文給之云、家君落髮事、御伺被成候處、勅許ニ候、仍家君御落髮、高尾へ御登山給、其以前奉酌一盞畢、横大路（かカ）おいて兩村より人足召寄、尾敷掃除、冷泉中將殿より美濃帋三束給之、竹內極﨟來入、節會之一通、案文調遣之、

廿九日、微雪沃、中院拾遺より杉原十帖、油烟貳挺給之、次東寺乘昌、双樽兩種持來、瘡醫師、杉原壹束遣之、從九條右府公、御年筮爲御禮、鵝眼百疋給之、從二條前關白殿、鰤魚一喉被下之、飛鳥井宰相より薄杉原十帖給之、從藤右衛門佐、美濃帋十束給之、良庵足袋一串鮑三連惠之、丹波や久三郎、鵝眼五十疋進之、吉田幸鶴丸爲歳暮來入、鵝眼百疋、鰤一喉、大樽二給之、次速水彥三郎諸白一樽、串鮑二連帶壹筋進之、福長筆結□子進之、賴玄來入、茶二袋惠之、入夜歳暮ニ參內、次親王御方江參、次女院御所へ參、

慶長十三季、戊申正月、一日己丑、天晴、丑刻、着衣冠參內、四方拜、奉行、總光朝臣、御劍、重定朝臣、御裾奉行、草鞋、左少辨孝房、脂燭衆、之仲朝臣、廣顯朝臣、季繼朝臣、基任朝臣、隆昌朝臣、基久、言緒、隆致、嗣良、〔○以下數行余白〕

節會被行、內辨九條右府忠榮公、外辨公卿西園寺大納言、大炊御門大納言、花山院大納言、中御門中納言、平宰相、右大辨宰相、奉行左少辨孝房、宣命平宰相、

次將

少納言時直朝臣〔○以下余白二行〕

了妄歸眞萬慮空、河沙凡聖體通同、迷來盡似蛾投焰、悟去皆如鶴出籠、片月影分千澗水、孤松聲任四時風、直須密契心々地、休苦勞生睡夢中、

事理不二

心王自在儵然　法性本無十纏　一切無非佛事　何須攝念坐禪　妄想本來空寂　不用斷除攀緣

智者無心可得　自然無爭無喧　不識無爲大道　何時得證幽玄　佛與衆生一種　衆生卽是世尊
凡夫妄生分別　無中執有迷奔　了達貪嗔空寂　何處不是眞門

王荊公

吐盡西陵歌舞蓙、當時屋岳始稱珍、甄埆往々成今手、當託耋名効世人、

○

〔○流布本王荊公詩
吹盡西陵歌舞塵　當時屋瓦始稱珍
甄陶往往成今手　尙託聲名動世人
トアリ。慶長十年卷頭一六四頁白樂天詩　流布本　大隱任ハ住。冷谿ハ落トアリ（大島調）〕

乃畋

慶長十五庚戌年日件錄

慶長十五年庚戌

正月大

一日、戊寅晴、夜半後令行水、刷衣冠、令朝參、四方拜、丑刻、御劍、實有朝臣、御簾、右中辨宣衡、御裾、左中辨孝房、草鞋、右少辨共房、脂燭、實顯朝臣、時直朝臣、基任朝臣、久脩、基久、言緒、康滿、源孝治、安陪泰重、　次內侍所參、青銅二ケ進之、次男末祝義參、刁下刻退出、次如例年、四聖人、朱文公等影、掛之、供餅鑑、次家中祝義如嘉例、晩頭、御盃參、先內、次親王御方、親王御方御陪

膳、右中辨、愚也手長申之、次節會見物ニ行、內辨、鷹司左大將殿、外辨、三條中納言、中山中納言、葉室中納言、中御門中納言、飛鳥井宰相、菅宰相、右大辨宰相、奉行辨、左中辨孝房、次將、爲滿朝臣、季繼朝臣、通村朝臣、言緒、大外記師生、

午刻、家君ヘ禮參、かんなへ進之、母堂ヘ蠟燭一束進之、全齋女中ヘ壹樽送之、次試毫吉書、如例年、

ふるとみし夜半の雪けの雲も今朝立かはりぬる春霞哉　一夜挽回韶景濃、先語遊事舊情融、今雖逢再花朝節、衆恐唯春光不同　又四方拜退出路次、吟詩一首、　夜深雞尤未催　朝已禁門開

登殿拜天子　候時望斗輝、　學懷韓愈仰　書慕鄰侯堆　其述吾人祝　猶斟長命抔　次御盃ニ參、無天抄、於中口、勾當內侍御抄之、次親王御方御盃ニ參、

次節會見物行、內辨ハ鷹司左大將信尙卿、外辨、三條中納言實條卿、中山中納言慶親卿、葉室中納言賴宣卿、中御門中納言資胤卿、飛鳥井宰相雅房卿、菅宰相爲經卿、宰相總光朝臣、奉行弁、左中辨孝房、次將、左、季繼朝臣、通村朝臣、右、爲滿朝臣、言緒、

無出御、內侍望西欄之時、次將、扶持常之事之、遲々之間、右中弁、愚也、令扶持畢、外辨謝座謝酒之拜終、各昇殿之後、令退出、

二日、晴、家中祝義、如嘉例、良庵禮ニ來、龍性丸、二貝給之、次竹田宰相禮ニ來、牛黄圓、一貝給之、次丹波屋少三郎來、五明五本惠之、德齋來、五明三本惠之、次家君御出、双瓶兩種給之、萱堂より水引一包給之、全齋女中來入、蘇香圓、一貝給之、御盃ニ參朝、次親王御方ヘ參、

三日、晴、當番之、仍家中祝儀、倉卒令支度、朝參、御靈社別當法印ゟ神供神酒等被贈之、次道房來、鵝眼二ケ惠之、入夜女御殿ヘ御禮ニ參、可有御對面之處、御盃被急之間、無其義、

四日、晴、冷泉侍從殿より双樽兩種給之、福長但馬來、筆壹對遣之、雞冠井村百姓共來、庄屋鵝眼壹ケ進之、中院少將內藏頭令同心、攝家方禮ニ參、

五日、晴、賀茂藤木源七來、扇五本進之、次內藏頭令同心、圓光寺ヘ行、隻樽兩種令持參、次郡村庄屋百姓等來、庄屋樽代十疋進之、

六日、晴、南禪寺金地院傳長老ヘ禮ニ行、蠟燭ニ一束遣之、次大宰院了卜西主ヘ行、皮踏皮壹足遣之、次照高院門跡參、各御對面、次妙法院門跡ヘ參、御對面、次文殊院ヘ行、蠟燭貳束遣之、依咳氣不及對面、次內藏頭令同心、東福寺五百羅漢見物行、畫圖之筆勢如向生者、奇妙難述筆端者之、橫大路百姓庄屋等來、庄屋小才次、鵝眼貳ケ若菜等進之、出納來、納豆壹桶惠之、東寺寶嚴院來入、扇

子十本惠之、少內記盛勝來、扇子二本惠之、觀音房賴玄來、鵝眼三ヶ進之、餝屋六衛門來、水入進之、

七日、晴、大外記より双樽兩種給之、傳長老來義、大錫一双給之、語心院來入、足袋一足給之、狩野右近來、扇子貳本進之、同甚丞來、扇子貳本進之、女院御所之侍從御局より双樽二種給之、竹內極﨟母義來入、錫兩種給之、及晩女院御所御盃ニ參、御酌之、次內參、次親王御方參、次節會見物ニ行、鷹司左大將、內辨勤之給、

八日、晴、寶壽院來、茶五袋進之、御靈社法眼來入、檀帋一束給之、南禪寺良西堂來入、美濃帋一束給之、同洪西堂來入、扇子五本給之、極﨟來入、扇子五本給之、參番、

九日、覺主上人來入、筆五對墨貳挺給之、玄深扇五本給之、柴竹彥左衛門來、大根一束、黑豆進之、扇三本遣之、午時御取籤ニ參、

十日、晴、宗訊來、扇五本遣之、板伊州へ禮ニ行、樽代百疋遣之、

十一日、晴、諸家諸寺御禮之、早朝參內、依御胸痛、無御對面、親王御方、於小御所、御對面之、攝家門跡御相伴有獻々、御配膳言有朝臣、手長予之、女院御所、東式部局より双樽兩種給之、曼殊

院宮より双樽兩種被贈下、

十二日、藥院來入、牛黃淸心圓、二貝給之、女御樣より爲御返、二荷三種拜領、

十三日、大佛智積院より双樽兩種被送之、櫻井威物卿來入、双樽兩種給之、顯成へ番令相博、竹內極﨟へ方違ニ行、一宿、光照院殿入江殿御禮ニ參、

十四日、本願寺より、錫鉢三ッ給之、板伊州禮返ニ被來、百疋給之、右中辨來入、扇五本給之、淸和院兒來入、扇五本給之、立春御盃ニ不參、

十五日、十帖たひ一足佐久間九右衞門女中より給之、次庭田少將殿より錫二色給之、御盃ニ參、天扚之、次左毬打、次親王御方へ御盃ニ參、左毬打有之、大坂へ惣禮ニ罷下之由、御暇申處、即勅許、

十六日、晴、九條殿令御供、大坂へ下向、今度人足共上山城堤之普請ニ被充之故不參、仍親王御方御出行所之人足四人申請者也、從伏見乘船、戌刻大坂着岸、後聞、高尾より扎壇供等如例年來、吉田幸鶴丸來入、綾一端給之、彌三郎、扇十本、與七郎、盃二進之、

十七日、晴、存庵處へ行、小錫一双、足袋一束遣之、存庵內義へ美濃帋一束、水引卅抱遣之、朝鮮文士、李文長參會、即席詩作有之、

十八日、晴、今日右府ヘ惣禮之、仍早々令衣冠、殿下令御禮、登城御禮之次第、先攝家、門跡ニ獻、次公家衆一獻有之、禮畢、片桐市正ヘ禮ニ行、百疋遣之、有振舞、次主膳正ヘ行、錫鉢三遣之、及黄昏歸宿所、次殿下令御供、山中又左衛門所ヘ行、五明十本遣之、

十九日、晴、竹田草安ヘ朝食ニ行、存庵令同心、次存庵處ヘ行、令支度上洛、日暮中途一宿、

廿日、晴、午時歸蓬華、

廿一日、晴、大彌殿、白扇三本給之、

廿二日、晴、主上御年籠御布施として銀子二枚、杉原廿帖拜領、去年當年兩年分之、則女御殿ヘ御禮ニ參、

廿三日、晴、親王御方年始御祈禱之、早朝參、齋了、退出、依當番之、

廿四日、晴、圓光寺より發帋二束給之、高尾中將來入、扇三本給之、

廿五日、神龍院來入、扇五本給之、良庵扇五本給之、片桐主膳正より杉原廿帖給之、禮狀遣之、

廿六日、

廿七日、晴、聯句會月次威物卿頭役として予勘之。日野侍從殿、足袋一足給之、

廿八日、晴、參番、內義、伏見佐久間又右衛門へ行、豐國二位より神供給之、藤木駿河、扇二本、牛黄圓給之、

廿九日、晴、親王御方御連哥之、御人數、親王御方、東求堂殿、總光朝臣、季繼朝臣、實顯朝臣、時直朝臣、宣衡、冬隆、予、極﨟等之、夜半後退出、

卅日、文殊院來入、杉原十帖、帶壹筋給之、

二月小

朔戊申、親王御方へ參、御煩氣之、次御盃ニ參、各不參、番衆一人ト愚也迄兩人之、

二日、晴、文殊院宮內卿來入、杉原一束給之、次長曾我部入道幽甞始而來入、杉原壹束給之、祐乘三位婚介之、次九條殿へ晚飡ニ參、親王御方御煩、疱瘡之由、九條殿へ從鷹司大將殿告來、仍即御見舞ニ參畢、御疱瘡之躰粗見始ニ〆、夜半迄候退出、

三日、晴、親王御方へ御見舞ニ參、次參番、晚頭、親王御方へ參、

四日、晴、早朝、令行水、廣橋大納言亭へ行、親王御方御煩之爲祈禱、因幡堂藥師參之、廣大納言與

行之、勸中納言殿、白川民部卿殿、五辻源三位殿、左中辨中院少將、予等之、愚也、別ニ從今日、七日詣、可相始、心中祈願有之、仍立歸、參佛前、心經一卷、今朝令書寫、令懷中、奉寶前畢、歸路直ニ各親王御方ヘ參、次廣橋亞相亭ヘ行、振舞有之、及數盃、歸路、勸黃門ヘ各行、又有盃酌、愚也沈醉心外之、令休息、親王御方御見舞ニ參、

五日、晴、齋了、因幡堂ヘ參、心經一卷、捧寶前、次親王御方ヘ參、晚頭、又參、

六日、雨降、因幡堂ヘ參乘物　心經一卷、捧寶前、次親王御方ヘ參、晚頭又參、哉丸疱瘡之躰之、仍梅龍軒召寄、藥調合、

七日、晴、齋了、因幡堂ヘ參、心經一卷、捧寶前、次親王御方ヘ參、晚頭又參、庚首座來、

八日、晴、早朝、靈付行、次板伊州ヘ氷室山、盜之事、爲糺明、書狀遣之、次因幡堂ヘ參、心經一卷、捧寶前、親王御方ヘ參、晚頭又參、中院亭、初卯法樂之、仍歌二首献之、依爲番、不出座、參番、

九日、晴、早朝、親王御方ヘ參、午後又參、榁柑一折進上之、入夜雨降、親王御方、御氣色依驗氣、左衛門佐被進晚飡、仍常住御見舞衆、被召集、盃抄數刻、

十日、早朝、令行水、因幡堂ヘ參詣、七日詣、今日結願、香水親王御方ヘ持參、御祝着之由之、

十一日、晴、親王御方へ參、彌以御驗氣之、也足軒へ韓文踈本借之、

十二日、晴、親王御方へ參、爲將軍年頭使、吉良侍從參內、仍早々參內、御讓位之事、從將軍中來云々、

十三日、晴、參番、次親王御方へ參、

十四日、晴、親王御方へ參、

十五日、雨降、

十六日、晴、祐乘三位來入、宗範來、親王御方へ參、

十七日、晴、今日、親王御方被懸御湯、爲御祝、二荷三種進上之、各被召、有盃扚、從午時、及黃昏、各沈醉、愚息哉丸、今日懸湯、喜悅之、

十八日、晴、參番、晩頭、親王御方へ參、

十九日、晴、萬鶴丸發熱、梅龍軒招請、服藥、

廿日、陰、早朝、令行水、豐國社、會所法樂、和漢ニ行、照高院門跡御出座、午後大雨、入夜歸蓬華、

廿一日、雨降、梅龍軒來入、

廿二日、晴、西園寺中將亭へ行、詩歌會之、入夜歸蓬華、

廿三日、參番、入夜雨降、親王御方へ參、

廿四日、雨降、昨日番之次、爲伊與局御使、勅御讓位之事、叡慮次第可令申沙汰之由、將軍領掌云々、然者御讓位之舊記共於所持申者、可擇進之由、仰云々、仍今日舊記相擇之處、御讓位之記一圓無之、舊院御讓位之時、晴季公作進次第有之、仍此次第令進上畢、及晚、山田長吉始而來、杉原壹束扇子五本惠之、賴玄同心之、高尾覺音上人來入、高尾勸進帳所望之由之、次語心院來入、梅龍軒愚息疱瘡見舞ニ被來、

廿五日、晴、板伊州へ他行不逢、次九條殿へ參、須臾御雜談、次大外記亭へ向、次庭田亭へ行、歸蓬華、加賀鷹山南坊より書狀到來、杉原二十帖惠之、梅龍軒來入、全齋來入、

廿六日、晴、朝山宮內少輔來談云、院昇殿內々望申云々、愚也內々存其意、取成被賴入之由之、親王御方參、從大坂右府秀賴公、親王御方御疱瘡平愈、爲御見舞、細川讚岐守被差上、進物、御太刀一腰、馬代銀子百枚、鶴二、　細川讚岐守支手昇殿御免之、仍着衣冠被參、於輪間、有盃酌、廣橋大納言申次之、從女御樣、百帖、純子二卷、讚岐守被拜領之、及黃昏、被退出、愚也、秉燭後、退出、今

朝祭主門戸、土御門左馬助、以人數、打破云々、去月從祭主、彼門打破、其返報云々、
廿七日、雨降、大外記來入、御讓位記一卷被隨身、即令抑留畢、次祐乘坊三位來談、長曾我部幽管來談、
廿八日、晴、參番、永德度御讓位記一卷、以伊與局、備叡覽、仍御記錄共被見下、多分親長被書寫記共之、寛元、建久、應安等之紀有之、卽申出令一見畢、
廿九日、晴、御讓位之時、院ヘ行幸之時分、不分明之、勅問之、仍折紙注進之、
建久九年、正月十一日、有御讓國事、于時後鳥羽院御大炊御門殿（前齋院式子御所之）皇子今日渡御、殿下御所、及晩、渡御閑院（件院新帝皇居暫被用之）
寛元四年、正月廿九日、御讓位、于時後嵯（峨脫カ）院、廿二日、先行幸冷泉皇居（隆親卿亭□皇居之前右府加修理）東宮明日可有前右大臣第行啓、於彼第、可受劍璽給之故之、
元保二年二月廿六日、御讓位、于時花園院、廿四日、先有行幸土御門殿、新主御富小路亭歟、
應安四年、三月廿二日、御讓位、于時後光嚴院、廿一日、先日土御門殿柳原第行幸（明後日御讓位以後爲持用、）仙洞今日還幸

廿三日、親王、亥刻、先於御殿、有御元服儀、御元服終、親王有渡御土御門内裏、
永徳二年、四月十一日、御讓位、于時後圓融院、九日先行中園殿洞院大納言公定卿第明月日十一日、爲被行御讓位節會也、即可爲仙洞之、十一日、皇子自左大臣亭、渡御土御門殿、
案大例、建久、寛元、元保度者、主上先可爲仙洞第ニ行幸、皇太子爲被受劔、璽、内侍所、暫別亭ニ渡御、後日内裏渡御歟、應安永徳之度者、主上者、可爲仙洞第ヘ行幸、皇子、當日、土御門内裏ヘ即直ニ遷御ト見タリ。江次第ニハ立太子讓位之時、即南殿搆几子、奉招太子、即節會初而行、後他所遷幸ト見タリ、此趣注進之、

閏二月大

一日、丁丑親王御方ヘ參、御疱瘡御平愈、爲祝着、銀子壹枚拜領、内々衆、悉拜領之、次女御殿ヘ參、御對面、次參内、於申口、有御通、
二日、晴、板倉伊賀ヘ行、氷室山賊之事、令談合畢、
三日、參番、

四日
七日
八日、晴、參番、
十日、蘇香圓方、全齋へ令相傳、爲禮、杉原十帖遣之、
十一日、晴、行勸修寺亭、御讓位之事共、令相談畢、
十二日、存庵來、杉原壹束惠之、
十三日、參番、
十四日、左大將殿へ參、御讓位次第、以假名書之、
十五日、左大將殿へ參、長橋御局へ參、
十六日、長橋御局へ參、
十七日、晴、平野五郎左衛門來、備後疊面十枚惠之、
十八日、參番、
十九日、吉田幸鶴丸來入、內藏頭來ル、

廿日、晴、愛宕下、坊之內、丹清始而來、帶壹筋惠之、宗般來、次隨身調子筑後、同主膳來、次左馬助來入、次右衞門佐來入、次中院羽林來入、次山科內藏頭來入、次也足軒來入、未刻男子誕生、六韜講之、

廿一日、雨降、午天晴、御靈法眼來入、

廿二日、晴、時々雨降、似冬雨氣色、齋了、冷泉中將、山科內藏頭令同心、南禪寺金地院ヘ行、杉原十帖遣之、次正因庵ヘ行、足袋一足遣之、於語心院、有晚飡、歸路、知恩院新造見物、祇園林中令徘徊、及斜陽、歸蓬蓽、

廿三日、晴、六韜講之、日野侍從來入、職原抄讀書、次參番、

廿四日、晴、鷹司大將殿ヘ晚飡ニ行、入夜內藏頭ヘ行、

廿五日、雨沃、

廿六日、陰、竹田慶安より書狀幷石决明卅到來、性院出京、

廿七日、晴、拂曉、冷泉中將、中院少將、內藏頭、予、新藏人令同途、醍醐山寺花見物ニ行、歸路、淸水寺ヘ立寄、入夜歸宅、

廿八日、晴、早朝、揚明殿下へ參、次參番、
廿九日、雨降、賴玄來、
晦日、晴、近衛殿令御供、女御殿へ參、燒物拜領、朝御膳御相伴、天龍寺鹿王院謂西堂來談畧□扇
三本惠之、次光藏院より蕨一折給之、次南禪寺良西堂より、海雲一桶給之、

三月小

朔、丁未晴、內藏頭令同心、板伊州へ行、數刻打談、次戸棚感得之、代鵝眼八百之、次親王御方へ參、
入夜退出、
二日、晴、語心院來入、新藏人、月次句會、齋了、向彼亭、伊西爲明日禮、鵝眼百疋惠之、加藤肥後
書狀到來、竹田慶安來入、蠻楮二束、牛黃圓一貝給之、句會出席之間、不能面談、
三日、晴、鬪鷄進之、冷泉より兩種壹荷給之、陽明二條殿禮ニ參、次女御殿へ御禮ニ參、次參番、次親
王御方御禮ニ參、從大外記、賜肴給之、
四日、晴、高尾へ左介遣、隻樽兩種性院へ進、昆布貳束、上人遣之、次竹田慶安、存庵來談、親王御

方、長谷へ行啓云〻、
五日、晴、中御門亭へ行、及晚、存庵來、
六日、晴、右衛門佐代參番、
七日、晴、親王御方へ參、
八日、晴、參番、
九日、晴、於照高院宮、孟子講始之、有晚飡、八條宮御聽聞、入夜右衛門佐へ行、十一日、關東下向
云々、仍扇子貳本贈之、
十日、雨降、早朝、陽明前殿下へ參、朝飡御相伴、及晚勸修寺黃門へ行、關東下向爲餞別、扇子十五
本進之、次廣橋亭へ行、
十一日、陰、長吉衛、毛詩讀書、及晚親王御方へ參、
十二日、
十三日、晴、豐國法樂和漢ニ行、入夜歸蓬華、淺野紀伊守、與行ニ仆、入夜、參番、
十四日、晴、長吉來、八條宮より爲大所御使來入、孟子抄、尙書抄、史記抄等外題染愚筆可令進

上云〻、乍禿筆、令領掌畢、
十五日、晴、全齋、朝食ニ行、
十六日、
十七日、雨降、
十八日、早朝、吉田ヘ行、次參番、次親王御方ヘ參、
十九日、齋了、新藏人令同道、羽越中守ヘ行、數刻打談、
廿日、晴、興源一周忌之、仍語心院令同心、高尾山ヘ登、諷經共聽聞、及晩墓所ヘ參詣、直ニ歸京、
廿一日、六男、忌明、仍御靈社參詣、羽越中守より豐前紙五十束、粕漬鮑壹桶給之、出船之日取、勘遣之、次山田長吉より鮑十給之、次道壽來、次新藏人來入、次寶壽院來、一宿、梅龍軒ヘ豐前紙十束遣之、廣隆寺十輪院來、扇子五本惠之、入夜新藏人來入、寶壽院來入、
廿二日、雨降、長吉來入、毛詩讀書、
廿三日、參番、
廿四日、也足軒、見舞ニ行、

廿五日、午時、也足軒卒去、當時之歌仙之、歌道零落、悲涙不淺者歟、
廿六日、
廿七日、
廿八日、參番、
廿九日、南禪寺へ行、

四月小

一日、冷泉中將より一樽、鯛二ツ給之、
二日、□□上人新茶二袋給之、學乘?新茶二袋給之、
三日、參番、
四日、御靈法眼よりぬれ緣竹百本、簾臺竹一本給之、
六日、
七日、三大夫、扇三本進之、横大路九衞門來、笋、蕨等進之、

八日、參番、
九日
十日、鮎一盆、伊西より給之、
十一日、益庵來、幡磨大守池田殿より小兒樽二給之、右衛門佐番代ニ參、
十二日、
十三日、晴、飛鳥井宰相來入、美濃紙壹束、足袋一足給之、
十四日、晴、醫者德庵初來、伽羅二兩進之、
十五日
十六日、察藏主來、扇三本給之、
十七日、
十八日、參番、
十九日、御靈法眼、錫肴給之、
廿日

廿一日、晴、左右馬殿來、鯛五進之、鷹司大將殿より糒十袋給之、
廿三日、參番、
廿四日、早々近衛殿へ參、次女御殿へ參、糟漬鮑進上之、新藏人より強飯一荷、樽二荷、肴二色給之、今日蒙求講相始之、祝義之、察藏主筭給之、
廿五日、晴、親王御方、和歌御會之、東宮寺禪閤、近衛前閤、大覺寺宮、照高院宮、曼殊院宮、鷹司左大將、三條新中納言、民部卿、平宰相、五辻三位、右大辨宰相、重定朝臣、實有朝臣、季繼朝臣、實顯朝臣、秀直朝臣、時直朝臣、宣衡、基久、冬隆、顯成、予、源孝治、大中臣種忠等之、兼日題、新綠勝花　當座五十首、愚也、二首詠之、予從病氣、早出、
廿六日、晴、女御殿より曝布、一疋拜領、鶴光、山科內藏頭より給一、江戸みやけ之、木村子團扇進之、伊勢國守沉二兩進之、予也病惱之間、御番御免之事、親王御方御申ニより御免之、此旨從女御殿、被仰下、忝次第也、
廿七日、
廿八日、晴、右衛門佐、杉原十帖、蠟燭十挺給之、番ニ不參、

廿九日、

五月小

朔、雨、伊西卿より百疋給之、御盃ニ不參、依微恙之

二日、横大路、小才次來、

四日、冷泉侍從より双樽、二樽給之、

五日、雨沃、幸鶴丸より丁子貳斤給之、祐乘三位、香薷散給之、

九日、女御殿より八木五石拜領、愚也、病中御音信之、

十一日、女御殿より鶴拜領、病中爲服用之、

十三日、德庵、備後面十疊惠之、察藏主來入、鵝目卅疋給之、

十五日、一乘院門跡より双樽二色、拜領、

十七日、白川民部卿、病中爲見舞來入、瓶双納、肴惠之、

廿一日、廣隆寺少納言、批把一盆、惠之、

廿二日、新藏人より楊梅、一折給之、入夜冷泉中將來訪、愚也、病中爲慰、錫肴等持來、内藏頭、新藏人來入、催興畢、
廿七日、豐國より神供、
廿六日、五男万鶴丸、此中疳相煩、藥雖盡術不及療、未刻死去、愁涙溢袂畢、
廿七日、勸修寺黄門より爲病中見舞、糒袋五、鷲一ッ惠之

六月大

一日、氷室より神供持來、
五日、家中祝義如例、御調甚内來、杉原一束惠之、
六日、南禪寺洪西堂、良西堂、賡藏主來談、今度禁中就新造、舊御殿一宇、申請可建方丈、訴訟云〻、愚也、使者相副、勸修寺廣橋兩傳奏申入畢、
十四日、竹内御門跡より瓜拜領、
十五日、壽光院得度、法身院僧正、戒師、

十六日、壽光院より諸白樽、肴等給之、豐國ニ位、小角豆一折惠之、
一十七日、右少辨より瓜籠惠之、冷泉中將より諸白一樽給之、卽、彼亭へ行、明日駿府へ下向云々、
仍爲餞、皮足袋一足進之、
一十八日、寶嚴院より瓜給之、
十九日、女御殿へ東寺瓜、卅進上之、
廿三日、九條殿より瓜籠拜領、
廿七日、新藏人令同心、南禪寺へ行、一宿、
廿八日、南禪寺於大寧院、和漢百韻興行、及晚歸蓬蓽、
卅日、一乘院門跡より南都墨、五挺拜領、

七月小

一日、御盃ニ不參、
二日、

三日、
七日、山田長吉、乾糒十袋惠之、伊西卿より末廣一本給之、賴玄團扇給之、
十一日、冷泉侍從より青魚廿喉給之、佐久間久右衛門女房衆來入、朝食薦之、諸白双樽、肴三種給之、午刻久右衛門始而被來、太刀折帋、帷子、單服等惠之、女房衆へ單服、帷子被惠之、子共各々有音信、
十三日、賴玄來、乾糒十袋給之、內藏頭より帷子一ツ給之、中院羽林より一樽兩種給之、高倉右衛門佐より帷子二給之、
十五日、家中祝義如例、良庵帶壹筋給之、祐乘三位帶一筋惠之、道壽双樽一種給之、
廿二日、白川伯殿來入、扇子五本給之、
廿三日、八條樣より丹後酒双樽拜領、內藏頭來談、
廿四日、陽光院廿五回忌、御經供養、被執行云々、愚也、病中不參、着座公卿、西園寺大納言、實益卿、中御門中納言、資胤卿、總光朝臣、布施取殿上人、實顯朝臣、隆致、言緒云々、道師、三井寺日光院、衆僧十供云々、

及晩刻、藏人來談、
廿五日、賡首座來談、
廿六日、若州之姨母、御あちや〳〵上洛、
廿七日、雨降、御あちや〳〵朝飡ニ召、關東紙一束給之、
廿八日、水實孫左衛新米進上、
廿九日、冷泉拾遺より八朔之爲祝義、兩種壹荷被惠之、丹波屋、牛保(蒡カ)一折、進之、

八月

朔、早朝、如嘉例、太刀禁中ヘ進上之、次御方御所進之、次女御殿、杉原壹束進之、女院御所、長谷渡御故不進之、次陽明ヘ太刀進之、掃部頭双瓶肴給之、女御樣爲御返、奈良曝布一疋拜領、曼殊院宮折給之、(王脱カ)親御方、幷女御殿御禮ニ參、次聖護院宮ヘ參、次一條宮ヘ參、次勸修寺亭ヘ行、有盃抄、及晩御盃ニ參、
二日、

五日、職原講談始之、
七日、狩野右近來、麪索一折進之、
九日、南都蓮成院來、十帖壹本諸白二給之、豐州越中守より彥山之蓍木一箱幷鱸鮧給之、次勸修寺黃門より使者、仍向彼亭、泉涌寺修營之綸旨草案、愚也可製作之由、被命之、仍卽席草進之、次大將殿へ參、
十日
十一日、泉涌寺、報恩院、法安寺等來入、鵝目三十疋給之、今度修造之勸進、所望之由、被示之、先令領掌、令返者也、勸修寺黃門より鱸一喉給之、
十二日、萱堂、柿卅給之、横大路九左衛門、牛蒡、茗荷進之、
十三日、大寧院より木練卅給之、

慶長十六年、九月廿四日庚申晴、鷄鳴出蓬華、向冷泉亭、拾遺井山科倉部、令同心、發足、各乘物、至草津、休息、送來奴婢令歸、駕借馬至石部、越泉川、至水口、過栗林、今宿、大野、福原、松尾、至土山、一宿、

廿五日、辛酉晴、黎明出土山、經猴治崎、猪鼻、山中、鈴鹿山、坂下、至關、令休息、過龜山、富田、庄野、石藥師、逐分、至四日市、一宿、入夜雨過、

廿六日、晴、自四日市浦、乘船、晡時、着熱田湊、於町屋、令憩休、笠覆寺觀音開帳、令參詣、至鳴海、一宿、

廿七日、晴、黎明、出鳴海、經阿野、過今岡、到池鯉鮒、過サナキ大明神前、絕矢矧川、於岡崎城下、町屋令休憩、度大平川、過庄田、到藤川、過魚山八幡前、經山中法藏寺、到長澤里、過赤坂、到吉田城下、借町屋、一宿、

廿八日、晴、拂曉、出吉田、過岩穴(屋カ)觀音、北至二川里、過塩見坂、志賀(羅カ)須賀湊、到荒繭里、乘船、越今切、到舞坂、令休息、又到濱松、乘船、越天龍川、過中泉、見付里、到袋井、投宿、

廿九日、晴、遲明、出袋井、過懸川城下、到西坂、用蕨餅、登佐夜中山、到菊川宿、登樻原峠、到カナヤノ里、乘駕馬渡大井川、到嶋田、過東光寺坂藤枝、田中城邊、經八幡森、到岡部里、一宿、

卅日、晴、黎明、出岡部、登宇都山、到椀子里、巳刻着府中城下、求宿、風呂令休息、本多上野介宿へ行、他出之由、奏者令返答之間、書狀遣之、入夜金地院へ行、他出不及對面、

十月一日、

早天、金地院より以使者云、今朝食可給云々、然共出仕用意之間、不應命、次本多上野介より昨夜書狀返札到來、今日、一日、午刻可令出仕云々、仍卽本多上州へ行、扇子十本遣之、次金地院へ行、次大澤少將へ行、次圓光寺へ行、三所共御對面、午刻出仕、卽前大樹御對面、系圖屛風進上之、事外御機嫌之、內々御所望之處、御滿足之由之、尤喜悅云々、入夜、本多上州書狀到來、明晩於城御茶可給之由、被示者之、

二日、晴、午刻後、登城、於御書院、御茶湯有之、御振舞、鴈汁初鮭等、盡美物、御懇切之時儀之、藤こふの御壺、口切之御茶入者、大茄子之、茶ノ後御出、暫時御物語有之、夕〳〵可罷出之由上意

之、及晩雨降、
三日、雨降、圓光寺ヘ朝食ニ行、源左衛門見舞ニ來、重箱肴、双瓶送之、及夜半、大酒沈醉、金地院見舞ニ被來、桶樽ニ兩種被贈之、
四日、晴、御城女中方ヘ音信遣之、次後藤庄三郎處ヘ行、扇子十本遣之、令向顔畢、次唯心軒ヘ朝飡ニ行、午刻歸　旅僑、及晩龍雲軒之許行、扇子五本遣之、他行云〻、次宗哲許ヘ行、他行不及對面、
五日、晴、齋了、金地院ヘ行、良西庵、令同途、登淺間山、歸旅僑、山、冷、令同心、金地院ヘ行、晩飡給之、圓光寺、唯心軒等令參會、入夜歸旅僑、
六日、晴　齋了、自龍雲軒、有使者云、御用有之間、急可令登城云々、仍卽時登城、本多上野介被逢處、有拜領云〻、小袖一重、金子一枚給之、則靑侍ニ被相渡之、有暫、前大樹御出、拜領之御禮申上畢、次召予云、新造殿中、大內裏之躰、可被繪圖云〻、愚也、繪師、狩野ニ可令指南云〻、卽令領掌、卽時前大樹鷹野ニ御出、歸旅僑、令休息、八幡淸水寺等ヘ令參詣、
七日、晴、齋了、狩野甚丞來、大內裏圖繪令相談畢、次良西庵來談、次意安、道春等來訊、累刻打談、各歸後、良西堂、隔句被示之、予令對十句斗、催興畢、

八日、晴、齋了、狩野甚丞、按繪圖草來、處々令助言畢、晚湌後、可越江戶、令用意畢、入夜、金地院へ暇乞ニ行、蠟燭十挺給之、
九日、晴、齋了、出駿府僑居、到江尻、借舟、三穗松原令見物、社頭寂々、老楠佳景、暫催興乎、及晚、到淸見寺門前、投宿、入夜、到淸見寺見景之處、長老以使僧、被相招、不及固辭、入院內、數刻打談、有盃酌、被催興、及深更歸、
十日、晴、微明、出淸見寺、到神原、越富士川、至葭原、令休息、經浮嶋原、三枚橋、到伊豆三嶋投宿、恁惚樊川青樓僥倖、入夜雨降、亥刻、地震、
十一日、辰刻、雨晴、借馬、登箱根山、山上寺前、令休息、到小田原投宿、入夜雨降、
十二日、雨降、出小田原、到大磯依無借馬、雖未及黃昏、投宿、
十三日、晴、早朝、出大磯、到藤澤、過富塚、狩野川、到品川、投宿、
十四日、晴、早朝、出品川、着江戶、於日本橋邊、借宿、
十五日、晴、於江戶僑居、終日、
十六日、晴、早朝、佐久間備前女中ゟ重箱餅給之、山、冷令同心、淺草寺參詣、次隅田川見物ニ行、

及晩歸僑居、誓願寺令見物、

十七日、晴、小造左馬助より八木五俵、大豆五俵、薪廿束給之、次佐久間備前女中より白米壹石五斗、塩噌等給之、朝飡ニ佐久間備前ヘ行、次新庄宮內法印より八木三俵給之、

十八日、晴、拂曉、本多佐渡守許ヘ行、條十筋遣之、新庄越前引導之、卽對顏今日可令登城云〻、午刻登城、大樹御對面、大內裏繪圖屏風進上之、酒井雅樂頭被披露、歸路酒井雅樂頭許ヘ行、條五筋遣之、歸路直ニ新庄越州許ヘ行、風呂晩飡等有之、入夜歸僑居、佐久間備前守より酒樽、鮭一尺海老、豆腐等贈給之、

十九日、晴、土肥大炊助許ヘ行、條三筋遣之、他出云々、次靑山圖書助許ヘ行、條三筋遣之、是又他出云々、次安東對馬許ヘ行、條三遣之、他出云々、申置歸、次溝口外記許ヘ行、扇子十本遣之、是又他行云々、次、本上州ヘ行、先刻登城云々、新庄越前より八木二石給之、

廿日、晴、朝、茶湯、新庄宮內法印ヘ行、歸後、松木少將、盛方院被尋、午刻御臺樣ヘ進物共進之、備前より案內者被添遣之、御臺樣ヘ箔貼帶五筋、京殿ヘ帶一筋、女共より繡箔帶二筋進之、次酒井雅樂頭より被示云、明日有御能、可參殿中云〻、卽可參之由、返札遣之、

廿一日、晴、拂曉、令認、黎明登城、卽猿樂相始、大夫ハ今春、下妻少進法印兩人之、今賀茂　少淸經　今松風　少道成寺　今自然居士　少海士　今烏頭　少山姥　今國栖　少通小町　祝言弓八幡、五番過て御振舞有之、伊達子息、橘左近、毛利宰相、最上侍從、加藤左馬助、其外大名衆相伴之、入夜前大樹ヘ參、備前女中より雁一ッ給之、

廿二日、晴、僑居、終日、入夜前大樹ヘ參、

廿三日、佐久間備前守ヘ朝飡ニ行、次三緣山增上寺ヘ見物ニ行、晚最上駿河殿ヘ行、扇十本遣之、對面畢、入夜、參前大樹、

廿四日、晴、早々、大久保石見守ヘ行、條五筋遣、令對面畢、午刻、細川玄番頭許ヘ行、數刻令對談畢、晡時新庄越前許ヘ晚飡ニ行、有風呂、盛方院、上池院、宮內法印等相伴之、入夜歸僑居、

廿五日、晴曇、本多佐州ヘ行、前大樹、國師ヘ令行給云々、及晚前大樹參、入夜、最上駿河守被尋來、紅花五十袋給之、出向門外、令一禮、令返畢、

廿六日、晴、拂曉、本佐州ヘ行、前大樹御鷹野ニかさへ御出云々、次吉田伊勢許ヘ行、扇十本遣之、數刻令對談畢、次山、冷令同心、佐久間大膳亮許ヘ朝飡ニ行、及晚、幽齋後室之許ヘ見舞ニ行、鮭一尺進

之、數刻打談、次溝口外記許へ行、留守云々、
廿七日、陰、及晚、小造左馬助所へ振舞ニ行、吉良侍從參會、及沈醉畢、
廿八日、晴、早朝、越州令同心、土肥大炊助へ行、次ニ神野五兵衛へ行、條五筋遣之、午刻地震、
廿九日、晴、齋了、山冷令同心、武藏野見物ニ行、丑刻、地動、土井大炊助、酒井雅樂頭許、書狀遣之、

十二月大

朔、丙申 晴、佐久間備前女中より鳥子榮螺等給之、未刻、酒井雅樂頭より被送狀云、明晚於御城、可有御振舞云々、忝由令返事畢、
二日、晴、午刻新庄越州へ行、令同心登城、有暫、大樹御對面、卽御振舞出、無御相伴、新庄宮內法印、下妻小進法師相伴之、此方者、山科、冷泉侍從、予三人之、御振舞後、大樹御出、寒天之刻間、無抑留、先可令上洛云々、銀子卅枚、小袖五拜領、卽御禮申、令退出畢、歸路酒井雅樂頭、土井大炊助兩所へ今日時宜馳走之禮ニ行、申置歸宅、

新庄宮內法印相談云、八月九日會津郡大地震、城町屋等悉顚倒、柳津虛藏堂、破滅云〻、堂後山崩、堂倒落溪川、本尊等悉不見云〻、土井大炊助より蠟燭百挺給之、

三日、晴、吉良侍從殿へ晩飡ニ行、論吾一部遣之、入夜新庄越前守許へ行、新庄宮內法印來渡、

四日、吉田周慶來談、乘右附屬狀共見之畢。晴、新庄越州より紅花廿袋賜之、佐久間備前へ朝食行、山冷令同心畢、盛法印參會、新庄越州へ行、

五日、晴、拂曉、佐久間備前より使者被示、鷄時後、女中男子誕生云々、木造長吉より蠟燭五十挺給之、次佐備州へ男誕生見舞ニ行、太刀馬遣之、有盃抄、從盛方院、書狀共到來之、佐久間備前より紅花五十袋給之、同大膳亮より蠟燭百挺給之、同久六より紅花十五袋給之、木造左馬助義内（朱傍書）より紅花十袋給之、板根傳三郎見舞ニ來、

六日、晴、上洛令用意畢、備前女中より小袖一重給之、及晩、新庄越州へ行、此間備前暇乞ニ被來云々、逐跡、備州、越州へ被來、越州內者新亟、折檻佗言、再三令助言、今夜相濟畢、

七日、晴、新因州、同藏人暇乞ニ被來、四時出宿、佐備前處立寄、令暇乞、有盃抄之後、乘馬、山、冷同心畢、狩野川一宿、入夜雨沃、

八日、晴、從狩野川、至金澤、見物、景氣無双之靈地之、迫門大明神、辨才天等有之、稱名寺、龍花寺、寺々有之、及晩、到鎌倉、方々令見物、於雪下、一宿、

九日、晴、亭主、令案內者、建長寺、圓覺寺、松岡東慶寺、扇谷、泉谷、龜谷、藤谷、爲相卿墓所、有石塔 想恩寺等令見物、

齋了、乘欸段、長谷寺、極樂寺等令見物、到腰越、向江嶋、乘漁船、到江嶋、山上辨才天二所ニ鎭座、繞嶋到南麓、有岩穴、深三町余、中央辨才天鎭座、奇異岩窟也、驚耳目畢、及晩到藤澤、一宿、

十日、乙巳、晴、日出之比、出藤澤、晝休息平塚、晡時、到小田原、一宿、

十一日、丙午、晴、黎明、出小田原、經石橋、赤澤、いや、まなつる、到土肥、走湯權現令見物、晡時到熱海、宿借五郎衛門男、則湯治、及晩、出浦、眺望、

十二日、丁未、晴、齋了、荷物共先へ遣、山、予、冷等滯留、醫王寺へ行、逢僧打談、當所湯積聚虫、冷氣等令相當云々、

十三日、戊申、晴、齋了、山、冷令同心、走湯之瀧見物ニ行、於瀧、湯治、

十四日、己酉、晴、熱海滯留、

十五日、庚戌晴、自十一日晩、至今朝、卅二度令湯治畢、日出後、出熱海、越石原坂、經カルイ澤、平井、至三嶋、令休息、經沼津、原里、到吉原、一宿、入夜雨沃、風起、士峯、堆一層雪、

十六日、辛亥晴、黎明、出吉原、渡富士川、經神原、過由井、興津、到江尻、令休息、晡時、到府中、宿、入夜、風甚起、金地院行、閑門之間、從門相歸、

十七日、晴、風未止、金地院より使僧、今晩、可振舞云々、即令領掌、及晩、金地院へ行、此中、仕合打談、及薄暮、被出章句、　吟鞍輕載去以心　士嶺雪千秋、愚對、良藥逢尋處、逢山歳十洲、主席病後之間挨拶斗也、難澁之故之　江涵餘美月言緒　律泛作媒溝爲韻　重而盃抄之後歸宅、

御阿茶より鴈二給之、一對御方より肩衣袴給之、禮狀持遣之、

十八日、癸丑晴、及晩圓光寺へ行、即對顏、氷室之事彼是令相談畢、

十九日、晴、色々紙共令買得、及晩、御ツウへ行、始而知人ニ成、院宸筆短册五枚遣之、入夜岡崎內記宿所へ行、彼內記者、遠江宰相之內侍從殿之弟之、件侍從殿ハ女院御所御中﨟之、其時愚也、兄弟分之、仍今度、前大樹御妾女御萬より、耳近書物共所望之由、以彼侍從殿被示送、仍內記於宿所侍從殿令對顏、數刻令打談、夜半後歸宿、

廿日、晴、岡崎內記より書狀到來、令返札、次御つうゟ書狀、幷鈍子壹卷到來、是又令返札、次金地院へ暇乞ニ行、有盃抄、次唯心軒へ行、令暇乞、對顏、即時歸宿、齋了、發足駿府、從椀子、宇津山、岡邊、藤枝、東光寺坂、到嶋田、令休息、渡大井川、到金屋、一宿、午後、雨打沃、

廿一日、晴、日出後、出金屋宿、到菊川、矢根ニ手感得之、從佐夜中山、新坂、懸川、到袋井、令休息、過見付、絕天龍川、到濱松、一宿、

廿二日、晴、拂曉、出濱松宿、到前坂、乘船、着荒繭、到白須賀令休息、經二川、吉田、到赤坂宿、

廿三日、晴、拂曉、出赤坂宿、經藤川、到岡崎城下、令休息、到八橋里澤之舊跡、令見物、到知鯉鮒、過鳴海、日入之刻、到熱田、借宿、小刀沽却男訪來、仍小刀、剪、物裁、鑷等令感得畢、

廿四日、陰、早朝、熱田大明神、社外令見物、齋了、乘船、未刻、桑名着岸、暫令休息、借欵段、到四日市投宿、

廿五日

慶長十八年癸丑　日件録

秀賢

慶長十八年癸丑　正月大

一日、庚申陰、丑下刻、令行水、次着衣冠、参朝、四方拜、刁一点、御劍、(少將)通村朝臣、御簾　御裾、(頭)宣(右大辨)衡朝臣、　草鞋、(右中弁)兼賢、御脂燭、隆昌朝臣、時直朝臣、言緒朝臣、冬隆朝臣、宗勝、康満、孝治、於男

末、如嘉例、有祝義、日出程、曇、終日晴天之、家中祝義如例、入夜、御盃ニ朝參、兼勝卿、雅朝卿、之仲卿、實有朝臣、重定朝臣、季繼朝臣、實顯朝臣、秀直朝臣、宣季朝臣、通村朝臣、宗則朝臣、言緒朝臣、永慶朝臣、冬隆朝臣、顯成朝臣、予、兼賢、嗣良、公福、時長、親顯、源奉仲等之、

二日、晴、家中祝義如例、晡時、近衞殿へ御禮ニ參、三荷三種進上之、御對面有盃扨、次女院へ參、無御對面、次仙洞へ參、御對面、御盃頂戴、退出、次國母へ參、三荷三種進上之、御對面有御盃、次御盃、參內人數如朔、速水彥三郎禮ニ來、五明二本進之、良庵來、龍腦丸進之、次竹田宰相來、牛黃圓一貝給之、次藥屋善左衞門來、砂糖二斤進之、

三日、晴、中院少將より二荷兩種給之、卽來入、次作庵來、五明五本進之、次難波少將來入、五明五本給之、次掃部頭より壹荷兩種給之、御盃不參、

四日、雪降、參番、次仙洞參、千秋万歲參、八條宮御參院、御對面有獻々盃酌、八條宮御退出之後參內、卽八條宮御參內之、當番參宿、近衞殿より二荷三色拜領、次鷄冠井百姓庄屋等來、百姓等大根進之、庄屋十疋遣之、次賀茂縫助來、五明五本進之、次伯殿來入、五明五本給之、伊勢御師、熨斗進之、

五日、晴、千秋万歳ニ參內、晡時退出、竹內刑部少輔、五明五本給之、出納來、砂糖一斤進之、近衛殿政所殿より三荷三種拜領、次八條殿御禮ニ參、次近衛殿政所殿へ參、次二條殿參、次關白殿へ參、皆御對面之、有御盃、次郡村庄屋百姓禮ニ來、

六日、雨降、横大路、庄屋、百姓等禮ニ來、庄屋小才次、樽代廿疋進之、九衛門大根一束進之、源介、牛蒡一束進之、彥衛門、牛蒡一束、大根一束進之、百姓共、大根一束宛進上之、次參內、年始御文之案書之、晡時退出、

七日、陰、家中祝義如嘉例、次鞍馬寺參詣、未刻、下向、安井村庄屋百姓等禮ニ來、淨玄ニ美濃帋一束、五明五本遣之、同關右衛ニ同美濃帋一束、五明五本遣之、百姓共、五明二本宛遣之、次九條殿へ禮ニ參、次鷹司殿へ參、皆御對面之、伏見殿へ參、無御對面、次廣橋亞相へ禮ニ行、三荷三種遣之、及黃昏女院御盃ニ參、次參內、御盃、次三位入道殿、惣德院殿禮ニ御出、予參內之間、□□

八日、陰、實壽院來、南禪寺正周庵來入、五明五本給之、同良西堂來入、高麗杳給之、語心院來、黃帋一束給之、次御靈法眼來、檀?帋一束給之、內義へ踏皮一束、鶴光丸、五明五本給之、聽松院洞首座五明五本給之、四辻母義より二荷兩種給之、入夜冷泉相公來談、前嶋次左衛門來、五明五本進

之、
九日、晴、参番、板倉伊賀守へ禮ニ行、樽代百疋遣之、次金子内記許へ禮ニ行、二十疋遣之、次如庵許へ行二十疋遣之、次河那邊八衛門二十疋遣之、次榮任許へ行、二十疋遣之、對顏、昨日安井村人足之事、板伊州へ令相談處、公儀役儀被免除之間、當村之普請可申付之由、卽庄屋ニ被申付之計由、榮任如助言之由、雜談之、森九衛門來、杉原一束進之、
十日、晴、惣參賀之、仍參內、晩法輪寺來入、五明五本給之、同弟子、治部卿、五明二本進之、高尾吉祥來、五明五本進之、同駿河來、抹茶五袋進之、
十一日、雨降、寺院之衆、年頭參內、仍朝參、晡時退出、次小折帋、右中辨許へ遣之、次賴玄來、杉原十帖進之、狩野右近來、短冊十枚進之、
十二日、雨降、竹內御門跡、兩種二荷給之、次長橋御局より兩種二荷給之、午刻雨晴、及晩入江殿へ禮ニ參、御對面之、次光照院殿へ參、御對面之、次寶篋院殿へ參、御對面之、次諸家禮ニ行、
十三日、陰、齋了、南禪寺へ行、正周庵へ唐紙十枚遣之、大寧院へ唐紙卅枚遣之、洞首座へ白沙糖二斤遣之、語心院へ杉原十帖遣之、板伊賀守禮返ニ被來、百疋給之、隨心院門跡より兩種二荷給之、昨

日、灌頂日取勘進之、其禮迄、

十四日、癸酉晴、日野權左中弁許より二荷三種給之、次紫竹彥左衛門來、黑豆、大根等進之、淸和院宗順來、五明五本進之、次番ニ參、照高院宮御參內、有加持、宿番、伯殿令相博、次南禪寺正周庵、大寧院、語心院等來入、勸羹盃、

十五日、晴、刁刻、院參、今朝左毬打、唱門師囃之、仍可令祗候之由、昨日御觸之、被參衆、西園寺右大將、中御門大納言、西洞院宰相、白川二位、冷泉宰相、正親町三條宰相中將、庭田宰相中將、四辻宰相中將、阿野宰相中將、平少納言、中院少將、內藏頭、右衛門佐、滋野井少將、予、冷泉侍從、極﨟等之、五山衆、內々被召之、相國寺想照院、保長老、南禪寺正周庵、洪長老、語心院、鹿西堂等祗候之、此外醫師四五人參、左毬打終後、各御禮被申、大弼申次之、入御之後、各粥給之、勸盃之後、各退出、

家中祝義如嘉例、左毬打三本如嘉例、次內藏頭令同途、照高院宮へ御禮ニ參、御對面之、次妙法院宮へ參、御咳病條之爲、無御對面、次東福寺、不二庵、藤長老へ行、黃紙一束獻之、有盃扚、次建仁寺大統庵へ行、高麗沓一足獻之、留守云々、次宮川殿へ行、美濃紙一束獻之、留守之、歸路梶井宮へ參、

唐紙卅枚進之、御對面有盃杪、日暮歸蓬華、入夜御盃ニ參內、左毬打如例年、女御さまより三荷三種御返、

十六日、陰、高尾法身院祈禱札、垣供等給之、次飛鳥井中納言來義、唐紙廿枚、帶一筋給之、次水無瀨三位來義、數刻打談、

十七日、陰、齋了、南頭弁より有使者云、今日於殿下、昇進之衆可有御沙汰、然ニ愚拙可候殿下云々、仍午刻、參殿下、有暫、九條殿、二條殿、近衛殿、鷹司殿、大閤御成、次廣橋大納言祗候、小折紙共職事衆披露、予則一々書集、年齡年月、幾程等、有御評判、一々書分、被得叡慮畢、申刻令退出、

賀茂ノ者被寄、左毬打相調、未刻進上、

廣隆寺ノ十輪院來入、五明五本進之、次高尾上人來、扇子五本給之、次東福寺不二庵、藤長老來入、檀帋十帖、末廣一本給之、入夜雨降、

十八日、雨降、左毬打、延引、

明治廿年十二月華族前田利嗣藏舟橋秀賢自筆ノ本影寫ス

明治卅八年七月前田家所藏原本ヲ再ビ借覽シタルニ秀賢ノ自筆原本ニハアラズシテ影寫本之

（花押）

東京大學本ニテ京都大學影寫セル由之

京都帝國大學本ニテ影寫ス。數度ノ影寫ヲ經タレバ誤多カルベシ

昭和十年十月四日

日本古典全集之内

慶長日件錄

編纂者　正宗敦夫

東京市豐島區高松二丁目一四番地一〇
發行者　合資會社　日本古典全集刊行會
代表社員　長嶋東一

東京市豐島區高松二丁目一四番地九
印刷者　不二印刷所　高瀨淸吉

東京市豐島區高松二丁目一四番地一〇
發行所　合資會社　日本古典全集刊行會
振替東京七三〇三二

昭和十四年八月十日印刷
昭和十四年八月十八日發行

【非賣品】